

宮園遺跡Ⅲ

—大阪府営堺宮園第2期高層住宅（建て替え）新築工事に伴う発掘調査—

大阪府埋蔵文化財調査報告二〇二一一二

令和4年3月

大阪府教育委員会

大阪府教育委員会

宮園遺跡Ⅲ

—大阪府営堺宮園第2期高層住宅（建て替え）新築工事に伴う発掘調査—

大阪府教育委員会



序文

本書で報告します宮園遺跡は、堺市中区宮園町に所在する府営堺宮園住宅を囲む範囲に広がる古墳時代から中世、近世にかけての遺跡です。

宮園住宅は昭和40年代初頭に建築された団地で、近年の建て替え計画を受け試掘調査を実施したところ、中世を中心とした遺物、遺構が確認されたことから新たな埋蔵文化財包蔵地として周知されました。平成28年度より第1期住宅新築工事に伴う発掘調査が実施され、古墳時代と考えられる自然流路や中世の粘土採取土坑、近世の井戸などの遺構が確認されています。

今回の調査では、前回調査の続きとなる自然流路や多数の中世の粘土採取土坑を検出するとともに、新たに奈良時代の掘立柱建物跡を確認することができました。

これらの成果は、これまでの宮園遺跡の調査成果に新たな知見を加えるもので、この地域の歴史を解明していくうえで、重要な指標となるものです。

最後になりましたが、調査にあたっては、地元関係者ならびに堺市文化財課、大阪府建築部の方々には多大なご理解とご協力をいただきましたことに深く感謝いたします。

本府教育委員会では文化財の調査や保護、活用などの事業をこれからも進めてまいります。今後ともいっそうのご支援をお願い申し上げます。

令和4年3月

大阪府教育府文化財保護課長

稻田 信彦

例言

1. 本書は、大阪府教育委員会が大阪府住宅まちづくり部（令和3年11月1日より「建築部」に名称を変更。本書では当該時点を基準に組織名称を呼び分ける）の依頼を受けて令和2年度に実施した、大阪府堺宮園住宅建替に伴う、堺市中区宮園町所在の宮園遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は文化財保護課調査事業グループ副主査 木村啓章、同グループ副主査 原田昌浩を担当者として実施した。
3. 遺物整理は、文化財保護課調査管理グループ専門員 藤田道子、調査事業グループ副主査 木村啓章、同グループ副主査 原田昌浩を担当者として実施した。
4. 発掘調査の調査番号は20003、20016である。
5. 本書に掲載した遺構写真の撮影は発掘調査担当者が行い、遺物写真の図版20～図版33は、イトーフォトに委託した。
6. 発掘調査にあたっては、空中写真測量、図化作業を株式会社イビソクに委託して実施した。
7. 年代測定及び胎土分析については、パリノ・サーヴェイ株式会社に委託し、その成果を第4章に掲載した。
8. 本書の執筆及び編集は、第4章を除いて文化財保護課調査事業グループ副主査 木村啓章（第1章、第3章第1節～第4節、第5章）、原田昌浩（第2章、第3章第5節、第6節）が行った。
9. 発掘調査の出土遺物や写真・図面等の記録資料は、大阪府教育委員会で保管している。
10. 発掘調査・遺物整理にあたっては、以下の方々よりご指導・ご教示・ご協力いただきました。
　　大阪府建築部、堺市文化財課、堺市博物館、宮園住宅自治会（順不同）
11. 発掘調査・遺物整理ならびに本書の作成に要した費用は、大阪府建築部が負担した。

凡例

1. 本書で用いる座標値は世界測地系（国土地理座標第VI系）に基づき、方位針は座標北を示す。水準値はT.P.値（東京湾平均海面）を用い、本文および挿図中ではT.P.+○mと表記する。
2. 遺構番号は、遺構の種類に関係なく、検出した順に付している。これは発掘調査での記録と合致する。また、掲載遺物に付した番号は通し番号で、挿図と図版の番号は一致している。
3. 土層および遺物の色調については、『新版 標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄 / 2006年度版）に拠る。
4. 遺物実測図の断面は、須恵器を黒塗り、瓦器・瓦質土器を網伏せとし、その他を白抜きとした。
5. 引用・参考文献は第4章については章末に記し、その他は巻末に一括した。

本文目次

序文	
例言	
凡例	
目次	
第1章 調査の経過と調査方法.....	1
第1節 調査にいたる経緯.....	1
第2節 調査の経過と方法.....	2
第2章 地理的環境・歴史的環境と既往の調査成果.....	4
第1節 地理的環境.....	4
第2節 歴史的環境.....	6
第3章 調査成果.....	11
第1節 基本層序.....	11
第2節 第1調査区.....	12
第3節 第2調査区.....	30
第4節 第3調査区.....	50
第5節 第4調査区.....	53
第6節 第5調査区.....	53
第4章 自然科学分析.....	61
第5章 総括.....	73
引用・参考文献.....	74
観察表.....	75
抄録	

挿図目次

図 1 調査地位置図.....	1
図 2 地区割図.....	3
図 3 宮園遺跡周辺土地条件図.....	4
図 4 宮園遺跡周辺の地形.....	5
図 5 宮園遺跡周辺の遺跡.....	7
図 6 周辺の主要調査地点.....	8
図 7 第 1 調査区平面・土層断面図.....	13
図 8 第 1 調査区土坑 1091・1109 出土状況図.....	15
図 9 第 1 調査区土坑 1090 および周辺土坑平面・断面図.....	16
図 10 第 1 調査区土坑出土遺物実測図（古代）.....	17
図 11 第 1 調査区土坑 1015 および周辺土坑平面・断面図.....	18
図 12 第 1 調査区土坑 1052 および周辺土坑平面図.....	19
図 13 第 1 調査区土坑 1052 および周辺土坑断面図.....	20
図 14 第 1 調査区土坑 1103 および周辺土坑平面・断面図.....	21
図 15 第 1 調査区土坑 1104 および周辺土坑平面・断面図.....	22
図 16 第 1 調査区溝 1113・1114 平面・断面図.....	23
図 17 第 1 調査区粘土採取土坑出土遺物実測図（1）.....	24
図 18 第 1 調査区粘土採取土坑出土遺物実測図（2）.....	25
図 19 第 1 調査区各層位出土遺物実測図.....	27
図 20 第 1 調査区粘土採取土坑上層出土遺物実測図.....	28
図 21 第 1 調査区近世以降溝およびその他出土遺物実測図.....	29
図 22 第 2 調査区平面・土層断面図.....	31
図 23 第 2 調査区自然流路 2002 平面・断面図.....	33
図 24 第 2 調査区土坑 2007 および周辺土坑平面・断面図、土坑 2174 出土状況図.....	34
図 25 第 2 調査区土坑出土遺物実測図（古代）.....	35
図 26 第 2 調査区土坑 2155・2156 出土状況図・遺物実測図.....	36
図 27 第 2 調査区土坑 2348・2361・2362 出土状況図・遺物実測図.....	37
図 28 第 2 調査区土坑 2003 および周辺土坑平面・断面図.....	38
図 29 第 2 調査区土坑 2080 および周辺土坑平面・断面図.....	39
図 30 第 2 調査区土坑 2050・2139 平面・断面図.....	40
図 31 第 2 調査区土坑 2186 および周辺土坑平面・断面図.....	41
図 32 第 2 調査区土坑 2320 および 2334 周辺土坑平面・断面図.....	42
図 33 第 2 調査区土坑 2357・2358・2359 平面・断面図.....	43
図 34 第 2 調査区土坑 2322 および周辺土坑平面・断面図.....	44
図 35 第 2 調査区粘土採取土坑出土遺物実測図（1）.....	45
図 36 第 2 調査区粘土採取土坑出土遺物実測図（2）.....	46
図 37 第 2 調査区各層位出土遺物実測図.....	49
図 38 第 3 調査区平面・土層断面図.....	50

図 3 9 第 3 調査区土坑 3001・3002・3004・3010 遺構平面・断面図	5 1
図 4 0 第 3 調査区第 2 層出土遺物実測図	5 2
図 4 1 第 4 調査区平面・断面図	5 4
図 4 2 第 5 調査区平面・断面図	5 5
図 4 3 第 5 調査区掘立柱建物 SB001 平面・断面図	5 6
図 4 4 第 5 調査区掘立柱建物 SB001 出土遺物実測図	5 6
図 4 5 第 4・5 調査区第 1・2 層出土遺物実測図（中世以降）	5 8
図 4 6 第 4・5 調査区第 2 層出土遺物実測図（古代）	5 9
図 4 7 較正年代結果	6 2
図 4 8 堆積物および土器胎土の碎屑物の鉱物・岩石頻度と粒径組成（1）	6 7
図 4 9 堆積物および土器胎土の碎屑物の鉱物・岩石出現頻度と粒径組成（2）	6 8
図 5 0 堆積物および土器胎土の碎屑物・基質・孔隙の割合	6 8
図 5 1 堆積物および土器胎土の化学組成散布図	7 0
図 5 2 堆積物薄片写真	7 1
図 5 3 土器胎土薄片写真	7 2

表目次

表 1 周辺の主要調査地点	8
表 2 放射性炭素年代測定結果	6 2
表 3 分析資料一覧	6 3
表 4 ガラスピード作製条件	6 4
表 5 蛍光 X 線装置条件	6 4
表 6 蛍光 X 線定量測定条件	6 4
表 7 薄片観察結果	6 5
表 8 蛍光 X 線分析結果（化学組成）	6 9

原色図版目次

原色図版1 調査区全景

原色図版2 粘土採取土坑土層断面

図版目次

- 図版1 第1調査区(1)
- 図版2 第1調査区(2)
- 図版3 第1調査区(3)
- 図版4 第1調査区(4)
- 図版5 第1調査区(5)
- 図版6 第2調査区(1)
- 図版7 第2調査区(2)
- 図版8 第2調査区(3)
- 図版9 第2調査区(4)
- 図版10 第2調査区(5)
- 図版11 第2調査区(6)
- 図版12 第2調査区(7)
- 図版13 第3調査区
- 図版14 第4・5調査区全景
- 図版15 第4調査区(1)
- 図版16 第4調査区(2)
- 図版17 第5調査区(1)
- 図版18 第5調査区(2)
- 図版19 第5調査区(3)
- 図版20 第1調査区出土遺物(1)
- 図版21 第1調査区出土遺物(2)
- 図版22 第1調査区出土遺物(3)
- 図版23 第1調査区出土遺物(4)
- 図版24 第1調査区出土遺物(5)
- 図版25 第1調査区出土遺物(6)
- 図版26 第1調査区出土遺物(7)
- 図版27 第2調査区出土遺物(1)
- 図版28 第2調査区出土遺物(2)
- 図版29 第2調査区出土遺物(3)
- 図版30 第2調査区出土遺物(4)
- 図版31 第2・3調査区出土遺物
- 図版32 第4・5調査区出土遺物(1)
- 図版33 第4・5調査区出土遺物(2)

第1章 調査の経過と調査方法

第1節 調査にいたる経緯

宮園遺跡は、堺市中区宮園町に所在する中世を中心とした遺跡である。遺跡の範囲は泉北高速鉄道深井駅より300mほど西側に位置し、東西約600m、南北約400mの府営宮園住宅（旧八田荘住宅）範囲のほぼ全域を含むものである（図1）。

府営団地の建設は1960年代後半であり、その後敷地内での大規模な造成もなかったため、永らく包蔵地外として扱われてきたが、平成21年の宮園住宅の建て替え計画を受け、平成22年度に試掘調査が住宅敷地内全域にわたって行われることとなった（大阪府教育委員会2011）。その結果、敷地のほぼ全域にわたって遺物包含層を確認したため、新規発見の埋蔵文化財包蔵地「宮園遺跡」として登録され、工事にあたっては事前に発掘調査が行われることとなった。平成27年度から1期工事が開始され、旧住棟の解体工事を実施後、平成28年度に新規の住棟2棟と雨水貯留槽部分の発掘調査を実施した（大阪府教育委員会2018）。また平成29年度には1期工事に伴う道路整備部分において発掘調査を実施した（大阪府教育委員会2020）。

今回の調査は、2期工事に先駆けて行われたもので、1期工事部分の東側が工事対象となった（図1）。工事範囲の南から第1調査区（道路部分：300m²）、第2調査区（住宅棟：1036m²）、第3調査区（設備棟：95m²）、第4調査区（住宅棟1313m²）、第5調査区（設備棟及び雨水貯留槽：592m²）とし（図2）、既に旧住宅棟等の解体工事が済んでいた第1調査区～第3調査区を前半期の調査として令和2年5月から11月に、残りの第4、5調査区は後半期の調査として解体終了後の令和2年9月から3月にかけて調査を行った。調査番号は前者を20003、後者を20016とした。



図1 調査地位置図

第2節 調査の経過と方法

調査の経過

調査番号 20003 は 5 月より第 1 調査区から掘削を開始し、8 月にドローンによる空中写真測量を実施した。次に面積の狭い第 3 調査区を先行して 7 月から掘削を開始し、同月中に空中写真測量を実施した。第 2 調査区は掘削に伴う排土置き場を確保するために東と西で分割し、8 月から西側の掘削を開始、9 月に空中写真測量を実施した。西側の埋戻し後、東側の掘削を開始し、10 月に空中写真測量後、11 月に埋戻しまで完了し、前半期の調査を終了した。

調査番号 20016 は旧住棟の解体作業の終了後、9 月より調査を開始した。第 4 調査区は掘削に伴う廃土置き場を確保するために東と西に分割し、9 月から東側の掘削を開始し、10 月に空中写真測量を実施した。11 月より第 5 調査区の掘削を開始し、12 月に空中写真測量を実施した。第 4 調査区東側は記録後に埋め戻し、12 月より西側の掘削を開始し、令和 3 年 2 月に空中写真測量を実施した。3 月に埋戻しまでを完了し、すべての業務を終了した。

また 2 月に団地の住民を対象として現地公開を実施した。コロナウイルス感染症対策を徹底した上で、約 130 人の参加があった。

調査の方法

地区設定については、平成 28 年度調査時に設定した世界測地系（JGD2000）の平面直角座標系第 IV 系に基づく X = -163,000、Y = -46,000 を基線とした 100m 四方の地区を踏襲した（図 2）。遺物の取り上げについては、本来この区画を基本とするものであるが、今回の調査区については座標系に対し斜行することから、第 3 調査区以外図 3 のとおり調査区の形状に合わせて地区を設定した。10 m 四方の区画を基本とするが、第 1・2 調査区については遺構が密に分布するために 5m 四方とした。

遺構番号は、遺構の種類に関係なく調査区ごとに 4 枠の通し番号を付した。上一枠を各調査区の番号とし、第 1 調査区は 1000 番台、第 2 調査区は 2000 番台、第 3 調査区は 3000 番台、第 4 調査区は 4000 番台、第 5 調査区は 5000 番台とした。

掘削に際しては、整地土、近現代の盛土、近代耕作土をバックホウで掘削し、その下層については人力で掘削し、遺構検出・遺構掘削を行った。遺構掘削に際しては、半裁または地層観察用の畦を残すことによって地層断面の観察、写真撮影、断面図の作成を行った。

検出した遺構面の実測について、遺構全体図は図化作業の効率化をはかるために、7 回にわたってドローンによる空中写真測量を実施した。個々の遺構、遺物出土状況等の実測については、調査区周辺に配した 4 級基準点をもとに、必要に応じ 20 分の 1、10 分の 1 の縮尺で個別に実測図を作成した。また、調査区の土層断面図は、原則として 20 分の 1 の縮尺で作成し、東京湾平均海面（T.P.）を基準とした。

撮影にはデジタルカメラ（フルサイズセンサー及び APS-C センサー）を使用し、特にフルサイズセンサーのデジタルカメラは、遺構検出面の全景や重要な遺構の撮影の際に使用した。

整理作業について、現場で作成した遺構図面類は、台帳を作成し、報告書に掲載するものについてはデジタルトレースを行った。出土遺物については、洗浄、マーキング、接合、復元等の作業を適宜実施し、必要なものについては実測図を作成し、報告書掲載図面についてはデジタルトレースを行った。デジタルトレースには、Adobe 社の IllustratorCS4 および CC を使用した。報告書の編集作業には、Adobe 社の IllustratorCS4 および CC を使用した。また報告書掲載遺物については、委託作業にて撮影を行った。

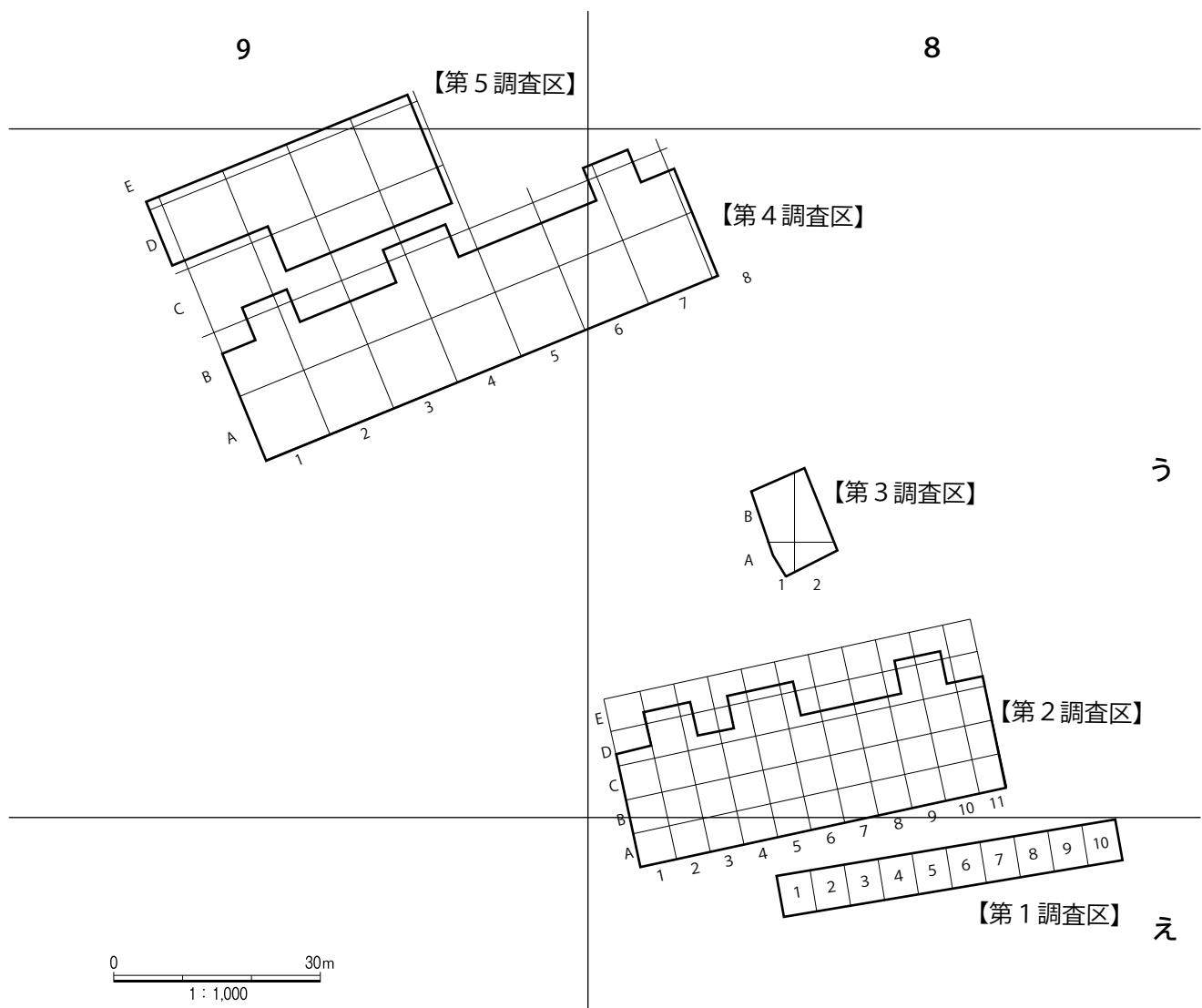
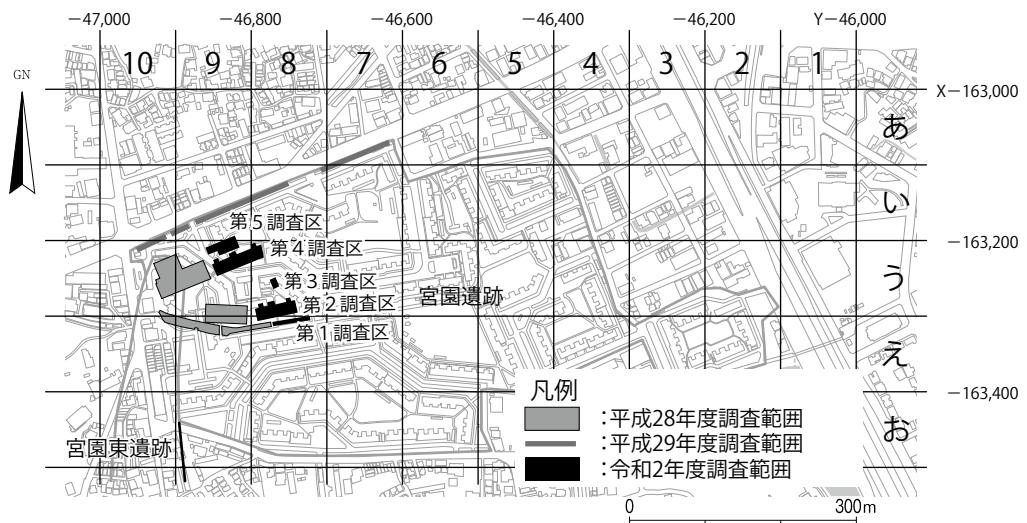


図2 地区割図

第2章 地理的・歴史的環境と既往の調査成果

第1節 地理的環境

大阪府の景観は中央部の大坂平野、その平野を南北から挟むように高度を遞減させる丘陵と台地、府域の東と南を画する生駒・金剛・和泉山地に分けられる。その地形の変遷は、地殻変動と海水面の変動で継起された結果として説明され、とくに縄文海進が大阪の人類史に大きな影響を与えたことはよく知られている。

宮園遺跡がある堺市は大阪の南部、旧和泉国にあたり、現在も泉州と呼ばれる地域の北部に位置する。大阪南部は和泉山地と金剛山地を背に、大阪層群よりなる羽曳野丘陵、泉北丘陵、信太山丘陵などの丘陵が高度を減じつつ北西及び北に伸び、その前面は広く段丘地形を呈する。この段丘は羽曳野丘陵付近の河内台地と、泉北丘陵・信太山丘陵の泉北台地に大きく分かれ、ともに緩傾斜地が拡がり古くから耕作地や居住空間として利用してきた。また、河内台地は応神天皇陵古墳（誉田御廟山古墳）を中心とする古市古墳群の、泉北台地は仁徳天皇陵古墳（大山陵古墳）を中心とする百舌鳥古墳群の舞台でもある。本遺跡は泉北台地の中ほどに位置し、遺跡北西端付近の現在の標高はおよそ TP+28 mだが、調査区内の盛土を除却した旧耕作面（昭和30年代）の高さは南東（平成28年度第3調査区）が約 TP+27.5 m、北西（平成30年度第1調査区）が TP+26.3 mで、北西に下がる本来の地形に適った緩傾斜を呈している。

土地条件図を見ると、遺跡の西側には石津川が北西に向かって流れ、その周囲には谷底平野が広がる。宮園遺跡の範囲は団地の建設時に大きく改変を受けているものの、周辺の様相から更新世（中位）段丘面にあたる（図3）。この段丘面（台地上）には北西～北北西に向かう大小の開析谷が無数に存在していた。

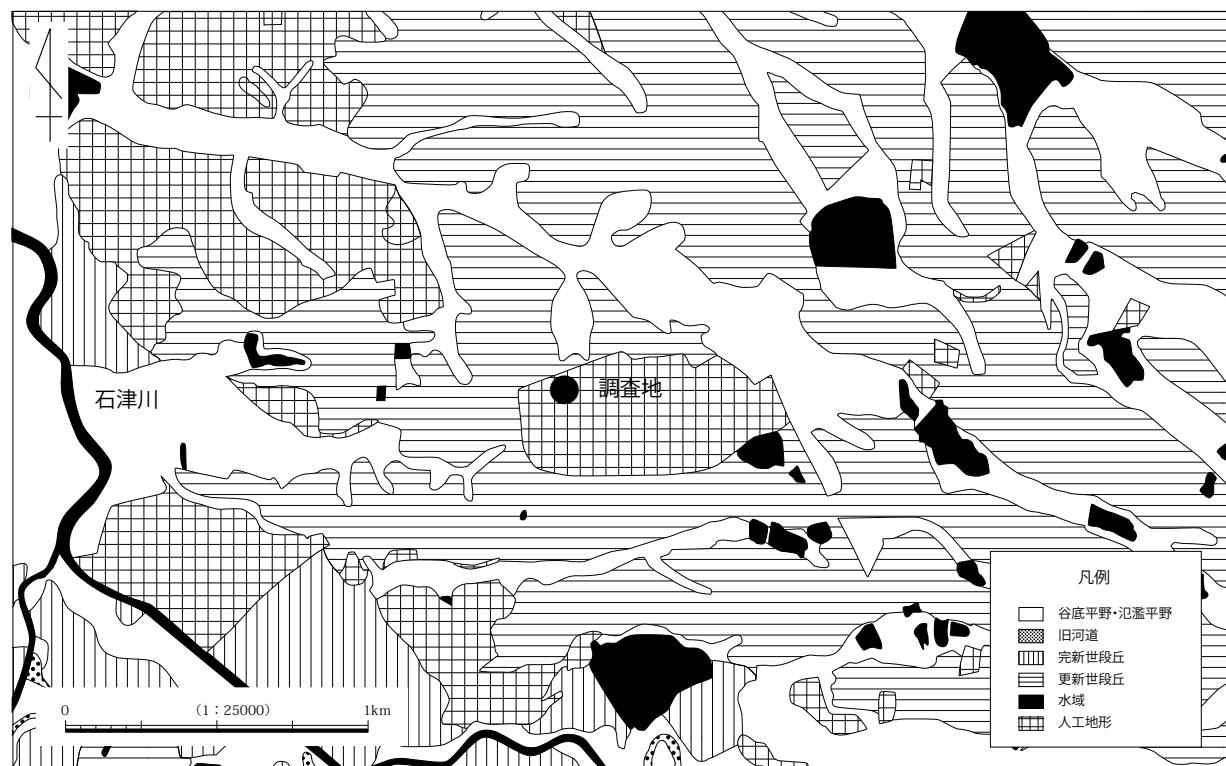


図3 宮園遺跡周辺土地条件図（国土地理院地図に加筆）

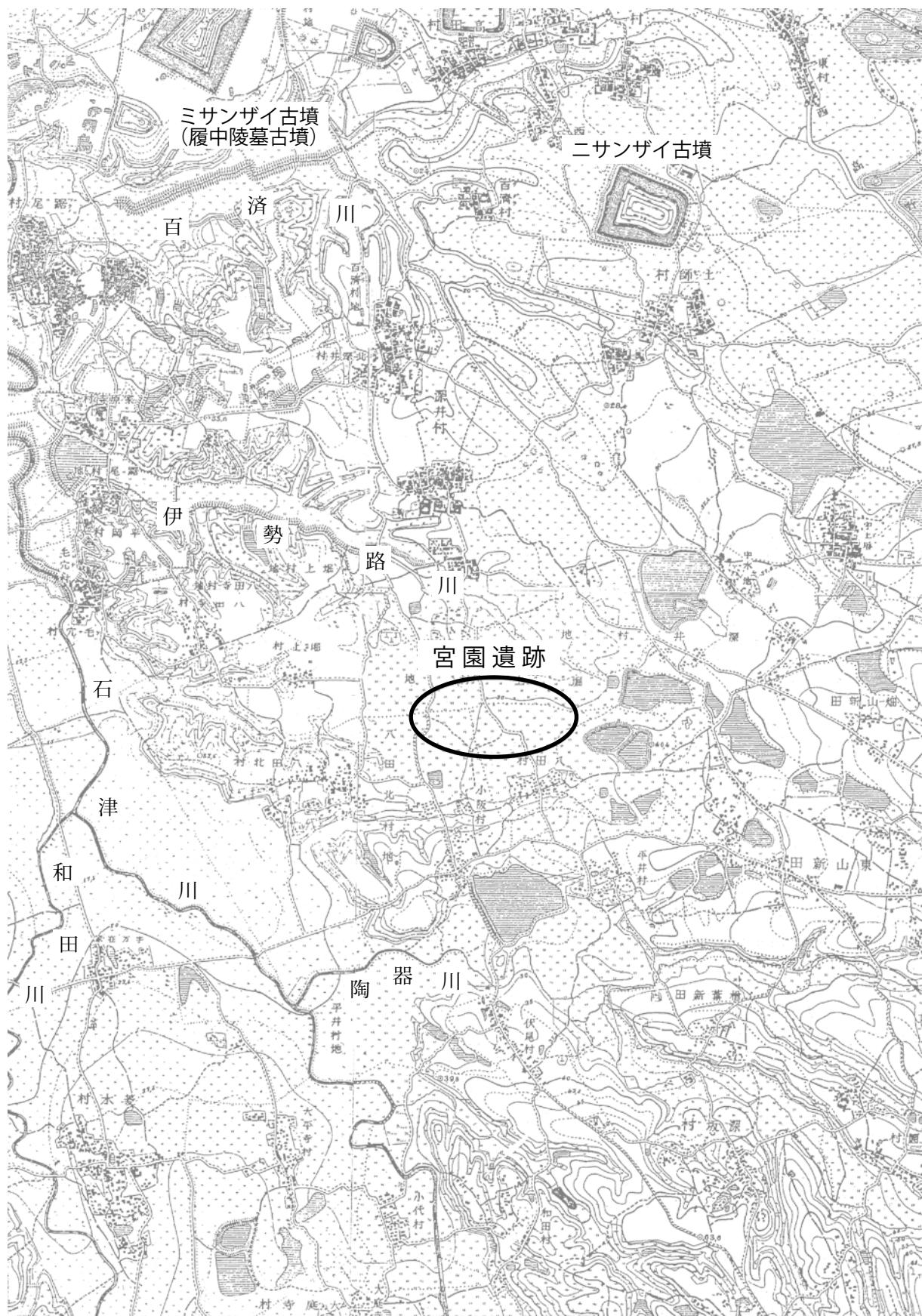


図4 宮園遺跡周辺の地形 (明治18年 陸地測量部地図 1:20,000)

図4に示した明治18年陸地測量部からも、近現代の開発による地形改変以前の様相を知ることはできる。多数存在する開析谷の中でも、大きな谷筋には近世の池溝開発で溜池が築かれ、その下流域は平坦化された耕作地となっている。しかし、概ね北西に延びる旧河道の痕跡をたどることはできる。地図を見ると、宮園遺跡は南の八田村と北の堀上村の間にある平坦な耕作地の部分に位置することになるが、本書や過去の調査成果（大阪府教育委員会2018・2020）に記すように下層からは蛇行する自然流路を検出している。おそらく、緩傾斜となった谷筋を蛇行して流れる河川が多く存在していたことが考えられる。出土した遺物で判断すると古代は未だ河道の痕跡が残って谷底平野の相を呈し、中世以降に耕地化が始まったらしい。

さらに、本遺跡付近には石津川に向かう西向きの小支谷も見られる。石津川は堺市南部の丘陵に源を発し、北西流して大阪湾に注いでいる。中流域で和田川が左岸に流入し、右岸には陶器川、伊勢路川、百済川など小河川が台地を刻んで石津川に注いでいる。石津川水系は水運にも利用され、「陶邑」で製作された須恵器運搬の要ともなった河川である。

このように、本遺跡周辺は比較的低平な土地であり、人の生業及び居住に適した場所と言える。ただし水利は十分とは言えず、中世には深い井戸を掘りあげている。多くの谷筋が残るもの、流れの争奪があったようである。17世紀代に溜池が造られているが供給先として十分な河川は丘陵上方に存在せず、明治時代にはさらに南東から水を引いている。平坦な地形であり、海陸風にも恵まれた穏やかな気候でありながら、後世に続く集落が発達しなかったのは不十分な水利環境が影響したのかも知れない。

第2節 歴史的環境

宮園遺跡（1）は堺市中区宮園町に所在する府営宮園住宅（旧八田荘団地）の建替え工事に伴い、平成22（2010）年に実施された試掘調査によって新規に発見された遺跡である。堺市を代表する遺跡群として、北部では令和元（2019）年に世界文化遺産に登録された仁徳天皇陵古墳（大山陵古墳）などの巨大前方後円墳等で構成される百舌鳥古墳群、南部では古墳時代から平安時代までの数百年にわたって須恵器を生産した陶邑窯跡群が広がる。百舌鳥古墳群、そして陶邑窯跡群はともに、日本の歴史の動向に重要な位置を占める遺跡である。

宮園遺跡はこのうちの陶邑窯跡群の範囲の北限に相当する位置にある。本遺跡周辺は古くからの豊かな歴史環境を有する地域であり、遺跡も多く存在している。本遺跡の周辺地域の歴史的環境について、時代順に簡単に概説したい（図5・6、表1）。

旧石器～縄文時代

旧石器時代では鈴の宮遺跡（26）と平井遺跡（19）、堀上町遺跡（3）、小阪遺跡（22）で剥片や石核、ナイフ形石器の出土が報告されている程度で、確実な遺構は検出されていない。

縄文時代では鈴の宮遺跡（26）で晚期の遺構・遺物の存在が報告されている。また小阪遺跡（22）では前期から晩期までの縄文土器が出土し、中期末以降から遺構が現われる。堀上町遺跡（3）では石鏃が出土している。

総じて、宮園遺跡周辺は旧石器時代の遺構・遺物が希薄で、縄文時代から人間活動の痕跡がみえ始めたといえるであろう。

弥生時代

鈴の宮遺跡（26）では12基の方形周溝墓が発見され、同時に中期～後期の壺や甕などの弥生土器が出土した。また当遺跡の北に隣接する毛穴遺跡（31）は、この墓に葬られた人びとの集落ではないか

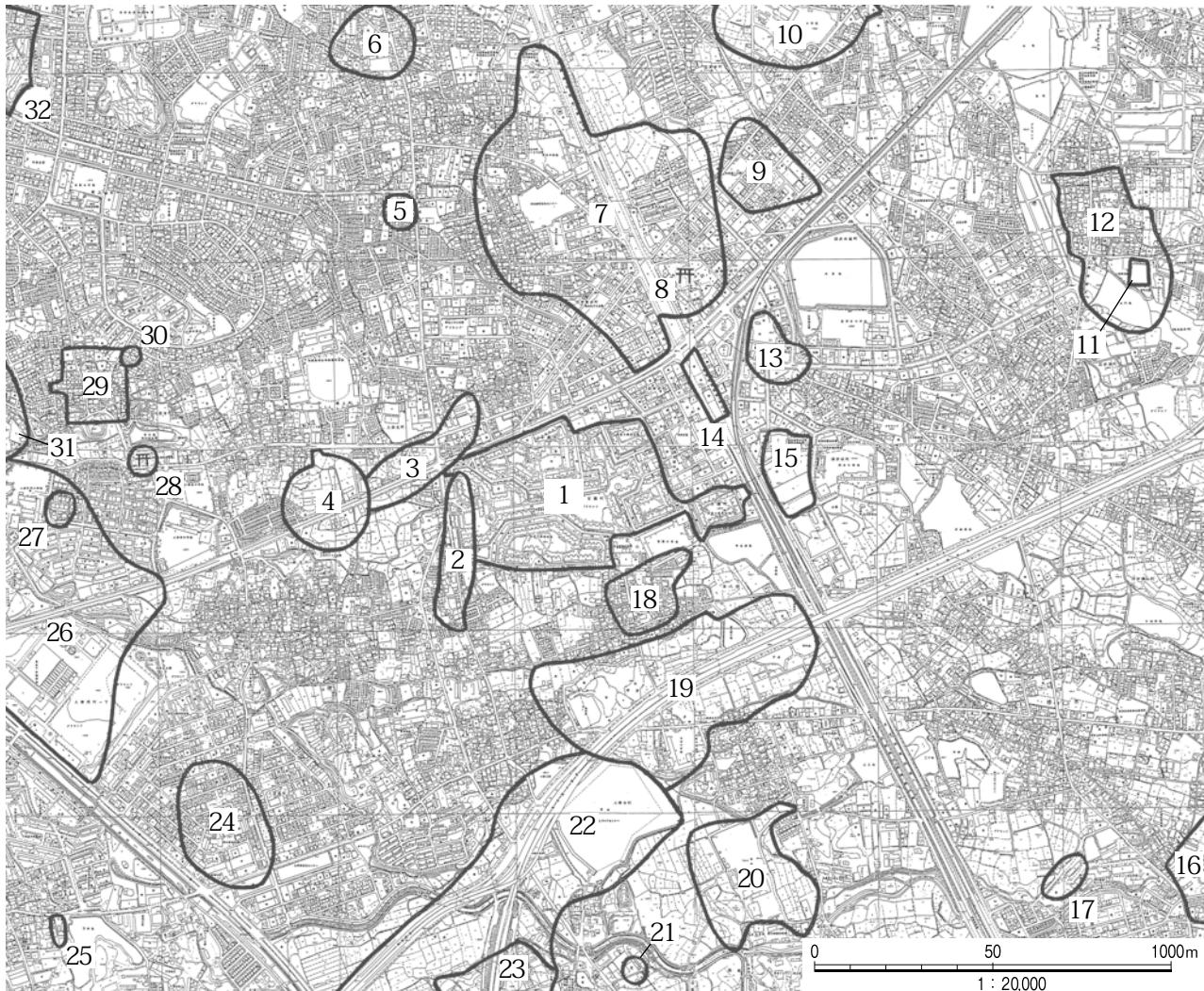


図5 宮園遺跡周辺の遺跡(1:20,000)

- 1, 宮園遺跡 2, 宮園町東遺跡 3, 堀上町遺跡 4, 八田北町遺跡 5, 観音山古墳 6, 深井中町遺跡
 7, 深井清水町A遺跡 8, 野々宮神社 9, 深井水池遺跡 10, 土師南遺跡 11, 土塔 12, 大野寺跡
 13, 深井清水町B遺跡 14, 深井清水町C遺跡 15, 深井幡池遺跡 16, 陶器千塚 17, 東山遺跡 18, 東八田遺跡
 19, 平井遺跡 20, 平井南遺跡 21, 関宿藩陣屋跡 22, 小阪遺跡 23, 伏尾遺跡 24, 八田西町遺跡 25, 万田遺跡
 26, 鈴の宮遺跡 27, 仏光寺跡 28, 蜂田神社遺跡 29, 華林寺跡 30, 坊主山古墳 31, 毛穴遺跡 32, 家原寺町遺跡

と推測されている。

宮園遺跡周辺では今のところ目立つ弥生時代の遺跡はこれぐらいであるが、弥生時代に至り人間活動が活発化し始めたものと考えられる。

古墳時代

鈴の宮遺跡（26）からは方墳や埴輪棺、土器棺が発見されており、時期は前期末～中期前半とされている。これは北に数km離れて所在する百舌鳥古墳群との関係を考えることができる墓群といえるであろう。

宮園遺跡は上述したように陶邑窯跡群の範囲の北限に相当する位置にあるので、周辺からは須恵器窯に關係する遺跡が発見されている。深井幡池遺跡（15）では5世紀末（TK23・TK47型式頃）の窯本体が発掘調査され、小阪遺跡（22）では同じく5世紀の灰原が発見され、近くに窯本体が存在することが確実である。

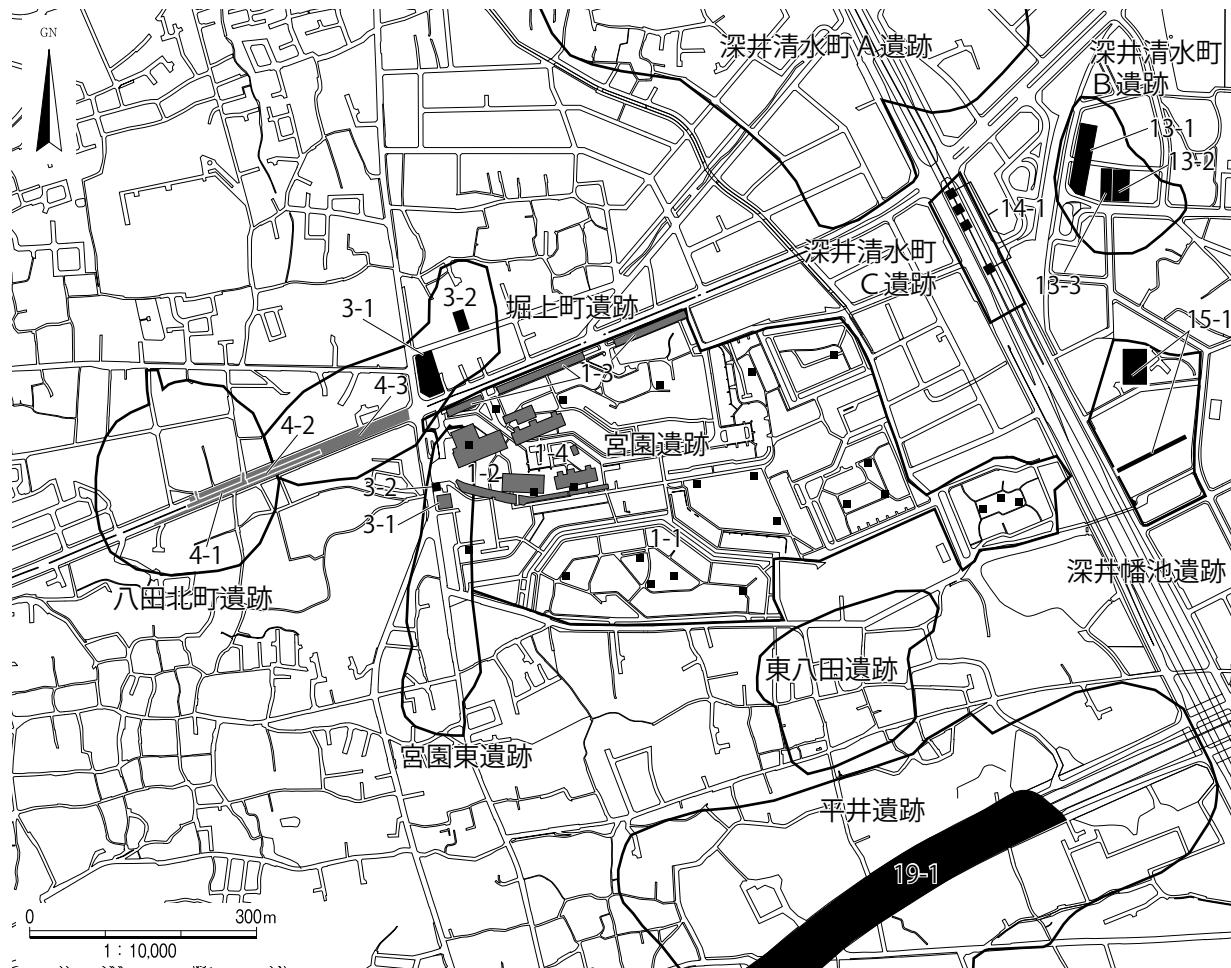


図6 周辺の主要調査地点（調査箇所の番号は表1と対応）

表1 周辺の主要調査地点

遺跡名	番号	調査番号	調査期間	面積 (m ²)	調査機関	報告書
宮園遺跡	1-1	10087	H22.11.29-12.20	140	大阪府教育委員会	大阪府教委 2011
	1-2	16015	H28.6.7-H29.3.14	4614	大阪府教育委員会	大阪府教委 2018
	1-3	17010	H29.8-H212	534	大阪府教育委員会	大阪府教委 2020
	1-4	20003・ 20016	R2.5.8-R3.2.26	3337	大阪府教育委員会	本書
宮園町東遺跡	2-1	HAC2	S60.12.9-12.24	約 320	堺市教育委員会	堺市教委 1987
	2-2	MZCH-1	38923	-	堺市教育委員会	堺市教委 2008
堀上町遺跡	3-2	HAC-3	H7.3.6-3.24	140	堺市教育委員会	堺市教委 1997
八田北町遺跡	4-1	HDK1	S61.1.13-2.1	約 386	堺市教育委員会	堺市教委 1989a
	4-2	HDK2	S61.5.19-7.4	約 450	堺市教育委員会	堺市教委 1989a
	4-3	HDK3	S61.7.14-12.29	約 4608	堺市教育委員会	堺市教委 1989b
深井清水町遺跡 B地点	13-1	第1地区	S54.8.6-9.7	約 750	堺市教育委員会	堺市教委 1981
	13-2	第2地区	S54.12.10-S55.2.3	660	堺市教育委員会	堺市教委 1981
	13-3	第3地区	S56.9.1-9.30	約 145	堺市教育委員会	堺市教委 1981
深井清水町 C遺跡	14-1	4010	H16.5.10-6.7	336	大阪府教育委員会	大阪府教委 2005
深井幡池遺跡	15-1	FHI1	H1.7.17-H2.3.30	2621	堺市教育委員会	堺市教委 1992
平井遺跡	19-1	—	S61.8-S62.12	27850	堺市教育委員会	堺市教委 1988

この時代の集落としては、小阪遺跡（22）で竪穴住居や掘立柱建物、井戸等の集落が営まれた痕跡が検出されている。また深井清水町C遺跡（14）では古墳時代末～飛鳥時代の柱穴や溝が検出され、集落の一角の様相が明らかになった。この遺跡では秤の錘である「權」を模した土製品が出土し注目された。

古代

宮園遺跡周辺は古代律令制下では和泉国大鳥郡常陵郷・蜂田郷に属する。ただ、先述した小阪遺跡において飛鳥時代まで継続する集落の痕跡が検出されてはいるが、これを除けば7世紀の段階では宮園遺跡における遺構・遺物は希薄である。この状況が一変するのは8世紀である。

当地一帯は行基が活躍した場所として知られるが、これと符合するように、宮園遺跡から東へ1.5km離れた位置に、行基が建立したとされる土塔（11）や大野寺（12）が所在する。このうち土塔（11）は国指定史跡として整備され、公開されている。また華林寺跡（29）は行基建立の伝承を持つ寺院として後世に信仰を集めた。

深井幡池遺跡（15）では、奈良時代の土師器窯とそれに関係する土師器溜まりが発見されている。深井清水町B遺跡（13）では、奈良時代の掘立柱建物や溝、土師器溜まり等の遺構が検出され、当時の集落の一部が明らかとなった。これらの遺跡の年代は8世紀前半で、行基の活躍した時期と重なることが注目される。

鈴の宮遺跡（26）では奈良時代の井戸や溝、火葬墓が検出されている。またこの遺跡からは平安時代後期の寺院跡が発見され、所在の小字名から仏光寺跡（27）と考えられている。

蜂田神社（28）は延喜式神名帳に記載される式内社であるが、室町時代末期に現在地に移転したと伝えられる。

中世

中世になると、常陵郷には春日社領深井郷、蜂田郷には石清水八幡宮領蜂田庄あるいは摂関家大番領八田庄といった荘園が成立し、開発が盛んとなっていく。

平井遺跡（19）では瓦器窯跡とともに掘立柱建物跡がまとまって検出されている。ここが中世の開発拠点となる集落の可能性がある。

八田北町遺跡（4）では土器焼成用の粘土採取土坑が検出されている。若干距離が離れているが、平井遺跡（19）の瓦器窯跡との関係が考えられる。

宮園遺跡周辺では中世の瓦器・瓦質土器・土師器・須恵器等が出土し、土坑や溝、柱穴等の遺構が検出されるが、遺物は包含層から細片で出土することが多く、また粘土採取土坑以外の遺構がまとった形で検出される例は少ない。この地域で中世に田畠の開発が進んでいった様相を見て取れる。また中世の段階で形成された、田園の中に集落が点在する景観は、図4から看取されるように近代を経て、当地に府営住宅が建設される1950年代まで維持された可能性が高い。

野々宮神社（8）は室町時代にこの地に遷座したと伝えられる神社であるが、詳細は不明である。

近世・近代

近世・近代になって、溜池や水路の築造改修等によって更に開発が進む。これにより1950年代まで続く田園風景が形成されたものと思われる。

他に注目すべきこととして、この地域では戦国時代に八田焼（別名は半田焼）という焼き物が生産されていた。これは当時盛んになった茶の湯に使う茶器の灰炮焰で、陶工の玄斎は豊臣秀吉から「天下一」の称号を許されるほどであった。なお、「湊焼」と通称される焼き物のうち甕などの大型品については、当地周辺で焼かれた八田焼がその実態であるとする説がある（白神1992）。八田焼については、今後

の大きな課題としてここに記すものである。

なお遺跡の名称となっている「宮園」の地名の由来であるが、周辺には上述のように蜂田神社と野々宮神社が所在し、この由緒ある両神社に挟まれた田園というところから戦後に名付けられたものである。

第3章 調査成果

第1節 基本層序

今回の調査地は、第1期及び第2期の住宅棟建築・解体工事の中で大部分が整地されているが、現地表は一番南となる第1調査区で約T.P.+28.2mで、北側の第5調査区で約T.P.+27.8mとなり、北に向かってやや低くなっていく地形となっている。基本層序は全調査区ともに平成28年度調査時とおむね一致することから、表記を踏襲し、一致しない部分については以下に記述する。

第0層：八田荘住宅（現宮園住宅）建設に伴う造成盛土で、上述した近年の住宅棟建築、解体に伴う整地土もこれに含む。

第1層：八田荘住宅（現宮園住宅）建設直前までの耕作土である。造成時に削平を受けている部分が多いが平均して20cm程度の層厚である。2.5Y3/1～3/2 黒褐色砂質シルトからなる水田作土（第1a層）と2.5Y4/2 暗灰黄色砂質シルト～細粒砂からなる床土層に（第1b層）細分できる。各調査区に認められる。

第2層：中世耕作土及び自然堆積層である。各調査区で認められ、大半は1層の作土層のみで構成されるが、谷地形が確認された第1、2調査区では2.5Y5/3 黄褐色～5/2 暗灰黄色砂質シルト（第2a層）、2.5Y5/2 暗灰黄色砂質シルト（第2b層）、2.5Y6/1 黄灰色～6/2 灰黄色砂混じり粘質シルト、2.5Y6/1 黄灰色細礫混じり粘質シルト～細粒砂（上方細粒化）（第2c層）に細分できる。第2a層は地形の高くなつたところでも確認でき、層厚は平均20cm程度である。瓦質土器等を中心とした15世紀後半までの遺物が出土している。第2b層は谷地形に近い地形の低いところに堆積し、第2a層へと収斂する。層厚は平均20cmである。瓦器椀や土師器羽釜が出土するが、一部瓦質土器も出土する。14世紀後半までの遺物が中心となる。第2c層は自然流路付近の谷地形部で認められ、層厚は15～30cm程度である。須恵器、瓦器椀、土師器羽釜が出土した。古代以降～中世後半以前の堆積と考えられる。

第3層：自然流路2002を埋める堆積層である。第2調査区のみに認められる。10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト層からなり、平成28年度調査とは違い、偽礫は含まず比較的分級の良い堆積層であった。遺物はほとんど含まず、この面での遺構は検出できなかった。堆積の年代は第4章の成果より8世紀後半以降が想定される。

第4層：自然流路2002内の自然堆積層である。第2調査区のみに認められる。層厚は最深部で30cm程度であり、大別3層に分けられ10YR3/2 黒褐色シルト～細粒砂（第4a層）、10YR3/1 黒褐色細粒砂～中粒砂（第4b層）、2.5Y8/2 灰白色砂礫（第4c層）となる。遺物は今回の調査箇所からは全く出土せず、流路周辺での活動の様相が各地点によって異なる様相が窺える。

第5層：基盤層となる段丘構成層である。多くは粘土採取土坑等の多数の遺構や現代の攪乱によつて削平されており、暗色帶は確認できなかった。第5層は5Y5/3 灰オリーブ～2.5Y6/8 明黄褐色シルト質粘土～粘質シルト（第1、2調査区）、2.5Y6/1 黄灰色砂質シルト～2.5Y6/1 黄灰色砂（第3調査区）をベースとした層からなり、第4、5調査区では風化した礫を含む砂礫層となっている。中世の粘土採掘土坑はシルト質粘土～粘質シルト層に集中している。

第2節 第1調査区

第1項 概要

本調査区は所々現代に削平を受けているものの、調査区のほぼ全面にわたって遺構を検出した。調査区西側は平成28年度第3調査区に隣接しており、平成28年度に検出した自然流路3001に向かう緩傾斜地となっている。この地形において古代の土坑を数基検出した（図7）。調査区中央はやや地形が高くなり、中世の粘土採取土坑を多数検出した（図7）。調査区の東側はさらに一段上がった地形となり、この上面では北東-南西方向に走る溝を検出するのみで、粘土採掘坑は検出できなかった。

第2項 古代の遺構と遺物

古代の土坑群

土坑1091（図8、図版5）長径92cm、深さ34cmの楕円形土坑である。下層はラミナの確認できる水成堆積層で、上層は第5層ブロックを含む層となる。底から土師器甕が出土した。

土坑1109（図8、図版5）長径190cm、深さ48cmの不定形土坑である。下層は第5層ブロックの堆積後、ラミナの確認できる水成堆積層となる。上層は第5層ブロックを含む層が堆積する。土師器甕がつぶれたような状態で出土した（図10-5）。

土坑1090（図9、図版5）長径192cm以上、短径162cm以上、深さ36cmの不定形土坑である。下層は第5層ブロックの堆積後、ラミナの確認できる水成堆積層となる。上層は第5層ブロックを含む層が堆積する。土師器甕片が出土している（図10-1）。

土坑1092（図9）長径74cm以上、深さ18cmの楕円形土坑である。第5層ブロックを含む層と粘質シルト層の互層からなる。

土坑1093（図9）短径50cm、深さ27cmの楕円形土坑である。砂質シルト層からなる。土師器甕の小片が出土している。

土坑1094（図9）短径65cm、深さ33cmの楕円形土坑である。第5層ブロックをわずかに含む細砂質シルトからなる。遺物は特に出土していない。

土坑1096（図9）攢乱部分の壁面に確認された土坑である。深さ14cmの土坑である。わずかに第5層ブロックを含む層からなる。土師器甕が逆さになった状態で出土した（図10-2）。

土坑1100（図9、図版5）長径262cm、深さ26cmの不定形土坑である。大きな第5層ブロックを含む複数の層からなる。土師器甕が出土した（図10-3）。

土坑1107（図9）短径68cm、深さ26cmの不定形土坑である。底部にラミナの確認できる水成堆積層がある。遺物は出土していないが、埋土の様相から古代の土坑と考えられる。

これらの土坑からは奈良時代後半あるいは平安時代の甕が底から出土しており、遺物の出土していない周辺の土坑も類似した埋土であり、同時期に属するものと考えられる。土坑1090、1091、1109、1107の堆積のように水成堆積層が観察されることから、これらの土坑は掘った後すぐには埋め戻されず、開放された状態にあり、徐々に埋まったことが想定される。

遺構出土遺物（図10、図版20）

1～5は古代の遺構出土の土師器甕である。1は1090出土。外反する口縁を持ち、表面の摩滅は著しいが、縦位のハケ調整である。2は1096出土。口縁は外反し、胴部はわずかに膨らむ器形となる。外面は頸部より縦位のハケ調整であり、スヌが付着する。3は1100出土。口縁は外反し、端部がわずかに肥厚する器形となる。外面は口縁がナデ、頸部より下が縦位のハケ調整となる。4は1108出土。

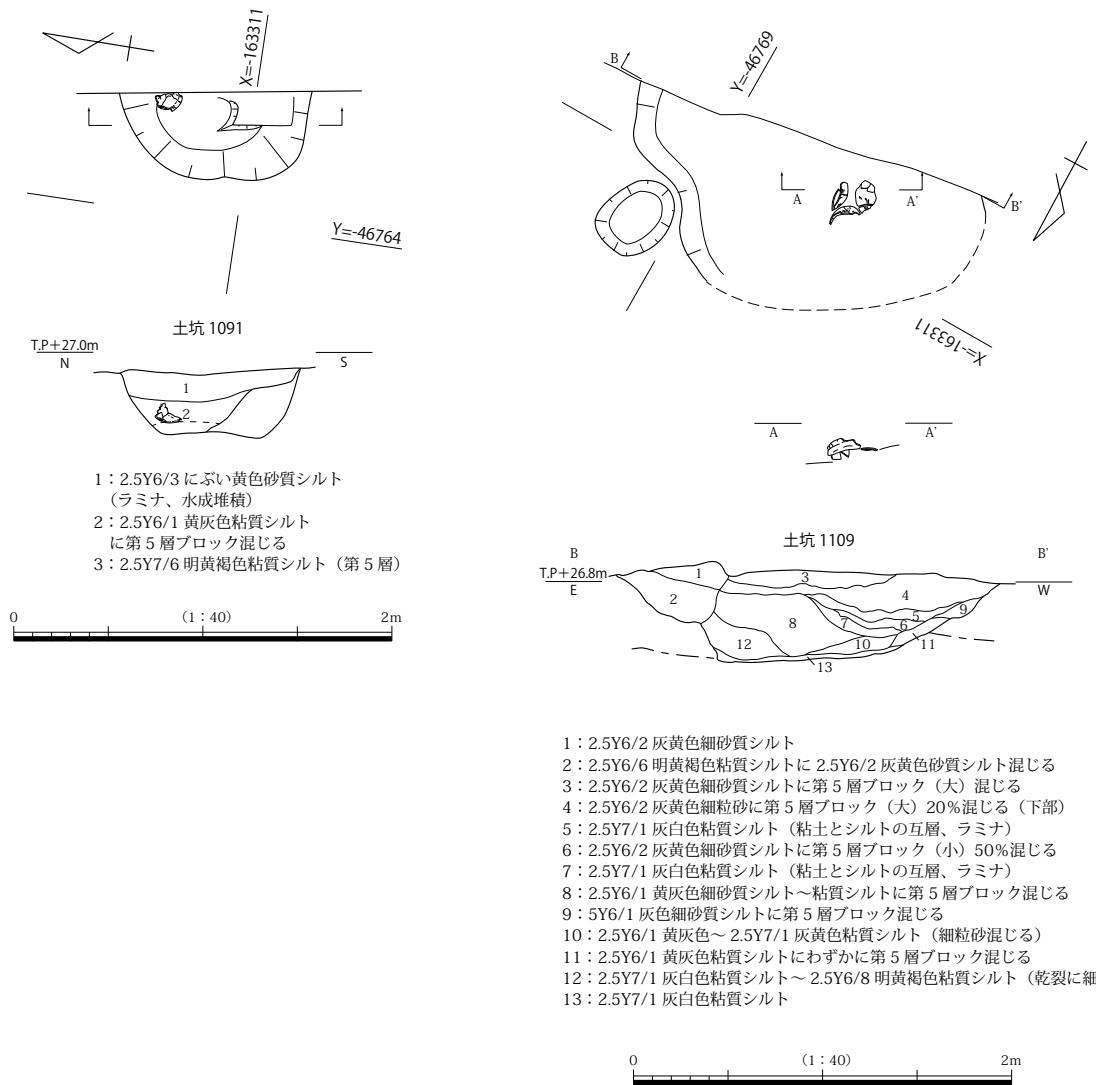


図8 第1調査区土坑1091・1109出土状況図

外反する口縁を持つ。5は1109出土。口縁が外反し、胴部が膨らむ器形となる。外面は縦位のハケ調整である。いずれも奈良時代後半から平安時代に位置付けられる。

第3項 中世の遺構と遺物

粘土採取土坑の認定

中世の遺構のほとんどは近年の調査成果と同じく粘土採取土坑が多数であった。これらは出土した遺物から15世紀代に位置付けられるものである。宮園遺跡の粘土採取土坑は、第5層下層の砂質（砂礫）層に到達すると掘るのをやめており、埋土は第5層に由来する粘土ブロックと上層の耕作土層の混ざった層からなるのが基本的な特徴である（大阪府教育委員会2018・2020）。

遺構の検出時は各土坑の輪郭がはっきりしなかったため、粘土ブロックを含む層が広がる範囲を段階的に掘り下げ、輪郭が確認でき、かつ底面の断面形態と一致するものを土坑として認定し、遺物を取り上げた。上記のような検出時の様相や過去の粘土採取土坑群の発掘調査成果を踏まえると、各土坑は切り合い関係を示すものではなく、あまり時間をおかず掘削され、ほとんど同時に埋め戻されたものと理解される。

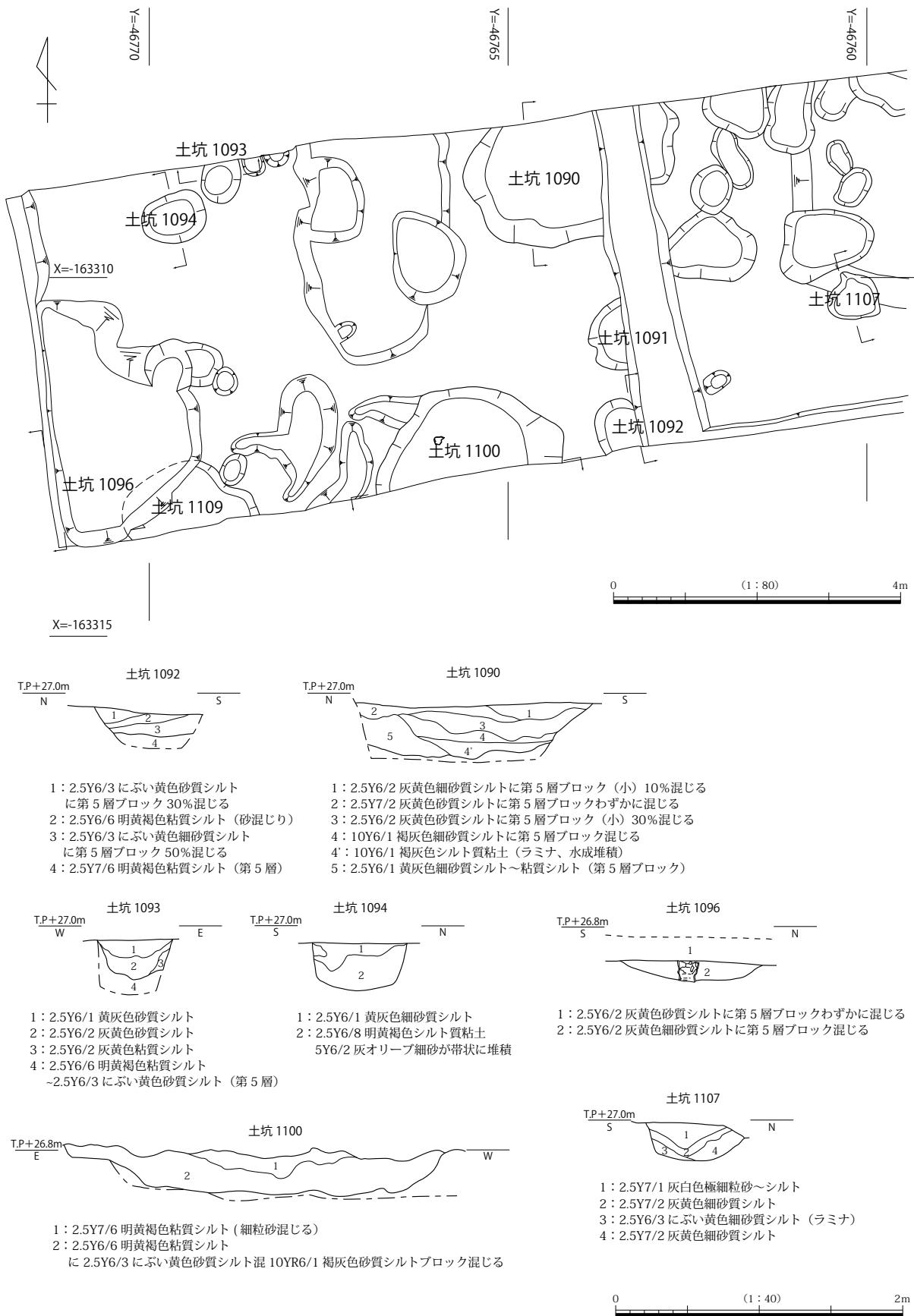


図9 第1区調査区土坑1090および周辺土坑平面・断面図

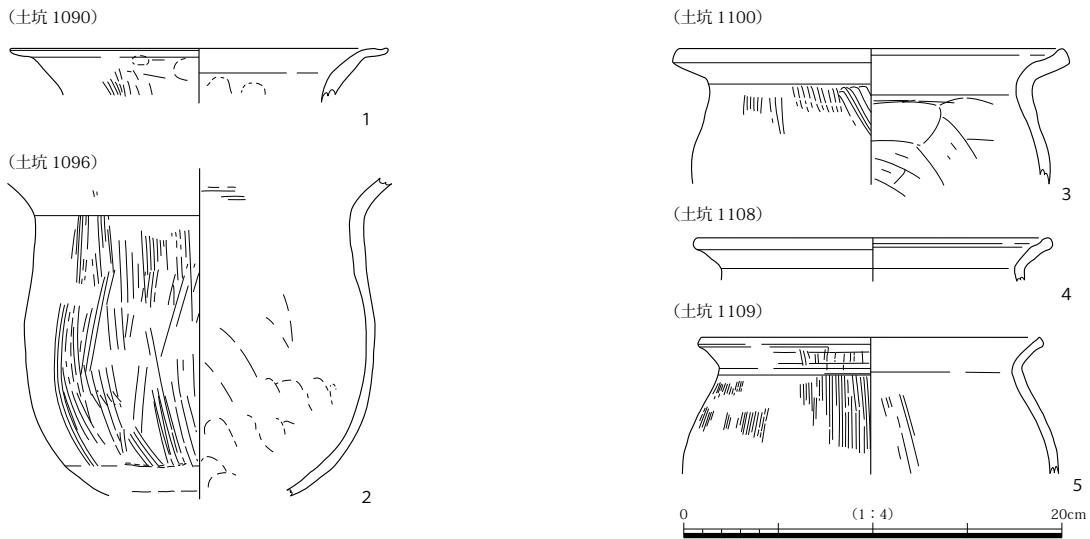


図10 第1区調査区土坑出土遺物(古代)

埋土の様相の記載をわかりやすくするために、堆積のタイプと粘土ブロックの混ざり方に関する記述を以下に統一した。

埋土は以下のタイプに大別した。

- (A1) 単層で粘土ブロックが混じるもの
- (A2) 複数の粘土ブロックが混じる層からなるもの
- (B1) 粘土ブロックの混じらない層を挟むもの
- (B2) 粘土ブロックの混じらない層でかつ水成堆積が認められるもの
- (C) 粘土ブロックの混じらない層からなるもの

さらに標準土色帖に基づき、遺構断面から観察できる粘土ブロックの含まれる面積割合を求め、粘土ブロックの大きさを大(10cm以上)、中(5cmから10cm)、小(5cm以下)に分けて記載した。

紙幅の都合から、遺物の出土により時期が比定できるものや特徴的なものを中心に平面・断面の記述を行い、その他については一覧表にまとめた(付表2)。

中世の粘土採取土坑

粘土採取土坑は調査区中央、緩傾斜地から地形の上がるY=-46760より西側から地形がさらに一段上がるY=-46730の間に分布する(図7)。この分布域の西側の土坑群の埋土は大きめの第5層ブロックを多く含み、東側はやや小さめの第5層ブロックを含み砂質シルトが多い傾向にある。

土坑1015(図11、図版5)長径150cm、短径90cm、検出面からの深さ32cmの楕円形土坑である。一部近世以降にできた溝によって削平を受けている。下層は第2層由来の砂質シルト層で、上層は第5層ブロックを含む層からなる。瓦質羽釜が出土している(図17-13)

土坑1019(図11)長径40cm、短径30cm、検出面からの深さ13cmの楕円形土坑である。第2層由来の砂質シルト層、第5層ブロックを含む層からなる。瓦質摺鉢が出土している(図17-9)。

土坑1022(図11)長径183cm以上、短径170cm、検出面からの深さ42cmの不定形土坑である。一部攪乱により削平を受けている。最下層に砂質シルト層で、上層は第5層ブロックを含む層からなる。瓦質摺鉢が出土している(図17-10)。

土坑1033・1034(図11)1033は長径135cm、短径75cm、検出面からの深さ12cmの隅丸方形土坑である。1034は長径60cm、短径51cm、検出面からの深さ22cmの楕円形土坑である。上部は近世以降

第3章 調査成果

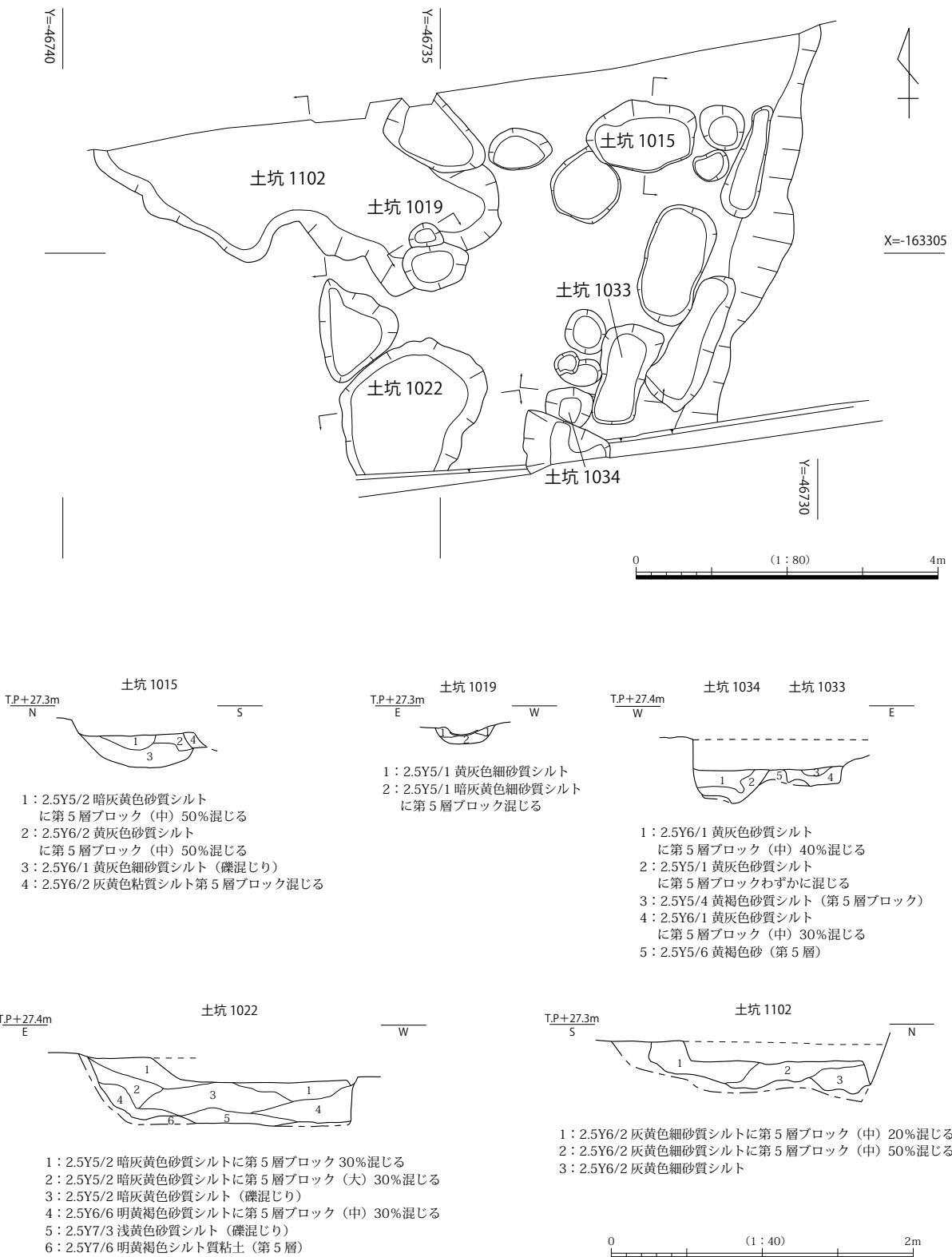


図 11 第1調査区土坑 1015 および周辺土坑平面・断面図

にできた溝によって削平を受けている。第5層ブロックを含む層からなる。1034からは瓦質羽釜が出土している(図17-14)。

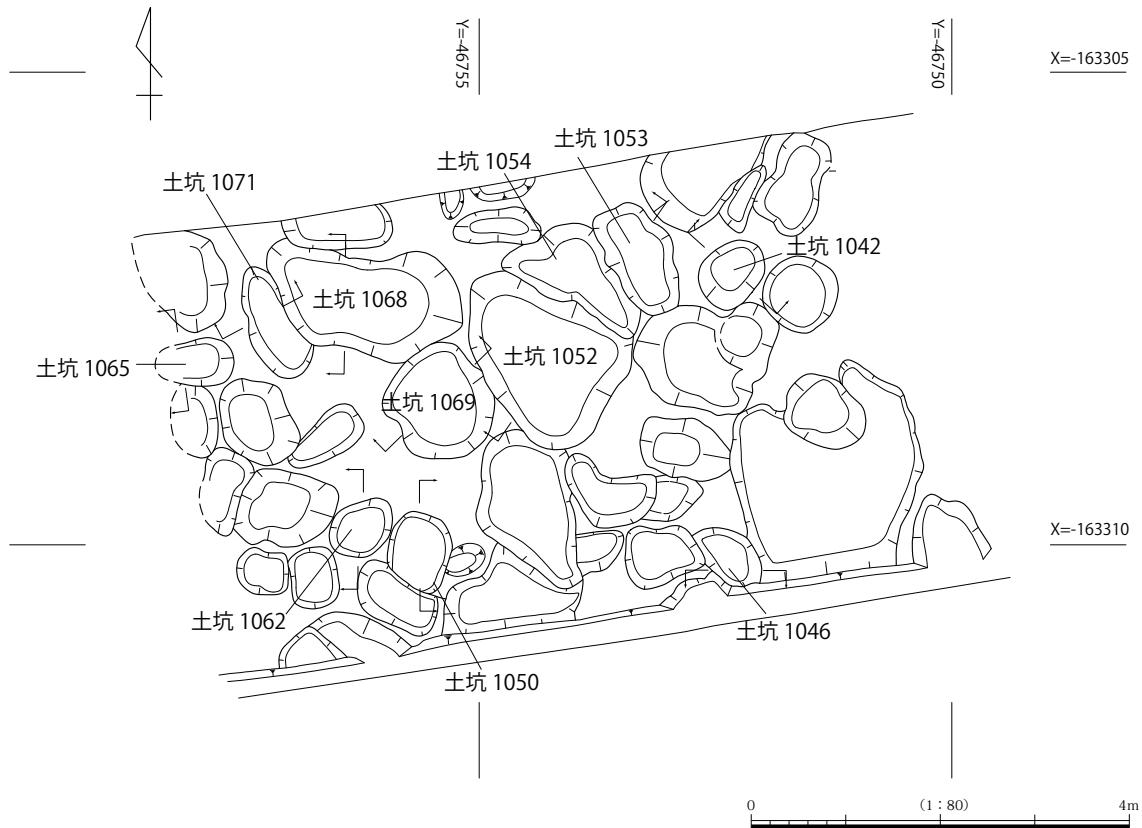


図12 第1調査区土坑1052および周辺土坑平面図

土坑1042(図12・13)長径75cm、短径60cm、深さ19cmの楕円形土坑である。第5層ブロックを含む層からなる。

土坑1046(図12・13)隣接する遺構に切られている。検出面からの深さ37cmの楕円形土坑である。大きめの第5層ブロックを含む層を主体とする。

土坑1050(図12・13)長径70cm、短径65cm、検出面からの深さ20cmの楕円形土坑である。最下層は第2層由来の砂質シルトで上層は第5層ブロックを含む層からなる。

土坑1052・1053・1054(図12・13)1052は長径190cm、短径142cm、検出面からの深さ38cmの不定形土坑である。大・小の第5層ブロックを含む層の互層からなる。大きめのブロックは中央部に集中する。1053は長径121cm、短径70cm、検出面からの深さ29cmの不定形土坑である。最下層は水成堆積と考えられる砂質シルト層、上層は第5層ブロックを含む層からなる。1054は長径153cm、短径86cm、検出面からの深さ39cmの不定形土坑で、大きめの第5層ブロックを含む層からなる。

土坑1062(図12・13)長径72cm、短径60cm、検出面からの深さ27cmの不定形土坑である。底面も不定形な形となる。最下層は粘質シルト層で、上層は第5層ブロックを含む層からなる。

土坑1065(図12・13)長径50cm以上、短径45cm、検出面からの深さ16cmの楕円形土坑である。最下層は砂質シルト層からなり、上層は第5層ブロックを含む層からなる。

土坑1068(図12・13、図版5)長径216cm、短径92cm、検出面からの深さ38cmの不定形土坑である。比較的大きい第5層ブロックを含む層と一部第2層由来の砂質シルト層からなる。

土坑1069(図12・13)長径116cm、短径104cm、検出面からの深さ38cmの不定形土坑である。最下層は浅黄色の砂質シルトで、上層は比較的大きい第5層ブロックを含む層からなる。

第3章 調査成果

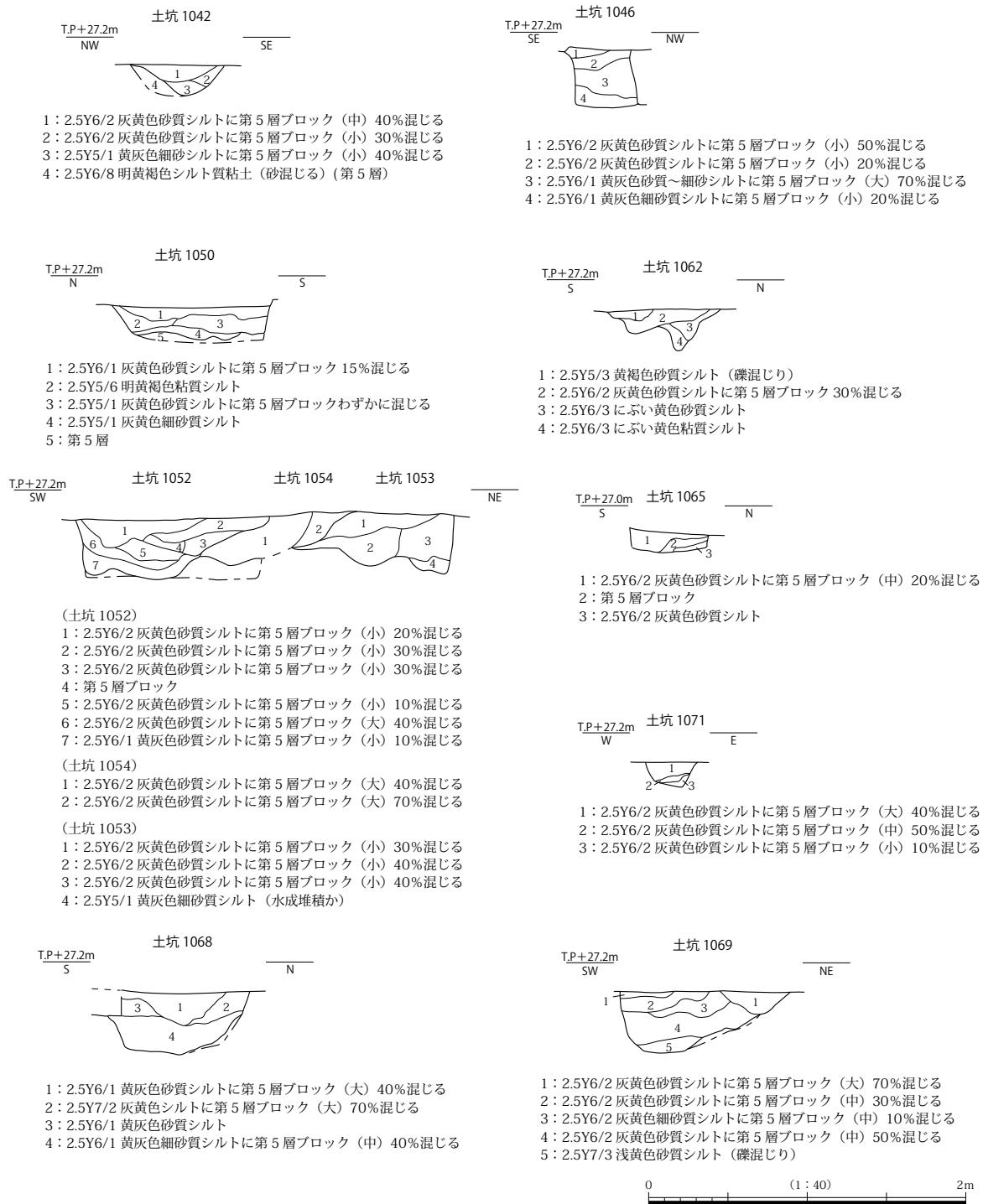


図 13 第1調査区土坑 1052 および周辺土坑断面図

土坑 1071（図 12・13）長径 124cm、短径 48cm、深さ 16cm の不定形土坑である。第5層ブロックを含む層からなる。

土坑 1102（図 11）長径 330cm 以上、短径 300cm 以上、深さ 33cm の不定形土坑である。第5層ブロックを含む層からなる。瓦質羽釜が出土している（図 18）。

土坑 1103（図 14）長径 497cm 以上、深さ 34cm の不定形土坑である。第5層ブロックを含む複数の層からなる。瓦質羽釜、摺鉢が出土している。

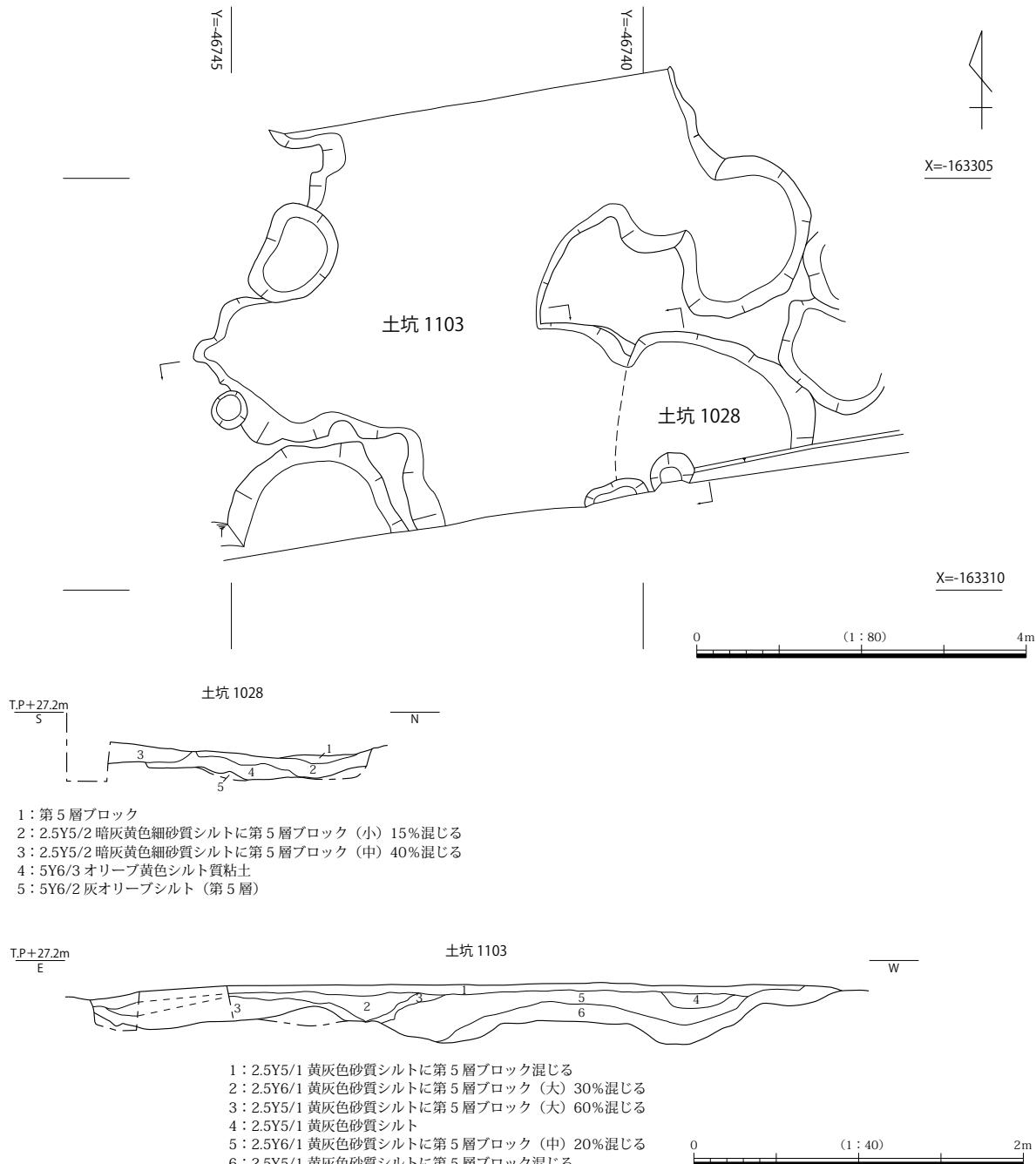


図14 第1調査区土坑1103および周辺土坑平面・断面図

土坑1028(図14、図版5)長径235cm、短径160cm以上、検出面からの深さ20cmの橢円形土坑である。第5層ブロックを含む層からなる。瓦質摺鉢が出土している(図17-11)。

土坑1005(図15)長径160cm以上、検出面からの深さ11cmの橢円形土坑である。第5層ブロックを含む層と砂質シルト層の互層からなる。

土坑1104(図15)長径551cm以上、深さ62cmの不定形土坑である。第5層ブロックを含む複数の層からなり、ブロックも比較的大きいものが多い。瓦質羽釜、摺鉢が出土している(図18)。

溝

溝1113(図16)調査区東側の崖状の地形に沿う北からやや東に振れる方向に走る幅1.3mほどの溝で

第3章 調査成果

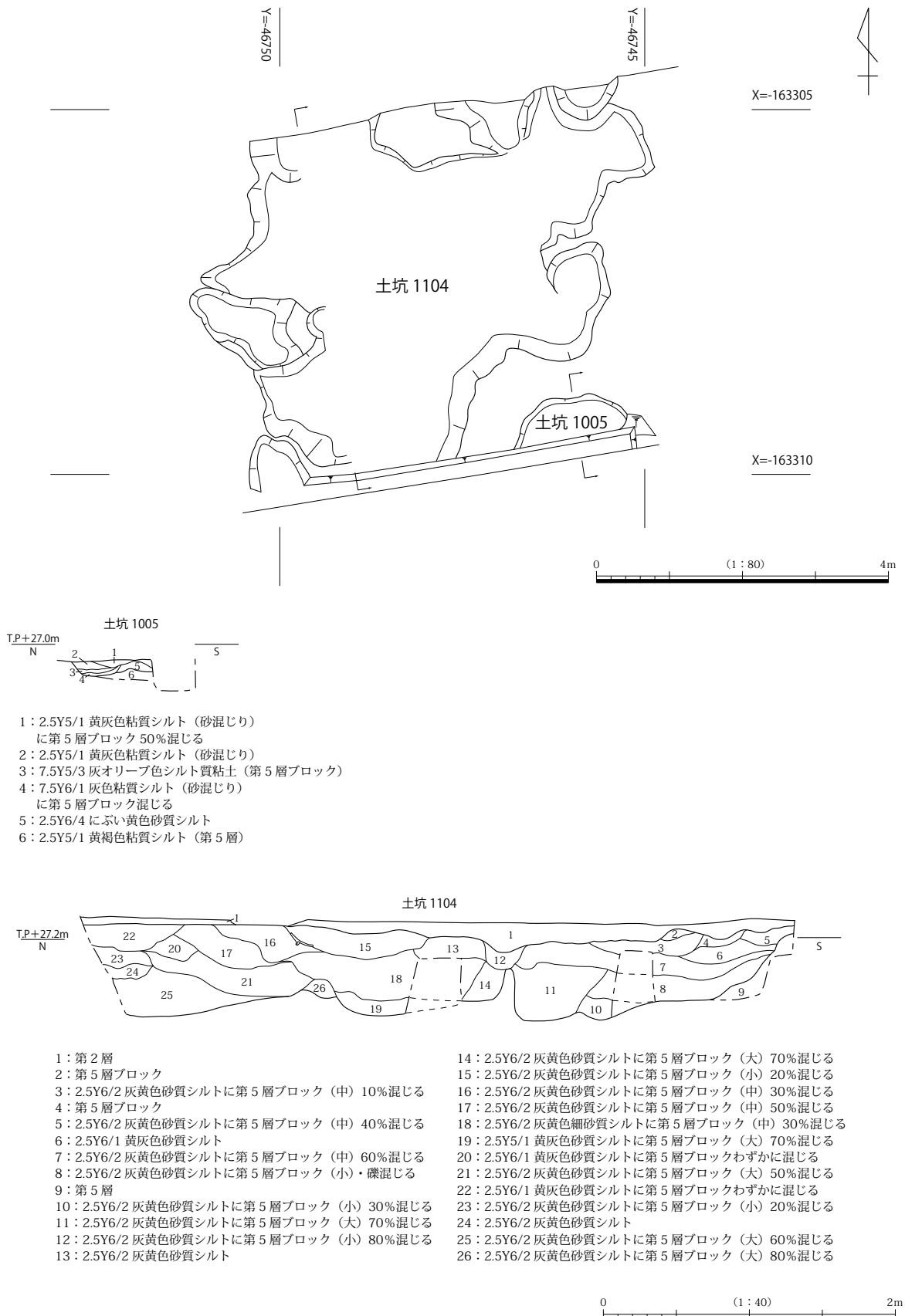


図 15 第1調査区土坑 1104 および周辺土坑平面・断面図

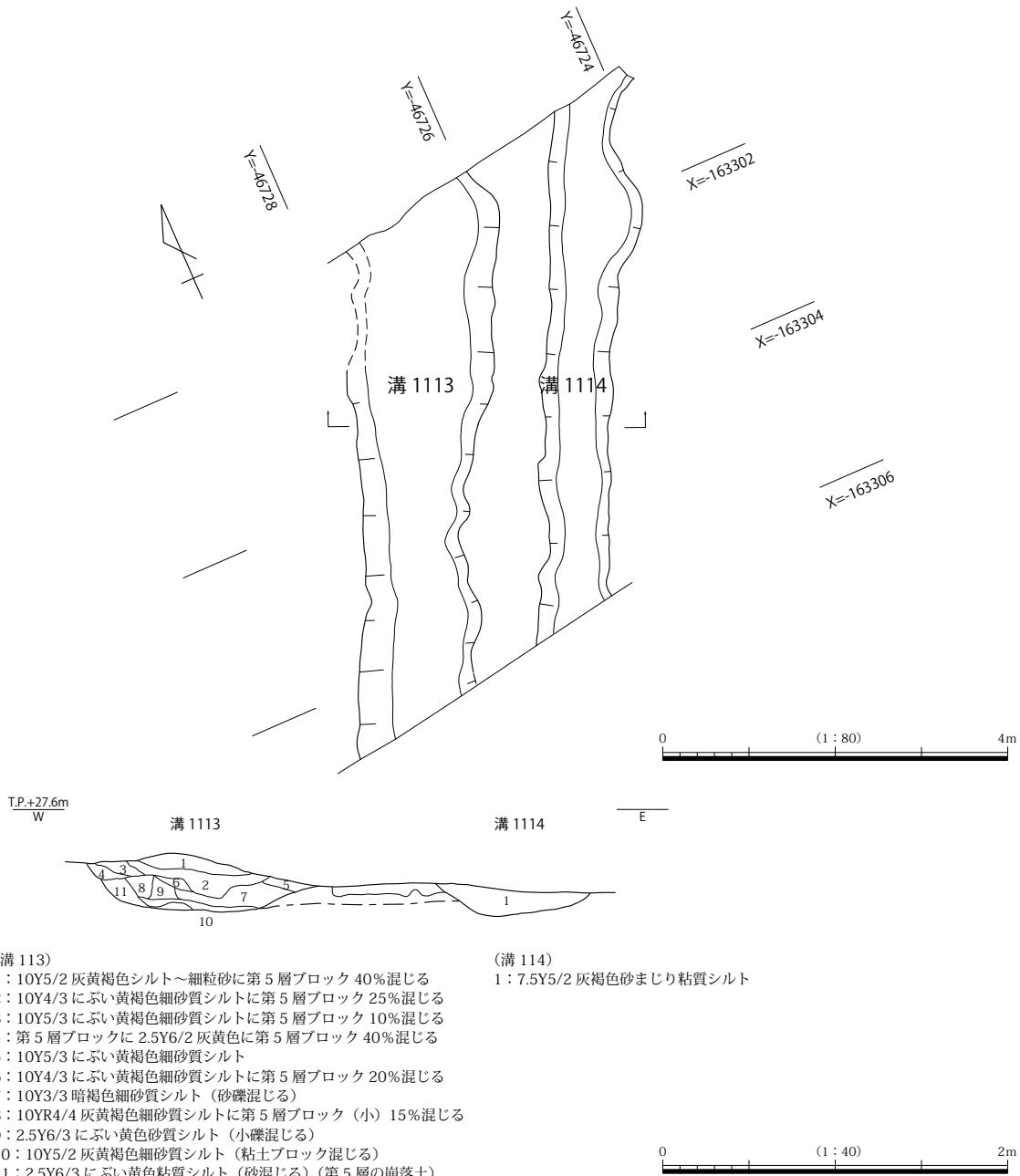


図 16 第1調査区溝 1113・1114 平面・断面図

ある。埋土は基盤となる第5層の崩れたブロックと暗褐色砂質シルト層からなり、水の流れた層は確認できなかった。遺物は須恵器の小片が出土したが、遺構の時期については不明である。第2層より下から堀込んでいるものであり、中世後期（15世紀）以前に機能していたものと考えられる。

溝 1114(図 16)溝 1113 と同様な方向に走る幅 80cm 程度の溝である。埋土は第2層の土と類似しており、中世後期には埋没したものと考えられる。遺物は出土していない。

遺構出土遺物 (図 17・18)

6, 7 は 1013 出土。6 は瓦質羽釜で、口縁が内傾し、端部は水平になる。7 は瓦質摺鉢で、口縁下端が肥厚する器形となる。8 は 1012 出土の瓦質摺鉢で、口縁は断面三角形状を呈し、直下にナデが巡り段を持つ器形となる。外面は横方向のケズリから底部に向かって縦位のケズリとなる。内面は板ナデ

第3章 調査成果

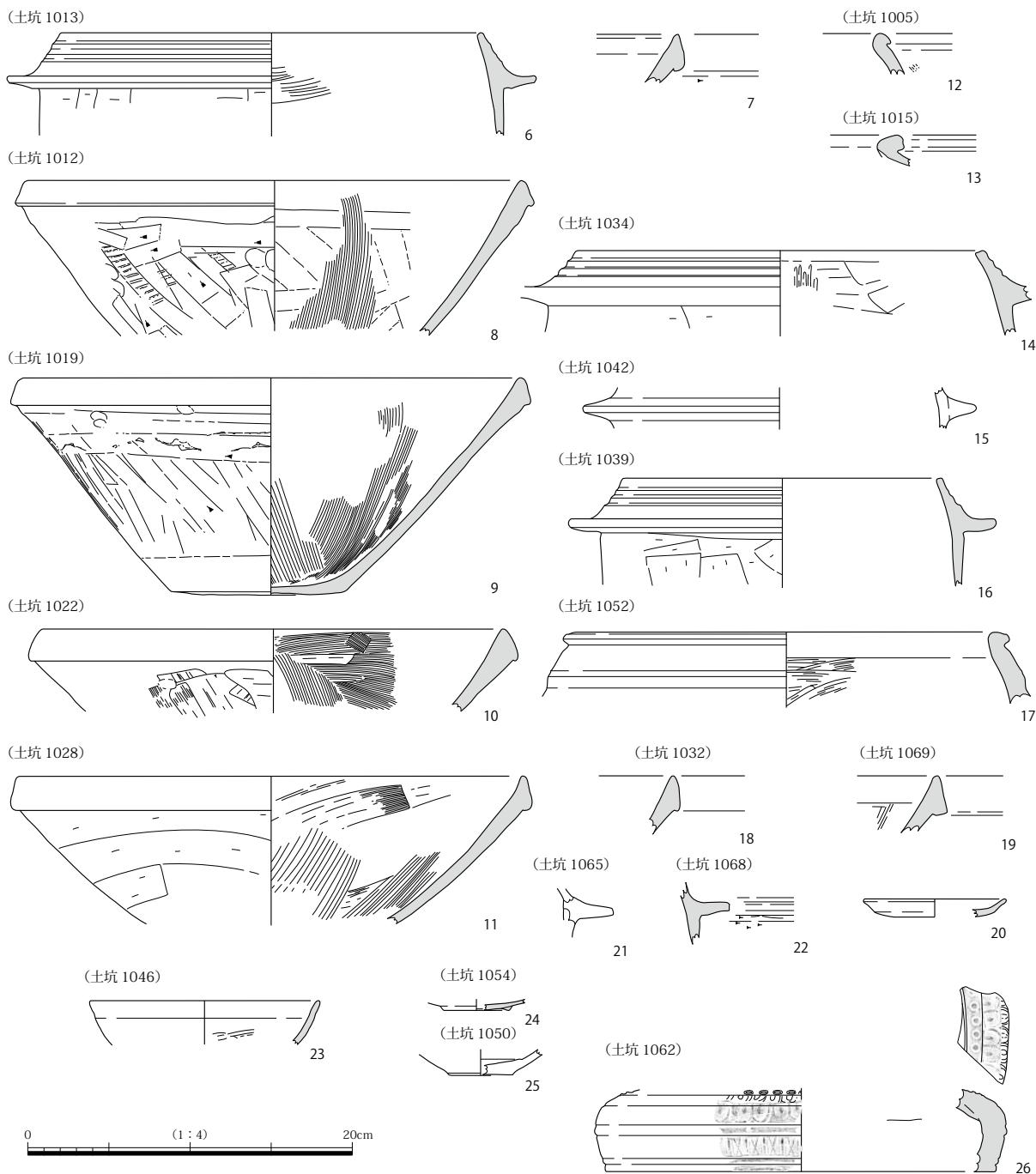


図 17 粘土採取土坑出土遺物実測図（1）

による調整で、卸目が施される。9は1019出土の瓦質摺鉢で8とおおむね同様の器形となる。10は1022出土の瓦質摺鉢で口縁は断面三角形状を呈する。内面は横位のハケ調整後、卸目が施される。11は1028出土の瓦質摺鉢で口縁は断面三角形状を呈し、わずかに上端がつまみ上げられたような形となる。摩滅が著しいが、内面に卸目が施されている。12は1005出土の羽釜で、口縁が内湾し、端部は肥厚する。13は1015出土の瓦質羽釜で、口縁端部で外折する。14は1034出土の瓦質羽釜で、口縁が内傾し端部は水平となる。外面には凹線が巡る。15は1042出土の土師器羽釜の鍔部である。16は1039出土の瓦質羽釜で口縁が内傾する。外面に段を持ち、胴部は縦位のケズリである。17は1052

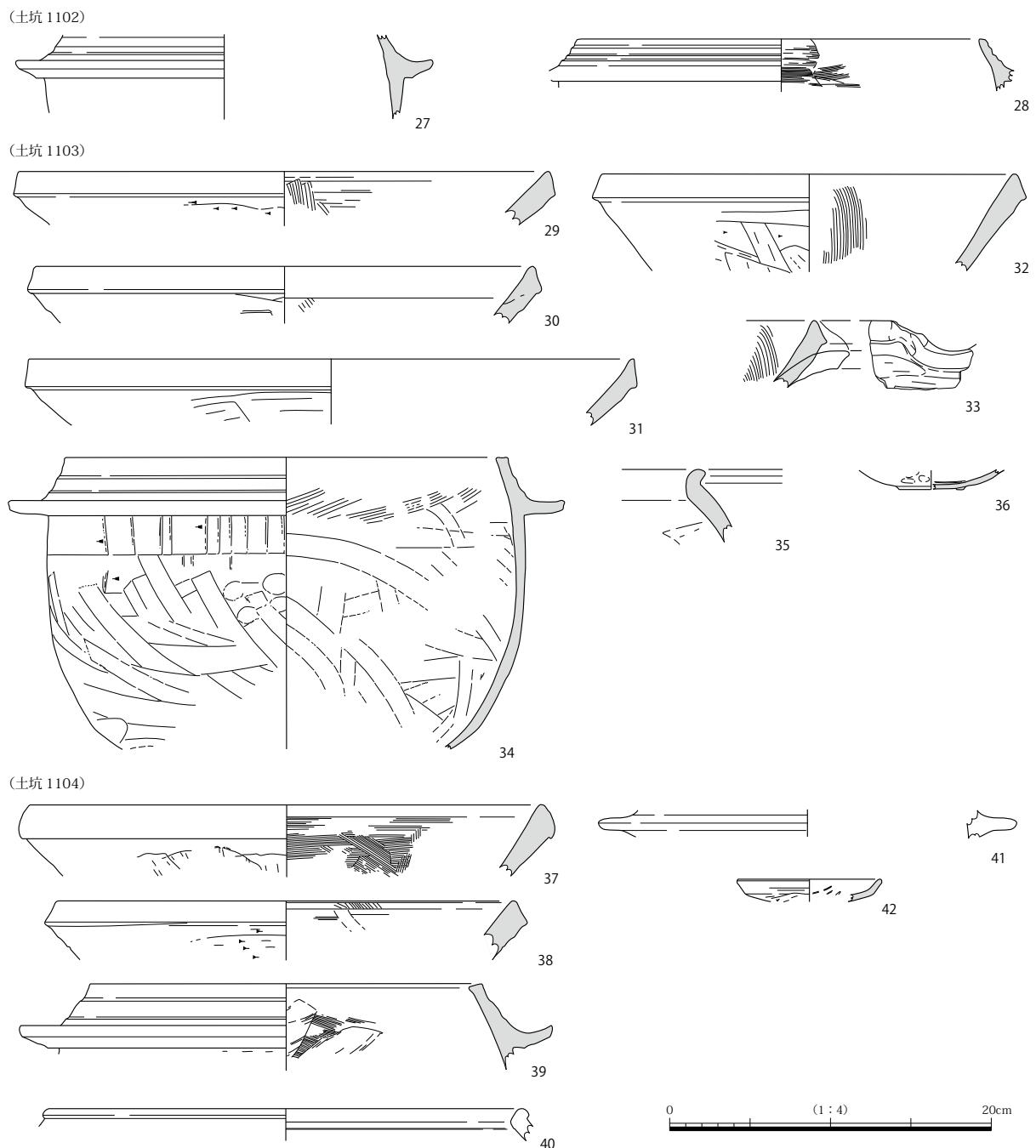


図18 粘土採取土坑出土遺物実測図（2）

出土の瓦質羽釜で、口縁が内湾し、端部で外折する。18は1032出土の瓦質摺鉢。19, 20は1069出土。19は瓦質摺鉢。20は瓦器皿で、胴部より直線的に張り出す器形となる。21は1065出土の土師器羽釜の鐸部である。22は1068出土の瓦質羽釜の鐸部である。焼成は土師器に近い。23は1046出土の瓦器椀。口縁部のナデによりやや外反する器形となる。24は1054出土の瓦器椀底部。高台は低平である。摩滅によりほとんど土師質のような胎土である。25は1050出土の白磁碗底部。26は1062出土、瓦質火鉢の台部である。横位に連続する花弁状のスタンプ文、珠文を持つ。内面が調整されていないことから、器ではなく台の部分であったと考えられる。27, 28は1102出土の瓦質羽釜である。27は内傾し、口縁部には凹線が巡る。28も内傾し、口縁にはやや細めに凹線が巡る。

29～36は1103出土。29～33は瓦質摺鉢である。口縁は断面三角形状を呈し、直下にナデが巡りわずかに段を持つ器形となる。29は外面ケズリ、内面はハケ調整後ナデ消されている。32は外面はケズリ調整で、内面は丁寧なナデ調整で卸目を持つ。33は注ぎ部である。34, 35は瓦質羽釜である。34は口縁が内傾し、端部は水平になる。外面はケズリ調整である。15世紀後半。35は口縁が内傾し、端部が外折する器形である。36は瓦器椀底部である。低平な高台を持つ。37～42は1104出土。37, 38は瓦質摺鉢である。37は口縁下端がやや突出し、縁帶状になる。外面はケズリ、内面はハケ調整である。38は外面ケズリ調整である。39は瓦質羽釜で、口縁が内傾し、端面も内傾する。段を持つ。内面はハケ調整後、板ナデが施される。15世紀後半。40, 41は土師器羽釜である。40は端部が外折する。41は鐸部である。42は瓦器皿である。

瓦器椀、皿、土師器羽釜、口縁端部の外折・肥厚する瓦質羽釜は、14世紀以前であるが、いずれも小片で、遺物の多くは15世紀代である。その中でも、1103, 1104出土遺物はやや新しい様相を示す。

第4項 各層位出土遺物

第2a層出土遺物（図19）

43は土馬である。大きさは残存長で8.7cmである。顔面は串状の工具による刺突により描かれ、たてがみの表現がある。尾部の付け根にも刺突が施される。年代のわかる事例は少ないが、飛鳥時代以前の可能性が高い。44は須恵器坏蓋である。古墳時代後期の所産であろう。45は土師器皿である。口縁部がわずかに湾曲する器形となる。46～51は瓦質摺鉢である。46～51は断面が三角形状の口縁を持つ。48は縁帶状の口縁であり、口縁直下はナデが巡り、その下はケズリ調整となる。内面はハケ調整である。51は口縁上端がわずかにつまみあげられた形状となる。口縁直下はナデが巡り、その下はケズリ調整となる。内面は横位のハケ調整後卸目が施される。52～55は瓦質羽釜である。いずれも口縁が内傾する器形となる。52～54は凹線が巡る。55は端部が水平で、口縁に段を持つ大型の羽釜である。56は瓦質火鉢である。口縁部にはスタンプ文が施される。57, 58は瓦質甕である。口縁は逆「U」字状に外湾し、胴部にはタタキが施される。59は瓦質鍋である。60は青磁皿の底部と考えられる。古墳時代の遺物を一部含むものの瓦質摺鉢、羽釜、甕の特徴から15世紀の所産であり、55の羽釜や57, 58の甕の特徴から、15世紀後半を下限とし16世紀までは下らないものと考えられる。

第2b層出土遺物（図19）

61～64は瓦器椀である。61は内湾する器形となる。内面はヘラミガキが施される。62は口縁部のナデによりわずかに外反する器形となる。内面は粗いヘラミガキが施される。63, 64は底部である。断面三角形で低平な高台をもつ。65は土師器羽釜の鐸部である。66は土師器羽釜である。口縁が内傾し、端部で外折する。2b層は調査区西側の緩傾斜地の上層のわずかな範囲のみに広がるが、13世紀後半から14世紀前半のものが主体となる。

粘土採取土坑上層出土遺物（図20）

第3項で述べたとおり、遺構検出の際にある程度の深さまで掘り下げているため、粘土採取土坑の上層部分から出土した遺物はまとめて報告する。

67, 68は須恵器である。67は穂の口縁部である。外面に櫛描波状文を持つ。68は器台の脚部である。櫛描波状文を持つ。古墳時代後期に位置付けられる。69～73は瓦質摺鉢である。いずれも口縁の断面形状が三角形状を呈し、直下にナデが巡る。外面はケズリ調整である。72は内面ハケ調整後、卸目が施される。73は口縁が直下のナデによりやや下に突出した断面となる。内面はナデ消され、卸目が施される。75は土師器羽釜である。内湾した器形で口縁に凹線が巡る。74, 76～82は瓦質羽釜であ

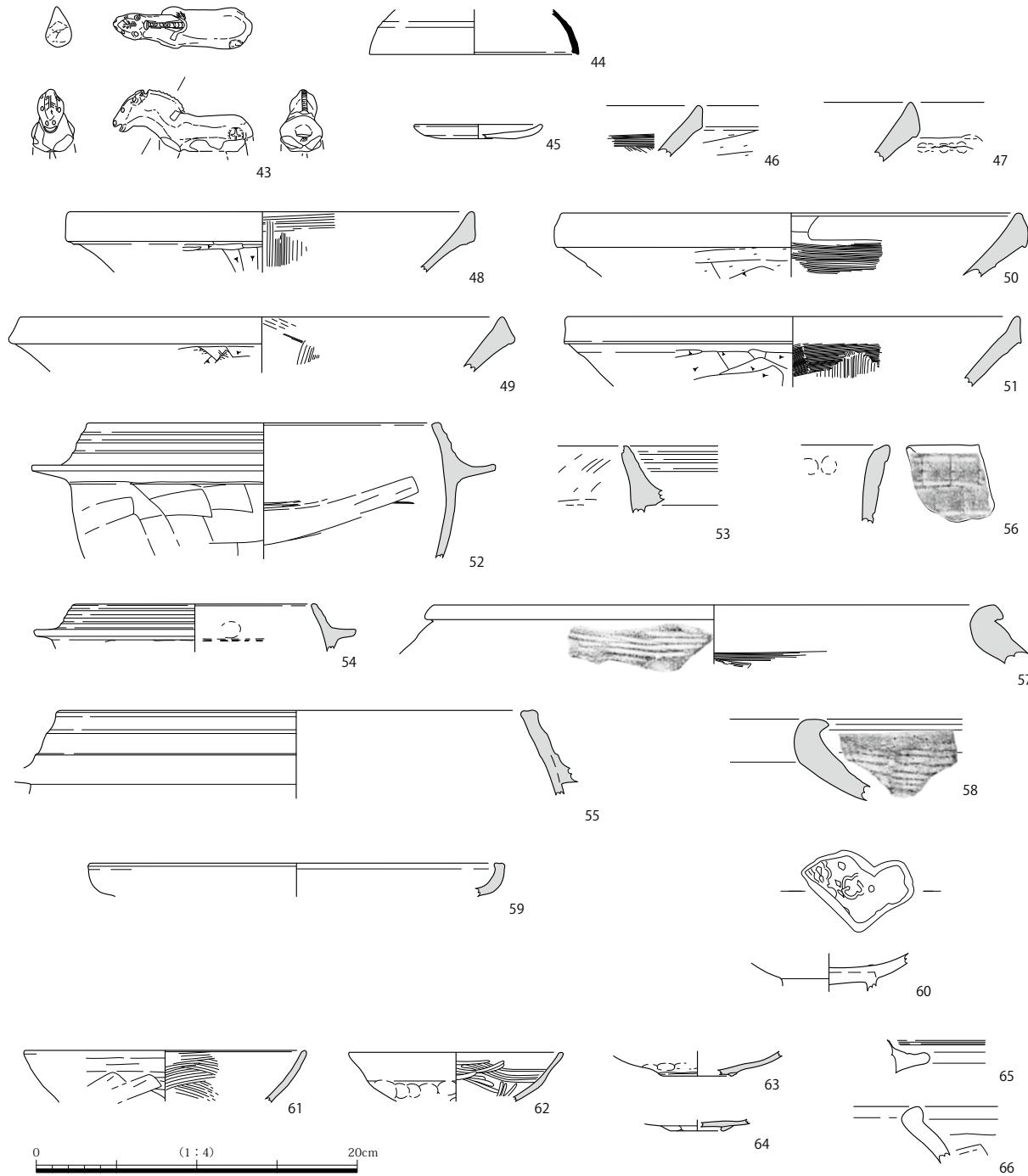


図19 第1調査区各層位出土遺物実測図

43～60：第2a層、61～66：第2b層

る。74は口縁が内傾し、端部で外折する器形となる。78, 80, 82は口縁が内傾し、端部が水平となる。78は口縁に凹線が巡り、80, 82は外面に段を持つ。79は口縁部が内傾し、端部も内傾する。81は口縁に段を持つ。84～86は瓦質甕である。83は外反する口縁部である。84は口縁は逆「U」字状に外湾し、胴部にはタタキが施される。85は頸部～胴部片で、タタキが施される。86は玉縁状の口縁となる。87は瓦質火鉢である。口縁が内湾し、端部で外折する。88は青磁碗である。

近世以降溝出土遺物（図21）

第1調査区東側の地形が一段高くなるが、その崖面に沿う形で近世以降旧八田荘住宅建設まで機能

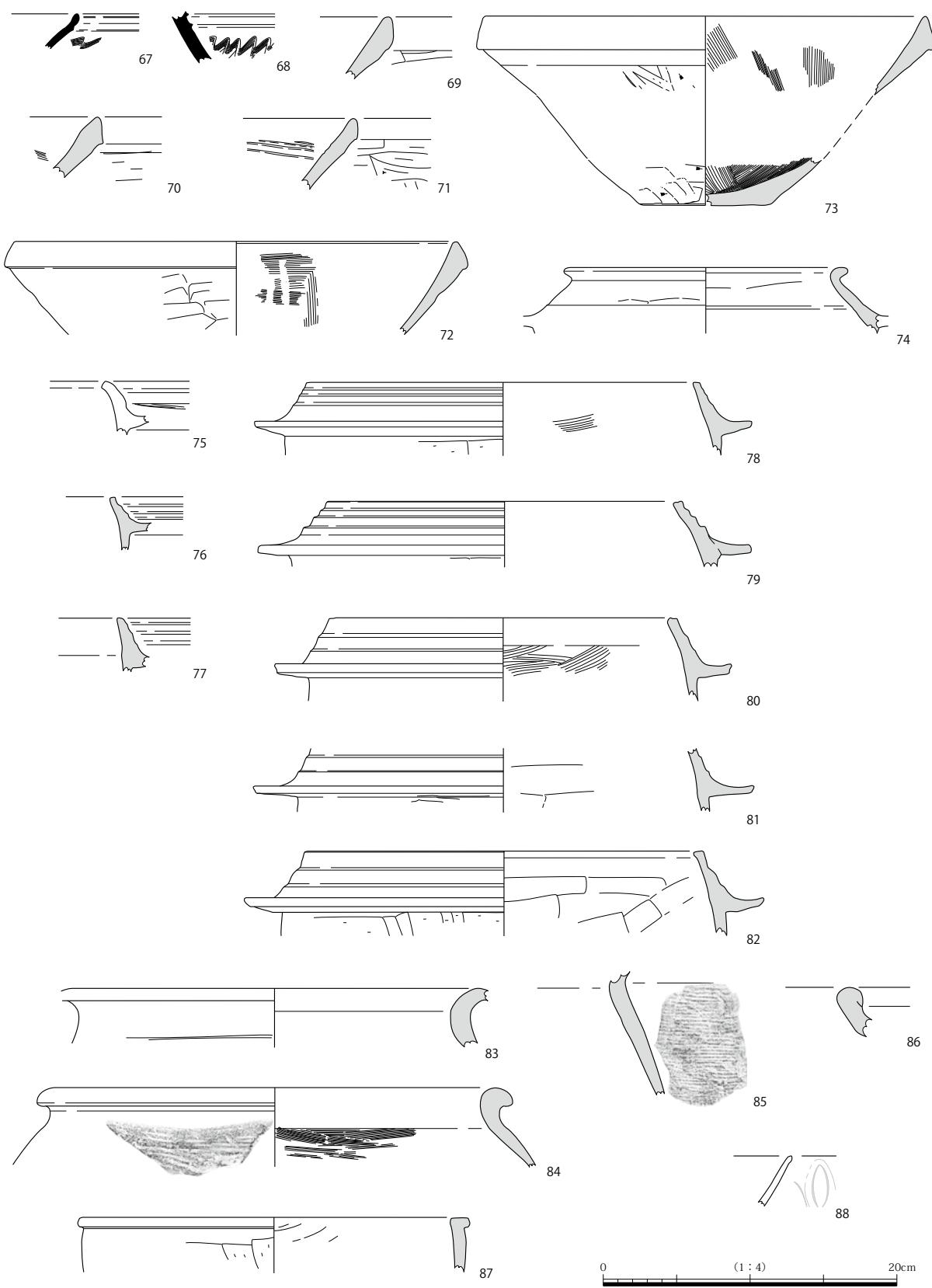


図 20 粘土採取土坑上層出土遺物実測図

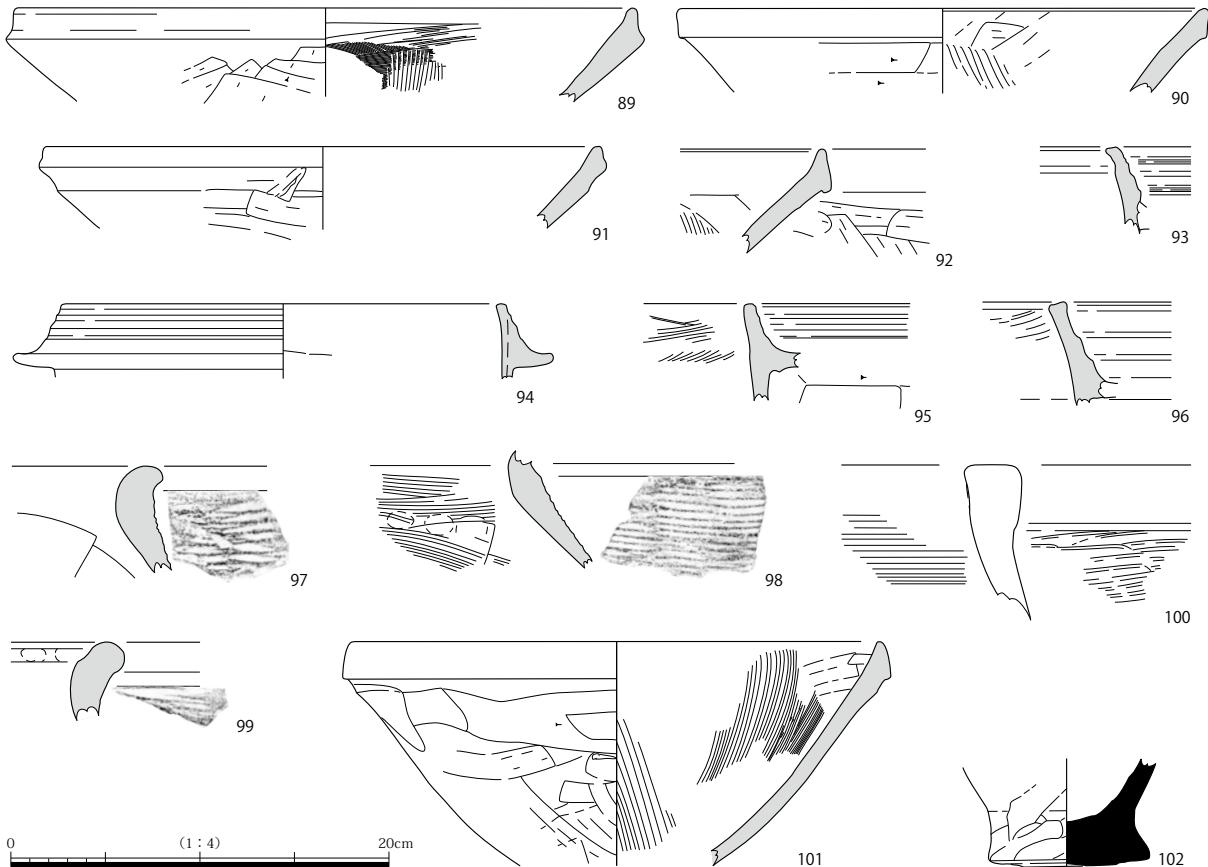


図21 近世以降溝およびその他出土遺物実測図

89～99：近世溝、101：第2層、102：盛土内

していた水路を検出した（図7）。水路内埋土からは近世の染付や近現代の瓶などが出土しているが、その壁体を構築する土より比較的に大きめの破片の瓦質土器がまとまって出土したため、それらについても報告する。

89～92は瓦質摺鉢である。89は口縁部に横方向にナデにナデが巡り、上端部がつまみ上げられた器形となる。外面はケズリで、内面はハケ調整後、一部ナデ調整し、卸目が施される。胎土は須恵質である。90、91は口縁断面が三角形状を呈し、直下にナデが巡る。92は口縁部下端が突出し、上端もつまみ上げられた器形となる。外面はケズリで、内面は丁寧なナデ調整である。93～96は瓦質羽釜である。93、94は口縁が緩く内傾し、端部は水平となる。外面は幅の狭い凹線が巡る。96は口縁が内傾し、端部がやや内傾する器形となる。外面には幅広の凹線が巡る。97～99は瓦質甕である。97、98は端部が肥厚し、外折する器形となる。外面には横位のタタキが施される。99は玉縁状の口縁部となる。摩滅が著しい。100は土師器甕である。口縁断面が三角形状に肥厚する。外面は頸部以下タタキ後ナデ調整となる。ほとんどのものは15世紀代の所産と考えるが、100は17世紀前半である。

その他出土遺物（図21）

101は瓦質摺鉢である。2層より出土した。102は須恵器の底部である。ロクロによる成形であるが、内外面にユビおさえの痕が良く残っている。中世の所産と考えられる。現代盛土からの出土である。

第3節 第2調査区

第1項 概要

調査区西側は第1調査区同様、西に向かって傾斜する地形となっており、平成28年度第3調査区検出の自然流路3001の続きとなる自然流路を検出し、流路の西岸では古代の土坑群を検出した。傾斜地より地形が上がった調査区中央から東側は平坦面になっており、ほぼ全面にわたって中世後半の粘土採取土坑を検出した。この調査区では、これまでの調査の中でも最も密に土坑が分布し、その深さも最大で70cmを超えるものがあることから、徹底的に粘土を採取していた様子が窺える。

第2項 古代の遺構と遺物

自然流路2002（図23）

平成28年度第3調査区自然流路3001に続く自然流路である。1層は2.5Y6/3にぶい黄色細砂質シルトからなる。第3層に相当し、流路の上面埋める自然堆積層である。2層以下は流路内の水成堆積層である。2層は10YR4/2暗灰黄色砂混じりシルト、3層は10Y/R黒褐色細粒砂～シルトで所々にラミナを観察できる。4層は2.5Y7/3浅黄色砂礫となり、上方細粒化している。5層、6層は自然流路の肩部の崩落土及び周辺からの流入土である。今回の調査地点では埋土中から全く遺物が出土しなかった。しかしながら第4章で詳述するが、1層中（第3層）の炭化材を年代測定したところ、7世紀～8世紀の年代が得られたこと、また流路付近の遺構面より8世紀後半に位置付けられる須恵器環B蓋が出土していることから平成28年度3001出土土器と同様な年代に位置付けられる。

古代の土坑群

土坑2007（図24、図版8）長径149cm以上、短径68cm以上、深さ26cmの楕円形土坑である。西側に第5層ブロックの堆積後、水成堆積層と考えられる4層が堆積する。その上層は大きめの第5層ブロックを含む層が堆積する。土師器甕が出土している（図25-103）。

土坑2008（図24）長径132cm以上、短径114cm、深さ34cmの楕円形土坑である。10cm以上の第5層ブロックを含む層が主体的に堆積する。上層に薄く砂質シルトが堆積する。

土坑2012（図24）長径121cm以上、短径106、深さ22cmの不定形土坑である。南側より砂質シルトが堆積する。中央には10cm以上の第5層ブロックを多く含む層が堆積する。

土坑2013（図24）長径90cm、短径62cm、深さ32cmの楕円形土坑である。10cm以上の第5層ブロックを含む層が堆積する。

土坑2174（図24、図版9）上部は周囲の中世の粘土採取土坑に削平されていたが、灰白色のシルト層中に半分程度に割れた古代の土師器甕が埋没した状況で出土した（図25-104）。

土坑2428（図32）ほとんど上部の中世の粘土採取土坑に削平されていたが、ごくわずかに残っていた古代の堆積層中より土師器甕の小片が出土した（図25-106）。

土坑2468（図版9）上部は中世の粘土採取土坑にほとんど削平されていたが、灰色の細砂質シルト層中に半分程度に割れた古代の土師器甕が埋没した状況で出土した（図25-105）。

土坑2469（図版9）2468同様、上部は中世の粘土採取土坑にほとんど削平されていたが、灰白色の細砂質シルト層中に半分程度に割れた古代の土師器甕が埋没した状況で出土した。埋土は炭化物を多く含み、土器にもススが付着していた（図25-107）。

土坑2007は第1調査区の古代の土坑群と同様、水成堆積層が観察されたことから、掘削後開放された状態であったことが推測される。土坑2008～2013は大きい不定形の粘土ブロックが混ざる埋土

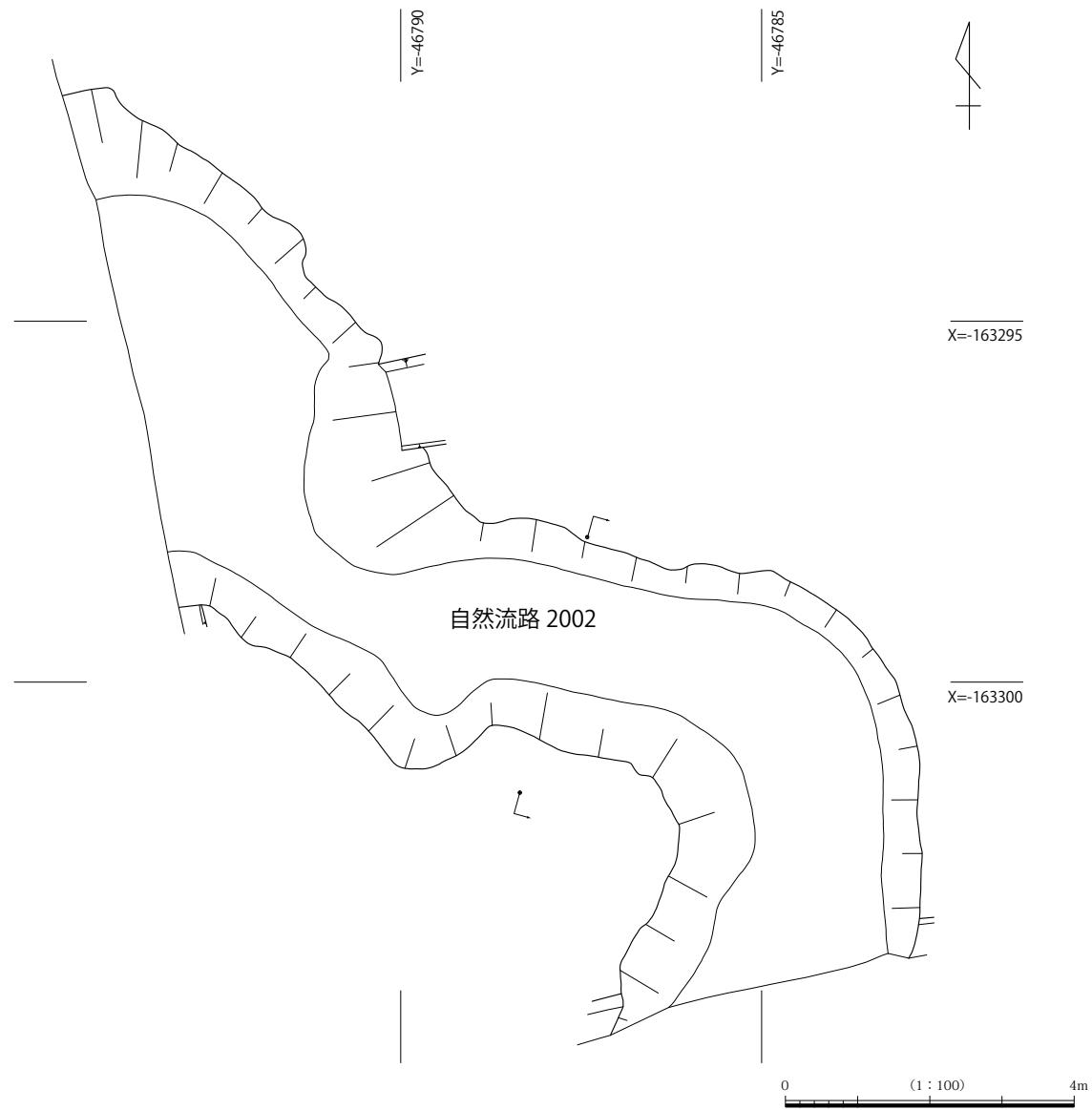


図23 自然流路 2002 平面・断面図

で、遺物は出土しなかったが、埋土の様相が類似しており 2007 と一連の土坑であると考える。

また土坑 2174、2468、2469 などは中世の粘土採取土坑群にほとんどが削平された状態で出土したものの、古代の土坑群は傾斜地だけではなく、地形が高くなつた所にも分布することが確認された。

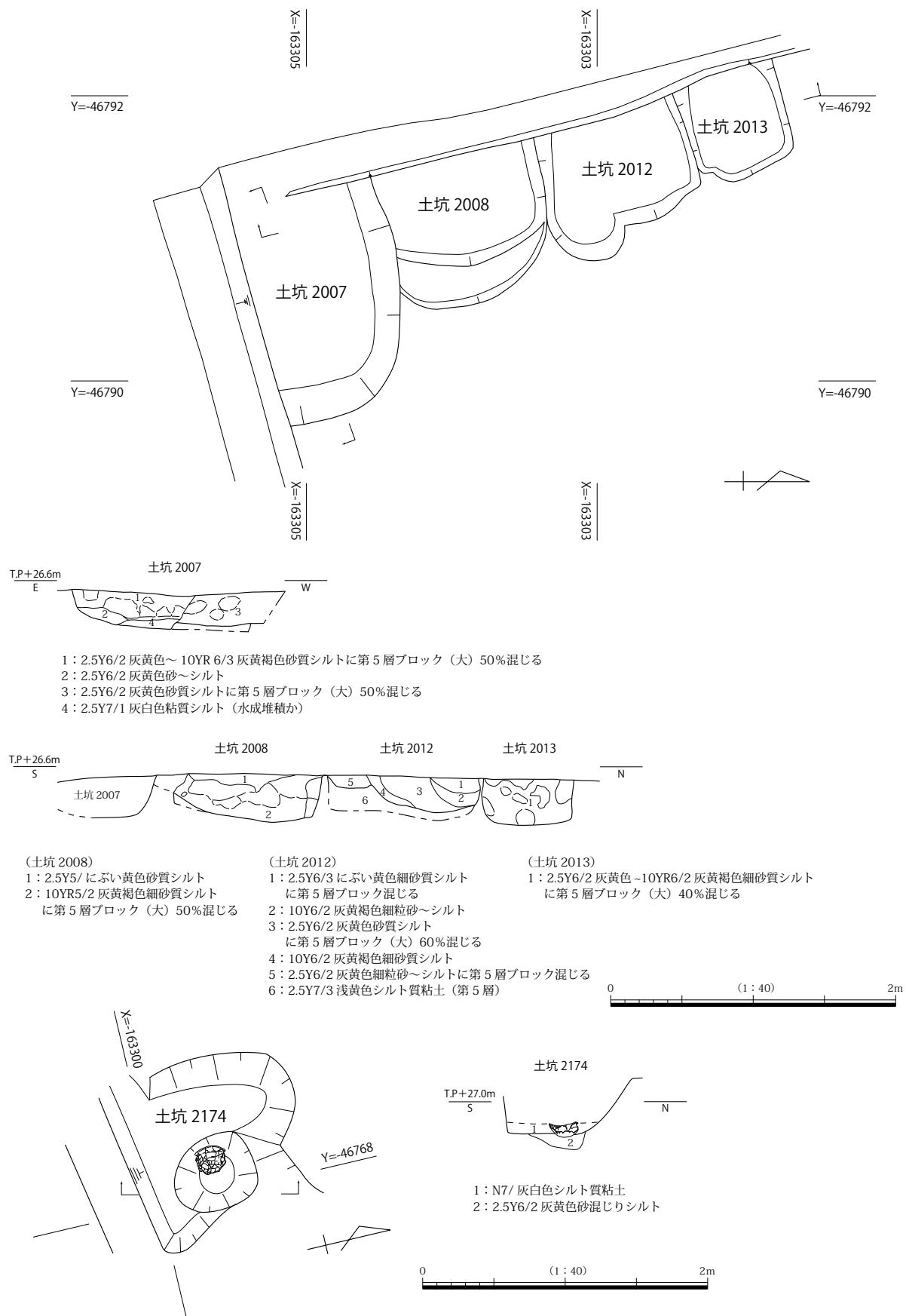


図 24 第2調査区土坑 2007周辺および周辺平面・断面図、土坑 2174 出土状況図

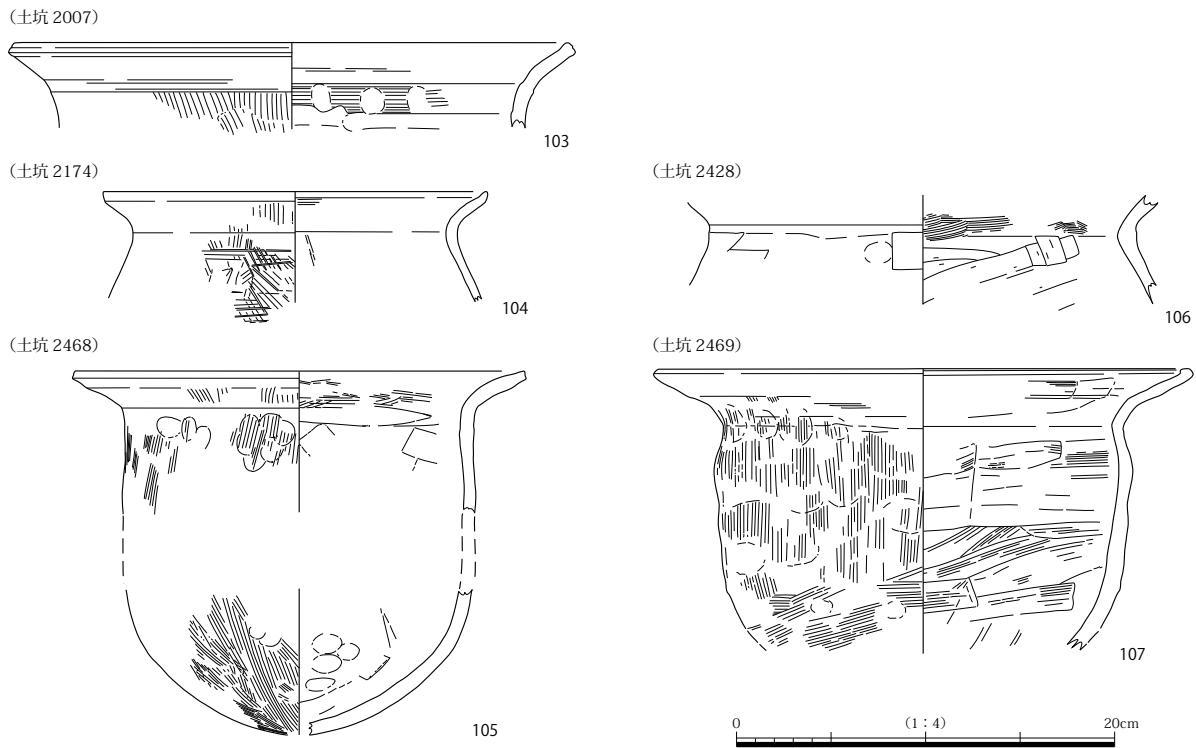


図25 第2調査区土坑出土遺物実測図（古代）

遺構出土遺物

103～107は古代の土師器甕である。103は2007より出土した。口縁部～頸部はナデ、その下は縦位のハケ調整である。104は2174より出土した。口縁部～頸部はナデ、その下は縦位のハケ調整である。端部がわずかに立ち上がる。105は2468より出土した。端部直下にナデが巡る。口縁部～頸部はナデ、その下は縦位のハケ調整である。106は2428の下層より出土した。摩滅が著しいが内面はハケ調整である。107は2469より出土した。口縁部～頸部はナデ、その下は縦位のハケ調整である。口縁端部がわずかに肥厚する。胴部にはユビオサエの痕が残り、全面的にススが付着している。いずれも奈良時代後半から平安時代に位置付けられる。

第3項 中世の遺構と遺物

第1調査区同様、本調査区でも検出した中世の土坑はほぼすべて粘土採取に関わるものであり、第2節第3項で述べた方法に基づき検出し、記録を行った。一部のものについては、平面・断面の記述を行い、その他については一覧表にまとめた（付表2）。

第2調査区では、土坑2156、2361、2362などの土坑からは羽釜や擂鉢といった瓦質土器が完形に近いような状態で出土した。また土坑2155と2153・2154の瓦質摺鉢や土坑2280と土坑2375出土の瓦質摺鉢の土器片が数m離れた箇所の破片同士で接合しており、このような出土状況は、土坑群がほとんど同時に掘られていることの傍証となろう。粘土採取土坑は、流路2002に向かう傾斜地の地形の境まで粘土採取土坑が広がっており（図22）、それより東側にはほぼ全面に分布する。調査区中央南側の土坑2463から2322付近が最も深くまで粘土採掘が行われており、深さは70～80cmほど、底面でT.P.+26.4m前後となる。調査区北側から北西にかけてはやや土坑の深度は浅くなり、分布も希薄になる。

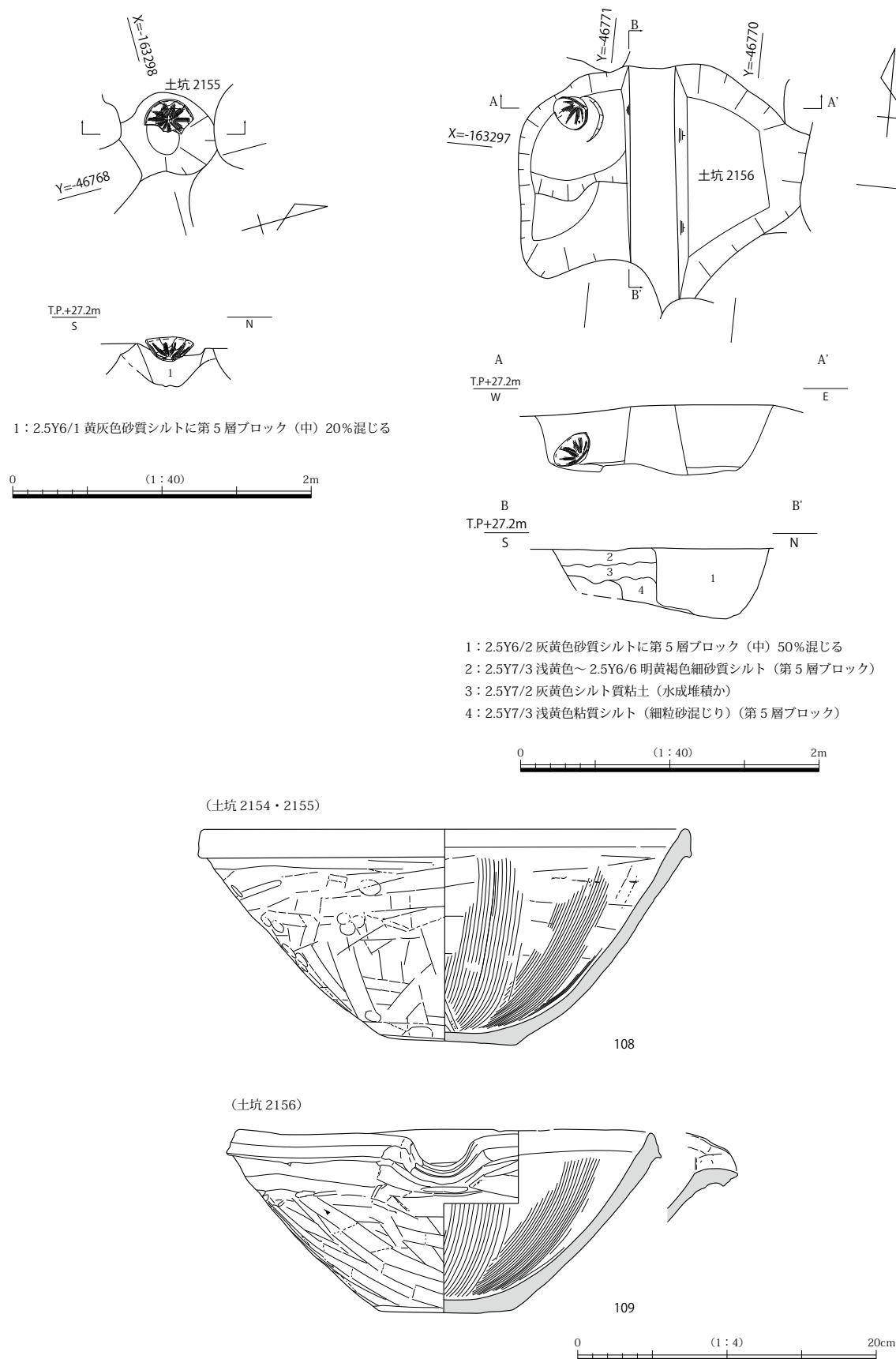


図 26 第2調査区土坑 2155・2156 出土状況図・遺物実測図

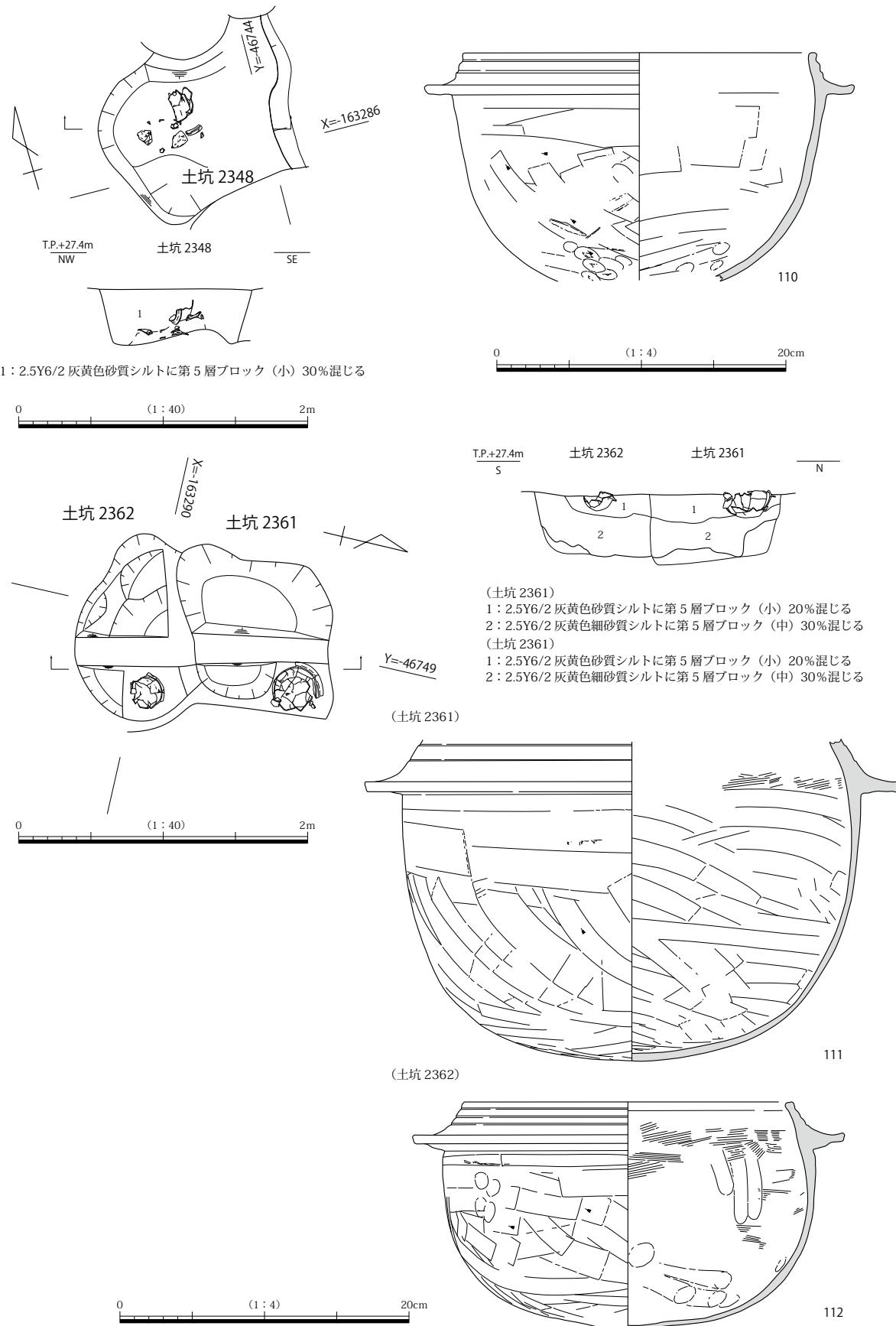


図27 第2調査区土坑2348・2361・2362出土状況図・遺物実測図

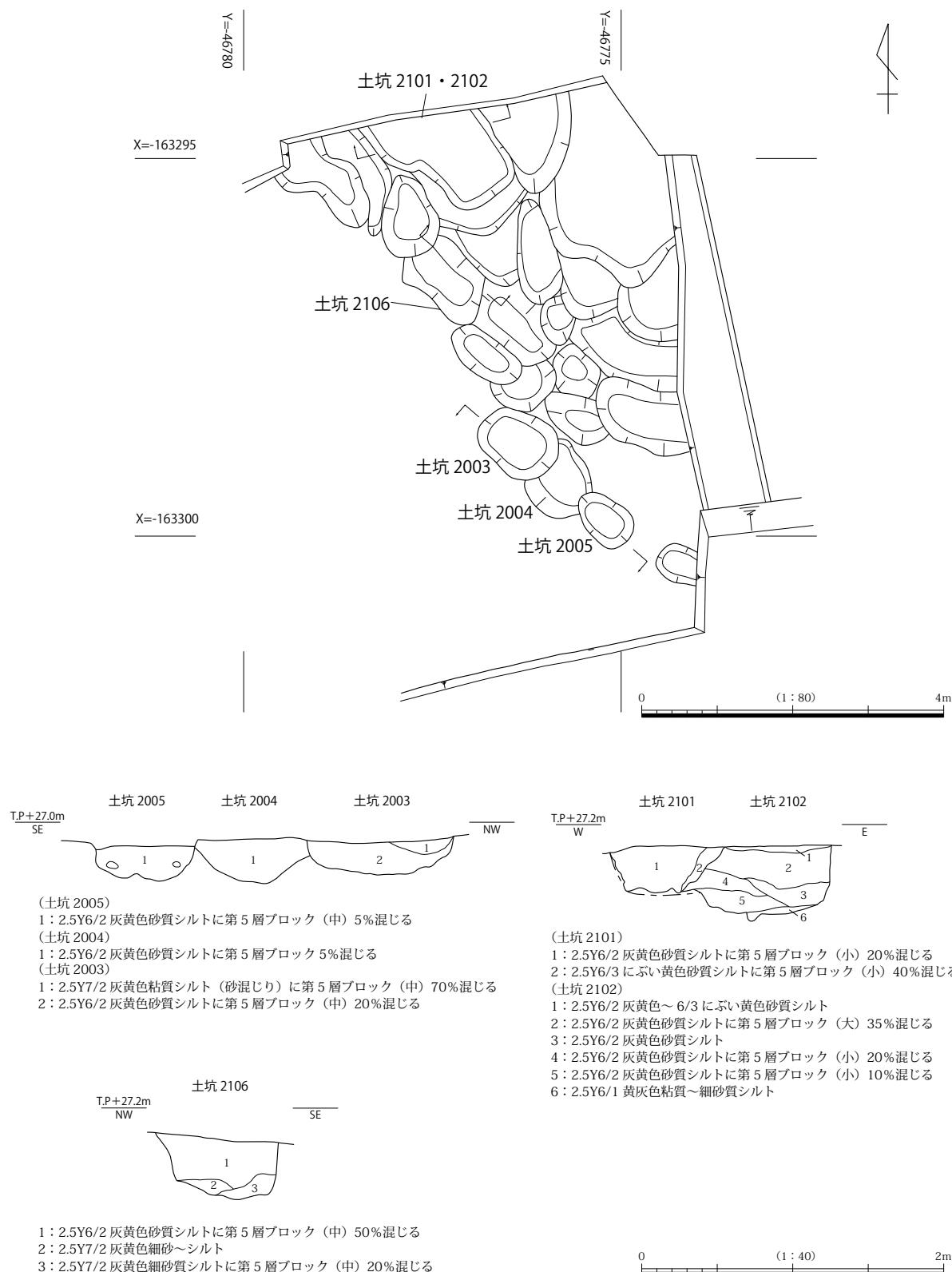


図 28 第2調査区土坑 2003 および周辺平面・断面図

中世の粘土採取土坑

土坑 2155 (図 26、図版 11) 長径 60cm、短径 58cm、検出面からの深さ 26cm の橢円形土坑である。第

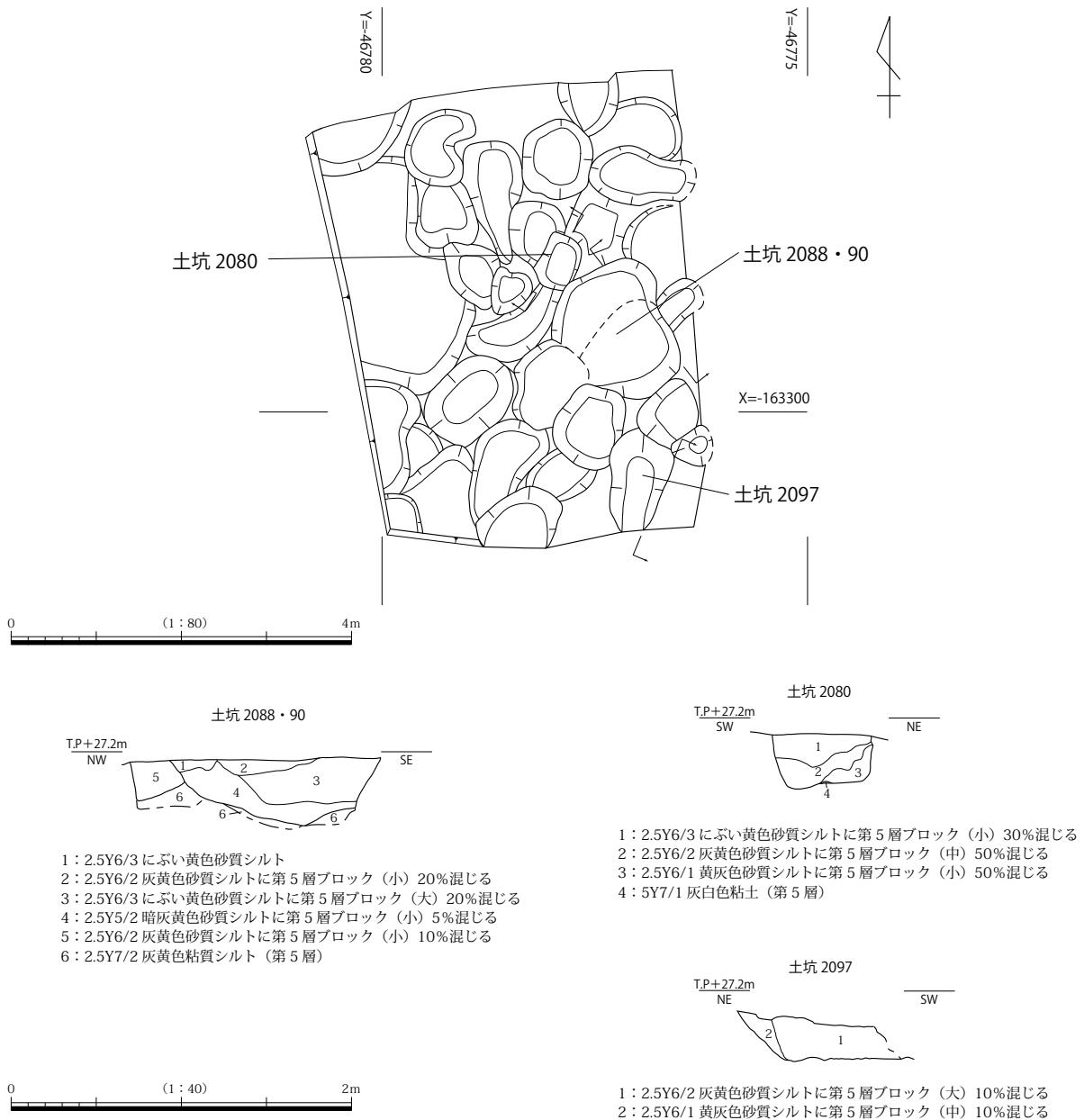


図29 第2調査区土坑2080および周辺平面・断面図

5層ブロックを含む層からなる。1/3ほど欠損した摺鉢が土坑の上層より正位の状態で出土したが、数m離れた土坑2153・2154から出土した破片と接合した。出土した土器108は、口縁部が縁帯状を呈し、上端はつまみ上げられ、下端は直下のナデにより突出した形状となる。外面は横位のケズリから底部に向かって縦位のケズリとなる。内面は板ナデ後、卸目が施される。使用の痕跡はほとんどない。

土坑2156(図26、図版11)長径191cm、短径160cm、検出面からの深さ47cmの楕円形土坑である。第5層ブロックを含む層からなる。完形の瓦質摺鉢が横位の状態で出土した。出土した土器109は、口縁部は縁帯状を呈し、上端及び下端がつまみ上げられ突出した形状となっている。外面はケズリ、内面は丁寧なナデ調整後、卸目が施される。卸目の摩耗はなく、使用の痕跡はほとんどない。15世紀前半。

土坑2348(図27、図版11)長径129cm、短径113cm、検出面からの深さ38cmの不定形土坑である。第5層ブロックを含む層からなる。瓦質羽釜が出土している。出土した110は、口縁は内傾し、端部

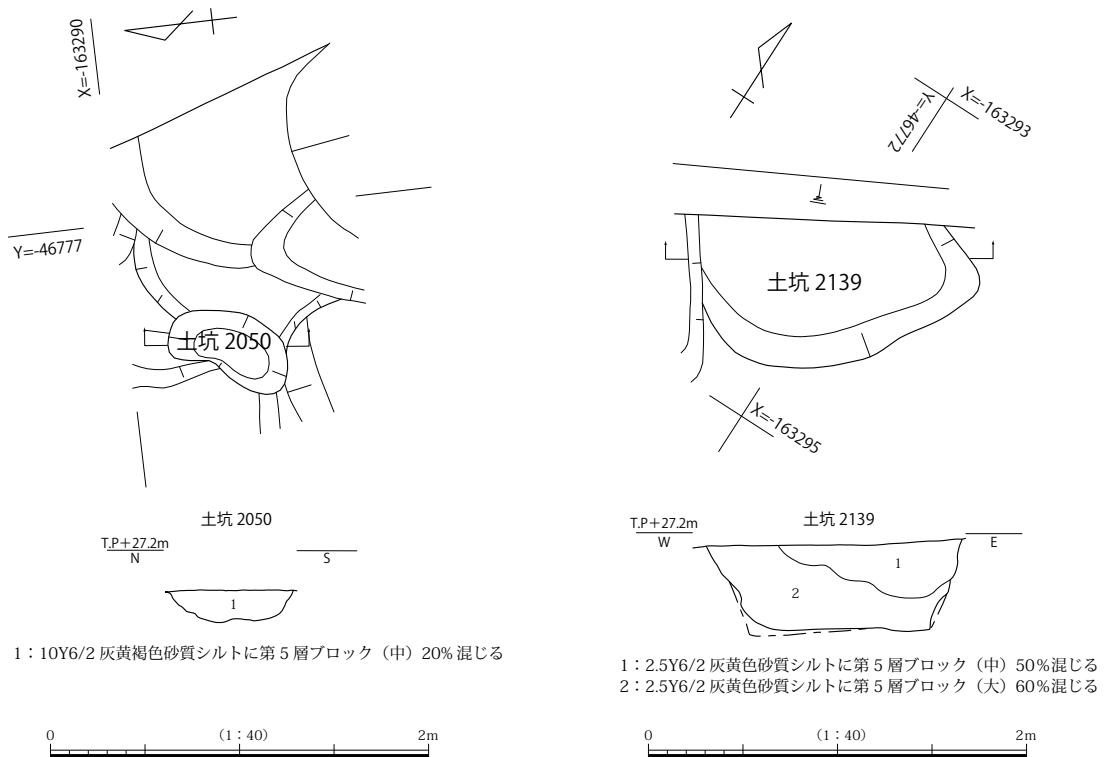


図 30 第2調査区土坑 2050・2139 平面・断面図

はやや丸みを帯び、外面には凹線が巡る。胴部から底部は球状を呈する。外面は底部に向かってケズリ、内面は板ナデとなる。

土坑 2361・2362（図 27、図版 11）2361 は長径 102cm、短径 92cm、検出面からの深さ 42cm の楕円形土坑である。第 5 層ブロックを含む層からなる。上層より大型の瓦質羽釜が正位の状態で出土した。出土した土器 111 は、口縁は内傾し、胴部は球状を呈する。外面はケズリ、内面はハケ調整後、ナデであるが所々にハケ目を残す。15 世紀後半。2362 は長径 130cm、短径 82cm、検出面からの深さ 42 cm の楕円形土坑である。第 5 層ブロックを含む層からなる。上層よりやや小型の瓦質羽釜が正位の状態で出土した。出土した土器 112 は、口縁は内傾し、端部は水平、外面には沈線が巡る。外面はケズリ、内面はハケ調整後、ナデとなる。15 世紀後半。

土坑 2003・2004・2005（図 28、図版 12）2003 は長径 97cm、短径 80cm、深さ 25cm の楕円形土坑である。第 5 層ブロックを含む層からなる。壁面より胎土分析用のサンプルを採取している。2004 は長径 72cm 以上、短径 89cm、深さ 30cm の楕円形土坑である。第 5 層ブロックを含む層からなるが、やや粘土の割合は少ない。2005 は長径 81cm、短径 53cm、深さ 28cm の楕円形土坑である。第 5 層ブロックを含む層からなるが、やや粘土の割合は少ない。

土坑 2101・2102（図 28、図版 11）二つの土坑併せて長径 140cm 以上、検出面からの深さ 39cm の不定形土坑である。2101 は第 5 層ブロックを含む層からなる。2102 は最下層に黄灰色粘質シルトが堆積し、瓦質羽釜が出土した（図 35-125）。その上層は第 5 層ブロックを含む層と第 2 層由来の砂質シルト層の互層となる。

土坑 2106（図 28）長径 110cm 以上、短径 71cm、検出面からの深さ 38cm の不定形土坑である。第 5 層ブロックを含む層からなるが、一部第 2 層由来の細砂～シルト層がある。

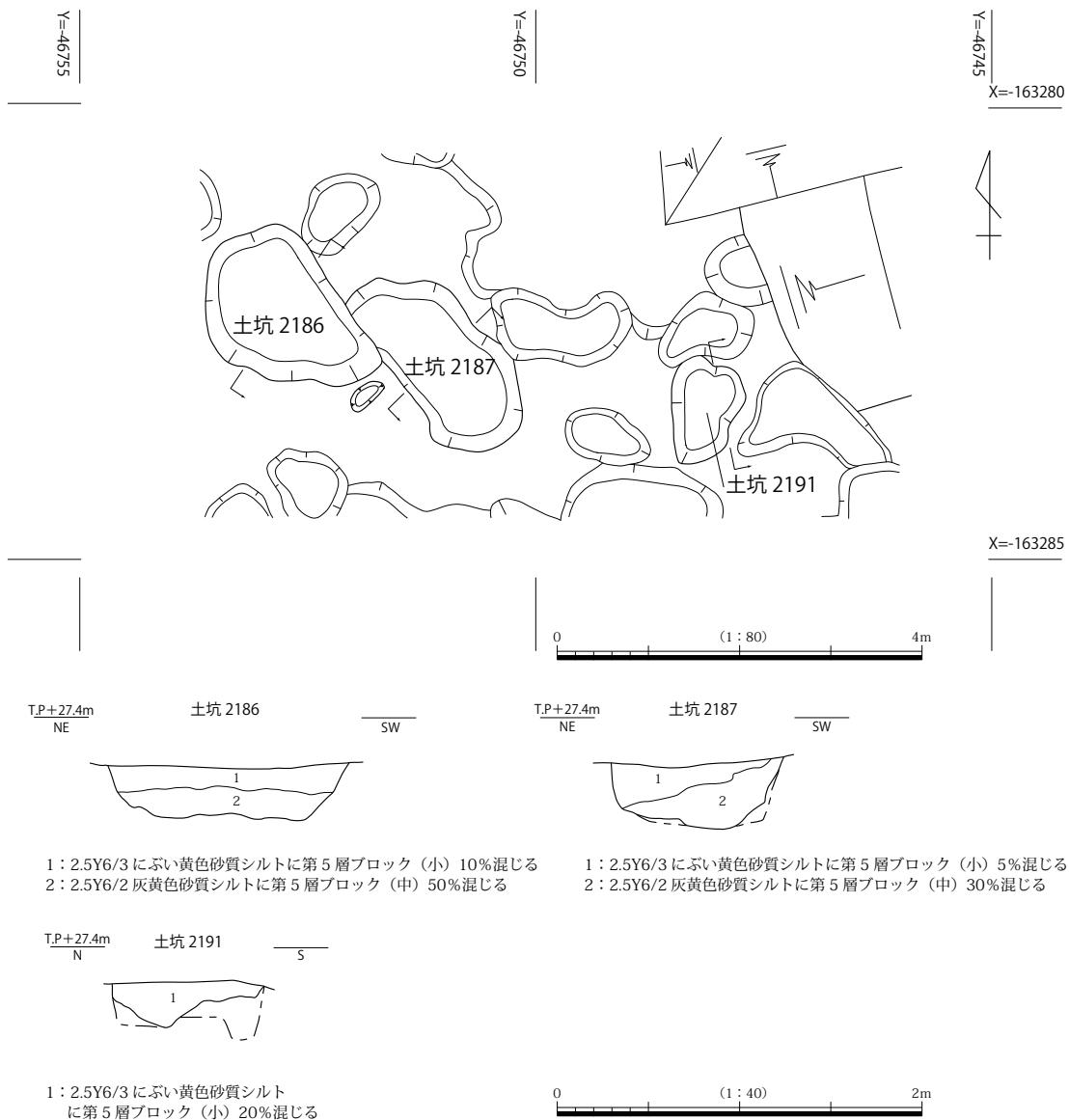


図31 第2調査区土坑2186および周辺平面・断面図

土坑2080（図29）長径58cm、短径45cm、検出面からの深さ31cmの楕円形土坑である。第5層ブロックを含む層からなる。瓦質羽釜が出土している（図35-124）

土坑2088・2090（図29）二つの土坑併せて長径160cm以上、短径147cm以上、検出面からの深さ40cmの不定形土坑である。2088は第5層ブロックをわずかに含む層からなる。2090も第5層ブロックを含む層からなるが、中央部に多くブロックが堆積する。土坑の上層より瓦質鍋が出土している（図35-132）。

土坑2097（図29）長径120cm以上、短径74cm、検出面からの深さ30cmの不定形土坑である。第5層ブロックを含む層からなる。やや粘土の割合は少ない。

土坑2050（図30）長径65cm、短径30cm、検出面からの深さ18cmの不定形土坑である。第5層ブロックを含む層からなる。瓦質摺鉢が出土している（図35-113）。

土坑2139（図30、図版12）長径135cm、短径75cm以上、検出面からの深さ45cmの楕円形土坑である。第5層ブロックを含む層からなるが、大きいブロックでその割合も高い。

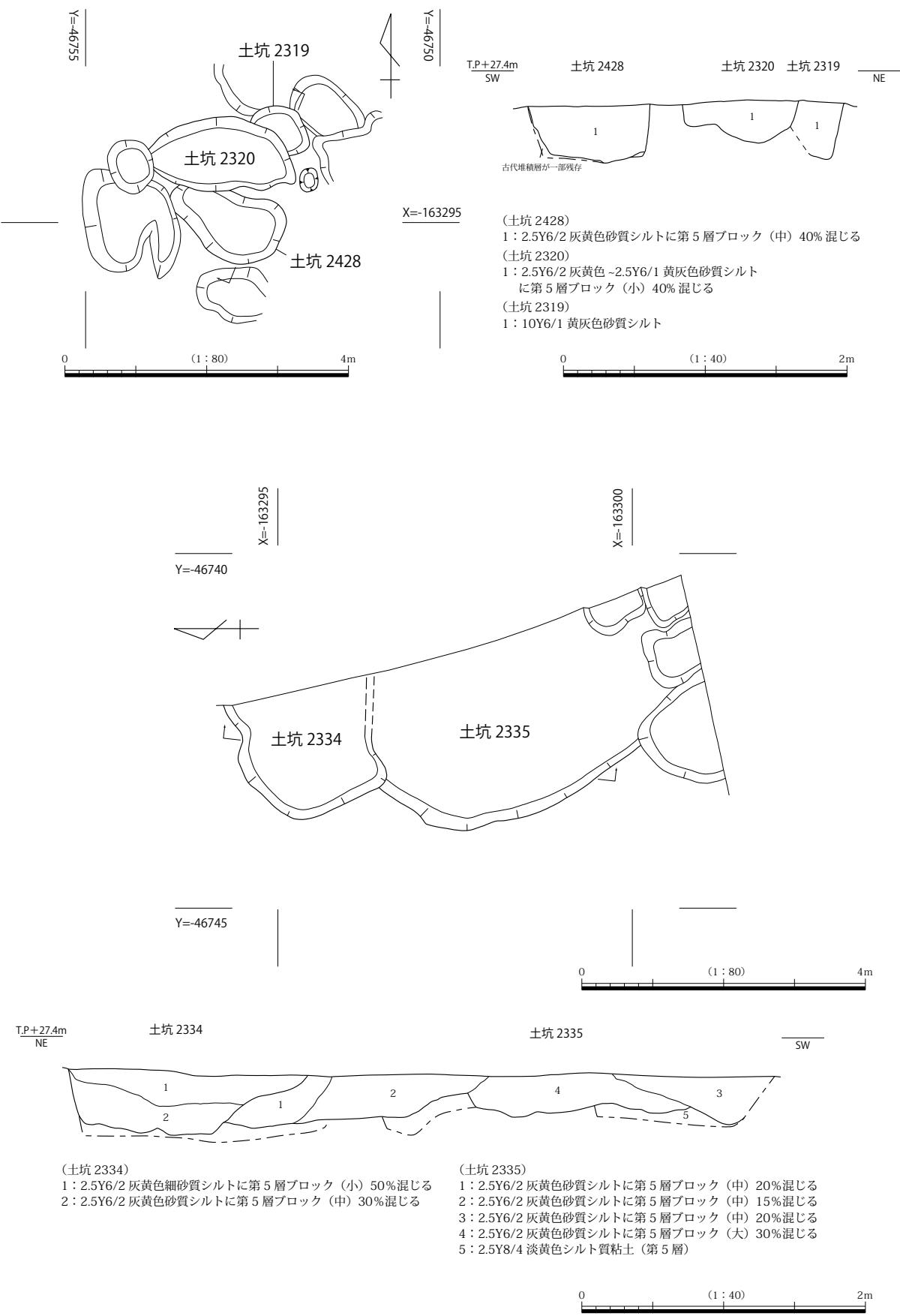


図32 第2調査区土坑 2320 および 2334 周辺平面・断面図

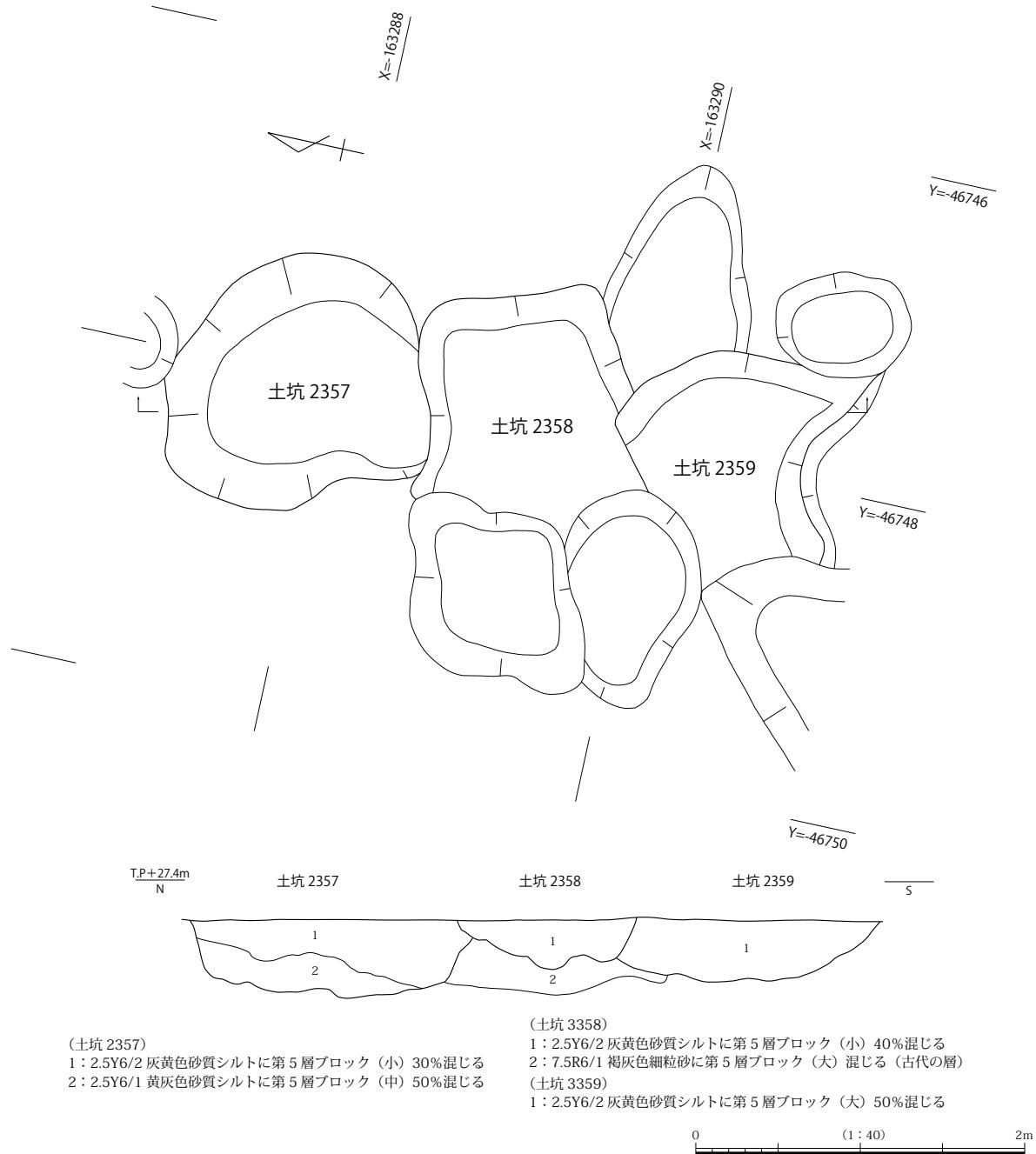


図33 第2調査区土坑 2357・2358・2359 平面・断面図

土坑 2186 (図31、図版12) 長径 203cm、短径 145cm、検出面からの深さ 29cmの不定形土坑である。2層の第5層ブロックを含む層からなり、下層はより多くのブロックを含む。瓦質摺鉢が出土したが(図35-118)、隣接する 2187 から出土した破片と接合した。

土坑 2187 (図31、図版12) 長径 233cm、短径 122cm、検出面からの深さ 36cmの不定形土坑である。2層の第5層ブロックを含む層からなり、2186 と同様下層により多くのブロックを含む。

土坑 2191 (図31) 長径 110cm、短径 79cm、深さ 24cmの不定形土坑である。第5層ブロックを含む層からなる。瓦質摺鉢が出土している(図35-120)。

土坑 2319・2320・2428 (図32) 2319 は長径 88cm、短径 40cm、検出面からの深さ 42cmの橢円形土

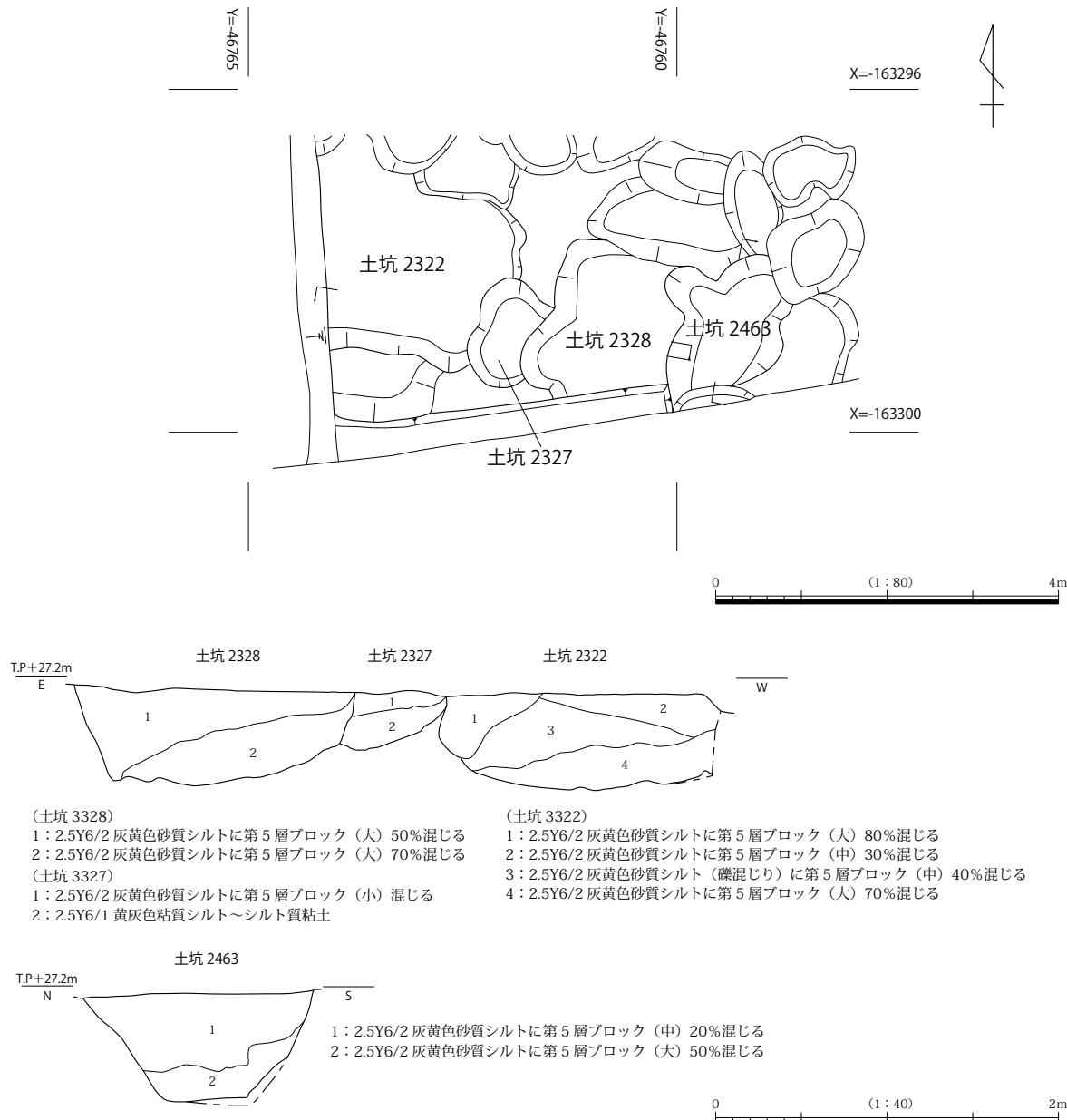


図 34 第2調査区土坑 2322 および周辺平面・断面図

坑である。第2層に由来する砂質シルト層からなる。2320は長径204cm、短径100cm、検出面からの深さ30cmの楕円形土坑である。第5層ブロックを含む層からなる。2428は長径166cm、短径97cm、検出面からの深さ40cmの不定形土坑である。第5層ブロックを含む層からなる。先述した通り下層にわずかに古代の層が残っており、土師器甕破片が出土している。

土坑 2334・2335（図32） 2334は長径200cm以上、深さ46cmの不定形土坑である。第5層ブロックを含む層からなる。2335は長径415cm、短径250cm以上、深さ32cmの楕円形土坑である。複数の第5層ブロックを含む層からなる。この二つの土坑の間の壁面より胎土分析用のサンプルを採取した。

土坑 2357・2358・2359（図33、図版12） 2357は長径162cm、短径160cm、検出面より深さ46cmの楕円形土坑である。第5層ブロックを含む層からなる。下層にはやや大きめのブロックが堆積する。瓦質摺鉢が出土している（図36-135）。2358は長径140cm以上、短径122cm、検出面より深さ30cm

第3節 第2調査区

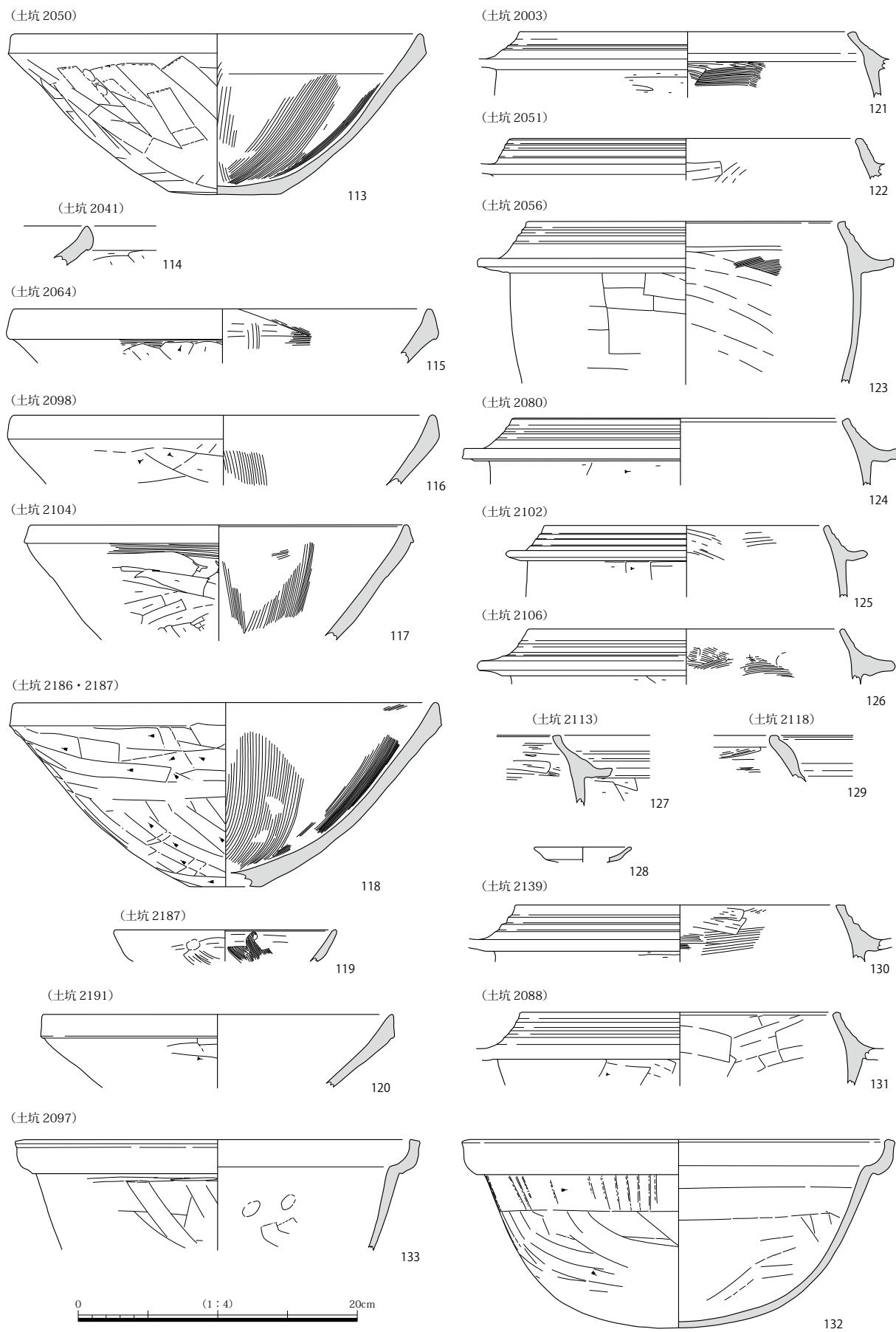


図35 第2調査区粘土採取土坑出土遺物実測図（1）

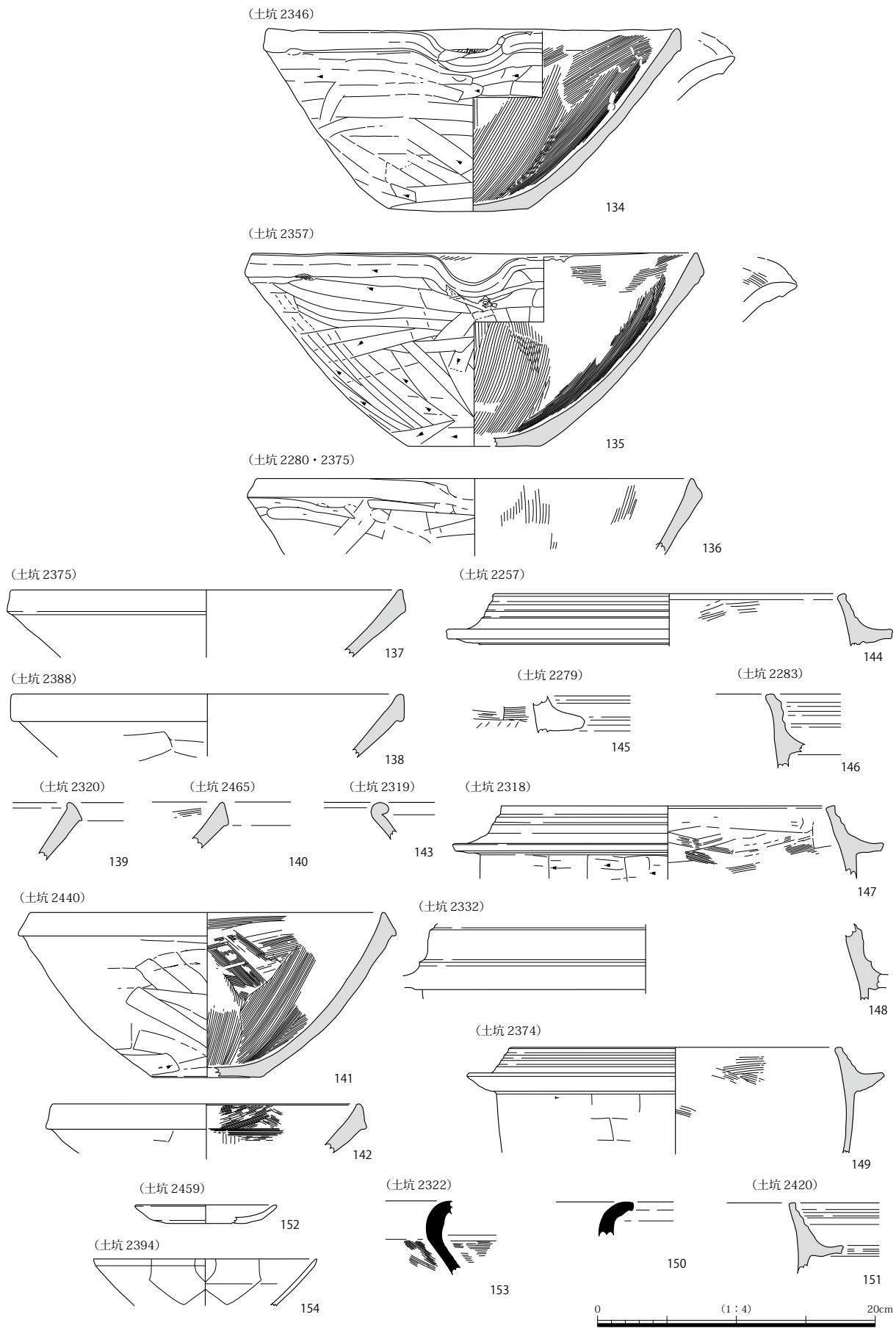


図 36 第2調査区粘土採取土坑出土遺物実測図(2)

の橢円形土坑である。第5層ブロックを含む層からなる。この土坑の下層には古代の層と考えられる細粒砂層が認められたが、遺物は確認できなかった。2359は長径150cm、短径150cm、検出面より深さ35cmの橢円形土坑である。第5層ブロックを比較的多く含む層からなる。

土坑2322・2327・2328(図34、図版12)2322は長径230cm以上、検出面からの深さ56cmの不定形土坑である。複数の第5層ブロックを含む層からなるが、いずれも比較的大きめのブロックで含まれる割合も多い。2327は長径124cm、短径59cm、検出面からの深さ33cmの不定形土坑である。下層は黄灰色の粘質シルト及びシルト質粘土で、上層にはわずかに第5層ブロックを含む。隣接する2322及び2328とは埋め土の様相が異なる。2328は長径180cm以上、短径163cm以上、検出面からの深さ57cmの不定形土坑である。2層の第5層ブロックを含む層からなるが、2322同様ブロックは大きくその割合も多い。

土坑2463(図34)長径167cm、短径159cm、検出面より深さ64cmの不定形土坑である。第5層ブロックを含む層からなる。この付近が最も粘土層が深くなる傾向がある。

その他の遺構として粘土採取土坑以外に井戸2001, 2175, 2176, 2470を検出したが、いずれも1層より堀込んだもので、近世以降の遺構であると考えられる。

遺構出土遺物(図35・36、図版27~30)

113は2050出土の瓦質摺鉢で口縁は断面三角形状を呈する。外面はケズリ、内面はナデ調整後、卸目を施す。114は2041出土の瓦質摺鉢。115は2064出土の瓦質摺鉢で口縁は断面三角形状を呈する。外面の口縁直下は横位のハケ調整であるが、全体としてはケズリとなる。116は2098出土の瓦質摺鉢。で口縁は断面三角形状を呈する。外面はケズリ、内面には卸目を施す。117は2104出土の瓦質摺鉢で口縁は断面三角形状を呈する。外面はケズリ、内面に卸目を施す。118は2186出土の瓦質摺鉢で隣接する2187出土の破片と接合した。口縁は断面三角形状を呈する。外面は口縁下は横位の、それ以下は縦位のケズリとなる。内面には卸目を施す。119は2187出土の瓦器椀で、口縁部にナデが巡る。120は2191出土の瓦質摺鉢で口縁は断面三角形状を呈するが、直下にナデが巡る。121は2003出土の瓦質羽釜で口縁が内傾し、端部は水平となる。外面には凹線が巡る。122は2051出土の瓦質羽釜で口縁が内傾し、端部は丸くなる。123は2056出土の瓦質羽釜で口縁は内傾し、端部は水平になる。口縁外面には凹線が巡り、胴部は横位のケズリとなる。内面はナデ調整である。124は2080出土の瓦質羽釜で口縁は内傾し、端部はわずかに内傾、凹線が巡る。125は2102出土の瓦質羽釜で口縁は内傾し凹線が巡る。126は2106出土の瓦質羽釜で口縁は内傾、凹線が巡る。内面はハケ調整を残す。127, 128は2113出土。127は瓦質羽釜である。128は瓦器皿。129は2118出土の瓦質羽釜で、口縁は内湾し、わずかに外折する。端部直下には沈線が巡る。胎土は須恵器に近い。130は2139出土の瓦質羽釜で口縁が内傾し、端部は水平、段を持つ。内面はハケ調整となる。131, 132は2088出土。131は瓦質羽釜で口縁が内傾し、端部はわずかに内傾、凹線が巡る。内面はナデ調整か。132は瓦質鍋で、外面の頸部は横位のケズリ、胴部~底部は斜め方向のケズリとなっている。内面はナデ調整である。133は2097出土の瓦質鍋。頸部より下はおおむね縦位のケズリとなっている。134は2346出土の瓦質摺鉢で口縁は断面三角形状を呈する。外面の口縁下は横位のケズリで体部に向かって縦位のケズリとなる。内面はハケ調整後、ナデ消し、卸目を施している。135は2357出土の瓦質摺鉢で口縁は断面三角形状を呈する。136は2280出土の瓦質摺鉢で2375出土破片と接合した。口縁は断面三角形状を呈し、外面はケズリ、内面は卸目を施す。137は2375出土の瓦質摺鉢で口縁は断面三角形状を呈する。138は2388出土の瓦質摺鉢で口縁下端がわずかに突出した器形となる。139は2320出土の瓦質摺鉢で口縁下端がわずかに突出した器形となる。140は2465出土の瓦質摺鉢で、口縁上端

つまみ上げられ、下端もわずかに突出した器形となる。141, 142は2440出土の瓦質摺鉢。口縁下端が突出した器形となる。外面はケズリで、内面はハケ調整後、卸目を施す。143は2319出土の瓦質羽釜。144は2257出土の瓦質羽釜で口縁が内傾し、端部は水平、段を持つ。145は2279出土の土師器羽釜の萼部である。146は2283出土の瓦質羽釜で口縁が内湾し、さらに端部でわずかに内折する。147は2318出土の瓦質羽釜で口縁が内傾し、端部は内傾し、外面に段を持つ。内面にハケ調整を残す。148は2332出土の瓦質羽釜。内傾する口縁で、外面の段は間隔が大きい。15世紀後半。149, 150は2374出土。149は瓦質羽釜で口縁が内傾し、端部は丸い。内面にハケ調整を残す。150は口縁部が外反する須恵器甕である。151は2420出土の瓦質羽釜で、口縁はわずかに内傾し、端部は水平となる。152は2459出土の土師器皿。内面にススが付着する。153は2322出土の須恵器甕である。口縁は外反し、端部でさらに折れ曲がる。頸部より下は叩きが施される。154は2394出土の白磁碗である。

第一調査区同様、瓦器椀、皿、土師器羽釜など14世紀以前のものも含まれるが、いずれも小片で、ほとんどは15世紀の所産である。その中でも土坑2361, 2362出土の土器や130, 144, 148は新しい様相を示す。

第4項 各層位出土遺物

第2a層出土遺物（図37、図版30）

155, 156は瓦質羽釜である。155は口縁が内傾し、端部は水平、段を持つ。内面はハケ調整である。156は口縁が内傾し、凹線が巡る。157, 158は瓦質摺鉢である。ともに口縁断面が三角形状を呈する。159は瓦質火鉢で、口縁部にスタンプ文を持つ。155の瓦質羽釜の特徴から15世紀後半が下限と考えられ、第1調査区の成果とも一致する。

第2b層出土遺物（図37、図版31）

160, 161は須恵器坏身である。古墳時代後期の所産である。162～168は瓦器椀である。162は口径が大きく、口縁部のナデによりやや外反する器形となる。163, 164は口縁部のナデによりわずかに外反する器形となる。内面には粗雑なヘラミガキが施される。165～168は底部で、低平な高台を持ち、内面は粗雑なヘラミガキが施される。169～171は瓦器皿である。いずれも底部より直線的に張り出す器形である。172～174は土師器羽釜である。いずれも口縁が内傾し、端部で外折する器形となる。175, 176は瓦質羽釜である。176は口縁は内湾し、外面には凹線が巡る。177は瓦質の土鍤である。

瓦器椀や土師器羽釜などの13世紀後半から14世紀前半の特徴をもつ遺物を多く含みつつも、176の瓦質羽釜の特徴から14世紀後半が下限と考えられる。

第2c層出土遺物（図37、図版30）

178は須恵器坏の蓋である。端部が折れ曲がる器形である。自然流路の西側、第5層上面で出土した。179は須恵器坏Aの底部である。これまでの調査成果を踏まえこの2点は、8世紀後半の所産と考えるのが妥当であろう。180は土師器皿である。181は瓦器皿で、内面はヘラミガキが施される。182は瓦器椀で、瓦器椀底部である。方形状の低平な高台を持つ。183, 184は土師器羽釜である。183は口縁が内湾し、端部で外折する器形となる。これらの遺物から第2c層は、奈良時代から第2b層形成以前の14世紀前半ごろまでに堆積した層と考えられる。

その他出土遺物（図37、図版31）

185は須恵器坏Bの底部である。8世紀後半の所産であろう。1層より出土した。186は小型の瓦質羽釜である。口縁部は内傾し、端面も内傾する。2層より出土した。187は厚手の瓦質土器である。焼

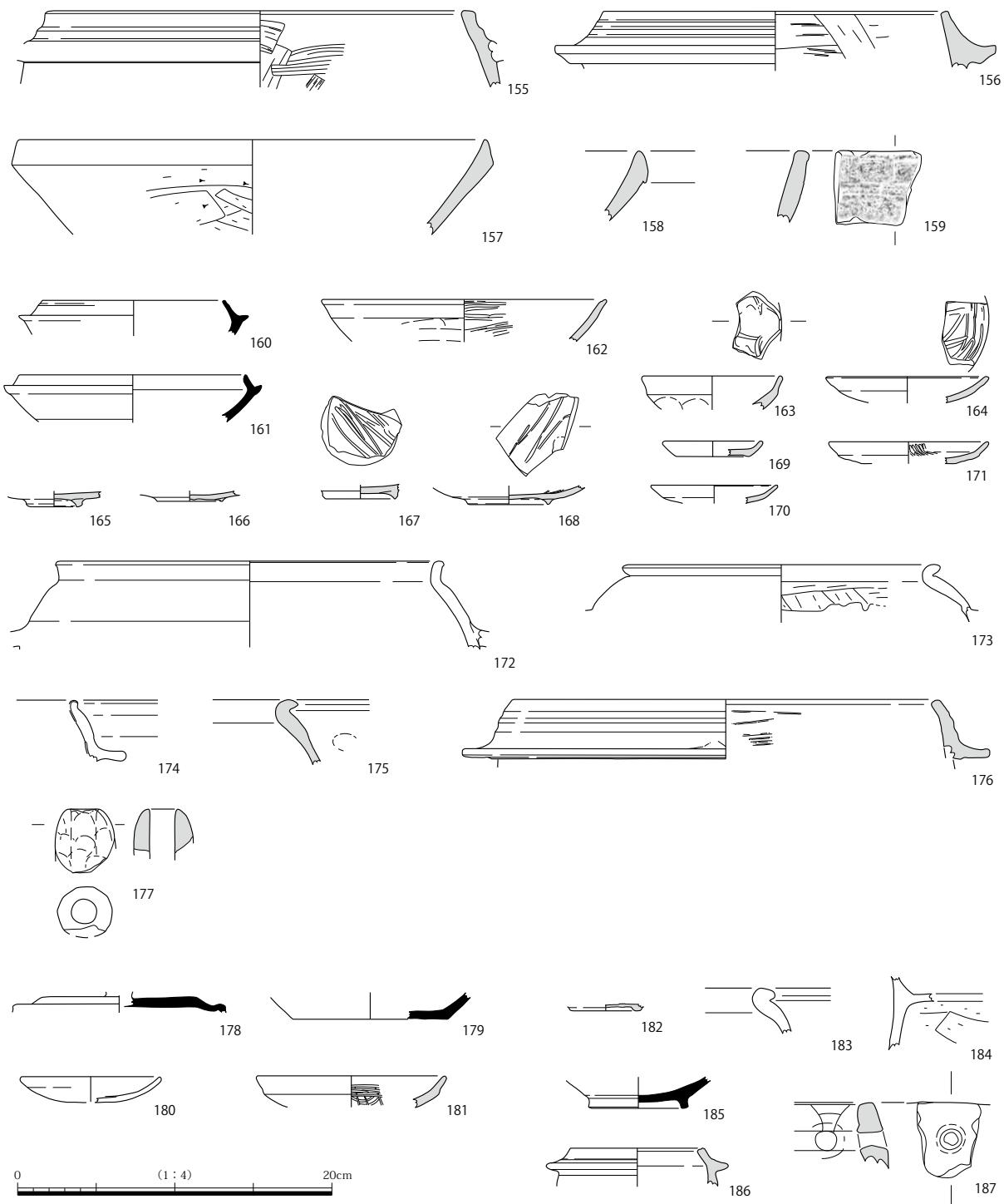


図37 第2調査区各層位出土遺物実測図

155～159：第2a層、160～177：第2b層、178～184：第2c層、185：第1層、186、187：第2層

成前に口縁下に穿孔されている。2層より出土した。

第4節 第3調査区

第1項 概要

調査区の大半は旧住宅棟の基礎により削平を受けていたため、ほとんど遺構を検出できなかったが、南西側にわずかに遺構が残っていた。調査区断面からT.P.+27.2m前後が遺構面となると考えられる(図38)。遺構面の基盤層となる第5層は第1、2調査区同様、上層では粘質土層となっており、検出した

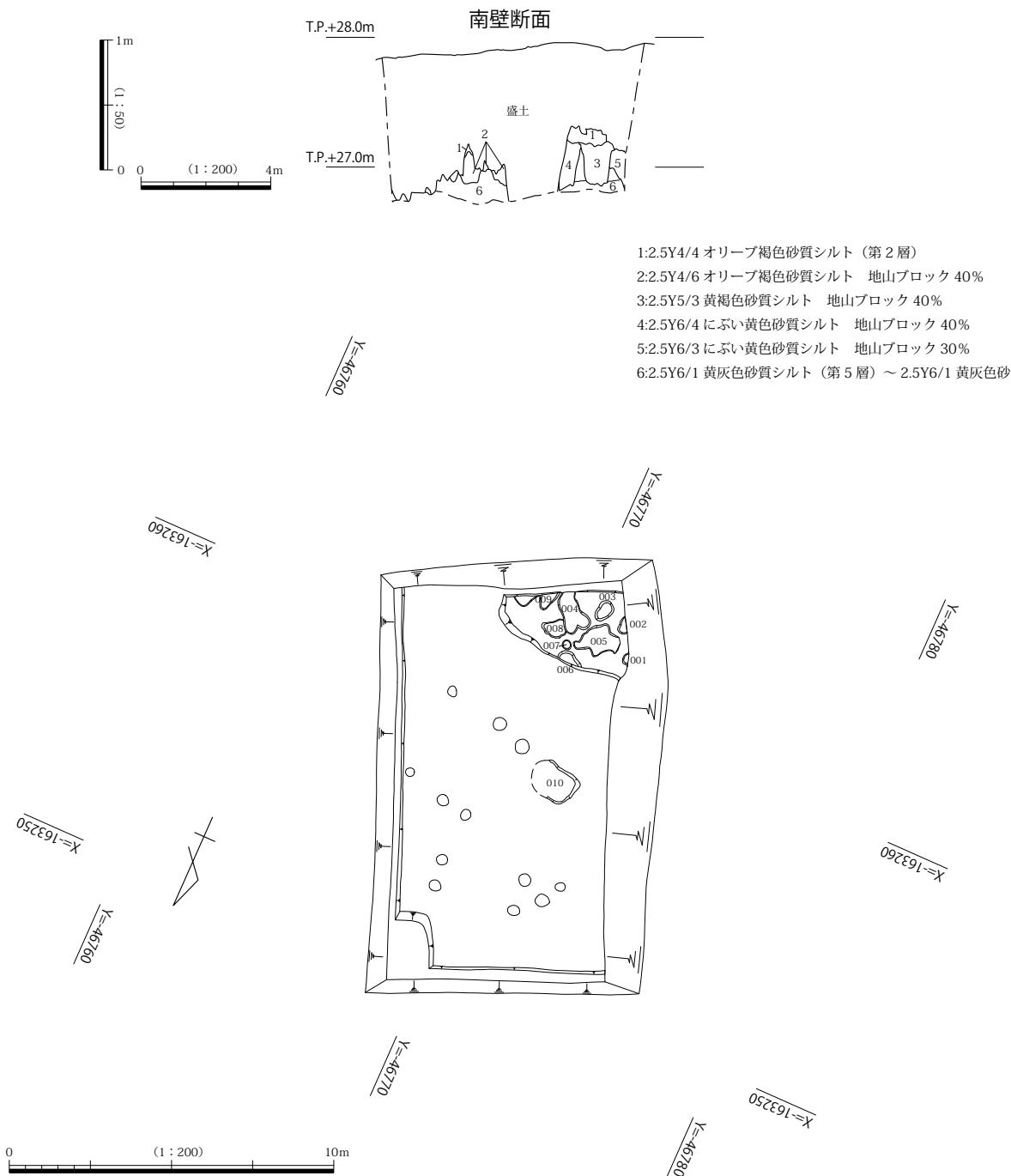


図38 第3調査区平面・土層断面図
(平面図遺構番号の上一桁は調査区番号のため省略)

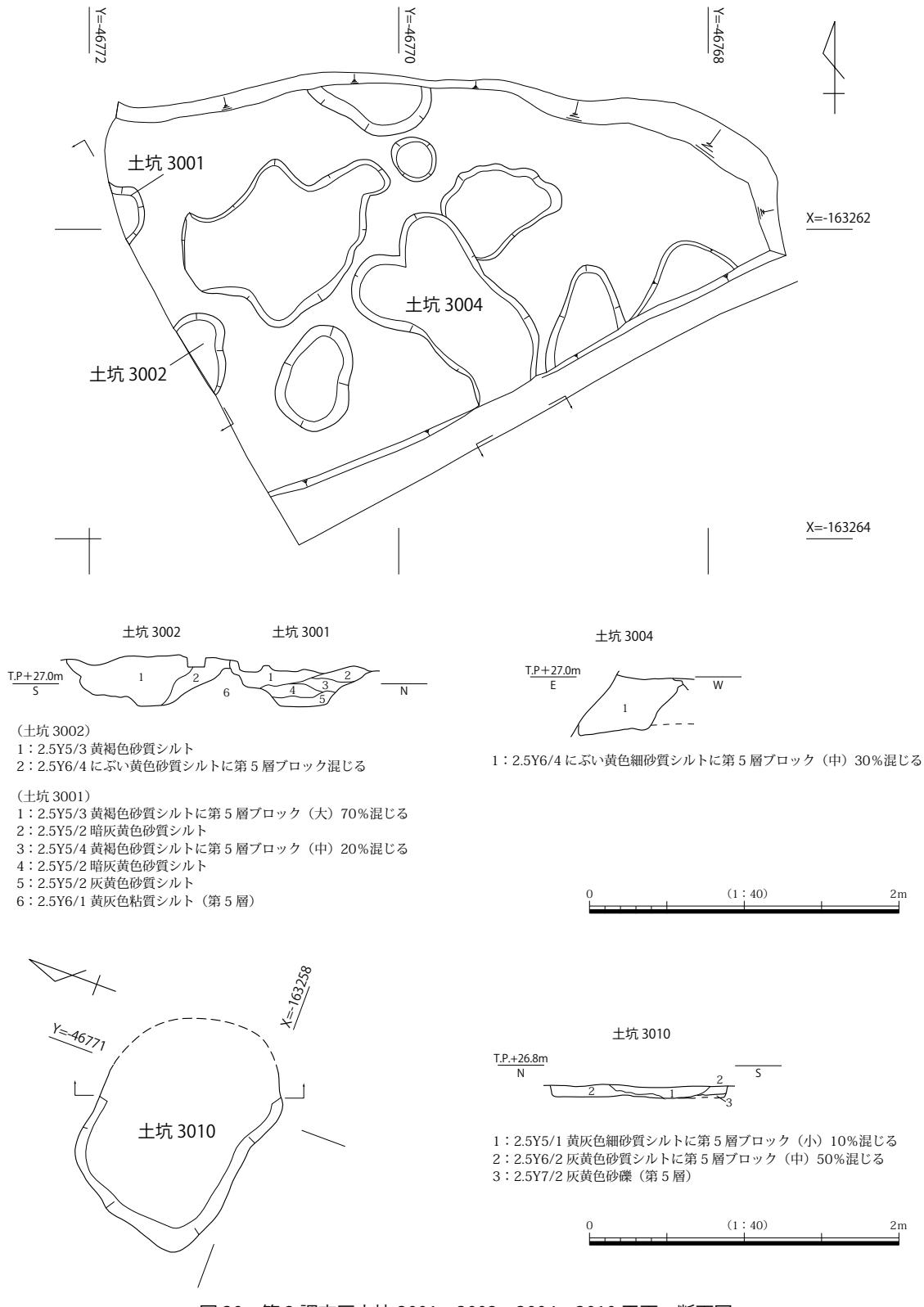


図39 第3調査区土坑 3001・3002・3004・3010 平面・断面図

遺構は中世の粘土採取土坑であった。しかしながら粘質土層は、第1調査区、第2調査区と比較すると黄灰色～灰黄色を呈し、やや砂の割合が多い。第5層下層の砂礫を多く含む層はT.P.+26.8m前後で堆積し、第2調査区の粘土採取土坑底面の最深部よりも浅くなっていることから、良質な粘土層が

北側に行くにつれて徐々に減少し、粘土採取土坑は少なくなっていくものと考えられる。

第2項 中世の遺構

第1・2調査区同様、本調査区でも第2節第3項で述べた方法に基づき検出し、記録を行った。

土坑3001(図39、図版13)短軸90cm、深さ22cmの不定形土坑である。上層は第5層ブロックを含む層、下層は2層由来の暗灰黄色砂質シルトからなる。

土坑3002(図39、図版13)短軸104cm、深さ32cmの不定形土坑である。一部に第5層ブロックを含むが、第2層由来の黄褐色砂質シルトが主体となる。

土坑3004(図39、図版13)長軸125cm、短軸52cm、深さ34cmの不定形土坑である。第5層ブロックを含む1層からなる。この土坑の西壁面より胎土分析用のサンプルを採取している。

土坑3010(図39、図版13)長軸100cm以上、短軸100cmの楕円形の土坑である。旧住宅棟の基礎により大部分が削平されており、かろうじて底部のみが残っていた。第5層ブロックを含む層からなり、瓦質土器片が出土したことから同様な粘土採取土坑と考えられる。

本調査区については遺構からは目立った遺物は出土しなかった。

第3項 各層出土遺物

188は瓦質摺鉢である。口縁部断面は三角形を呈するが、端部のナデはやや鈍い。外面はケズリが施され、内面は横位の刷毛調整である。189は瓦器皿である。口縁部が体部より直線的に張り出し、内面はミガキが施される。いずれも第2層より出土した。

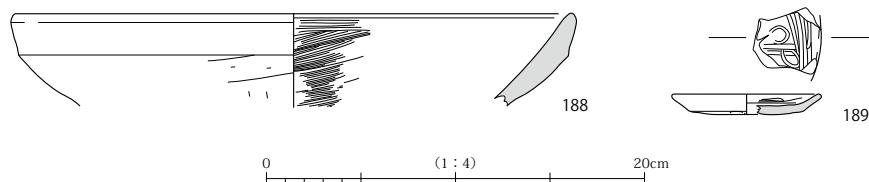


図40 第3調査区第2層出土遺物実測図

第5節 第4調査区

第1項 概要

住棟及びエレベータ棟が計画されている範囲に余掘り部分を加えた 1,313m²の調査区を設定した。

取り壊された旧住棟及び団地内の旧道路部分に当たるため、大部分は既に攪乱を受けており、遺構を検出できなかった。攪乱を逃れた部分については、現代の盛土直下に団地造営前から近世にかけての耕作土層（第1層）と中世の耕作土層（第2層）が展開し、それより下は砂質の基盤層（地山）であった。第1層の耕作面から掘り込まれたことが確実な枠板瓦積み井戸を1基と、上部が攪乱を受けて掘り込み面が不明の井戸2基を検出したが（図41、図版15）、いずれも底には到達できなかった。

第6節 第5調査区

第1項 概要

設備棟及び貯留槽が計画されている範囲に 592m²の調査区を設定した。一部は取り壊された住棟部分と重なるため攪乱を受けており、遺構を検出できなかった。第4調査区同様の堆積状況である。調査区東側の基盤層（地山）面で掘立柱建物（SB001）を1棟検出した（図42、図版18）。

第2項 掘立柱建物 SB001

SB001は、中世の耕作層（第2層）を除去した基盤層（地山）面で検出した（図43、図版18）。規模は短軸2間、長軸は3間以上であるが、建物の南西は攪乱により消滅し、また北西側は調査区外であるため長軸側の規模は確定し得ない。短軸の柱間は芯々で約2.1m、長軸の柱間は芯々で約1.8mをはかる。掘方は隅丸方形、一辺約0.6mで、深さは最大で0.5mである。ただし、上面は中世の耕作に伴って削平されていると考えられる。掘方の底面に柱痕跡と考えられる直径約15cmの円形の凹みが残存していたことから、柱は断面円形の丸太状と考えられる。柱は再利用のために抜き取られており、ほとんどが柱の南西側を外側から掘り、柱を倒したと考えられる。時期は後述の通り、掘方の埋土中及び柱の抜き取り後の埋土より、平城宮II～III期の土師器が出土していることから、奈良時代中ごろに建てられ、短期間のうちに機能を終えて解体されたと考えられる。なお、S2の柱の抜き取り埋土中から石鎚が1点出土しており、周囲で縄文時代の人々の活動があったことが推測できる。

第2項 出土遺物

掘立柱建物（SB001）の掘方及び抜き取り埋土中から土師器・須恵器、石鎚が検出されたほか、包含層中から土師器、須恵器、瓦質土器、瓦器、瓦が出土している。細片が多く図化できた資料は少ないが、すべての掘方埋土（柱抜き取り埋土を含む）より、土師器片は出土している。

掘立柱建物 SB001 出土遺物（図44、図版32）

N2の掘方埋土より190、192、194～195が、N3の掘方埋土から193が、S2の柱抜取埋土から191、196、197がそれぞれ出土している。

第3章 調査成果

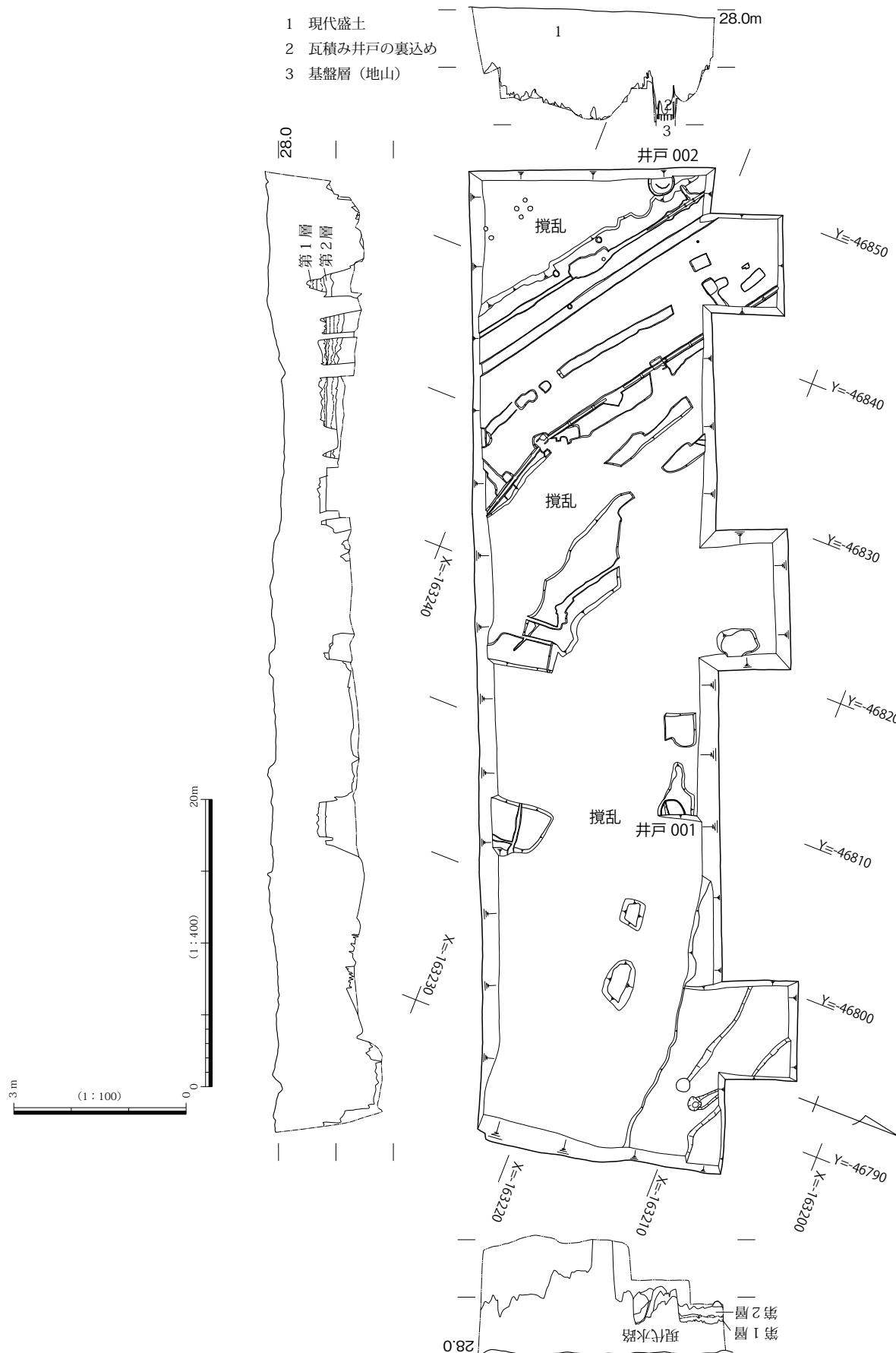


図41 第4調査区平面・断面図

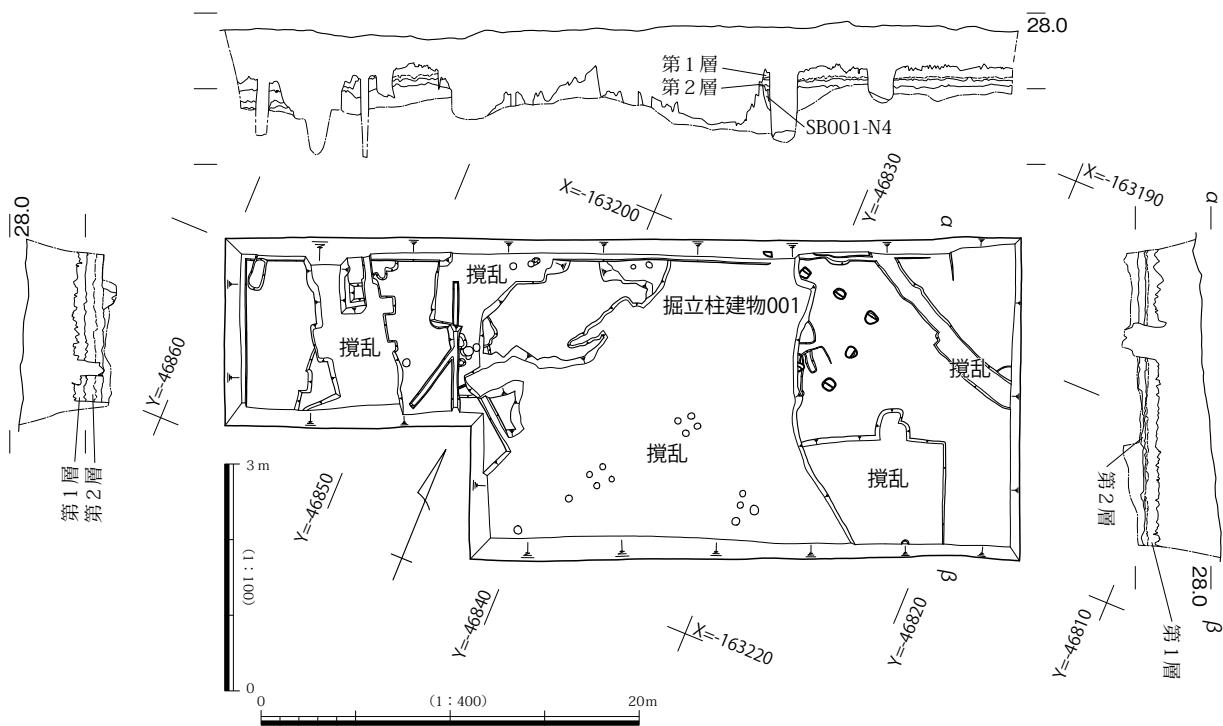


図42 第5調査区平面・断面図

190は土師器杯Aまたは杯Bと考えられる。全体に風化が進んでおり調整は判然としないが、内面に放射状暗文がみられ、その間隔は3～5mmである。191は土師器杯の口縁部で、端部に向かってやや外反させつつ、端部はやや上方につまみ上げて仕上げている。192は土師器杯の底部と考えられ、底面にケズリ痕がある。193は土師器杯の口縁部で、端部に向かって内彎させつつ、端部を内側に若干肥厚させて仕上げている。194は土師器甕の口縁部で、全体に風化しており調整は判然としないが、端部に向かって外反しつつ、端部を上方に若干つまみ上げている。また頸部の外面には長さ1cm、幅0.5cmほどの米粒形の凹みが連続しており、施文または製作上の痕跡と考えられる。195は土師器甕の体部で、全体に風化がしており調整は判然としない。196は須恵器杯の口縁部で、端部に向かってやや肥厚気味である。

197は無茎石鏃である。先端及び片側の闊は欠損している。全体的に押圧剥離による調整が施されている。

190～196はすべて細片ではあるものの、形態的特徴及び法量等から平城宮II～III期頃の所産と考えられる。また、掘方埋土より出土した石鏃の存在から、周囲には縄文時代の遺跡の存在が考えられる。
包含層出土遺物（図45・46、図版32・33）

全ての遺物は調査区割りに従って取り上げて登録しており、出土傾向を検討したところ、ほとんどの遺物は搅乱の及んでいない調査区西側で出土している。特に第4調査区では東側の大半が搅乱であったため、遺物の出土自体が希薄であった。そこで本文では第4・第5調査区は一括した上で、層位ごとに報告する。なお、出土地点は観察表に記載している。

第1層より198～203が出土している。198は巴文軒丸瓦、199は198に組み合う丸瓦の玉縁部分である。200は陶器の高台部分、201は不明土製品、202は鉄釘、203は不明石製品である。以上から第1層が近世以降に形成されたことは追認できる。

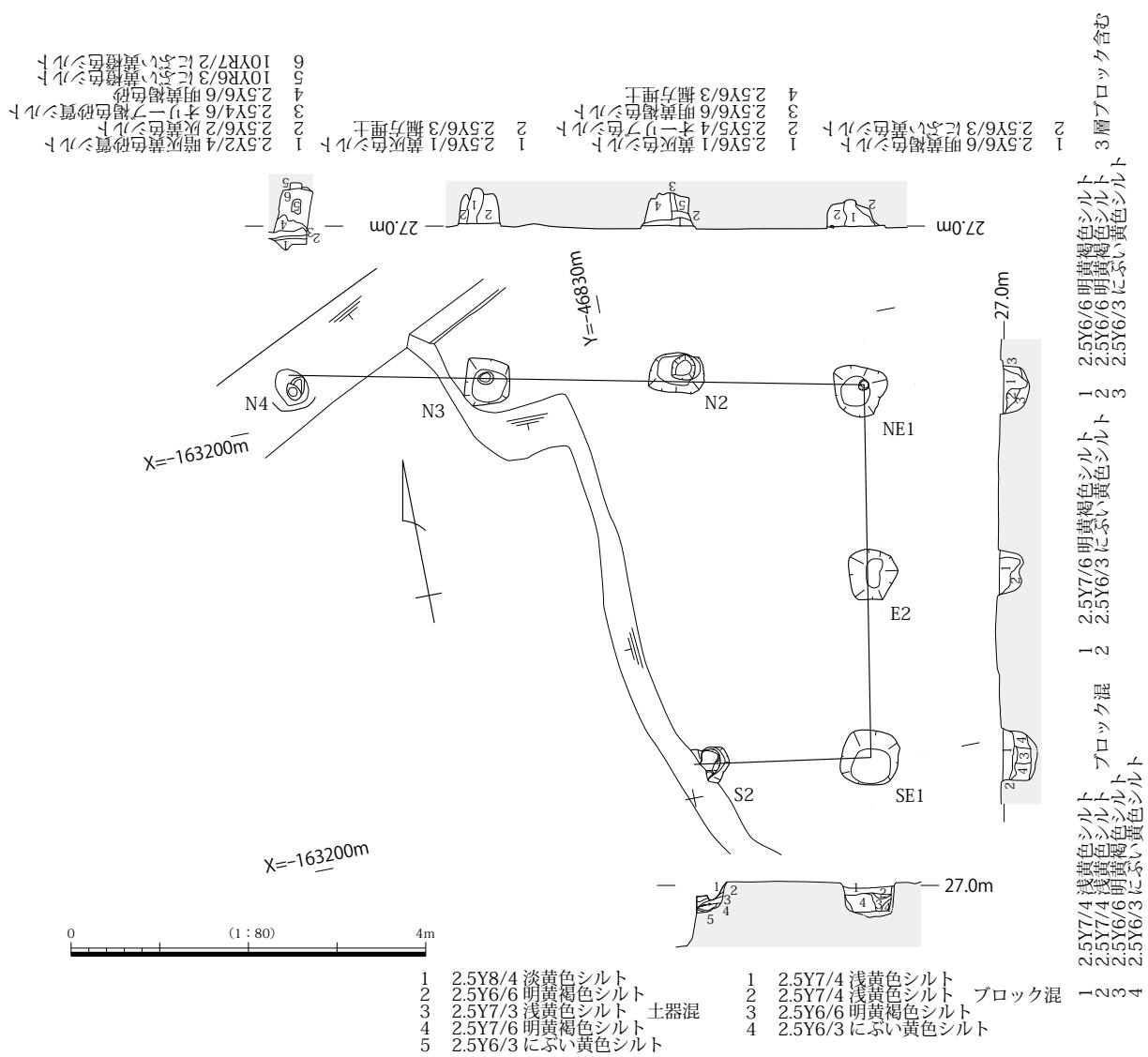


図43 第5調査区掘立柱建物 SB001 平面・断面図

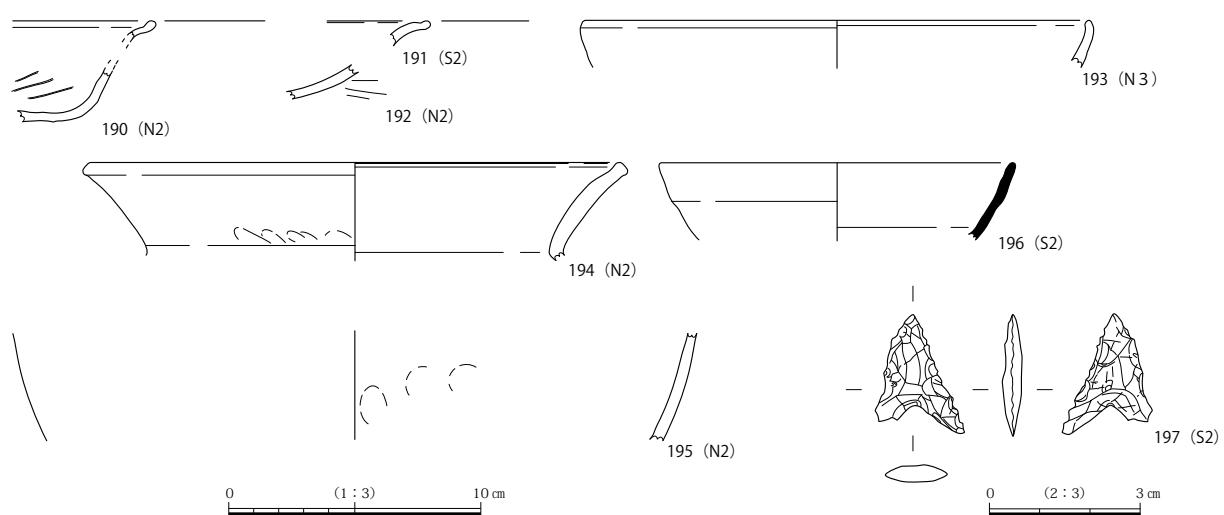


図44 第5調査区掘立柱建物 SB001 出土遺物実測図

第2層より206～239が出土している。206は須恵器すり鉢で東播系の可能性がある。207・208は瓦質すり鉢、209・210は瓦器椀、211・212は瓦器皿、213・214は土師器皿、215は瓦質の羽釜、216は土師器羽釜である。いずれも小片のため時期を決定するに至らないが、中世の所産である。

217は須恵器杯G蓋、218・219はそれに組み合う可能性のある須恵器杯、220～225は径のやや大きな高台付の須恵器杯B、226は須恵器平瓶の肩部、227は須恵器壺類の口縁部、228～232は須恵器壺類、233・234は須恵器鉢と考えられる。235は土師器高杯で、脚部には面取がある。237は土師器杯Bで見込み部の外側に放射状暗文と考えられる痕跡が残り、その間隔は3～5mmである。238・239は土師器甕で、238は端部に向かって外反させつつ端部は上方にやや肥厚させる。239は端部の外面側に若干肥厚させる。

以上から、第2層は奈良時代～中世にかけて形成されたものと考えられる。特に、掘立柱建物SB001出土土器と時期に近い土器が多い傾向にあることから、周辺には奈良時代の遺構が展開していた可能性がある。

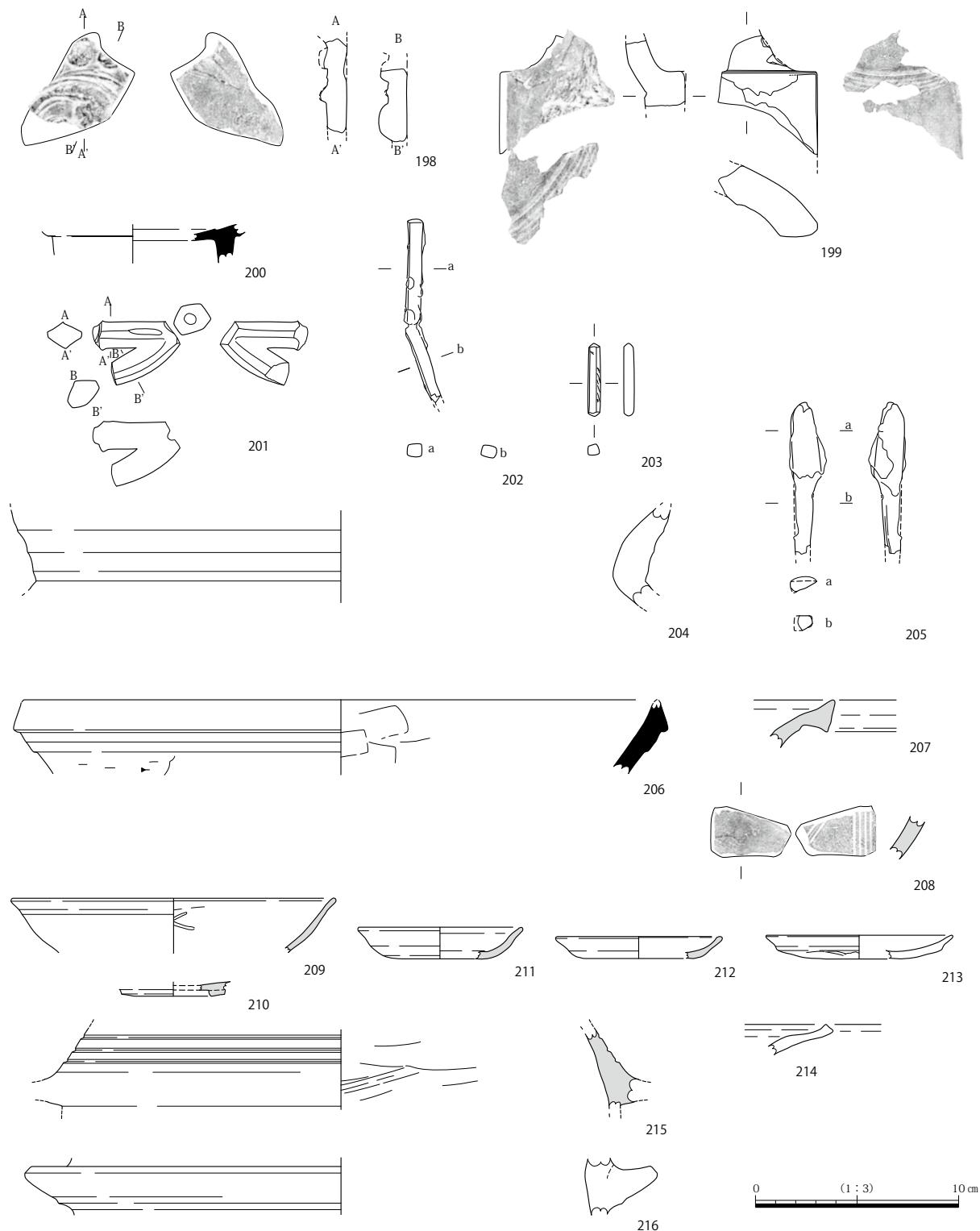


図45 第4・5調査区第1・2層出土遺物実測図(中世以降)

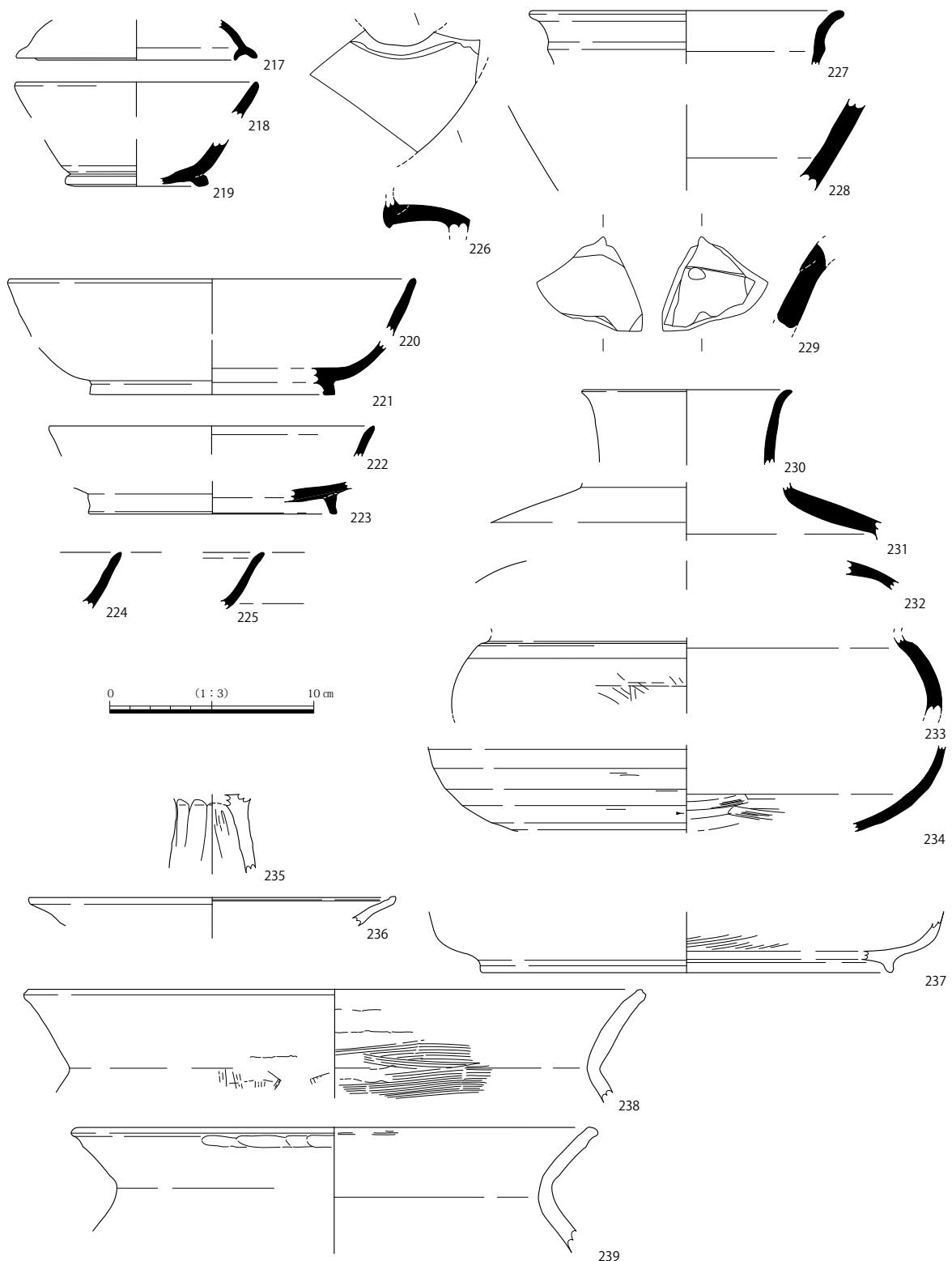


図46 第4・5調査区第2層出土遺物実測図(古代)

第4章 自然科学分析

はじめに

本章では、調査区内で検出された自然流路の埋積層中に包含されていた炭化材の年代測定を行うことにより、流路の埋積年代に関わる情報を獲得し、宮園遺跡の変遷に係る資料を作成する。一方、調査区内からは、粘土の採掘を目的としたと考えられている土坑が多数検出されており、土器の原材料の採取地であった可能性があると考えられている。ここでは、検出された土坑壁の粘土と出土した土器の材質(胎土)とを比較することにより、土器の原材料としての可能性を検討する。

第1節 放射性炭素年代測定

第1項 分析試料

試料は、自然流路 2002 の 1 層（第 3 層相当）から出土した炭化材片 1 点である。炭化材は、組織観察からマツに同定された。

第2項 分析方法

炭化材は、形状を観察し、小さなものは全量、大きなものは最外年輪付近から約 50mg の年代測定用試料を切り出す。切り出した植物片から、メス・ピンセットなどにより、根や土壤など後代の付着物を、物理的に除去する。

次に塩酸 (HCl) により炭酸塩等酸可溶成分を除去、水酸化ナトリウム (NaOH) により腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、塩酸によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する（酸・アルカリ・酸処理 AAA:Acid Alkali Acid）。濃度は塩酸、水酸化ナトリウム共に 1mol/L であるが、試料が脆弱な場合や少ない場合は、アルカリの濃度を調整して試料の損耗を防ぐ (AaA と記載)。試料がさらに少ない場合、アルカリ処理を行うと測定に必要な炭素が得られなくなるため、1mol/L の塩酸処理のみにとどめている (HCl と記載)。

試料の燃焼、二酸化炭素の精製、グラファイト化（鉄を触媒とし水素で還元する）は Elementar 社の vario ISOTOPE cube と Ionplus 社の AGE3 を連結した自動化装置を用いる。処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を NEC 社製のハンドプレス機を用いて内径 1mm の孔にプレスし、測定試料とする。

測定はタンデム加速器をベースとした ^{14}C -AMS 専用装置 (NEC 社製) を用いて、 ^{14}C の計数、 ^{13}C 濃度 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$)、 ^{14}C 濃度 ($^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$) を測定する。AMS 測定時に、米国国立標準局 (NIST) から提供される標準試料 (HOX-II)、国際原子力機関から提供される標準試料 (IAEA-C6 等)、バックグラウンド試料 (IAEA-C1) の測定も行う。

$\delta^{13}\text{C}$ は試料炭素の ^{13}C 濃度 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (‰) で表したものである。放射性炭素の半減期は LIBBY の半減期 5568 年を使用する。また、測定年代は 1950 年を基点とした年代 (BP) であり、誤差は標準偏差 (One Sigma; 68%) に相当する年代である。測定年代の表示方法は、国際学会での勧告に従う (Stuiver & Polach, 1977)。また、曆年較正用に一桁目まで表した値も記す。曆年較正は、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、その後訂正された半減期 (^{14}C の半減期 5730 ± 40 年) を較正することによって、曆年代に近づける手法である。曆年較正に用いるソフトウェアは、Oxcal4.4(Bronk, 2009) である。較正曲線は Intcal20 (Reimer et al., 2020) を用いる。

第3項 分析結果および考察

結果を表2に示す。今回は加速器質量分析計による年代測定に必要な炭素量は十分回収できている。同位体補正を行った試料の年代値は、 1285 ± 20 BPである。表2および図47には暦年較正値も示す。試料の測定誤差 2σ の暦年代は、7世紀後半から8世紀後半までである。

これまでの発掘調査成果からは、古代における周辺での活動は中世に比べるとやや低調であったとされているが、その時期の炭化材が確認されたことにより、周辺における人間活動は中世以前から継続していたことが推定される。

表2 放射性炭素年代測定結果

自然流路 2002 (第3層相当)	炭化材 (マツ)	AaA (0.0001M)	1285 ± 20 (1286 ± 20)	-26.85 ± 0.35	σ	cal AD 676 – AD706 cal AD 737 – AD772	1274 – 1245 cal BP 1214 – 1179 cal BP	32.8 35.4	YU- 14464	pal- 13692
-------------------------	-------------	------------------	------------------------------------	----------------------	----------	--	--	--------------	--------------	---------------

1) 年代値の算出には、Libby の半減期 5568 年を使用。

2) BP 年代値は、1950 年を基点として何年前であるかを示す。

3) 付記した誤差は、測定誤差 σ （測定値の 68.2% が入る範囲）を年代値に換算した値。

4) AAA は、酸・アルカリ・酸処理を示す。AaA は試料が脆弱なため、アルカリの濃度を薄くして処理したことを示す。HCl は塩酸処理のみを示す。

5) 暗年の計算には、Oxcal v4.4 を使用

6) 暗年の計算には、補正年代に () で暦年較正用年代として示した、一桁目を丸める前の値を使用している。

7) 1 桁目を丸めるのが慣例だが、較正曲線や較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1 桁目を丸めていない。

8) 統計的に真の値が入る確率は、 σ が 68.2%、 2σ が 95.4% である

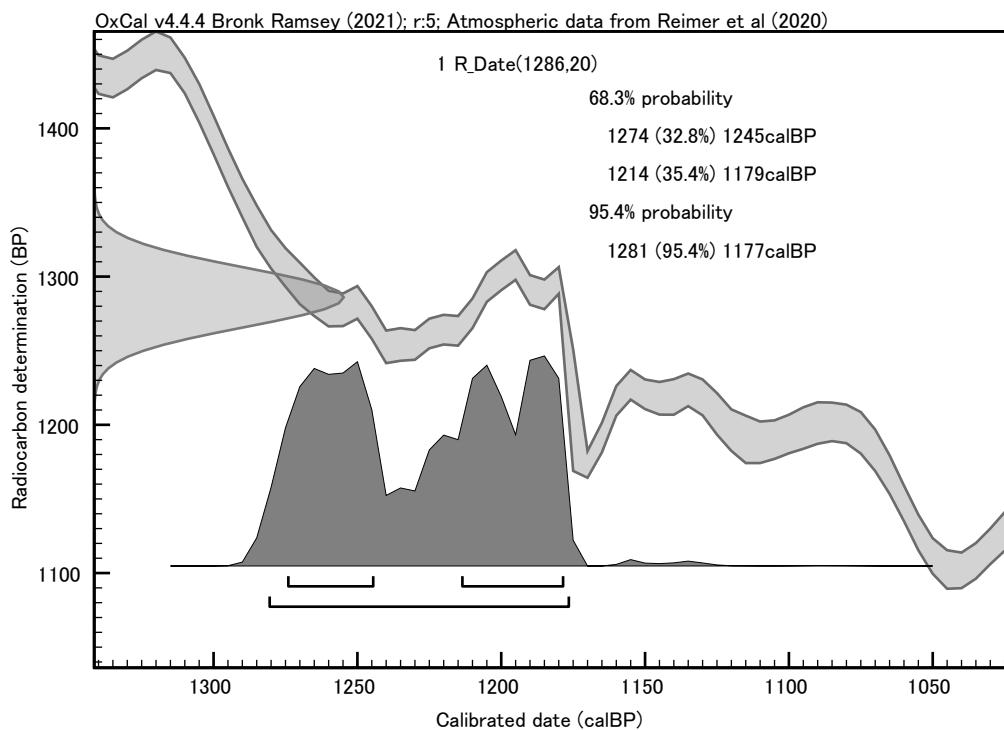


図47 較正年代結果

第2節 土器胎土分析

第1項 分析試料

試料は、宮園遺跡の土坑壁から採取された灰色のシルト質粘土3点と宮園遺跡から出土した土器片3点の合計6点である。ここでは便宜的に3点のシルト質粘土を堆積物1、堆積物2、堆積物3とし、3点の土器片を土器1、土器2、土器3とする。土器試料のうち、土器1は瓦質土器、土器2は瓦質羽釜、土器3は土師器甕である。

堆積物試料および土器試料の詳細は、表3に一覧として示す。

第2項 分析方法

胎土分析には、現在様々な分析方法が用いられているが、大きく分けて鉱物組成や岩片組成を求める方法と化学組成を求める方法がある。前者は切片による薄片作製が主に用いられており、後者では蛍光X線分析が最もよく用いられている方法である。前者の方法は、胎土の特徴が捉えやすいこと、地質との関連性を考えやすいたことなどの利点があり、胎土中における砂粒の量や、その粒径組成、砂を構成する鉱物片、岩石片および微化石の種類なども捉えることが可能であり、得られる情報が多い。ただし、胎土中に含まれる砂粒の量自体が少なければ、その情報量も少なくなる。一方、蛍光X線分析は、砂分の量や高温による鉱物の変化にあまり影響されることなく、胎土の材質を客観的な数値で示すことができる。今回の分析では、薄片作製観察と蛍光X線分析を併用して、粘土と土器との比較を試みる。以下に各分析方法を述べる。

(1) 薄片作製観察

薄片は、試料の一部をダイヤモンドカッターで切断、正確に0.03mmの厚さに研磨して作製した。観察は偏光顕微鏡による岩石学的な手法を用い、胎土中に含まれる鉱物片、岩石片および微化石の種類構成を明らかにした。

ここでは薄片観察結果を松田ほか(1999)の方法に従って表記する。これは、胎土中の砂粒について、中粒シルトから細礫までを対象とし、粒度階ごとに砂粒を構成する鉱物片および岩石片の種類構成を調べたものである。この方法では、胎土中における砂の含量や粒径組成により、土器の製作技法の違いを見出すことができるため、同一の地質分布範囲内にある近接した遺跡間での土器製作事情の解析も可能である。以下にその手順を述べる。

砂粒の計数は、メカニカルステージを用いて0.5mm間隔で移動させ、細礫～中粒シルトまでの粒子をポイント法により200個あるいはプレパラート全面で行った。なお、径0.5mm以上の粗粒砂以上の粒子については、ポイント数ではなく粒数を計数した。また、同時に孔隙と基質のポイントも計数した。これらの結果から、各粒度階における鉱物・岩石別出現頻度の3次元棒グラフ、砂粒の粒径組成ヒストグラム、孔隙・砂粒・基質の割合を示す棒グラフを呈示する。

(2) 蛍光X線分析

リガク製波長分散型蛍光X線分析装置(ZSX Primus III+)を用い、ガラスピード法により分析を実施した。測定用のプログラムは、定量アプリケーションプログラムのFP定量法を使用し、 SiO_2 、 TiO_2 、 Al_2O_3 、 Fe_2O_3 、 MnO 、 MgO 、 CaO 、 Na_2O 、 K_2O 、 P_2O_5 の主要10元素およびRb、Sr、Y、Zr、Baの

表3 分析試料一覧

試料名	調査区	地区名	遺構	備考	種別
堆積物1	2	B3	土坑2003側壁	図28	灰色シルト質粘土
堆積物2	2	A11	土坑2334、2335側壁	図32	
堆積物3	3	A2	土坑3004側壁(南壁)	図39	
土器1	1	3	土坑1019	図17-9	瓦質摺鉢
土器2	2	B.C10	土坑2361	図27-111	瓦質羽釜
土器3	2	A1	土坑2007	図25-103	土師器甕

微量5元素について定量分析を実施した。なお、標準試料には独立行政法人産業技術総合研究所の地球化学標準試料 (JA-1, JA-2, JA-3, JB-1a, JB-2, JB-3, JCh-1, JF-1, JF-2, JG-1a, JG-2, JG-3, JGb-1, JGb-2, JH-1, JLk-1, JR-1, JR-2, JR-3, JSd-1, JSd-2, JSd-3, JSI-1, JSI-2, JSy-1) を用いた。

1) 装置

(株)リガク製走査型蛍光X線分析装置 ZSX Primus III +(FP 定量法アプリケーション)

2) 試料作製

機械乾燥(110°C)した試料を、振動ミル(平工製作所製 TI100; 10ml容タンクステンカーバイト容器)で粉碎・混合し、ガラスピードを表4の条件で作製した。

表4 ガラスピード作製条件

溶融装置	リガク製卓上型高周波ビードサンプラー (3091A001)
融剤及び希釈率	融剤 (Li2B4O7) 5.000g: 試料 0.500g
剥離剤	Lil
溶融温度, 時間	1200°C, 600sec

表5 蛍光X線装置条件

ターゲット	Rh
管電圧 (kV)	50
管電流 (mA)	50
試料マスク	30mm φ
試料スピンドル	ON
ダイアフラム	30mm φ
測定雰囲気	真空

3) 測定条件

上記作成したガラスピードを専用ホルダーにセットし、走査型蛍光X線分析装置((株)リガク製ZSX Primus III +)を用い、表5、表6の条件で測定を実施した。

表6 蛍光X線定量測定条件

測定元素	測定スペクト	1次フィルタ	アッテネータ	スリット	分光結晶	検出器	PHA		角度(deg)			計測時間(s)	
							LL	UL	Peak	+BG	-BG	Peak	BG
SiO ₂	Si-K α	OUT	OUT	S4	PET	PC	120	300	109.030	105.00	113.00	40	20
TiO ₂	Ti-K α	OUT	OUT	S2	LIF(200)	SC	80	340	86.140	84.50	88.50	60	20
Al ₂ O ₃	Al-K α	OUT	OUT	S4	PET	PC	110	300	144.770	138.00	-	40	20
Fe ₂ O ₃	Fe-K α	OUT	OUT	S2	LIF(200)	SC	90	320	57.494	55.50	60.00	40	20
MnO	Mn-K α	OUT	OUT	S2	LIF(200)	SC	90	20	62.966	62.00	63.68	60	20
MgO	Mg-K α	OUT	OUT	S4	RX25	PC	110	420	39.596	37.00-37.50 (0.10step)	41.50-42.50 (0.20step)	60	20
CaO	Ca-K α	OUT	OUT	S4	LIF(200)	PC	120	290	113.124	110.20	115.90	40	20
Na ₂ O	Na-K α	OUT	OUT	S4	RX25	PC	120	300	48.134	45.90	50.30	60	20
K ₂ O	K-K α	OUT	OUT	S4	LIF(200)	PC	120	280	136.674	-	142.00	40	20
P ₂ O ₅	P-K α	OUT	OUT	S4	GE	PC	150	270	141.096	138.10	143.20	60	20
Rb	Rb-K α	OUT	OUT	S2	LIF(200)	SC	100	300	26.598	25.60-25.80 (0.10step)	27.06-27.14 (0.04step)	120	40
Sr	Sr-K α	OUT	OUT	S2	LIF(200)	SC	100	300	25.134	24.40-24.70 (0.10step)	25.60-25.80 (0.10step)	120	40
Y	Y-K α	OUT	OUT	S2	LIF(200)	SC	100	300	23.758	23.04-23.16 (0.06step)	24.30-24.50 (0.10step)	120	40
Zr	Zr-K α	OUT	OUT	S2	LIF(200)	SC	100	310	22.536	22.16	23.04	120	60
Ba	Ba-L α	OUT	OUT	S2	LIF(200)	SC	100	290	87.164	84.50	88.50	120	60

第3項 分析結果

(1) 薄片作製観察

結果を表7、図48～50に示す。以下に堆積物と土器に分けて鉱物・岩石組成、粒径組成、碎屑物の割合の順に述べる。

1) 堆積物

a) 鉱物・岩石組成

3点の試料ともに碎屑物の主体は石英の鉱物片であり、これに少量の多結晶石英からなる岩石片が伴われるという組成である。他に、鉱物片としては微量のカリ長石や斜長石が認められ、岩石片では堆積岩のチャートや火砕岩の凝灰岩、火山岩の流紋岩・デイサイトおよび深成岩の花崗岩類などが微量～極めて微量認められる。

表 7-1 薄片観察結果(1)

試料	砂粒区分	砂粒の種類構成													合計		
		鉱物片							岩石片						その他		
		石英	カリ長石	斜長石	单斜輝石	角閃石	白雲母	黒雲母	ジルコン	チャート	凝灰岩	流紋岩・デイサイト	安山岩	多結晶石英	花崗岩類	変質岩	火山ガラス
堆積物1	砂	細礫												1			1
		極粗粒砂	1							2			2	1			6
		粗粒砂	4	2				1			1	2	1	9	1		21
		中粒砂	15	2								1		6			24
		細粒砂	21	1	2			1						2			27
		極細粒砂	19	1	1			1						5			27
		粗粒シルト	9	1													10
		中粒シルト	3														3
	基質														1291		
		孔隙													20		
		備考 基質は珪長質鉱物、セリサイト、雲母鉱物などで埋められる。火山ガラスはバブル型を示す。局所的に水酸化鉄が濃集する。ジルコンあり。															
堆積物2	砂	細礫											1	1			2
		極粗粒砂	1	1							2		5	1			10
		粗粒砂	18	2	1								15	1			37
		中粒砂	13		1						1		7				22
		細粒砂	29	2			1						9		1		42
		極細粒砂	23	2	4	1							5	1	1		37
		粗粒シルト	9	1	2												12
		中粒シルト	2														2
	基質														1308		
		孔隙													59		
		備考 基質は珪長質鉱物、セリサイト、雲母鉱物などで埋められる。植物珪酸体あり。無色透光性を示すバブル型火山ガラスあり。局所的に水酸化鉄が濃集する。															
堆積物3	砂	細礫															0
		極粗粒砂											1				1
		粗粒砂	3										2				5
		中粒砂	4	1	1								3				9
		細粒砂	12		1								3				16
		極細粒砂	9														9
		粗粒シルト	2		1												3
		中粒シルト															0
	基質														727		
		孔隙													16		
		備考 基質は珪長質鉱物、セリサイト、雲母鉱物などで埋められる。ジルコン、植物珪酸体あり。局所的に水酸化鉄が濃集する。															

表7-2 薄片観察結果(2)

試料	砂粒区分	砂粒の種類構成														合計	
		鉱物片							岩石片								
		石英	カリ長石	斜長石	单斜輝石	角閃石	白雲母	黒雲母	ジルコン	チャート	凝灰岩	流紋岩・デイサイト	安山岩	多結晶石英	花崗岩類	変質岩	火山ガラス
土器1	砂	細礫															0
		極粗粒砂												1	1		2
		粗粒砂	5	1							2		4	2			14
		中粒砂	11	2						1		1	1			1	17
		細粒砂	7	2	1						1		5		1		17
		極細粒砂	14	3	2			1	2				1				23
		粗粒シルト	4	1	1												6
		中粒シルト	3		1												4
	基質																504
		孔隙															19
	備考	基質は珪長質鉱物、セリサイト、雲母鉱物などで埋められる。ジルコンあり。火山ガラスはバブル型を示す。															
土器2	砂	細礫															0
		極粗粒砂															0
		粗粒砂	2	2						1			1				6
		中粒砂	11	4	1						1		3		1		21
		細粒砂	12	3	5					1	1	1	3	1			27
		極細粒砂	11	2	2								2		1	1	19
		粗粒シルト	1		1												2
		中粒シルト	2														2
	基質																433
		孔隙															14
	備考	基質は珪長質鉱物、セリサイト、雲母鉱物、炭質物などで埋められる。ジルコンあり。火山ガラスはバブル型を示す。															
土器3	砂	細礫															0
		極粗粒砂	2							1	2	3	3	1			12
		粗粒砂	6	4	1					3	3		14				31
		中粒砂	10		2				1	1	4	4			1		23
		細粒砂	16		2					1	1		11	1			32
		極細粒砂	20		2			1	1				1	1			26
		粗粒シルト	7		1			1									9
		中粒シルト	3														3
	基質																733
		孔隙															13
	備考	基質は珪長質鉱物、セリサイト、雲母鉱物、炭質物などで埋められる。火山ガラスはバブル型を示す。多結晶石英の一部は粗粒な石英の集合からなるものも含まれる。															

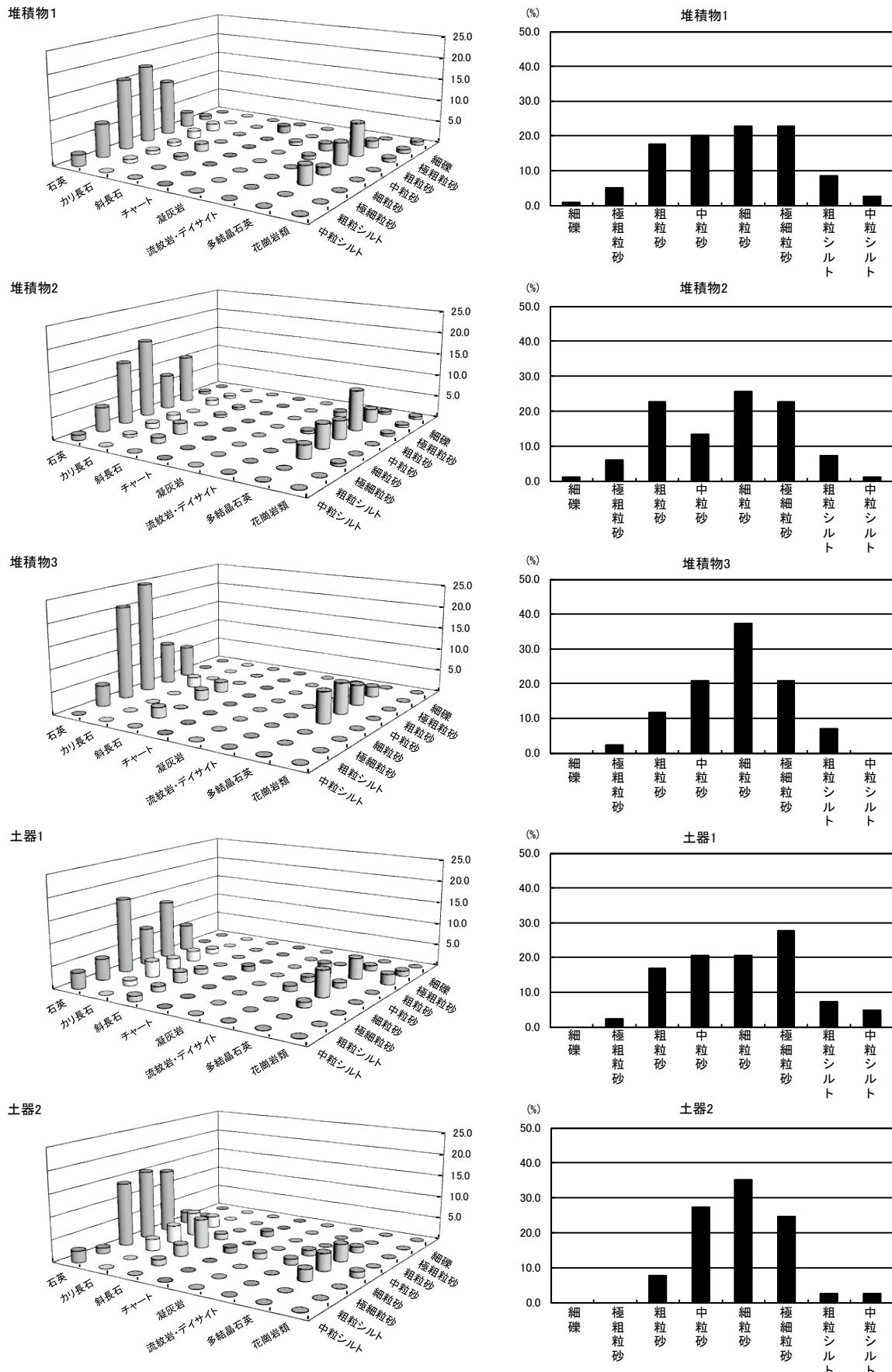


図 48 堆積物および土器胎土の碎屑物・岩石出現頻度と粒径組成 (1)

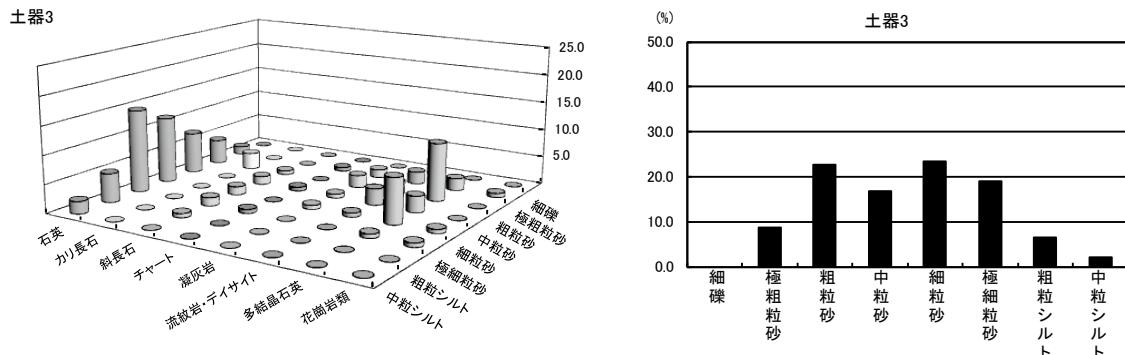


図49 堆積物および土器胎土の碎屑物・岩石出現頻度と粒径組成（2）

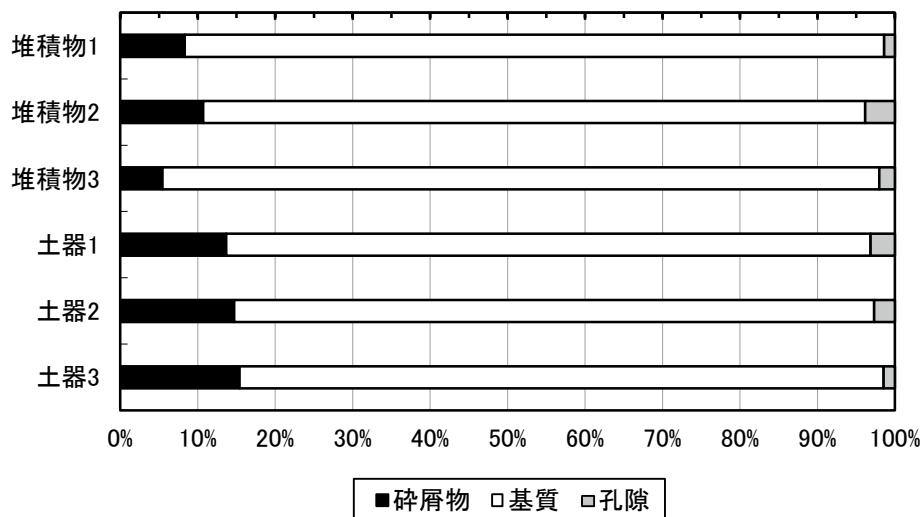


図50 堆積物および土器胎土の碎屑物・基質・孔隙の割合

b) 粒径組成

3点の試料間で若干の差異が認められる。堆積物1は、粗粒砂から極細粒砂まで同程度の割合であるが、堆積物2は粗粒砂、細粒砂、極細粒砂の3者の割合が比較的高い。堆積物3は細粒砂の割合が高い。

c) 碎屑物の割合

堆積物1と堆積物2は10%前後であり、堆積物3はこれらより低い5%前後である。

2) 土器

a) 鉱物・岩石組成

3点の試料ともに碎屑物の組成の傾向はほぼ同様であり、かつ上述した堆積物試料における碎屑物の組成ともほぼ同様の内容である。

b) 粒径組成

3点の試料間で若干の差異が認められる。土器1は極細粒砂の割合が最も高く、土器2は細粒砂の割合が高い。土器3は粗粒砂から極細粒砂までの割合が同程度で比較的高い。

c) 碎屑物の割合

3点の試料ともに15%前後である。

(2) 蛍光X線分析

結果を表8に示す。ここでは試料間の組成を比較する方法として、以下に示す元素を選択し、それらの値を縦軸・横軸とした散布図を作成した(図51)。

- a) 化学組成中で最も主要な元素である SiO_2 と Al_2O_3 をそれぞれ横軸と縦軸とする。
- b) 粘土の母材を考える上で長石類（主にカリ長石、斜長石）の種類構成は重要である。このことから、指標として長石類の主要元素である CaO 、 Na_2O 、 K_2O の 3 者を選択し、長石全体におけるアルカリ長石およびカリ長石の割合を定性的に見る。実際には、長石類全体におけるアルカリ長石の割合 $(\text{Na}_2\text{O} + \text{K}_2\text{O}) / (\text{CaO} + \text{Na}_2\text{O} + \text{K}_2\text{O})$ を横軸とし、アルカリ長石におけるカリ長石の割合 $\text{K}_2\text{O}/(\text{Na}_2\text{O} + \text{K}_2\text{O})$ を縦軸とする。
- c) 輝石類や黒雲母、角閃石など有色鉱物における主要な元素を選択する。ここでは、指標としてこれらの有色鉱物の主要な元素のうち、 TiO_2 、 Fe_2O_3 、 MgO を選択し、 Fe_2O_3 を分母とした TiO_2 と MgO のそれぞれの割合を見る。
- d) 各微量元素を選択する。組み合わせは、Rb-Sr と Zr-Ba とする。

5 つの散布図を概観すると、長石類主要元素の図において、堆積物試料と土器試料の分布域が分かれる傾向が窺えるが、他の 4 つの図ではいずれも堆積物の分布範囲と土器の分布範囲とが重複する傾向が窺える。

表 8 蛍光 X 線分析結果（化学組成）

試料名	主要元素										微量元素					Total
	SiO_2 (%)	TiO_2 (%)	Al_2O_3 (%)	Fe_2O_3 (%)	MnO (%)	MgO (%)	CaO (%)	Na_2O (%)	K_2O (%)	P_2O_5 (%)	Rb (ppm)	Sr (ppm)	Y (ppm)	Zr (ppm)	Ba (ppm)	
堆積物 1 土坑 2003 (側壁)	62.16	0.81	19.85	5.48	0.02	0.57	0.27	0.30	1.39	0.02	79	52	14	277	305	90.94
堆積物 2 土坑 2334・2335 (側壁)	74.44	0.87	13.08	2.67	0.02	0.32	0.34	0.22	1.49	0.02	83	45	21	434	315	93.56
堆積物 3 土坑 3004 (側壁)	65.58	0.88	18.97	2.93	0.02	0.54	0.33	0.24	1.59	0.02	102	55	18	306	358	91.18
土器 1 瓦質鋸鉢 (図 17-9)	66.46	0.78	18.54	3.50	0.01	0.21	0.33	0.74	1.93	0.03	70	71	17	325	470	92.63
土器 2 瓦質羽釜 (図 27-111)	69.71	0.83	18.94	4.43	0.02	0.44	0.15	0.65	1.71	0.07	79	55	21	396	379	97.04
土器 3 土師器甕 (図 25-103)	70.47	0.69	14.11	4.62	0.01	0.24	0.17	0.68	1.51	0.02	69	52	13	345	357	92.60

第4項 考察

堆積物中に認められた碎屑物は、高位段丘を構成する大阪層群中に含まれる鉱物片や岩石片に由来する。そして、その種類構成は大阪層群が堆積する地域の背後に分布する様々な地質（日本地質学会編, 2009）を反映している。今回の試料では、堆積物試料、特に堆積物 1 試料に認められた複数の種類の岩石片が混在する結果はそのことを示唆している。なお、今回の堆積物試料も土器試料も、岩石片の計数全体が少ないために、それを組成として評価することに若干の難があるが、概ねの傾向としてみれば、堆積物試料間および土器試料間さらには堆積物試料と土器試料間に認められた岩石片の種類構成は、堆積物 1 のそれとほぼ同様であるとみることができる。このことから、土器はいずれも宮園遺跡周辺に分布する堆積物を原材料としている可能性が高いと考えられる。

化学組成においては、長石類主要元素の比較では堆積物試料と土器試料との間で差異のあることが指摘されたが、他の元素の比較では、堆積物試料と土器試料とで散布図上での分布範囲が重複する傾向が窺えた。このことと上述の碎屑物の類似傾向も考慮すれば、土坑壁の堆積物が土器の原材料となった可能性は高いと考えられる。

ただし、土器胎土中の碎屑物の割合は、堆積物試料中のそれに比べると低い傾向が窺えることから、土坑壁の堆積物に若干の砂が加えられて土器の素地土が作られたことも推定される。先に指摘した長石類主要元素における堆積物と土器との差異は、加えた砂の中に混在する長石類の鉱物粒の影響に由来する可能性もあると考えられる。

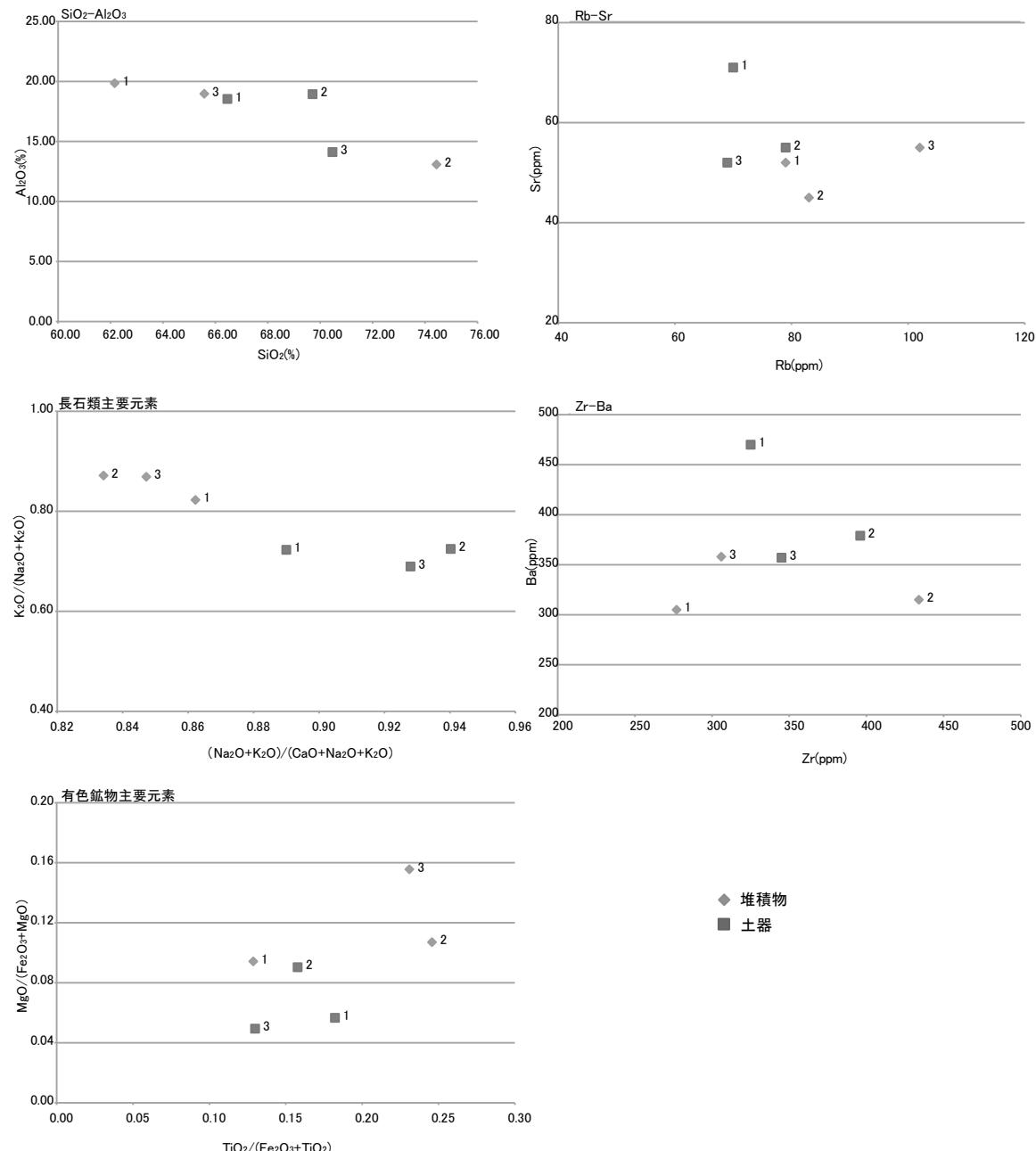
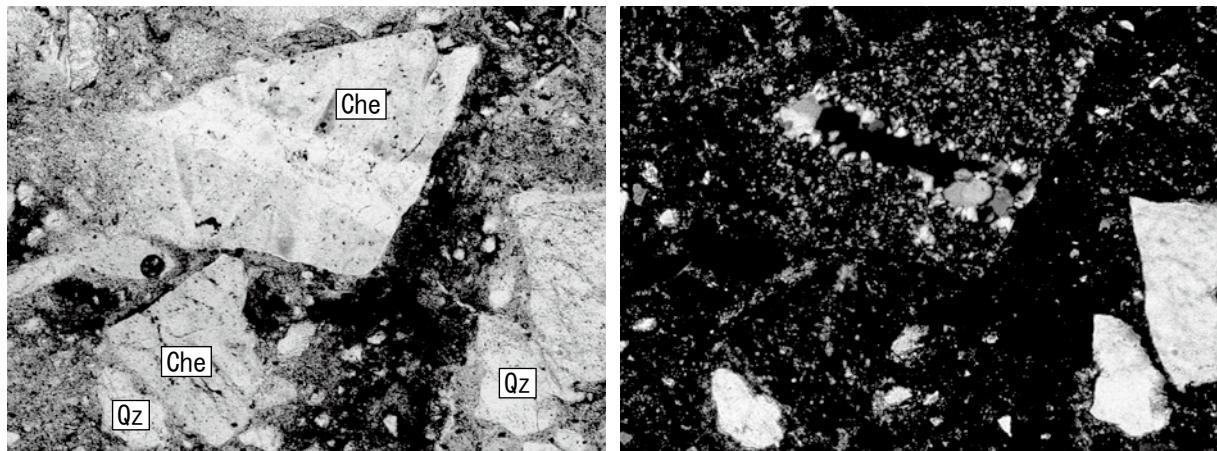


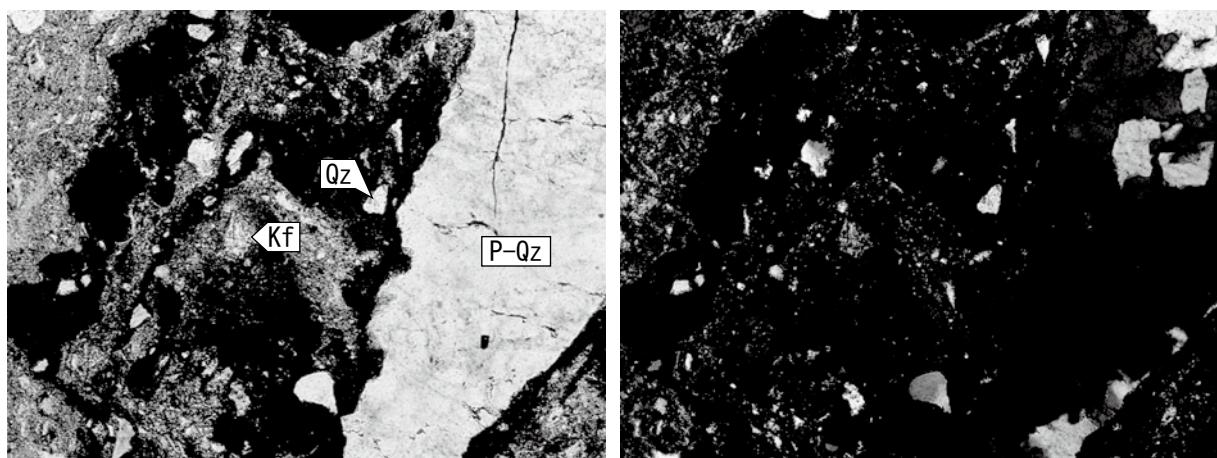
図 51 堆積物および土器胎土の化学組成散布図

引用文献

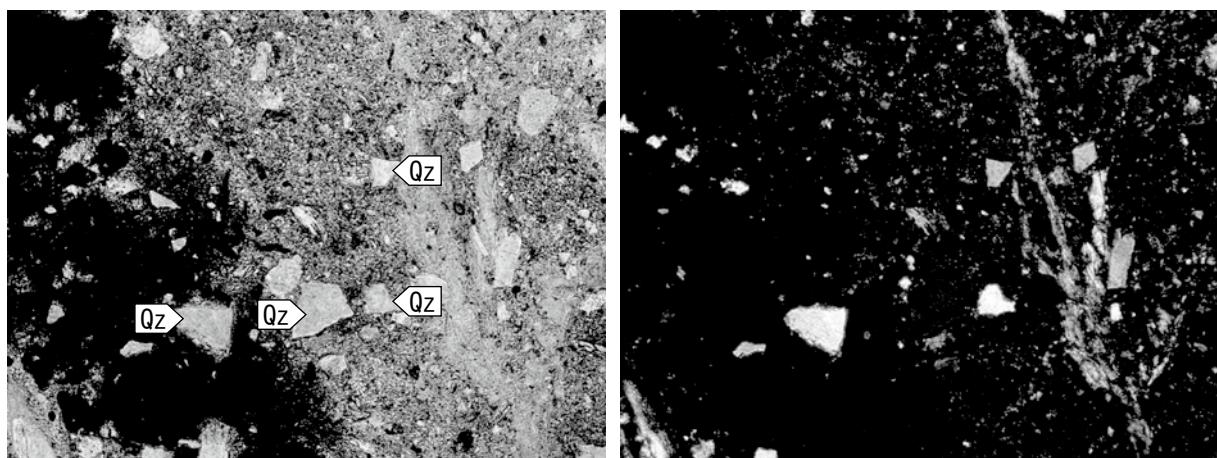
- Bronk RC., 2009, Bayesian analysis of radiocarbon dates. Radiocarbon ,51, 337-360.
 日本地質学会編, 2009, 日本地方地質誌 5 近畿地方 . 朝倉書店 ,453p.
 Reimer P., Austin W., Bard E., Bayliss A., Blackwell P., Bronk Ramsey, C., Butzin M., Cheng H., Edwards R., Friedrich M., Grootes P., Guilderson T., Hajdas I., Heaton T., Hogg A., Hughen K., Kromer B., Manning S., Muscheler R., Palmer J., Pearson C., van der Plicht J., Reimer R., Richards D., Scott E., Southon, J., Turney, C., Wacker, L., Adolphi, F., Buentgen U., Capone M., Fahrni S., Fogtmann-Schulz A., Friedrich R., Koehler P., Kudsk S., Miyake F., Olsen J., Reinig F., Sakamoto M., Sookdeo A., & Talamo S., 2020, The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0–55 cal kBP). Radiocarbon, 62, 1-33.
 Stuiver M., & Polach AH., 1977, Radiocarbon 1977 Discussion Reporting of 14C Data. Radiocarbon, 19, 355-363.



1. 堆積物1(土坑2003側壁)



2. 堆積物2(土坑2334・2335側壁)

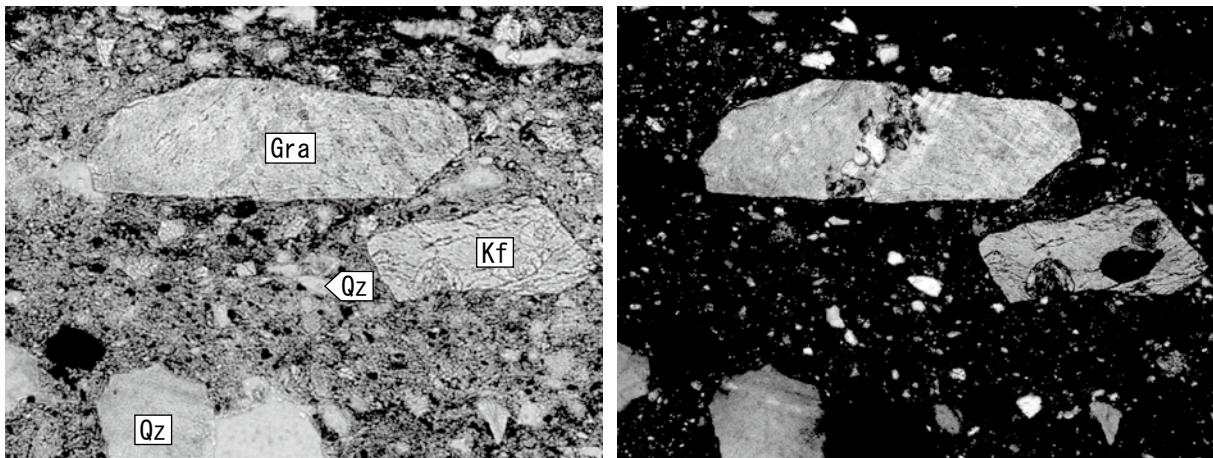


3. 堆積物3(土坑3004側壁(南壁))

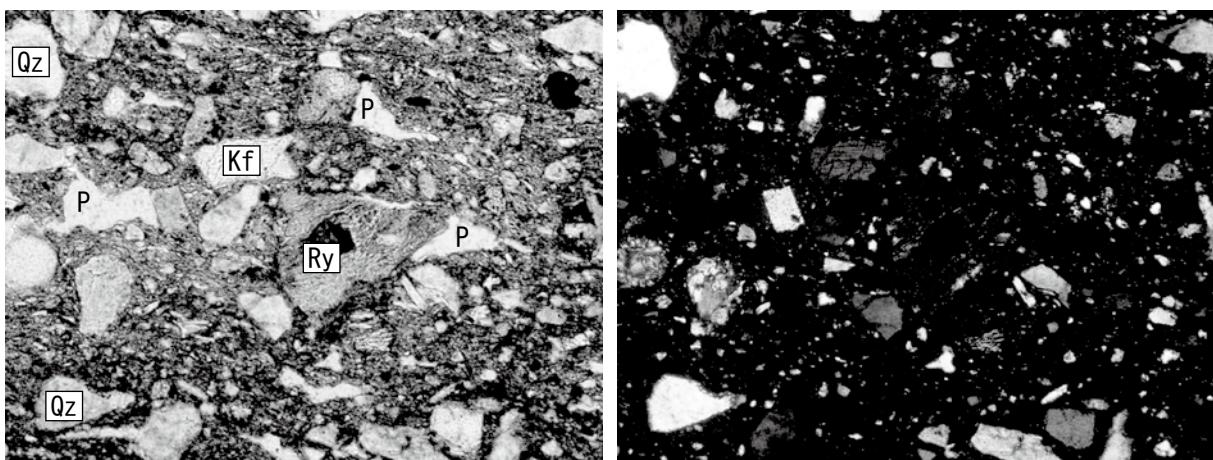
Qz:石英, Kf:カリ長石, Che:チャート, P-Qz:多結晶石英。
写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。

0.5mm

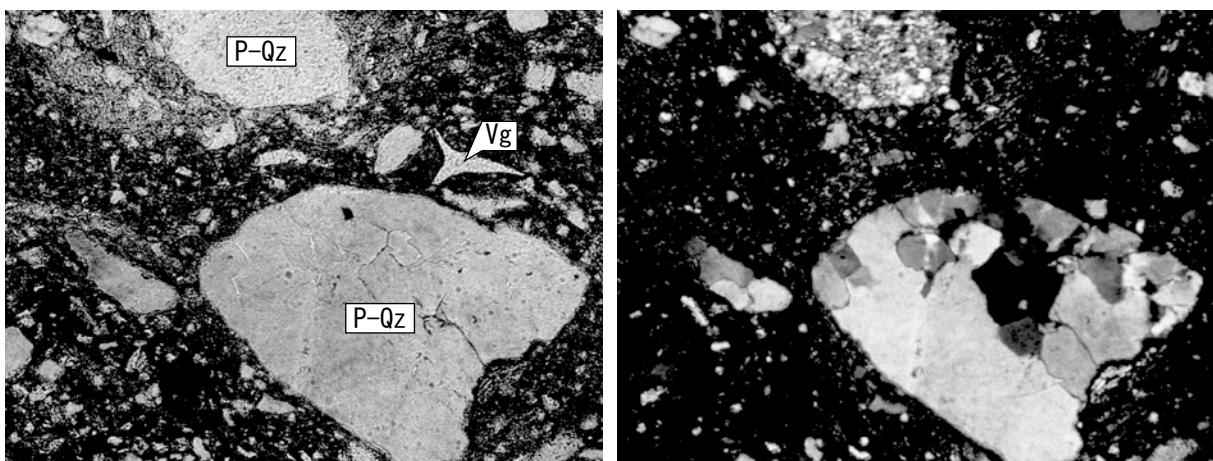
図 52 堆積物薄片写真



4. 土器1(瓦質摺鉢 土坑1019)



5. 土器2(瓦質羽釜 土坑2361)



6. 土器3(土師器甕 土坑2007)

Qz:石英, Kf:カリ長石, Ry:流紋岩, P-Qz:多結晶石英, Gra:花崗岩.
Vg:火山ガラス, P:孔隙.

写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。

0.5mm

図53 土器胎土薄片写真

第5章 総括

古墳時代以前

今回の調査地点では、古墳時代以前の遺構は認められなかったが、第5調査区で石鏃が出土し、各調査区でサヌカイトの剥片が出土することから、縄文時代から活動の痕跡が認められる。また弥生時代の遺物は出土していないが、古墳時代後期の須恵器坏や器台などが出土地している。

古代

本遺跡での開発が活発になるのは古代以降である。第4調査区では、これまでに確認されていなかった8世紀中ごろの掘立柱建物跡を検出した。西側に隣接する平成28年度調査第1調査区では、古墳時代以前より流れる自然流路を埋め立てた当該期の整地層が確認されており、宮園遺跡の北西のエリアにおいて土地の開発が進められていたことが想定される。第2調査区では、平成28年度調査の続きとなる自然流路2002を検出し、この流路へ向かう緩傾斜地がある第1・2調査区西側では、奈良時代後期あるいは平安時代の土師器が出土する数基の土坑が掘削されていた。これらの土坑の一部では底付近に滯水層（水成堆積層）が認められることから、掘削後埋め戻されずしばらく開放されていた状態であった。土坑からは比較的大型の破片が底付近から出土しているが、埋納遺構ではなく、祭祀的な性格は弱いものと考える。埋土には滯水層の上に大きめの第5層ブロックが含まれていることも含め、古代の粘土採取土坑の可能性も考えられる。

中世

これまでの調査成果と同じく、多数の中世後期の粘土採取土坑を検出した。土坑は第5層最上部の粘土～シルト層を対象として掘削しており、粗粒化すると掘削をやめている。また平面的な広がりをみても、第5層の粘性が強い第1・2調査区では広範囲に渡って土坑群が広がるが、やや砂質となる第3調査区では、土坑が浅くやや希薄になり、砂質の強い第4・5調査区では全く認められなくなった。第1調査区東の土坑1033より東側は地形が一段高くなっている、これより東には土坑群は広がらず、第2調査区の土坑2003より西側は地形が一段下がっており、これより西にも土坑群は広がらない。この地形の境界はおそらく耕作地の境界でもあり、粘土の質だけでなく、土地利用の制約と併せて、このような粘土採取の分布の在り方になるものと想定される。

土坑から出土した遺物の時期は、土坑2156など15世紀代前半のもの、土坑2361など15世紀後半に属するものまでが出土しており、これまでの調査成果と一致する。今回出土した土器および粘土採取土坑の壁面より採取した堆積物について、岩石・鉱物組成分析および蛍光X線分析をおこなったところ、特に瓦質土器については類似した傾向にあることがわかった。分析点数が少なく地質的な制約があるため、確実な成果とは言えないが、土器製作のための粘土採取であったと考えるのが妥当であろう。今回の調査においても、土坑2156や2361・2362で未使用でかつ完形に近い瓦質土器が出土しており、これらが生産に伴う焼成失敗品と考えるのならば、その蓋然性はより高まる。

近世

近世以降では、井戸が数基や現代まで機能した溝が見つかっているが、当地は基本的に耕作地として利用されている。こうした農村としての景観は、1950年代における八田荘住宅の建設まで基本的に継続していく。

引用・参考文献

- 大阪府教育委員会 1988『平井遺跡』
- 大阪府教育委員会 2005「深井清水町C遺跡（04010）」『大阪府教育委員会文化財調査事務所年報』9
- 大阪府教育委員会 2011「宮園遺跡（10061）」『大阪府教育委員会文化財調査事務所年報』15
- 大阪府教育委員会 2018『宮園遺跡』大阪府埋蔵文化財調査報告 2017－2
- 大阪府教育委員会 2020『宮園遺跡II』大阪府埋蔵文化財調査報告 2019－2
- 大阪府文化財調査研究センター 1996『深井清水遺跡』（大阪府文化財調査研究センター調査報告書 第12集）
- 尾上実・森島康雄・近江俊秀 1995「瓦器椀」中世土器研究会『概説 中世の土器・陶磁器』真陽社
- 堺市教育委員会 1981「深井清水町遺跡発掘調査報告－A地点第1地区・第2地区－」『堺市文化財調査報告』第9集
- 堺市教育委員会 1981「深井清水町遺跡発掘調査報告－B地点第1地区・第2地区－」『堺市文化財調査報告』第9集
- 堺市教育委員会 1983「深井清水町遺跡発掘調査報告－B地点第3地区－」『堺市文化財調査報告』第13集
- 堺市教育委員会 1986『土師南遺跡（HAZ-S）発掘調査報告』（堺市文化財調査報告 第26集）
- 堺市教育委員会 1987「堀上町遺跡発掘調査報告書－近畿相互銀行深井支店建設に伴う事前調査－」『堺市文化財調査報告』第36集
- 堺市教育委員会 1989a「八田北町遺跡発掘調査報告I－公共下水道八田下水路（第4工区・第5工区）築造に伴う緊急発掘調査－」『堺市文化財調査報告』第48集
- 堺市教育委員会 1989b「八田北町遺跡発掘調査報告II－都市計画道路南花田鳳西町線建設に伴う緊急発掘調査－」『堺市文化財調査報告』第48集
- 堺市教育委員会 1992「深井幡池遺跡」『堺市文化財調査概要報告』第31集
- 堺市教育委員会 1997「堀上町遺跡発掘調査概要報告－HAC-3地点 堀上町－」『堺市文化財調査概要報告』第66集
- 堺市教育委員会 2008「宮園町東遺跡（MZCH-1）」『堺市文化財調査報告』第118集
- 鋤柄俊夫 1989a「大阪府南部の瓦質土器生産について（1）」『大阪文化財論集』大阪文化財センター
- 鋤柄俊夫 1989b「大阪府南部の瓦質土器生産（2）」『中近世土器の基礎研究』V 日本中世土器研究会
- 趙哲済 1988「平井遺跡の地形と地質」『平井遺跡』大阪府教育委員会
- 續 伸一郎 2007「大阪の瓦質土器－南部地域を中心として－」『第26回 中世土器研究会 瓦質土器の出現と定着－瓦質土器を考える（前編）－』（発表資料集）
- 續 伸一郎 2010「堺環濠都市遺跡から出土した“擂る”“卸す”焼き物」『備前市歴史民俗資料館紀要』12
- 土山健史 1989「堺環濠都市遺跡における15・16世紀の在地土器」『中近世土器の基礎研究』V 日本中世土器研究会

【付表 1 観察表】

掲載番号	地区	遺構・層位	種類	器種	法量 (cm / 括弧内は復元径)			色調			胎土	焼成 / 備考
					口径	器高	底径・高台径	内面	外面	断面		
1	1区 2	1090	土師器	甕	(20.0)	残 2.9	—	7.5YR4/2	7.5YR5/2	7.5YR6/2	やや密 (3.5mm以下の長石、クサリ礫含む)	良
2	1区 1	1096	土師器	甕		残 17.0	—	7.5YR4/2	7.5YR6/3	10YR8/2	粗 (2mm以下長石含む)	良 / 体部スス付着
3	1区 2	1100	土師器	甕	(20.2)	残 7.25	—	7.5YR6/3	10YR7/3	5YR7/4	粗	不良
4	1区 1	1108	土師器	甕	(18.6)	残 2.3	—	7.5YR8/3	7.5YR8/3	10YR8/3	やや密	不良
5	1区 1	1109	土師器	甕	(18.0)	残 7.3	—	10YR7/2	10YR4/2	5YR6/4	密 (クサリ礫含む)	良
6	1区 7	1013	瓦質土器	羽釜	(26.0)	残 6.45	—	5YR6/6	5YR6/6	5YR6/4	粗	不良
7	1区 7	1013	瓦質土器	摺鉢		残 3.0	—	10YR6/1	10YR8/2	10YR6/1	やや粗 (2mm以下の長石含む)	良
8	1区 7	1012	瓦質土器	摺鉢	(30.4)	残 9.6	—	N5/	N4/	N7/	密	良
9	1区 8	1019	瓦質土器	摺鉢	(30.7)	13.6	—	N6/	N5/	5Y8/1	やや粗	やや不良
10	1区 8	1022	瓦質土器	摺鉢	(28.3)	残 5.1	—	2.5Y4/1	2.5Y5/1	5Y8/1	やや密	良
11	1区 7	1028	瓦質土器	摺鉢	(31.0)	残 9.2	—	2.5Y4/1	2.5Y4/1	2.5Y7/1	やや密	不良
12	1区 5	1005	瓦質土器	羽釜		残 2.5	—	N6/	N6/	N6/	粗 (3mm以下の長石含む)	良
13	1区 9	1015	瓦質土器	羽釜		残 1.9	—	N8/	N8/	N5/	やや密 (1mm以下の長石含む)	良
14	1区 8	1034	瓦質土器	羽釜	(25.0)	残 5.3	—	2.5Y8/1	5Y8/1	5Y8/1	やや粗	やや不良
15	1区 5	1042	土師器	羽釜		残 2.6	—	2.5Y8/1	5Y7/4	2.5Y8/1	粗 (0.5mm以下長石、礫含む)	良
16	1区 5	1039	瓦質土器	羽釜	(19.6)	残 6.75	—	2.5Y8/2	2.5Y8/2	2.5Y8/2	粗	不良
17	1区 4	1052	瓦質土器	羽釜	(25.8)	残 4.45	—	2.5Y5/1	2.5Y5/1	2.5Y5/1	やや粗	良
18	1区 9	1032	瓦質土器	摺鉢		残 3.7	—	N3/	N4/	2.5Y8/3	粗 (2mm以下の長石、石英、雲母含む)	良
19	1区 4	1069	瓦質土器	摺鉢		残 3.5	—	N4/	5Y5/1	2.5Y7/3	密	良
20	1区 4	1069	瓦器	小皿	(8.8)	残 1.1	高台径 (4.0)	10YR6/5	10YR6/5	10YR6/5	密	良
21	1区 3	1065	瓦質土器	羽釜			—	5YR6/4	5YR6/4	5YR7/6	粗 (2mm以下の長石含む)	良
22	1区 4	1068	土師器	羽釜		残 3.9	—	10YR8/2	10YR8/2	10YR8/2	密	良
23	1区 4	1046	瓦器	椀	(14.0)	残 2.3	—	N5/	N5/	N8/	密	良
24	1区 4	1054	瓦器	椀		残 0.7	—	10YR8/1	10YR8/1	10YR8/1	密	良
25	1区 4	1050	白磁			残 1.65	底部径 (4.0)	5Y8/1	5Y8/1	5Y8/1	密	良
26	1区 4	1062	瓦質土器	火鉢		残 5.1	底部径 (24.0)	2.5Y5/1	5Y8/1	5Y8/1	密 (雲母少量含む)	良
27	1区 8	1102	瓦質土器	羽釜		残 5.35	—	7.5Y4/1	7.5Y4/1	7.5YR6/4	密 (クサリ礫含む)	良
28	1区 8	1102	瓦質土器	羽釜	(25.4)	残 3.3	—	10YR5/2	2.5Y6/2	2.5Y6/4	密	良
29	1区 6/7	1103	瓦質土器	摺鉢	(33.0)	残 3.4	—	N5/	N5/	2.5Y7/1	密	良

掲載番号	地区	遺構・層位	種類	器種	法量 (cm / 括弧内は復元径)			色調			胎土	焼成 / 備考
					口径	器高	底径・高台径	内面	外面	断面		
30	1区 7	1103	瓦質土器	摺鉢	(30.9)	残 3.6	—	5Y5/1	5Y5/1	5Y7/1	密	良
31	1区 7	1103	瓦質土器	摺鉢	(37.6)	残 4.2	—	2.5YR7/1	2.5YR7/1	5Y7/1	粗	不良
32	1区 7	1103	瓦質土器	摺鉢	(25.6)	残 6.1	—	N5/	N4/	5Y7/1	やや密	良
33	1区 7	1103	瓦質土器	摺鉢		残 4.2	—	N5/	N5/	5Y7/1	密	良
34	1区 6	1103	瓦質土器	羽釜	(27.4)	残 18.3	—	N2/	N6/	5Y8/1	やや密	良
35	1区 6-7	1103	瓦質土器	羽釜		残 2.25	—	7.5YR5/2	7.5YR6/1	7.5YR5/4	やや密	やや不良
36	1区 6-7	1103	瓦器	椀		残 1.2	高台径 (4.0)	10YR6/6	10YR6/6	2.5Y8/2	密	良
37	1区 5-6	1104	瓦質土器	摺鉢	(32.0)	残 4.5	—	N4/	N4/	N8/	密	良
38	1区	1104	瓦質土器	摺鉢	(28.2)	残 3.7	—	5Y5/1	5Y5/1	5Y6/1	密	良
39	1区 5-6	1104	瓦質土器	羽釜	(24.4)	残 5.4	—	5Y8/1	5Y8/1	5Y8/1	密	やや不良
40	1区 5-6	1104	土師器	羽釜	(32.0)	残 4.5	—	2.5Y8/2	2.5Y8/2	2.5Y8/2	密	良
41	1区	1104	土師器	羽釜		残 1.7	—	2.5Y8/1	10YR8/2	10YR8/2	やや密 (2mm以下チャート、長石含む)	やや良
42	1区 5-6	1104	瓦器	小皿	(9.0)	1.4	—	2.5Y3/1	2.5Y3/1	10YR5/6	密	良
43	1区 7-8	2a層		土馬		残 3.9	全長 8.7		5Y7/1	5Y6/1	密	良
44	1区 7-8	2a層	須恵器	壺蓋	(13.0)	残 2.8	—	N7/	N7/	N7/	やや密 (1mm以下長石含む)	良
45	1区 4-5	2a層	土師器	皿	(8.0)	残 0.9	—	7.5YR8/4	10YR8/4	10Y6/4	密	不良
46	1区 1	2a層	瓦質土器	摺鉢		残 3.2	—	5Y4/1	5Y4/1	2.5Y7/2	やや密	不良
47	1区 7-8	2a層	瓦質土器	摺鉢		残 3.7	—	N6/	N4/	5Y8/1	粗 (3mm以下チャート、石英、長石)	良
48	1区 8-9	2a層	瓦質土器	摺鉢	(26.0)	残 4.4	—	5Y6/1	5Y5/1	5Y7/1	粗 (1mm以下長石含む)	良
49	1区 7-8	2a層	瓦質土器	摺鉢	(30.0)	残 3.5	—	5Y7/1	5Y7/1	5Y7/1	密 (1mm以下長石含む)	良
50	1区 5-6	2a層	瓦質土器	摺鉢	(28.4)	残 4.0	—	2.5Y6/1	5Y5/1	5Y7/1	やや密	不良
51	1区 7-8	2a層	瓦質土器	摺鉢	(28.0)	残 4.4	—	5Y7/1	5Y6/1	5Y7/1	やや粗 (2mm以下長石含む)	良
52	1区 4-5	2a層	瓦質土器	羽釜	(22.0)	残 8.5	—	5Y5/1	5Y5/1	5Y8/1	やや粗	不良
53	1区 1	2a層	瓦質土器	羽釜		残 4.25	—	2.5Y4/2	2.5Y6/2	7.5YR7/2	やや粗	不良
54	1区 8-9	2a層	瓦質土器	羽釜	(14.8)	残 3.0	—	N4/	N4/	5Y8/1	やや粗 (2mm以下長石含む)	良
55	1区 7-8	2a層	瓦質土器	羽釜	(29.4)	残 5.3	—	7.5Y7/1	N6/	N8/	密 (1mm以下長石、チャート含む)	良
56	1区 7-8	2a層	瓦質土器	火鉢		残 4.95	—	5Y6/2	5Y6/1	2.5Y6/3	やや密	不良
57	1区 1	2a層	瓦質土器	甕	(35.0)	残 3.7	—	2.5Y3/1	2.5Y3/1	2.5Y7/1	粗	不良
58	1区 7-8	2a層	瓦質土器	甕		残 5.1	—	5YR7/6	2.5Y7/3	2.5Y5/3	粗	不良
59	1区 9-10	2a層	瓦質土器	鍋	(26.0)	残 2.1	—	5Y4/1	5Y6/1	5Y8/2	やや粗	不良
60	1区 9-10	2a層	青磁	高台部		残 2.4	高台径 (6.0)	10Y6/1	7.5Y6/1	N8/0	密	良

掲載番号	地区	遺構・層位	種類	器種	法量 (cm / 括弧内は復元径)			色調			胎土	焼成 / 備考
					口径	器高	底径・高台径	内面	外面	断面		
61	1区 1-2	2b層	瓦器	椀	(17.4)	残 3.3	—	5Y5/1	5Y5/1	5Y8/1	密	やや不良
62	1区 1-2	2b層	瓦器	椀	(13.2)	残 3.1	—	5Y6/1	5Y5/1	5Y8/1	やや密	やや不良
63	1区 1	2b層	瓦器	椀		残 1.6	高台径 (4.9)	5Y6/1	5Y6/1	N8/	密	やや不良
64	1区 1	2b層	瓦器	椀		残 0.7	高台径 (3.4)	5Y7/1	5Y6/1	5Y8/1	やや密	やや不良
65	1区 1	2b層	土師器	羽釜		残 2.1	—		7.5YR7/4	7.5YR7/3	やや粗	やや不良
66	1区 1-2	2b層	土師器	羽釜		残 3.6	—	7.5YR7/1	10YR7/1	7.5YR7/1	やや粗	やや不良
67	1区 7-8	粘採土坑上層	須恵器	龜		残 2.4	—	N4/	N4/	2.5YR5/1	やや粗 (3mm以 下長石)	良
68	1区 4	粘採土坑上層	須恵器	器台		残 3.6	—	7.5YR6/6	2.5YR4/1	N4/	密	良
69	1区 4-5	粘採土坑上層	瓦質土器	摺鉢		残 4.3	—	5Y7/1	5Y8/1	5Y8/1	粗	やや不良
70	1区 4	粘採土坑上層	瓦質土器	摺鉢		残 4.2	—	5Y6/1	5Y6/1	5Y7/1	やや密	やや不良
71	1区 4	粘採土坑上層	瓦質土器	摺鉢		残 4.9	—	2.5Y8/3	2.5Y5/1	2.5Y8/1	やや粗	やや不良
72	1区 8	粘採土坑上層	瓦質土器	摺鉢	(30.0)	残 6.4	—	N4/	N5/	N8/	やや密 (2mm以 下長石)	良
73	1区 5-6	粘採土坑上層	瓦質土器	摺鉢	(30.0)		底部径 (9.0)	N4/	N6 /	N7/	やや粗 (3mm長 石)	良
74	1区 4-5	粘採土坑上層	瓦質土器	羽釜	(19.4)	残 4.5	—	5Y6/1	5Y7/1	5Y7/1	やや粗	やや不良
75	1区 4	粘採土坑上層	土師器	羽釜		残 3.7	—	10YR7/2	10YR6/6	2.5YR7/4	粗	不良
76	1区 4	粘採土坑上層	瓦質土器	羽釜		残 3.7	—	10YR5/2	N7/	7.5YR6/6	密	不良
77	1区 4-5	粘採土坑上層	瓦質土器	羽釜		残 3.7	—	10YR7/4	10YR7/1	2.5YR7/4	やや粗	不良
78	1区 7-8	粘採土坑上層	瓦質土器	羽釜	(26.0)	残 5.3	—	2.5Y5/1	2.5Y5/1	2.5Y7/1	やや密	不良
79	1区 9	粘採土坑上層	瓦質土器	羽釜	(24.0)	残 4.5	—	N5/	N5/	N7/	やや粗	良
80	1区 4	粘採土坑上層	瓦質土器	羽釜	(23.6)	残 5.7	—	5Y3/1	5Y3/1	5Y8/1	やや密	不良
81	1区 8	粘採土坑上層	瓦質土器	羽釜		残 4.4	—	5Y4/1	5Y4/1	2.5Y8/2	やや粗 (2mm以 下長石含む)	良
82	1区 5-6	粘採土坑上層	瓦質土器	羽釜	(27.0)	残 5.8	—	5Y7/1	5Y7/1	5Y6/1	やや粗	やや不良
83	1区 4-5	粘採土坑上層	瓦質土器	甕		残 4.05	—	2.5Y7/3	2.5Y7/3	7.5Y6/4	やや粗	やや不良
84	1区 8	粘採土坑上層	瓦質土器	甕	(30.0)	残 5.4	—	5Y8/1	5Y8/1	5Y8/1	やや粗 (3mm以 下長石含む)	良
85	1区 9	粘採土坑上層	瓦質土器	甕		残 8.5	—	N5/	N3/	2.5Y8/1	やや粗 (2mm以 下長石含む)	良
86	1区 4	粘採土坑上層	瓦質土器	甕		残 3.4	—	10YR7/4	2.5YR7/4	2.5YR7/4	粗	不良
87	1区 4	粘採土坑上層	瓦質土器	鉢	(26.6)	残 3.75	底部径 (5.0)	2.5Y4/2	2.5Y4/1	2.5Y7/6	やや粗	不良
88	1区 4	粘採土坑上層	青磁	椀		残 3.5	—	10GY7/1	10GY7/1	5Y8/1	密	良
89	1区 9	近世以降溝	瓦質土器	摺鉢	(32.4)	残 5.0	—	5Y7/1	5Y7/1	5Y7/1	やや粗	やや不良
90	1区 8	近世以降溝	瓦質土器	摺鉢	(28.0)	残 4.5	—	10YR4/1	10YR4/1	2.5Y5/2	粗	やや不良
91	1区 9	近世以降溝	瓦質土器	摺鉢	(29.2)	残 4.35	底部径 (6.6)	2.5Y7/1	2.5Y7/2	2.5Y7/2	粗	不良

掲載番号	地区	遺構・層位	種類	器種	法量 (cm / 括弧内は復元径)			色調			胎土	焼成/ 備考
					口径	器高	底径・高台径	内面	外面	断面		
92	1区 8	近世以降溝	瓦質土器	摺鉢		残 5.5	—	5Y6/1	5Y 6/1	5Y7/1	やや密	良
93	1区 9	近世以降溝	瓦質土器	羽釜		残 4.65	—	5Y6/1	5Y5/1	5Y7/1	やや密	良
94	1区 8	近世以降溝	瓦質土器	羽釜	(23.0)	残 4.0	—	2.5Y5/1	2.5Y5/1	7.5YR4/6	密 (1mm以下長石、チャート含む)	良
95	1区 8	近世以降溝	瓦質土器	羽釜		残 5.2	—	2.5Y7/1	2.5Y7/1	2.5Y7/1	やや粗	やや不良
96	1区 9	近世以降溝	瓦質土器	羽釜		残 5.5	—	2.5Y3/1	2.5Y3/1	5Y8/1	やや粗	不良
97	1区 8	近世以降溝	瓦質土器	甕		残 5.7	—	10YR6/1	10YR5/1	5YR6/6	やや粗	不良
98	1区 8	近世以降溝	瓦質土器	甕		残 6.3	—	10YR5/1	10YR4/1	7.5YR6/6	粗	やや不良
99	1区 9	近世以降溝	瓦質土器	甕		残 4.2	—	5Y7/1	5Y7/1	5Y6/2	やや密	やや不良
100	1区 8-9	近世以降溝	土師器	甕		残 8.3	—	10YR8/3	10YR8/2	2.5Y8/2	粗	不良
101	1区 6	2層	瓦質土器	摺鉢	(28.0)	残 12.0	—	5Y3/1	5Y3/1	5Y6/3	やや密	やや不良
102	1区 9-10	盛土	須恵器	底部		残 5.8	底部径 8.55	N6/	N6/	N7/	密	良
103	2区 A1	2007	土師器	甕	(29.2)	残 4.65	—	10YR7/6	10YR7/6	10YR7/4	やや粗	良
104	2区 A5	2174	土師器	甕	(20.2)	残 6.0	—	10YR4/1	10YR4/1	7.5YR5/4	やや粗	良
105	2区 C9	2468	土師器	甕	(23.7)	19.4	—	10YR7/3	10YR7/2	5YR6/6	粗 (4mm以下長石、チャート、石英)	良
106	2区 AB9	2428	土師器	甕		残 5.8	—	7.5YR7/4	10YR7/4	5YR5/3	やや粗	不良
107	2区 B7	2469	土師器	甕	(28.0)	残 15.0	—	10YR5/2	2.5Y3/1	5YR6/6	やや粗	良/口縁・ 体部スヌ付着
108	2区 A5-6	2155・2154	瓦質土器	摺鉢	32.2	14.6	底部径 9.2	2.5Y8/1	2.5Y8/1	N8/	密	良
109	2区 A5	2156	瓦質土器	摺鉢	27.6	12.4	底部径 9.0	N4/	2.5Y8/1	N8/	やや密	良
110	2区 C11	2348	瓦質土器	羽釜	(24.0)	残 15.9	—	10YR5/1	N2/	7.5YR5/4	密 (3mm以下長石、チャート)	良
111	2区 BC10	2361	瓦質土器	羽釜		残 22.3	—	N3/	N3/	2.5Y8/1	密	良
112	2区 B10	2362	瓦質土器	羽釜	(22.8)	15.9	—	2.5Y8/1	N3/	10YR6/4	やや粗	良
113	2区 C4	2050	瓦質土器	摺鉢	(29.0)	11.9	—	N2/	N2/	N/8	密	やや良
114	2区 C3-4	2041	瓦質土器	摺鉢		残 2.85	—	2.5Y5/1	2.5Y4/1	2.5Y8/2	粗	不良
115	2区 C4	2064	瓦質土器	摺鉢	(29.6)	残 3.9	—	2.5Y7/2	2.5Y7/1	2.5Y7/1	やや密	不良
116	2区 D5	2098	瓦質土器	摺鉢	(30.0)	残 5.1	—	5Y5/1	5Y7/1	5Y8/1	やや密	不良
117	2区 B4	2104	瓦質土器	摺鉢	(27.0)	残 8.3	—	2.5Y6/1	5Y6/1	5Y8/1	密	やや不良
118	2区 CD9-10	2186・2187	瓦質土器	摺鉢	(30.0)	13.4	底部径 5.1	N7/	N3/	2.5Y8/2	やや粗	良
119	2区 CD9-10	2187	瓦器	椀	(16.0)	残 2.3	—	5Y8/1	5Y8/1	2.5Y8/1	やや粗	やや不良
120	2区 D10	2191	瓦質土器	摺鉢	(25.0)	残 5.3	—	5YR5/6	10YR7/1	5YR5/4	粗 (3mm長石、2mm以下長石、石英)	良
121	2区 A4	2003	瓦質土器	羽釜	(24.0)	残 4.0	—	N5/	N3/	5Y7/1	やや密	やや不良
122	2区 C4	2051	瓦質土器	羽釜	(24.6)	残 3.0	—	N3/	5Y3/1	5Y4/1	密	不良

掲載番号	地区	遺構・層位	種類	器種	法量 (cm / 括弧内は復元径)			色調			胎土	焼成 / 備考
					口径	器高	底径・高台径	内面	外面	断面		
123	2区 C3-4	2056	瓦質土器	羽釜	(22.8)	残 11.7	—	5Y3/1	5Y3/1	5Y8/1	粗	やや不良
124	2区 D5	2080	瓦質土器	羽釜	(24.0)	残 4.85	—	2.5Y8/2	5Y6/1	5Y6/1	やや粗	不良
125	2区 B4	2102	瓦質土器	羽釜	(20.4)	残 5.2	—	10YR4/1	10YR3/1	7.5YR5/4	やや粗	不良
126	2区 B3-4	2106	瓦質土器	羽釜	(22.4)	残 4.0	—	10YR4/1	10YR4/1	10YR6/1	やや粗	不良
127	2区 B4	2113	瓦質土器	羽釜		残 5.1	—	10Y5/1	10Y3/1	10Y8/1	密	やや不良
128	2区 B7-8	2113	瓦器	皿		残 5.1	—	10YR6/6	10YR6/6	10YR7/4	密	良
129	2区 A4	2118	瓦質土器	羽釜		残 3.35	—	2.5Y6/2	2.5Y7/1	2.5Y7/1	やや密	良
130	2区 B5	2139	瓦質土器	羽釜	(23.7)	残 4.1	—	2.5Y7/1	2.5Y7/1	2.5Y8/1	やや密	やや不良
131	2区 D5	2088	瓦質土器	羽釜	(23.0)	残 5.3	—	2.5Y8/1	2.5Y5/1	2.5Y6/1	やや粗	やや不良
132	2区 D5	2088	瓦質土器	鍋	(30.0)	残 13.6	—	N7/	10YR7/3	2.5Y7/3	密	良
133	2区 D5	2097	瓦質土器	鍋	(27.8)	残 8.0	—	N6/	N5/	N8/	密	良
134	2区 C11	2346	瓦質土器	摺鉢	(29.4)	13.3	底部径 10.1	2.5Y8/1	N5/	N8/	密 (2mm以下長石、チャート)	良
135	2区 C10	2357	瓦質土器	摺鉢	(31.8)	14.05	(9.6)	N3/	N3/	N8/	やや粗	良
136	2区 C9-10	2280・2375	瓦質土器	摺鉢	(31.4)	残 5.2	—	5Y5/2	5Y6/1	10YR8/2	やや密	不良
137	2区 C9	2375	瓦質土器	摺鉢	(28.0)	残 4.9	—	2.5Y7/2	2.5Y8/2	2.5Y7/2	やや密 (石英、長石、雲母)	良
138	2区 B11	2388	瓦質土器	摺鉢	(28.0)	残 4.6	—	2.5Y7/1	2.5Y7/3	2.5Y8/2	粗 (2mm以下長石、雲母)	良
139	2区 B9	2320	瓦質土器	摺鉢		残 4.2	—	2.5YR5/1	2.5YR4/1	2.5YR4/2	やや密	良
140	2区 A7	2465	瓦質土器	摺鉢		残 3.3	—	N3/	N3/	N8/	やや密 (1mm以下長石、雲母)	良
141	2区 B8	2440	瓦質土器	摺鉢	(25.4)	残 12.0	—	5Y4/1	5Y4/1	2.5Y7/2	密	良
142	2区 B8	2440	瓦質土器	摺鉢	(22.0)	残 3.6	—	N4/	N4/	N8/	密 (0.5mm以下長石)	良
143	2区 B9	2319	瓦質土器	羽釜		残 2.7	—	10YR6/1	10YR5/1	10YR6/3	やや密 (2mm以下石英、長石)	良
144	2区 BC7	2257	瓦質土器	羽釜	(25.2)	残 3.9	—	5Y7/1	5Y8/1	5Y8/2	密	やや不良
145	2区 BC8	2279	土師器?	羽釜		残 2.7	—	10YR3/1	5YR6/6	10YR7/3	やや密	やや不良
146	2区 C9	2283	瓦質土器	羽釜		残 5.4	—	N5/	N5/	N5/	密	良
147	2区 B9	2318	瓦質土器	羽釜	(24.0)	残 5.3	—	N8/	N8/	5Y7/2	密	良
148	2区 C11	2332	瓦質土器	羽釜	(30.3)	残 5.5	—	2.5Y8/1	2.5Y7/1	2.5Y8/1	やや密	やや不良
149	2区 C9	2374	瓦質土器	羽釜	(24.0)	残 7.7	—	2.5Y4/1	2.5Y4/1	7.5YR6/6	粗	不良
150	2区 C9	2374	須恵器	甕		残 2.5	—	5Y6/1	5Y6/1	5Y6/1	やや粗	良
151	2区 B9	2420	瓦質土器	羽釜		残 5.1	—	N5/	N8/	5Y8/1	やや密 (2mm以下長石)	良
152	2区 A8	2459	土師器	皿	(10.0)	1.35	—	10YR4/1	7.5YR6/4	7.5YR6/4	やや粗	良 / 内面 スス付着
153	2区 A7	2322	須恵器	甕		残 5.3	—	N5/	N5/	N5/	密	良

掲載番号	地区	遺構・層位	種類	器種	法量 (cm / 括弧内は復元径)			色調			胎土	焼成 / 備考
					口径	器高	底径・高台径	内面	外面	断面		
154	2区 D10	2394	白磁	椀	(16.0)	残 3.4	—	7.5Y8/1	7.5Y8/1	N8/	密	良
155	2区 A-D1	2a層	瓦質土器	羽釜	(26.0)	残 4.9	—	5Y4/1	5Y4/1	5Y8/1	やや密	不良
156	2区 A-D1	2a層	瓦質土器	羽釜	(22.0)	残 3.7	—	2.5Y8/3	2.5Y7/1	2.5Y7/4	粗	不良
157	2区 A-E9-11	2a層	瓦質土器	摺鉢	(30.6)	残 6.1	—	5Y5/1	5Y3/1	5Y8/2	粗	不良
158	2区 A-D1	2a層	瓦質土器	摺鉢		残 4.5	—	2.5Y7/2	10YR7/2	7.5YR7/4	やや密 (2mm以下チャート、長石)	良
159	2区 A-D1	2a層	瓦質土器	火鉢		残 4.6	—	10YR5/4	10YR6/6	2.5Y8/2	やや粗 (3mm以下チャート、長石、石英)	摩滅著しい
160	2区 AB3-4	2b層	須恵器	环身	(11.5)	残 2.2	—	N5/	N5/	10YR4/1	やや密	良
161	2区 AB1-5	2b層	須恵器	环身	(11.4)	残 3.0	—	N5/	N5/	N6/	密	良
162	2区 C1	2b層	瓦器	椀	(18.0)	残 2.7	—	N5/	N4/	5Y8/1	密	良
163	2区 AB1-5	2b層	瓦器	椀	(9.0)	残 2.15	—	N4/	5Y3/1	5Y8/1	密	やや不良
164	2区 AB1-3	2b層	瓦器	椀	(10.0)	残 1.7	—	N4/	N4/	5Y8/1	密	良
165	2区 C1	2b層	瓦器	椀		残 1.0	高台径 (3.6)	2.5Y8/2	2.5Y8/2	2.5Y5/3	やや粗 (2mm以下長石)	良
166	2区 AB3-4	2b層	瓦器	椀		残 0.75	高台径 (4.2)	2.5Y7/2	5Y5/1	5Y8/1	密	やや不良
167	2区 AB3-4	2b層	瓦器	椀		残 0.9	高台径 4.4	N8/	N8/	N8/	密 (0.5m以下長石、チャート、良雲母)	
168	2区 AB1-3	2b層	瓦器	椀		残 1.3	高台径 (5.2)	5Y8/1	5Y8/1	5Y7/1	やや粗 (2mm以下長石)	良
169	2区 AB1-2	2b層	瓦器	皿	(6.4)	1.0	—	7.5Y3/1	7.5Y3/1	5Y8/1	密	やや不良
170	2区 AB5	2b層	瓦器	皿	(8.0)	残 1.2	—	N3/	N3/	2.5Y7/1	密	良
171	2区 AB3-4	2b層	瓦器	皿	(10.0)	残 1.4	—	N4/	N4/	2.5Y8/1	やや粗 (2mm以下長石)	良
172	2区 C1	2b層	土師質	羽釜	(24.0)	残 5.5	—	10YR7/4	10YR7/4	10YR8/3	粗 (3mm以下長石)	良
173	2区 AB1-5	2b層	土師器	羽釜	(19.4)	残 3.7	—	10YR8/3	10YR8/2	10YR8/2	粗	不良
174	2区 AB1-3	2b層	土師質	羽釜		残 3.8	—	7.5YR5/6	10YR6/4	7.5YR5/6	密 (1mm以下長石、チャート)	良
175	2区 AB3-4	2b層	瓦質土器	羽釜		残 4.2	—	10YR7/1	2.5Y8/2	5Y7/4	やや密	やや不良
176	2区 C3-4	2b層	瓦質土器	羽釜	(27.0)	残 3.8	—	5Y4/1	5Y4/1	2.5Y7/4	やや粗 (3mm長石、1mm以下長石)	良
177	2区 C3-4	2b層	瓦質	土錐			残存長 4.1	N3/	N3/	5Y8/1	粗	良
178	2区 B1-2	2c層	須恵器	环蓋	(13.6)	残 1.0	—	7.5Y6/1	7.5Y6/1	N7/	密	良
179	2区 B1-2	2c層	須恵器	环		残 1.7	(9.8)	7.5YR5/1	7.5YR6/1	7.5YR6/1	やや密	良
180	2区 B1-2	2c層	土師器	皿	(8.7)	残 1.65	—	10YR8/4	7.5YR7/6	10YR4/3	粗	不良
181	2区 B1-2	2c層	瓦器	椀	(12.0)	残 2.3	—	7.5Y4/1	5Y5/1	5Y7/1	密	やや不良
182	2区 B1-2	2c層	瓦器	椀		残 0.45	—	N3/	N3/	10YR7/4	やや密 (1mm以下長石)	良
183	2区 B1-2	2c層	土師器	羽釜		残 2.9	—	7.5YR6/3	10YR7/3	5YR7/4	粗	不良
184	2区 B1-2	2c層	土師器	羽釜		残 4.75	—	10YR8/2	10YR8/2	7.5YR6/6	粗	不良

掲載番号	地区	遺構・層位	種類	器種	法量 (cm / 括弧内は復元径)			色調			胎土	焼成 / 備考
					口径	器高	底径・高台径	内面	外面	断面		
185	2区 CD1	1層	須恵器	壺		残 2.0	高台径 (6.4)	N5/	N4/	5YR5/4	やや粗	良
186	2区 A3	2層	瓦質土器	小型羽釜	(8.6)	残 2.5	—	5Y5/1	5Y7/1	5Y8/1	密	良
187	2区 A2	2層	瓦質土器			残 4.25	—	5Y4/1	5Y5/1	7.5Y7/4	やや密	不良 / 穿孔あり
188	3区 A1	2層	瓦質土器	摺鉢	(29.5)	残 5.0	—	5Y6/1	5Y2/1	5Y8/1	密	不良
189	3区 A1	2層	瓦器	皿	(8.0)	1.1	—	10YR2/1	10YR2/1	10YR7/4	やや粗	やや不良
190	5区 D4	SB001-N2 掘方埋土	土師器	杯	—	(4.0)	—	2.5YR6/6	2.5YR7/6	2.5YR6/8	密	良 / 暗文 は3~5 mm間隔
191	5区 D4	SB001-S2 柱抜埋土	土師器	杯	—	(1.0)	—	5YR6/6	10YR7/3	5YR6/6	密	良
192	5区 D4	SB001-N2 掘方埋土	土師器	杯		(1.3)	—	5YR6/6	10YR7/3	5YR6/6	密	良
193	5区 D4	SB001-N3 掘方埋土	土師器	杯	(20.0)	(1.9)	—	7.5YR7/4	5YR6/6	7.5YR7/4	密	良
194	5区 D4	SB001-N2 掘方埋土	土師器	甕	(21.0)	(3.9)	—	5YR7/4	7.5YR7/6	7.5YR7/6	やや密	良
195	5区 D4	SB001-N2 掘方埋土	土師器	甕			—	7.5YR7/4	7.5YR7/4	7.5YR8/2	密	良
196	5区 D4	SB001-S2 柱抜取埋土	須恵器	杯	(14.0)	(3.1)	—	N5/	N5/	N6/	やや粗	良
197	5区 D4	SB001-S2 柱抜取埋土	石器	石鏃	最大長 2.4cm	最大幅 1.8cm	—					
198	4区 A1-2	1層	瓦	軒丸瓦			—	N4/	N4/	5Y7/1	粗	良
199	4区 A1-2	1層	瓦	丸瓦			—	N4/	N4/	5Y7/1	やや粗	良
200	4区 A1-2	1層	陶器	椀?	(1.9)	高台径 (10.0)	5YR4/1	5YR4/1	2.5YR4/2	密	良	
201	4区 A1-2	1層	不明	不明			—	10YR8/2	10YR8/2	10YR8/2	密	良
202	4区 AB2	1層	鉄器	刀子?	最大長 9.5cm	最大幅 0.8cm	—					
203	4区 A1-2	1層	石製品	不明	最大長 3.6cm	最大幅 0.6cm	—					
204	4区 表採	機械掘削土中	瓦質	甕	頸部径 (30.0)	(4.6)	—	N7/	N7/	5Y8/2	粗	やや不良
205	5区 D2	2a層	鉄器	釘?	最大長 7.5cm		—					
206	5区 D1	2層	陶器	すり鉢	(25.2)	(3.65)	—	N5/	N5/	N5/	密	良
207	5区 D2	2a層	瓦質	すり鉢	—	(2.3)	—	2.5Y7/1	2.5Y5/1	2.5Y7/1	密	良
208	4区 B7	2a層	瓦質	すり鉢			—	5Y6/1	5Y6/1	5Y6/1	密	良
209	5区 D1	2層	瓦器	椀	(16.0)	(2.7)	—	5Y6/1	5Y6/1	5Y7/1	密	良
210	4区 B7	2a層	瓦器	椀		(0.7)	高台径 (5.0)	2.5Y6/1	2.5Y6/1	2.5Y6/3	密	良
211	4区 AB1-2	2層	瓦器	皿	(8.0)	1.6	—	7.5Y7/1	7.5Y4/1	10YR6/6	密	良
212	4区 A2	2層	瓦器	皿	(8.0)	1.1	—	7.5Y3/1	7.5Y3/1	10YR6/6	やや密	良
213	4区 A2	2層	土師器	皿	(9.0)	1.2	—	5YR6/4	7.5YR6/4	5YR6/6	やや密	良
214	5区 D1	2a層	土師器	皿?	—	(1.5)	—	7.5YR6/4	7.5YR6/4	7.5YR6/4	密	良
215	5区	2層	瓦質	羽釜	(24.8)	(3.7)	—	2.5Y7/2	2.5Y5/1	10YR5/4	密	良

掲載番号	地区	遺構・層位	種類	器種	法量 (cm / 括弧内は復元径)			色調			胎土	焼成 / 備考
					口径	器高	底径・高台径	内面	外面	断面		
216	5区 D1	2a層	土師器	羽釜	鋸部径 (31.2)	(2.85)	—	7.5YR5/6	7.5YR5/6	7.5YR5/6	やや密	良
217	5区 CD5	2層	須恵器	杯 G 蓋	(9.6)	(1.95)	—	N5/	N7/	10R4/2	密	良
218	5区 D1	2層	須恵器	壺?	(12.0)	(1.75)	—	N6/	N6/	N7/	密	良
219	4区 B7	2a層	須恵器	杯 B		(2.3)	高台径 (7.0)	N6/	N5/	N6/	密	良
220	5区 D1	2a層	須恵器	杯	(20.0)	(2.85)	—	N6/	N6/	N6/	密	良
221	5区 DE1	2a層	須恵器	杯 B		(2.65)	高台径 (12.0)	N6/	N6/	7.5R5/1	密	良
222	5区 D1	2a層	須恵器	杯	(16.0)	(1.5)	—	N6/	N6/1	N6/	密	良
223	4区 AB1-2	2層	須恵器	杯 B		(1.6)	高台径 (12.0)	N7/	7.5Y5/1	N6/	密	良
224	5区 D1	2a層	須恵器	杯	—	(2.8)	—	N6/	N6/	N6/	密	良
225	5区 D1	2a層	須恵器	杯	—	(2.8)	—	10Y5/1	10Y5/1	10Y5/1	密	良
226	5区 D1	2a層	須恵器	平瓶	肩部径 (22.0) 頸部内径 (6.2)	(6.2)	—	N7/	N7/	N6/1	密	良
227	4区 AB1-2	2層	須恵器	壺?	(15.4)	(2.6)	—	N6/	N5/	N6/	粗	良 / 壺等の口縁部か?
228	5区 DE1	2a層	須恵器	壺		(4.5)	—	5Y6/1	2.5Y7/1	2.5Y7/1	密	良
229	4区 AB1-2	2層	須恵器	壺		(4.65)	—	N8/	N5/	2.5YR5/2	密	良 / 壺等の頸部か?
230	5区 D1	2a層	須恵器	壺	(10.0)	(3.7)	—	10Y5/1	10Y5/1	10YR7/1	密	良 / 口縁内面に自然釉
231	5区 DE1	2a層	須恵器	壺	頸径 (10.4)	(2.8)	—	2.5Y7/1	2.5Y7/2	2.5Y7/2	密	良 / 外面に自然釉
232	5区 D1	2a層	須恵器	壺		(1.4)	—	5RP5/1	N6/	10R5/2	密	良
233	5区 D1	2層	須恵器	壺	頸部径 (20.5)	(3.7)	—	N6/	N6/	N6/	密	良
234	5区 D1	2層	須恵器	鉢?	—	(4.3)	—	N6/	N6/	N6/	密	良
235	5区 D1	2a層	土師器	杯 A	(18.0)	(1.4)	—	7.5YR6/6	7.5YR6/6	7.5YR6/6	密	良
236	5区 D1	2層	土師器	杯 B		(3.0)	高台径 (20.0)	10YR7/4	10YR7/4	5YR5/6	密	良
237	5区 D1	2a層	土師器	高杯		(3.85)	脚部最小径 (3.5)	10YR7/3	10YR7/3	7.5YR5/6	密	良 / 8面取か?
238	4区 A1	2b層	土師器	甕	(30.5)	(5.7)	—	5YR6/4	10YR7/4	2.5Y6/6	密	良
239	5区 D1	2a層	土師器	甕	(25.0)	(6.2)	—	10YR8/2	10YR8/2	5YR6/8	粗	良

【付表2 粘土採取土坑一覧表】

番号	地区	長径	短径	深さ	埋土分類	出土土器	埋土の特徴	番号	地区	長径	短径	深さ	埋土分類	出土土器	埋土の特徴	
1005	1区 6	160	56-	10	B1	図7 12	2.5Y5/1 黄灰色砂質シルトに第5層ブロック 50%混じる層主体、下層 2.5Y6/4 にぶい黄色砂質シルト	1050	1区 4	70	65	22	B1	図7 25	2.5Y5/1 黄灰色砂質シルトに第5層ブロック (小) 混じる層主体、底 2.5Y5/1 灰黄色砂質シルト	
1006	1区 6	220	90-	19	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 10%混じる層主体、上層に第5層ブロック	1051	1区 4	93	48	22	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (大) 5~40%混じる層複数	
1007	1区 5-6	135	66-	29	A2		2.5Y5/1 黄灰色粘質シルトに第5層ブロック (小) 50%混じる層主体	1052	1区 4	190	142	38	A2	図7 17	2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (小) 30%混じる層主体	
1008	1区 6	86	50-	23	A2		2.5Y6/1 黄灰色砂質シルトに第5層ブロック (小) 40%混じる	1053	1区 4	121	70	29	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 20%混じる層主体	
1009	1区 6	122	86	26	B1		2.5Y5/1 黄灰色砂質シルトに第5層ブロック (大) 70%混じる層主体、底 2.5Y5/1 灰色粘質シルト層	1054	1区 4	153	86	39	B1	図7 24	2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (小) 30%混じる層主体、底 2.5Y5/1 黄灰色砂質シルト	
1010	1区 6	47	47	14	A2	図7 8	2.5Y5/1 黄灰色粘質シルトに第5層ブロック (中) 40%混じる層主体	1055	1区 4	94	55	11	A1		2.5Y6/1 黄灰色砂質シルトに第5層ブロック (中) 20%混じる	
1012	1区 7	80	20-	42	A2	図7 8	2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック 50%混じる層主体	1058	1区 3-4	55	44	18	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (大) 40%混じる	
1013	1区 7	52	40-	47	A2	図7 67	2.5Y6/1 黄灰色砂質シルトに第5層ブロック 70%混じる層主体	1059	1区 4	67	46	8	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック 30%混じる	
1014	1区 8	83	54	16	B1		2.5Y5/1 黄灰色砂質シルトに第5層ブロック (小) 5%混じる、下層に砂質シルト層	1060	1区 3-4	80-	40	36	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (大) 40~50%混じる層主体	
1015	1区 8-9	150	90	(22)	B1	図7 13	2.5Y6/1 黄灰色砂質シルト主体、上層 2.5層ブロック (中) 50%混じる	1061	1区 4	102	75	14	A2		2.5Y6/1 黄灰色砂質シルトに第5層ブロック (中) 20%混じる層主体、底に第5層ブロック (大)	
1016	1区 9	66	55	(21)	A2		2.5Y6/1 黄灰色砂質シルトに第5層ブロック 10%混じる	1062	1区 4	72	60	27	A2	図7 26	2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (大) 40%混じる層主体	
1017	1区 9	150	45	(26)	B1		2.5Y5/1 黄灰色砂質シルトに第5層ブロック (小) 5%混じる、下層 2.5Y6/2 灰黄色砂質シルト層	1064	1区 3-4	70	-	42	B1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (大) 40%混じる層主体、間に砂質シルト層挟む	
1018	1区 8	95	92	(20)	A1		2.5Y6/1 黄灰色砂質シルトに第5層ブロック (小) 10%混じる	1065	1区 3-4	50-	45	16	B1	図7 21	2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 20%混じる層主体、底に砂質シルト層	
1019	1区 8	40	30	(13)	A2	図7 9	2.5Y5/2 暗灰黄色砂質シルトに第5層ブロック 混じる	1066	1区 3-4	110	-	42	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 40%混じる層主体、間に 2.5Y6/1 黄灰色砂質シルト層挟む	
1020	1区 8	89	60	(18)	C		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルト	1067	1区 4	83	41-	21	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 30%混じる	
1021	1区 8	134	104	39	B1		2.5Y6/1 黄灰色砂質シルトに第5層ブロック (大) 80%混じる層主体、間に第5層ブロック 20%混じる層挟む	1068	1区 4	216	92	38	A2	図7 22	上層 2.5Y6/1 黄灰色砂質シルトに第5層ブロック (大) 40%混じる、下層第5層ブロック (中) 40%	
1022	1区 8	183-	170	42	B1	図7 10	2.5Y5/2 暗灰黄色砂質シルト主体、上下層に第5層ブロック 含む	1069	1区 4	116	104	38	A2	図7 19-20	2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (大) 50%混じる層主体	
1023	1区 9	190	72	(25)	(C)	図7 11			1070	1区 4	99	66	33	A2		2.5Y6/1 黄灰色砂質シルトに第5層ブロック (中) 40~50%混じる層複数
1024	1区 8	57	50	(12)	(C)		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルト主体	1071	1区 4	124	48	16	A2		2.5Y7/1 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 5~40%混じる層複数	
1025	1区 8	32	24	(8)	(A1)		2.5Y5/2 暗灰黄色砂質シルト層	1074	1区 5	169	107	22	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (小) 10%混じる層主体	
1026	1区 9	45	36	(13)	A1		2.5Y6/1 黄灰色粘質シルトに第5層ブロック 混じる	1075	1区 5	90	70	16	C		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルト	
1027	1区 7-8	150	124	27	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (大) 50%混じる層主体	1076	1区 4	61	45	35	A2		2.5Y6/1 黄灰色砂質シルトに第5層ブロック (中) 30%混じる層主体	
1028	1区 7	235	160-	20	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 15%混じる層主体	1077	1区 4	94	32	34	A2		2.5Y7/1 灰白色砂質シルトに第5層ブロック (中) 5~40%混じる層複数	
1029	1区 7-8	231	200	25	A2		2.5Y5/1 黄灰色砂質シルトに第5層ブロック 30%混じる層主体	1078	1区 3	105-	52-	(11)	A2		2.5Y6/1 黄灰色砂質シルトに第5層ブロック (大) 30%混じる層主体	
1030	1区 7-8	182	157	32	A2		2.5Y6/1 黄灰色砂質シルトに第5層ブロック (大) 80%混じる層主体	1079	1区 3	60-	50	49	B1		2.5Y6/1 黄灰色砂質シルトに第5層ブロック (大) 20~80%混じる層複数、間に 2.5Y5/1 黄灰色砂質シルト層挟む	
1031	1区 6	90-	90	35	A2		2.5Y5/1 黄灰色砂質シルトに第5層ブロック (小) 5%混じる層主体	1080	1区 3	108-	90-	41	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (大) 20~80%混じる層複数	
1032	1区 8	160	82	(20)	A2	図7 18	2.5Y6/1 黄灰色砂質シルトに第5層ブロック (中) 20%混じる層主体	1081	1区 3	68	43	(11)	A2		2.5Y6/1 黄灰色砂質シルトに第5層ブロック (中) 30%混じる層主体、下層 2.5Y6/1 黄灰色砂質シルト	
1033	1区 8	135	75	(12)	A2		2.5Y6/1 黄灰色砂質シルトに第5層ブロック (中) 30%混じる層主体	1082	1区 3	95	55-	38	A2		2.5Y5/1 黄灰色砂質シルトに第5層ブロック (中) 70%混じる層主体	
1034	1区 8	60	51	44	A2	図7 14	2.5Y6/1 黄灰色砂質シルトに第5層ブロック (中) 40%混じる層主体	1083	1区 3	90-	62	34	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (小) 20%混じる層主体、下層第5層ブロック (大)	
1035	1区 8	120	-	52	A2		2.5Y6/1 黄灰色砂質シルトに第5層ブロック (中) 40%混じる層主体	1088	1区 3	68	56	(16)	A2		2.5Y6/1 黄灰色砂質シルトに第5層ブロック (中) 50%混じる層主体	
1037	1区 8	140	91	40	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 10~30%混じる層複数	1102	1区 3	330-	300-	33	B1	図7 27-28	2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (小) 20~60%混じる層主体、底砂質シルト	
1039	1区 4	140-	90-	22	A2	図7 16	2.5Y6/1 黄灰色砂質シルトに第5層ブロック (大) 5%混じる層主体	1103	1区 6-7	497-	476	31	A2	図8 29-36	2.5Y6/1 黄灰色砂質シルトに第5層ブロック (大) 20~60%混じる層複数	
1040	1区 4	73	31	25	A2		2.5Y6/1 黄灰色砂質シルトに第5層ブロック (中) 30%混じる層主体	1104	1区 5-6	551	465-	62	A2	図8 37-42	2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 20%混じる層ほか複数層からなる	
1041	1区 4-5	98	65	11	A1		2.5Y6/1 黄灰色砂質シルトに第5層ブロック (中) 5%混じる	1110	1区 4	70-	77	23	B1		2.5Y6/1 黄灰色砂質シルトに第5層ブロック (大) 20~40%混じる層主体、中層 2.5Y6/1 黄灰色砂質シルト	
1042	1区 4	75	60	19	A2	図7 15	2.5Y5/1 黄灰色砂質シルトに第5層ブロック (中) 40%混じる層主体	1111	1区 5	52-	40	33	A2		2.5Y6/1 黄灰色砂質シルトに第5層ブロック (中) 50%混じる層主体	
1043	1区 4	137	102	27	A2		2.5Y5/1 黄灰色砂質シルトに第5層ブロック (中) 30%混じる層主体、上層第5層ブロック (大)	1112	1区 4	70	30-	32	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (大) 70%混じる層主体、下層第5層ブロックわずか	
1044	1区 4-5	77	76	12	A2		2.5Y6/1 黄灰色砂質シルトに第5層ブロック (中) 50%混じる	1115	1区 4-5	220-	201	32	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (大) 70~80%混じる層主体	
1045	1区 5	86	51	26	B1		2.5Y5/2 暗灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (大) 60%混じる層主体、底 2.5Y5/1 黄灰色砂質シルト	2003	2区 A4	97	80	25	A2	図35 121	2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 20%混じる層主体	
1046	1区 4	85	46	37	A2	図7 23	2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (大) 70%混じる層主体	2004	2区 A4	72-	89	30	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (小) 5%混じる層主体	
1047	1区 4	77	70	30	B1		2.5Y5/2 暗灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (大) 80%混じる、上層 2.5Y5/2 暗灰黄色砂質シルト	2005	2区 A4	81	53	28	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 5%混じる	
1048	1区 4	97	68	30	A2		2.5Y6/2 暗灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 40%混じる層主体	2006	2区 A4	50-	43	28	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック 15%混じる	
1049	1区 4	100	54	27	A2		2.5Y5/2 暗灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (大) 80%混じる層主体	2018	2区 C3	165	52	32	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (小) 20%混じる層主体	

番号	地区	長径	短径	深さ	埋土分類	出土土器	埋土の特徴
2019	2区 C3	138	90	45	B1		上層 2.5Y6/1 黄灰色砂質シルト、下層 2.5Y6/2 灰黄色シルト、中層に第5層ブロックを挟む
2020	2区 C3	60-	65	33	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 40%混じる
2021	2区 C3	80-	87	40	B1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 50%混じる層主体、底 2.5Y6/2 灰黄色細粒砂～シルト
2022	2区 C3	75-	49	27	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 30%混じる
2023	2区 C3	90-	100	30	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(小) 40%混じる
2024	2区 C3	80-	88	28	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 40%混じる
2025	2区 C3	52	50	38	A2		上層 2.5Y7/1 黄灰色砂質シルトに第5層ブロック(中) 50%混じる、下層第5層ブロック(中) 60%
2026	2区 C3	87	50	33	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック 30%混じる層主体
2027	2区 C3	100	70	23	A2		2.5Y5/1 黄灰色砂質シルトに第5層ブロック(小) 20%混じる層主体
2029	2区 C3	90	88	30	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 40%混じる層主体
2030	2区 C3	85	73	45	B1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(大) 40%混じる層主体、上層 2.5Y7/2 灰黄色砂質シルト
2033	2区 C3-4	160	70	33	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 40~50%混じる層主体
2034	2区 C3	40-	43	31	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 40%混じる
2036	2区 D4	40-	46	27	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 50%混じる
2037	2区 D4	60-	37	25	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(小) 20%混じる
2039	2区 C-4	64	45	23	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 20%混じる層主体、中層に第5層ブロック層
2040	2区 C3-4	90	74	29	B1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 50%混じる層主体、上層 2.5Y7/2 灰黄色砂質シルト
2041	2区 C3	90	45	23	A2	図35 114	2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 40%混じる層主体
2042	2区 C3	122	44	39	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(大) 30%混じる層主体
2043	2区 C3	75	73	32	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 30%混じる
2044	2区 C3	73	69	37	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(大) 混じる
2045	2区 C3	70-	55	40	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(大) 50%混じる層主体
2048	2区 D4	55-	25	23	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(小) 10%混じる
2049	2区 C4	126	56	22	A2		上層 2.5Y7/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(小) 10%混じる、下層第5層ブロック 40%
2050	2区 C4	65	30	18	A1	図35 113	2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 20%混じる
2051	2区 C4	103	65	33	B1	図35 122	下層 2.5Y6/2 灰黄色砂質シルト、上層 2.5Y7/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(人) 40%混じる
2054	2区 C4	99	60	21	A1		2.5Y7/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 20%混じる
2056	2区 C3-4	110	83	47	B1		上層 2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 40%混じる、下層 2.5Y6/1 黄灰色砂質シルト
2057	2区 C4	133	100	38	A2		2.5Y7/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(人) 20%混じる層主体、中層第5層ブロック(大) 50%
2059	2区 C4	75-	91	39	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(大) 50%混じる層主体
2060	2区 C4	55	48	35	A2		2.5Y6/2 灰色砂質シルトに第5層ブロック(中) 35%混じる層主体、底に第5層ブロック
2061	2区 C4	60	55-	20	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(小) 混じる
2063	2区 C4	103-	90-	33	A2		上層 2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 15%混じる、下層第5層ブロック(大) 60%混じる
2064	2区 C4	116	-	25	A2	図35 115	2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(小) 15~30%混じる
2065	2区 E5	86	70	24	A2		2.5Y6/2 灰色砂質シルトに第5層ブロック(中) 20%混じる層主体、上層 2.5Y5/3 黄褐色砂質シルト
2066	2区 E5	90	80	21	A2		2.5Y6/1 黄褐色砂質シルトに第5層ブロック(小) 5%混じる層主体、下層第5層ブロック(大) 30%
2067	2区 E5	124-	60-	37	A2		2.5Y6/2 灰色砂質シルトに第5層ブロック(小) 50%混じる層主体、下層第5層ブロック(大) 20%
2068	2区 DE5	283	140-	35	A2		2.5Y6/2 灰色砂質シルトに第5層ブロック(小) 30%混じる層主体、下層第5層ブロック(大) 20%
2070	2区 DE5	150	72	37	B1		2.5Y6/2 灰色砂質シルトに第5層ブロック(大) 30%混じる、底に 2.5Y 5/2 暗灰黄色砂質シルト
2071	2区 DE5	80	72	28	A2		2.5Y6/2 灰色砂質シルトに第5層ブロック(大) 60%混じる層主体、下層第5層ブロック(大) 70%
2072	2区 D5	90	63	29	A2		2.5Y5/1 黄灰色シルトに第5層ブロック(大) 60%混じる層主体
2073	2区 D5	137	60-	34	A2		2.5Y7/3 浅黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 30%混じる層主体
2074	2区 D4-5	50	35-	43	A1		2.5Y5/3 黄褐色砂質シルトに第5層ブロック(小) 20%混じる
2075	2区 D5	103-	78	35	A1		2.5Y5/3 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 30%混じる
2076	2区 D5	50	40	30	A1		2.5Y5/3 黄褐色砂質シルトに第5層ブロック(中) 20%混じる

番号	地区	長径	短径	深さ	埋土分類	出土土器	埋土の特徴
2077	2区 D5	112	79	17	A2		2.5Y6/4 にびい黄色砂質シルトに第5層ブロック(小) 10%混じる層主体、下層第5層ブロック(中) 50%
2078	2区 D5	127	63	25	A2		上層 2.5Y5/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 50%混じる、下層第5層ブロック(中) 60%
2079	2区 D5	59	52	33	A2		2.5Y5/2 暗灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(大) 80%混じる層主体
2080	2区 D5	58	45	31	A2	図35 124	上層 2.5Y6/3 にびい黄色砂質シルトに第5層ブロック(小) 30%混じる、下層第5層ブロック(中) 50%
2081	2区 D5	80	67	30	A2		2.5Y6/4 にびい黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 20%混じる層主体
2082	2区 D5	95	65	26	A2		上層 2.5Y7/1 黄灰色砂質シルトに第5層ブロック(小) 40%混じる、下層第5層ブロック(小) 5%
2083	2区 DE5	125	65	21	A2		2.5Y5/3 黄褐色砂質シルトに第5層ブロック(中) 80%混じる層主体
2084	2区 E5	107	80	21	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(小) 40%混じる、底に第5層ブロック(大)
2085	2区 E5	65-	71	25	C		2.5Y4/4 オリーブ褐色砂質シルト
2086	2区 D5	124	82	46	A2		2.5Y6/3 にびい黄色砂質シルトに第5層ブロック(小) 10%混じる、下層に第5層ブロック(大) 混じる層
2087	2区 D5	100	75	33	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(小) 20%混じる
2088	2区 D5	135	23	24	A1	図35 13132	2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(小) 10%混じる
2089	2区 D5	87	70-	25	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(大) 60%混じる
2090	2区 D5	124	115	40	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 20%混じる
2091	2区 D5	60	40	32	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(大) 60%混じる、上面に帯状に第5層ブロック
2092	2区 D5	92-	82	35	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 40%混じる
2093	2区 D5	65	58	35	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 40%混じる
2094	2区 D5	94	86	40	B1		2.5Y6/3 にびい黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 60%混じる層主体
2095	2区 D5	84	68	27	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(小) 10%混じる
2096	2区 D5	80-	70-	30	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 20%混じる
2097	2区 D5	120-	74	30	A2	図35 133	2.5Y6/3 にびい黄色砂質シルトに第5層ブロック(大) 20%混じる層主体
2098	2区 D5	50	48	32	A1	図35 116	2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(小) 15%混じる
2099	2区 B3	170-	98	40	B1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(小) 50%混じる層主体一部 2.5Y6/2 灰黄色砂
2101	2区 B3-4	80-	76	31	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(小) 20%混じる層主体
2102	2区 B4	135-	70	44	B1	図35 125	2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(大) 35%混じる層主体、底に 2.5Y6/1 黄灰色粘質シルト
2103	2区 B4	120-	105	46	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(大) 50%混じる層主体
2104	2区 B4	270-	170-	43	B2	図35 117	2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 30%混じる層主体、下層に水堆積層
2105	2区 B3-4	110	76	50	A2		上層 2.5Y7/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック混じる、下層 2.5Y6/1 黄灰色粘質シルト
2106	2区 B3-4	110	71	38	B1	図35 126	2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 50%混じる層主体、底に 2.5Y7/2 灰黄色砂質シルト
2108	2区 B4	113	85	41	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(大) 60%混じる
2109	2区 B4	141	55	40	B1		2.5Y7/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 40%混じる層主体、下層 2.5Y6/2 灰黄色砂質シルト
2110	2区 B4	88	76	38	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(大) 50%混じる層主体
2111	2区 B4	99	90-	26	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 60%混じる層主体
2112	2区 B4	104	52	47	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 30%混じる層主体
2113	2区 B4	125	70	44	A2	図35 127-128	2.5Y7/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(大) 40%混じる層主体
2114	2区 B4	70	51	38	C		2.5Y6/2 灰黄色砂～シルト
2115	2区 AB4	87	48	46	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 30%混じる層主体
2116	2区 B4	74	59	40	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 10%混じる層主体、上層に第5層ブロック
2117	2区 AB4	150-	74	44	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 230%混じる
2118	2区 A4	80	61	54	A2	図35 129	2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(大) 40%混じる層主体
2119	2区 A4	120-	88	47	A2		上層 2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(大) 50%混じる、下層第5層ブロック(中) 15%混じる
2120	2区 B4	100-	45-	43	A2		上層 2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(大) 20%混じる、下層第5層ブロック(小) 40%混じる
2121	2区 AB4	141	75-	40	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(大) 50~90%混じる層主体
2122	2区 A4	100-	110	49	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(大) 50~90%混じる層主体
2123	2区 A4	100-	88-	47	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(大) 40%混じる

番号	地区	長径	短径	深さ	埋土 分類	出土 土器	埋土の特徴
2124	2区 B4	81	72	22	B1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(小) 10%混じる層主体、下層 2.5Y6/2 灰黄色砂質シルト
2125	2区 B4-5	115	82	37	A2		上層 2.5Y6/3 にぶい黄色砂質シルトに第5層ブロック(小) 5%混じる、下層第5層ブロック(大) 50%
2126	2区 AB4-5	136	90	42	A1		2.5Y7/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(大) 40%混じる
2127	2区 A4-5	100	85	41	A2		上層 2.5Y7/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(大) 50%混じる、下層第5層ブロック(小) 10%
2128	2区 A4-5	95-	69-	45	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(大) 80%混じる
2129	2区 A5	84	57	43	A2		上層 2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 40%混じる、下層第5層ブロック 90%
2130	2区 B4-5	90	46	15	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック 5%混じる
2131	2区 B5	101	52	33	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 30%混じる層主体
2132	2区 B5	106	31	40	A2		2.5Y7/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(小) 50%混じる、下層第5層ブロック 50%
2133	2区 B5	80	64	47	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(大) 50%混じる層主体
2134	2区 B5	67	63	42	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 30%混じる層主体、第5層ブロック層を間に挟む
2135	2区 B5	90	51	35	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 50%混じる
2136	2区 B5	121	59	29	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(大) 40%混じる層主体
2137	2区 B4-5	65-	66	30	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(大) 40%混じる
2138	2区 B5	90	47	35	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(大) 40%混じる
2139	2区 B5	135	75-	45	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 50 ~ 60%混じる層主体
2140	2区 A5	81	60-	46	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 30%混じる層主体
2141	2区 A5	80	57	42	A1		2.5Y6/4 にぶい黄色砂質シルトに第5層ブロック(大) 90%混じる
2142	2区 A5	87	68	39	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 60%混じる層主体
2143	2区 A5	133-	60-	51	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(小) 40%混じる、上面に帶状に第5層ブロック
2145	2区 A5	104	60	42	B1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(大) 60%混じる層主体、下層 2.5Y6/3 喻灰黄色砂質シルト
2146	2区 A5	121	92	52	A2		上層 2.5Y6/1 黄灰色砂質シルトに第5層ブロック(大) 85%混じる、下層第5層ブロック(大) 50%
2147	2区 A5	100	86	53	B1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 50%混じる層主体、底に細砂質シルト堆積
2148	2区 A5	111	88	40	B1		2.5Y7/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(大) 20 ~ 50%混じる層主体、底に細砂質シルト堆積
2150	2区 A5	120	70	33	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 50%混じる
2151	2区 A5	108	58	31	A1	図 26	2.5Y6/1 黄灰色砂質シルトに第5層ブロック(中) 30%混じる
2152	2区 A5	70	65	30	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 40%混じる層主体、下層に第5層ブロック
2153	2区 A5-6	58-	65	33	A2		上層 2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(小) 5%混じる層、下層は第5層ブロック混じる層
2154	2区 A6	63-	-	31	A1	図 26	2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 5%混じる
2155	2区 A6	60	58	26	A1	図 26	2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 50%混じる層、底に第5層ブロック(中) 30%
2156	2区 AB-5	191	160	47	B1	図 26	2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 50%混じる層主体、底に第5層ブロック(中) 30%
2157	2区 AB-5	80	79	41	A2		上層 2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(大) 50%混じる層主体、下層第5層ブロック(中) 30%
2158	2区 B5	137	129	37	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(大) 30 ~ 50%混じる層主体
2159	2区 B5	136	72	43	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(大) 80%混じる層主体
2160	2区 B5	70	50	42	A2		2.5Y6/3 にぶい黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 20%混じる
2161	2区 B5	110	90	42	A2		2.5Y6/1 黄灰色砂質シルトに第5層ブロック(大) 70%混じる
2162	2区 A5	101	72	32	A2		2.5Y6/1 黄灰色砂質シルトに第5層ブロック(中) 50%混じる層主体
2163	2区 A5	118	77	41	A2		2.5Y6/1 黄灰色砂質シルトに第5層ブロック(大) 10%混じる層主体
2164	2区 AB5	105	74	43	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 40%混じる層主体
2165	2区 B5	85	78	38	A2		2.5Y6/1 黄灰色砂質シルトに第5層ブロック(大) 50%混じる層主体
2166	2区 AB5	52	47	36	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(大) 40%混じる
2167	2区 B6	103	61	38	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(大) 50%混じる層主体
2168	2区 B6	127	114	31	A1		2.5Y6/1 黄灰色砂質シルトに第5層ブロック(中) 50%混じる
2169	2区 B6	110	62	35	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(大) 70%混じる
2170	2区 A5	90	83	30	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 30%混じる

番号	地区	長径	短径	深さ	埋土 分類	出土 土器	出土器
2171	2区 A5-6	107	95	45	A2		2.5Y6/1 黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 50%混じる層、下層第5層ブロック(大) 70%
2172	2区 AB6	118	57	37	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(大) 70%混じる層主体、底に第5層ブロック層
2173	2区 A6	213	108	35	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 50%混じる層主体、下層第5層ブロック少ない
2177	2区 E9	120-	75-	25	C		2.5Y6/3 にぶい黄色砂質シルト、わずかに第5層ブロック混じる
2178	2区 DE9	131	95-	11	A1		2.5Y6/3 にぶい黄色砂質シルトに第5層ブロック(小) 30%混じる
2179	2区 D10	75-	65	29	A2		2.5Y6/3 にぶい黄色砂質シルトに第5層ブロック(小) 10%混じる層主体
2180	2区 D10	140	65-	25	A1		2.5Y6/3 にぶい黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 10%混じる
2181	2区 D10	107	68	16	A1		2.5Y6/3 にぶい黄色砂質シルトに第5層ブロック(小) 10%混じる
2182	2区 D10	350	245	25	A2		2.5Y6/3 にぶい黄色砂質シルトに第5層ブロック(小) 20%混じる層主体
2183	2区 D9	101	67	18	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(小) 10%混じる層主体
2184	2区 D9	202	70-	28	A2		2.5Y6/3 にぶい黄色 -6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(小) 15%混じる
2185	2区 D9	120	80-	34	A1		2.5Y6/3 にぶい黄色 -6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(小) 15%混じる
2186	2区 D9	203	145	29	A2	図 35 118-119	2.5Y6/2 灰色砂質シルトに第5層ブロック(中) 20%混じる、上層 2.5Y6/3 にぶい黄色砂質シルト
2187	2区 CD9-10	233	122	36	A2	図 35 118-119	2.5Y6/2 灰色砂質シルトに第5層ブロック(中) 30%混じる、上層 2.5Y6/3 にぶい黄色砂質シルト
2188	2区 CD10	146	78	17	A1		2.5Y6/3 にぶい黄色砂質シルトに第5層ブロック(小) 20%混じる
2189	2区 D10	80	60-	30	A2		2.5Y6/3 にぶい黄色砂質シルトに第5層ブロック(小) 5%混じる
2190	2区 C10	95	55	30	A1		2.5Y6/3 にぶい黄色砂質シルトに第5層ブロック(大) 10%混じる
2191	2区 C10	110	79	24	A1	図 35 120	2.5Y6/3 にぶい黄色砂質シルトに第5層ブロック(小) 10%混じる
2192	2区 C10	120	84	15	C		2.5Y6/3 にぶい黄色砂質シルト、わずかに第5層ブロック混じる
2193	2区 D10	85	60	21	A1		2.5Y6/3 にぶい黄色砂質シルトに第5層ブロック(小) 15%混じる
2194	2区 D9	60	55	24	A1		上層 2.5Y6/3 にぶい黄色砂質シルトに第5層ブロック(小) 10%混じる、下層第5層ブロック(中) 40%
2195	2区 E9	80-	75-	19	A2		2.5Y6/3 にぶい黄色砂質シルト、わずかに第5層ブロック混じる
2196	2区 D9	240	100	31	A1		2.5Y6/3 にぶい黄色 -6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 15%混じる
2197	2区 D8	139	90-	24	A2		2.5Y6/3 にぶい黄色 -6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 15%帶状に混じる
2198	2区 D8	60	30-	20	A1		2.5Y6/3 にぶい黄色 -6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 10%混じる
2199	2区 D8	106	50-	42	A2		2.5Y6/3 にぶい黄色 -6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(小) 5%混じる層主体
2200	2区 D8	110	65	25	A2		2.5Y6/3 にぶい黄色砂質シルトに第5層ブロック(小) 20%混じる
2201	2区 CD9	205	137	33	A2		2.5Y6/3 にぶい黄色砂質シルトに第5層ブロック(小) 20%混じる
2202	2区 CD9	140	99	21	A1		2.5Y6/3 にぶい黄色砂質シルトに第5層ブロック(小) 20%混じる
2203	2区 C9	40	40	10	A1		2.5Y6/3 にぶい黄色砂質シルトに第5層ブロック(小) 5%混じる
2204	2区 C8	88	64	A1		2.5Y6/3 にぶい黄色砂質シルトに第5層ブロック(大) 15%混じる	
2205	2区 C8	-	22	21	C		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルト
2206	2区 C8	-	94	28	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(小) 10%混じる
2207	2区 D8	100	70	22	A1		2.5Y6/3 にぶい黄色砂質シルトに第5層ブロック(小) 20%混じる
2208	2区 C8	128	65	26	A1		2.5Y6/3 にぶい黄色砂質シルトに第5層ブロック(小) 20%混じる
2209	2区 C8	108	105	31	A1		2.5Y6/3 にぶい黄色砂質シルトに第5層ブロック(小) 20%混じる
2210	2区 C8-9	300	110	25	A1		2.5Y6/3 にぶい黄色砂質シルトに第5層ブロック 20%混じる
2214	2区 C9	95	68	25	A1		2.5Y6/3 にぶい黄色砂質シルトに第5層ブロック(小) 20%混じる
2215	2区 C9	72	70	14	A2		2.5Y6/3 にぶい黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 10%混じる
2216	2区 D8	97	70	24	A1		2.5Y6/3 にぶい黄色砂質シルトに第5層ブロック(小) 10%混じる
2218	2区 C8	147	125	22	A1		2.5Y6/3 にぶい黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 20%混じる
2219	2区 CD8	185-	150	35	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(小) 5%混じる
2220	2区 D8	70	55-	12	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(小) 10%混じる
2222	2区 D7	175	52-	30	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 10%混じる
2223	2区 CD7	86	80	24	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(小) 15%混じる

番号	地区	長径	短径	深さ	埋土分類	出土土器	埋土の特徴
2224	2区 D7	40	30-	31	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 10%混じる
2225	2区 CD7	112	70	15	A2		上層 2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (小) 10%、下層 第5層ブロック (中) 40%混じる
2226	2区 C8	71	50	27	A1		2.5Y6/3 にぶい黄色砂質シルトに第5層ブロック (小) 10%混じる
2227	2区 C8	91	70	24	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (小) 10%混じる
2228	2区 C8	167	75	27	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 25%混じる
2229	2区 C8	102	38	30	C		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルト
2232	2区 CD8	104	80	17	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (小) 10%混じる
2234	2区 CD7	125	119	20	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (小) 5%混じる
2235	2区 CD7	104	75	20	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (小) 20%混じる
2236	2区 C7	178	120	19	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (小) 30%混じる
2237	2区 C7	130	90	24	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (小) 15%混じる
2238	2区 C7	160	86	25	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (小) 30%混じる
2239	2区 C7	220-	200-	26	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 25%混じる層主体
2240	2区 C7	200	188	26	C		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルト 第5層ブロックわ ずかに混じる
2241	2区 C7-8	135	72	20	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 30%混じる
2242	2区 C7	128	52	20	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (小) 15%混じる
2243	2区 C7	113	96	33	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック 混じる
2244	2区 C7	138	100	40	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 20%混じる
2245	2区 BC7	110	-	22	A2		上層 2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (小) 10%混じる、下層 第5層ブロック (大) 30%
2246	2区 C7	100	80	18	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 20%混じる、帶状に第5層ブロック
2247	2区 B7	248	180-	33	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (大) 40%混じる
2248	2区 C8	90	54	30	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック 混じる
2249	2区 C8	101	90	25	A2		2.5Y6/3 にぶい黄色砂質シルトに第5層ブロ ック (小) 5%混じる層主体
2250	2区 C7-8	113	50	25	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (小) 30%混じる
2251	2区 C7-8	148	96	17	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 30%混じる層主体
2252	2区 C7	160	60	35	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック わずかに混じる層主体
2253	2区 C7	164	75	25	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (小) 15%混じる
2254	2区 B7	120	85	23	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 20%混じる
2255	2区 B7	121	70	16	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 20%混じる
2256	2区 B7	110	75	33	A1	図 36	2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 15%混じる
2257	2区 B7	117	90	21	A1	図 36 144	2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (大) 30%混じる
2258	2区 B7	92	79	29	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (大) 40%混じる
2259	2区 B7	111	94	21	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 30%混じる
2260	2区 B7	85	70	26	A2		上層 2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (大) 40%混じる、下層 第5層ブロック (小) 20%
2261	2区 B7	160	115	29	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (大) 40%混じる層主体
2262	2区 B7	75	65	15	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 40%混じる
2263	2区 B7	161	81	31	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (大) 30%混じる層主体、上層 第5層ブロック (小) 10%
2264	2区 B7	84	71	28	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (大) 30%混じる層主体
2265	2区 B7-8	159	120	45	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (大) 30%混じる
2266	2区 AB7	245	130-	50	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (大) 30%混じる
2267	2区 AB7	100	99	52	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 30%混じる
2268	2区 B7	210	110-	(27)	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 50%混じる層主体
2269	2区 B7	214	209	31	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (大) 30%混じる
2270	2区 C8	139	100	34	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (大) 20%混じる
2271	2区 C8	123	92	40	C		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルト (わずかに第5層 ブロック混じる)

番号	地区	長径	短径	深さ	埋土分類	出土土器	埋土の特徴
2272	2区 C8	125	54	25	B1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 20%混じる
2273	2区 BC8	110	77	28	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 30%混じる層主体
2274	2区 B8	149	81	36	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 30%混じる層主体
2275	2区 C8	111	82	27	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 20%混じる
2276	2区 C8-9	111	86	23	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 30%混じる
2277	2区 B8	158	90	31	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 20%混じる
2278	2区 B8	124	93	19	B1	図 36	2.5Y6/3 にぶい黄色砂質シルト主体、上層第 5層ブロック (中) 混じる
2279	2区 B8	98	80	-	A2	図 36 145	2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 40%混じる層主体、下層 第5層ブロック 大 15%
2280	2区 B8	254	114	42	A2	図 36 136	2.5Y6/1 黄灰色砂質シルトに第5層ブロック (中) 40%混じる層主体
2281	2区 B9	100	90	40	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (小) 10%混じる
2282	2区 B8-9	160	88	35	A2		2.5Y6/1 黄灰色砂質シルトに第5層ブロック (中) 10%混じる層主体
2283	2区 B8	91	76	37	A2	図 36 146	2.5Y6/1 黄灰色砂質シルトに第5層ブロック (大) 30%混じる層主体
2284	2区 B9	145	123	42	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 30%混じる層主体
2285	2区 B9	84	72	30	A2		2.5Y6/1 黄灰色砂質シルトに第5層ブロック (大) 20%混じる、2.5Y6/2 灰黄色砂質シルト層
2286	2区 C8	102	49	26	A1		2.5Y6/3 にぶい黄色砂質シルトに第5層ブロ ック (大) 20%混じる
2287	2区 C8	136	81	32	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (小) 20%混じる層主体
2288	2区 C8	123	82	18	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック 20%混じる
2289	2区 C8	120	103	37	A1		2.5Y6/3 にぶい黄色砂質シルトに第5層プロ ック (中) 30%混じる
2290	2区 B7-8	163	93	51	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 35%混じる
2291	2区 B7-8	109	60	30	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 20%混じる
2292	2区 C8	158	130	33	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (小) 20%混じる層主体
2293	2区 C8	127	80	13	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (大) 混じる
2294	2区 B7	97	88	29	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (小) 20%混じる
2295	2区 B8	117	61	39	B1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (小) 40%混じる、上層砂礫質シルト層
2296	2区 B8	133	77	22	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (小) 30%混じる
2298	2区 B7-8	105	81	35	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 30%混じる層主体
2299	2区 B7	285	155	34	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (大) 30%混じる層主体
2300	2区 B8	199	119	46	A1		2.5Y6/1 黄灰色砂質シルトに第5層ブロック (中) 20%混じる
2301	2区 B8	120	98	47	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 25%混じる
2302	2区 B8	70	53	40	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 20%混じる
2303	2区 B8	102	55	38	A2		2.5Y6/1 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (大) 40%混じる
2304	2区 B9	80	69	33	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (小) 10%混じる
2305	2区 B9	110	65	40	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (小) 10%混じる
2306	2区 B9	165	138	43	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 20%混じる
2308	2区 B9	113	57	26	A1		2.5Y6/3 にぶい黄色砂質シルトに第5層ブロ ック (中) 30%混じる
2309	2区 B9	89	68	24	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 30%混じる層主体
2310	2区 B9	161	117	31	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 30%混じる層主体、底に第5層ブロック堆積
2311	2区 B9	120	98	31	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 30%混じる
2312	2区 B8-9	110	108	36	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (小) 10%混じる層主体、下層 第5層ブロック (大)
2313	2区 B8-9	100	72	40	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 20%混じる
2314	2区 B8	153	73	34	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (大) 40%混じる
2315	2区 B8	145	125	45	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 20%混じる層主体
2316	2区 B8	160	98	46	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (大) 30%混じる
2317	2区 B8	116	100	35	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (大) 30%混じる
2318	2区 AB9	110	73	26	A2	図 36 147	2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック 混じる

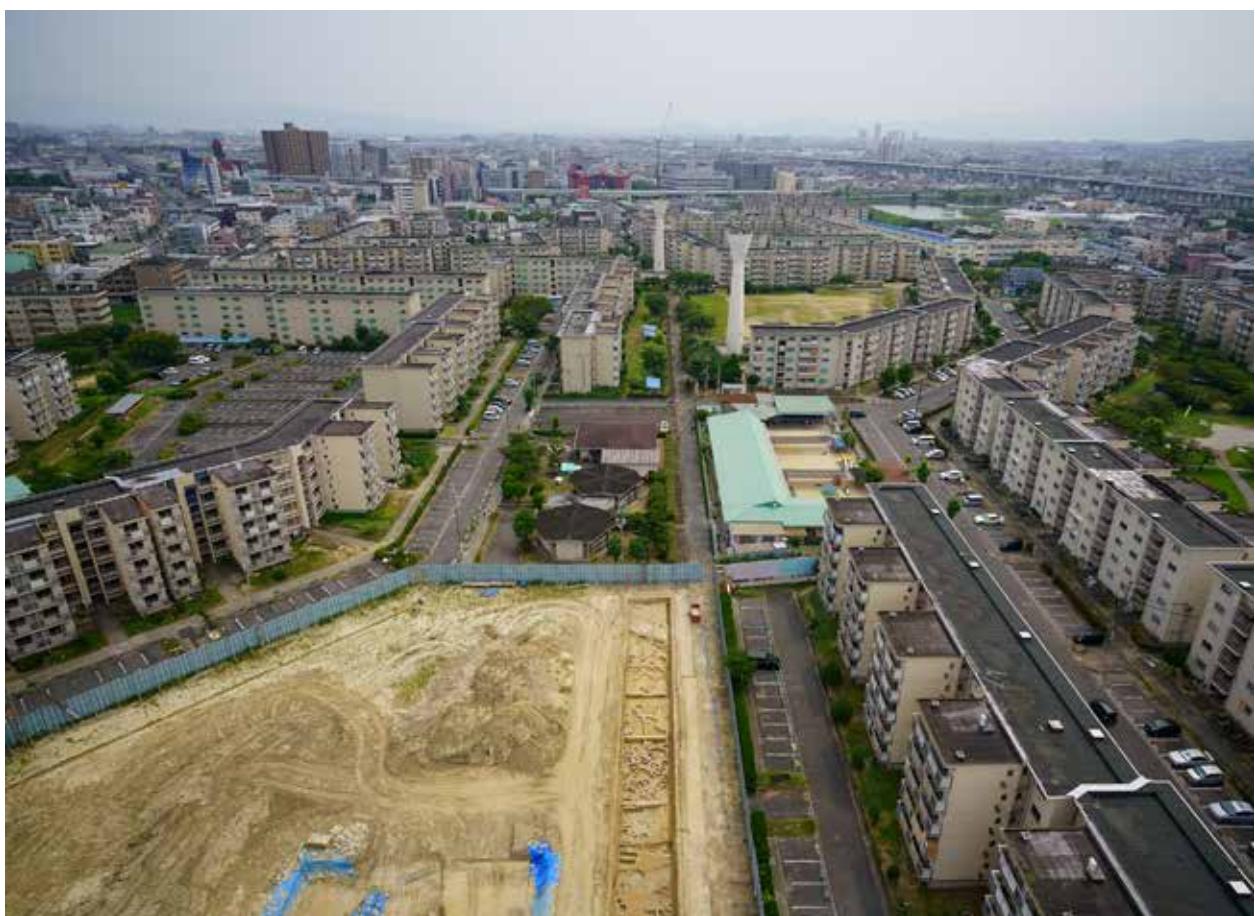
番号	地区	長径	短径	深さ	埋土 分類	出土 土器	埋土の特徴
2319	2区 AB9	88	40	42	C	図 36 143	10Y6/1 黄灰色砂質シルト
2320	2区 AB9	204	100	30	A1	図 36 139	2.5Y6/2 灰黄色～2.5Y6/1 黄灰色砂質シルト に第5層ブロック40%混じる
2321	2区 A7	74	60	34	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (大) 30%混じる
2322	2区 A7	230	210	56	A2	図 36 153	2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 30～40% 混じる層主体、下層第5層ブロック(大) 70%
2323	2区 A7	118	95	46	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (大) 40%混じる
2324	2区 A7	114	75	57	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (大) 40%混じる
2325	2区 A7	101	59	43	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (大) 30%混じる層主体、底に第5層ブロック堆積
2326	2区 A6-7	120-	80	(23)	A1		2.5Y6/1 黄灰色砂質シルトに第5層ブロック (大) 40%混じる
2327	2区 A7	124	59	33	A2		2.5Y6/1 粘質シルト、上層 2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック混じる
2328	2区 A7	180-	163-	57	A2		上層 2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (大) 50%混じる、下層第5層ブロック (大) 70%
2329	2区 A7	188	90	60	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (大) 40%混じる
2330	2区 C11	220-	140-	40-	A1		2.5Y6/3/にぶい黄色砂質シルトに第5層ブロッ ク(中) 20%混じる
2331	2区 B11	110-	104	53	A2		2.5Y6/3/にぶい黄色砂質シルトに第5層ブロッ ク(中) 30%混じる
2332	2区 B11	172	171	35	A1	図 36 148	2.5Y6/3/にぶい黄色砂質シルトに第5層ブロッ ク(中) 20%混じる
2333	2区 B11	210-	160	39	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (小) 30%混じる
2334	2区 B11	210-	200	46	A2		上層 2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (小) 50%混じる、下層第5層ブロック (中) 30%
2335	2区 A11	415	250-	32	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 15～30%混じる層複数
2336	2区 A11	90	50-	38	A1		2.5Y6/3/にぶい黄色砂質シルトに第5層ブロッ ク(小) 30%混じる
2337	2区 A11	65-	60-	44	A1		2.5Y6/3/にぶい黄色砂質シルトに第5層ブロッ ク(小) 30%混じる
2338	2区 A11	80-	80	58	A1		2.5Y6/3/にぶい黄色～5/3 黄褐色砂質シルト に第5層ブロック(中) 30%混じる
2339	2区 A11	160	110-	62	A1		2.5Y6/3/にぶい黄色～5/3 黄褐色砂質シルト に第5層ブロック(中) 30%混じる
2340	2区 C11	80-	55	23	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 40%混じる
2341	2区 C11	113	81	40	A2		上層 2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (小) 20%混じる、下層第5層ブロック (中) 20%
2342	2区 C11	115-	110	29	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (小) 20%混じる
2343	2区 C11	85	48	18	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 30%混じる
2344	2区 C10	160	120	11	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (小) 20%混じる
2345	2区 C10-11	192	177	22	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (大) 30%混じる
2346	2区 C10-11	132	114	28	A2	図 36 134	2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 30%混じる層主体
2347	2区 C11	131	95	29	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 10%混じる層主体
2348	2区 C11	129	113	38	A2	図 27 110	2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (小) 30%混じる層主体
2349	2区 B10	160-	158	37	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 30%混じる
2350	2区 B10	104	79	39	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 40%混じる層主体、下層第5層ブロック(大)
2352	2区 C10	146	108	22	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 20%混じる
2353	2区 C10	162	130	27	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 30%混じる
2354	2区 C10	84	75	30	C		2.5Y7/1 灰白色砂質シルト
2355	2区 C10	72	52	32	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 20%混じる層主体
2356	2区 C10	82	57	31	A2		上層 2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロックわ ずかに混じる、下層第5層ブロック (小) 20%
2357	2区 CB10	162	160	46	A2	図 36 135	2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (小) 30%混じる層主体
2358	2区 B10	140-	122	30	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (小) 40%混じる
2359	2区 B10	150	150	35	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (大) 50%混じる
2360	2区 B10	140	90	39	A2		上層 2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (小) 20%混じる、下層第5層ブロック (大) 40%
2361	2区 B10	102	92	42	A2	図 27 111	上層 2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (小) 20%混じる、下層第5層ブロック (中) 30%
2362	2区 B10	130	82	42	A2	図 27 112	上層 2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (小) 20%混じる、下層第5層ブロック (中) 30%
2363	2区 C10	98	60	36	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 20%混じる
2364	2区 C10	174	75	27	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (小) 20%混じる

番号	地区	長径	短径	深さ	埋土 分類	出土 土器	埋土の特徴
2365	2区 C10	202	69	34	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 20%混じる
2367	2区 C9-10	190	156	31	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 40%混じる層主体
2368	2区 C9	130	129	25	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 40%混じる
2369	2区 C9	90	77	28	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (小) 10%混じる層主体
2370	2区 C9	112	95	21	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 40%混じる
2371	2区 C9	65	45	25	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (小) 20%混じる
2372	2区 C9	126	75	28	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 10%混じる
2373	2区 C9	115	66	22	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 20%混じる
2374	2区 C9	207	183	29	A1	図 36 149-150	2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (小) 30%混じる
2375	2区 C9	202	100	24	A2	図 36 136-137	2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 15%混じる層主体
2376	2区 C9	132	65	35	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック 40%混じる
2377	2区 B9	210	134	37	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (大) 50%混じる、上層第5層ブロック (小) 10%
2378	2区 B9	161	91	37	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (大) 60%混じる
2379	2区 C9-10	132	99	35	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック 混じる
2380	2区 B9-10	200	110	51	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (大) 50%混じる
2381	2区 B9-10	153	90	44	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (大) 50%混じる層主体
2382	2区 B9-10	235	113	43	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (大) 40%混じる層主体
2383	2区 B9	121	85	42	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (大) 30%混じる層主体
2384	2区 B10	80	65	33	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 40%混じる
2385	2区 B10	136	100	42	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (大) 40%混じる
2386	2区 B10	159	158	44	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (大) 35%混じる
2387	2区 B11	132	112	45	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (小) 10%混じる層主体
2388	2区 AB11	125	120	46	A2	図 36 138	上層 2.5Y6/2 灰色砂質シルトに第5層ブロック (中) 20%混じる、下層第5層ブロック (大) 40%
2389	2区 A10	190	118	31	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 20%混じる
2390	2区 A10-11	189	167	32	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (小) 20%混じる層主体
2391	2区 A10-11	171	96	26	A1		2.5Y6/3 にぶい黄色～5/3 黄褐色砂質シルト に第5層ブロック (中) 40%混じる
2392	2区 A10-11	91	55-	42	A2		2.5Y6/3 にぶい黄色～5/3 黄褐色砂質シルト に第5層ブロック (大) 40%混じる
2393	2区 A10	110-	110	44	A2		2.5Y6/3 にぶい黄色～5/3 黄褐色砂質シルト に第5層ブロック (大) 40%混じる
2394	2区 A10	125	95	31	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 30%混じる
2395	2区 A10	215	92	22	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 30%混じる
2396	2区 A10	161	110-	52	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 50%混じる
2397	2区 B10	70	65	43	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 20%混じる層主体
2398	2区 AB10	136	70	45	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 20%混じる層主体
2399	2区 A10	101	51	34	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 20%混じる層主体
2400	2区 A10	110	69	33	A2		上層 2.5Y6/2 灰色砂質シルトに第5層ブロック (中) 20%混じる、下層第5層ブロック (中) 40%
2401	2区 B10	120	80	40	A2		上層 2.5Y6/2 灰色砂質シルトに第5層ブロック (中) 40%混じる、下層第5層ブロック (中) 50%
2402	2区 AB10	195	177	32	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (大) 15%混じる
2403	2区 A10	180	87	37	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (大) 40%混じる層主体
2404	2区 A10	195	92	36	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 20%混じる
2405	2区 B10	160	77	45	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 20%混じる
2406	2区 A10	175	175	33	A2		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (中) 40%混じる層主体
2407	2区 A10	92	48	26	A2		2.5Y6/3 にぶい黄色砂質シルトに第5層ブロッ ク (大) 30%混じる層主体
2408	2区 A10	105	100	30	A1		2.5Y6/2 にぶい黄色砂質シルトに第5層ブロッ ク (大) 40%混じる
2409	2区 A10	95	63	18	A1		2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトに第5層ブロック (大) 50%混じる
2410	2区 A10	150	76	35	A1		2.5Y6/3 にぶい黄色砂質シルトに第5層ブロッ ク (大) 40%混じる

番号	地区	長径	短径	深さ	埋土分類	出土土器	埋土の特徴
2411	2区 A9-10	133	128	33	A2		2.5Y6/3にぶい黄色砂質シルトに第5層ブロック(大) 30%混じる層主体
2412	2区 A9	170	95	29	A1		2.5Y6/3にぶい黄色砂質シルトに第5層ブロック(小) 20%混じる
2413	2区 A9	95	87	32	A1		2.5Y6/2灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 40%混じる
2414	2区 A9	98	80-	52	A1		2.5Y6/2灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(大) 35%混じる
2415	2区 A9-10	104	85	25	A1		2.5Y6/2灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(大) 30%混じる
2416	2区 A9	95	95	18	A1		2.5Y6/2灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(大) 40%混じる
2417	2区 A9	123	114	31	A2		上層 2.5Y6/2灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(大) 30%混じる層主体
2418	2区 A9	166	130	41	B2		上層 2.5Y6/2灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(大) 30%混じる、下層粘質シルト層
2419	2区 A9	138	115	41	A2		2.5Y6/2灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(小) 10%混じる、下層第5層ブロック(大)
2420	2区 B9	145	116	35	A1	図36 151	2.5Y6/2灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(大) 60%混じる
2421	2区 A9	109	97	24	A2		2.5Y6/2灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 30%混じる層主体
2422	2区 A9	160	120	37	A1		2.5Y6/2灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(大) 40%混じる
2423	2区 A9	159	105	39	A2		上層 2.5Y6/2灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(小) 10%混じる、下層第5層ブロック(大) 40%
2424	2区 A9	81	72	41	A2		上層 2.5Y6/2灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(小) 10%混じる、下層第5層ブロック(大) 40%
2425	2区 A9	138	90	46	A2		2.5Y6/1黄灰色砂質シルトに第5層ブロック(中) 30%混じる、下層第5層ブロック(大) 80%
2426	2区 A9	165	96	39	B1		2.5Y6/2灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(大) 40%混じる層主体、間に砂質シルト層挟む
2427	2区 A9	60-	55	38	A1		2.5Y6/2灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 40%混じる
2428	2区 A9	166	97	40	A1		2.5Y6/2灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 40%混じる
2429	2区 A9	105	83	32	A1		2.5Y6/2灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 30%混じる
2430	2区 A8-9	104	75	42	A1		2.5Y6/2灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 30%混じる
2431	2区 A8-9	188	150-	45	A1		2.5Y6/2灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(大) 50%混じる
2432	2区 A8-9	135	45	33	A2		2.5Y6/2灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 20%混じる
2433	2区 A8	150	85	43	A1		2.5Y6/2灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(大) 50%混じる
2434	2区 A8	155	100	26	A1		2.5Y6/2灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(小) 20%混じる
2435	2区 A8	80	30-	31	A1		2.5Y6/2灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(大) 60%混じる
2436	2区 A8	124	40-	51	A1		2.5Y6/1黄灰色砂質シルトに第5層ブロック(中) 40%混じる
2437	2区 A8	78	51	31	A1		2.5Y6/2灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 30%混じる
2438	2区 A8	97	90	24	A1		2.5Y6/2灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(小) 20%混じる
2439	2区 A8	150-	155	47	A1		2.5Y6/1黄灰色砂質シルトに第5層ブロック(大) 30%混じる
2440	2区 B8	118	77	28	A1	図36 141-142	2.5Y6/2灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 20%混じる
2441	2区 A8	106	94	-	A2		2.5Y6/2灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 10%混じる層主体
2442	2区 A8	114	78	29	A1		2.5Y6/2灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(大) 40%混じる
2443	2区 A8	90	81	28	A1		2.5Y6/2灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(大) 50%混じる
2444	2区 A8	164	95	41	A1		2.5Y6/2灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(大) 50%混じる
2445	2区 AB8	85	60	37	A2		上層 2.5Y6/2灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 20%混じる、下層第5層ブロック(大) 40%
2446	2区 A8	134	65	33	A2		2.5Y6/2灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(大) 40%混じる層主体
2447	2区 A8	110	110	38	B1		上層 2.5Y6/2灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 40%混じる、下層 2.5Y6/1黄灰色砂質シルト
2448	2区 A8	115-	113	50	A1		2.5Y6/2灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 10%混じる
2449	2区 A8	115-	113	50	A1		2.5Y5/1黄灰色砂質シルトに第5層ブロック(大) 50%混じる
2450	2区 B8	99	63	33	A1		2.5Y6/2灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(大) 10%混じる
2451	2区 B8	72	48	38	A2		2.5Y6/2灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(小) 10%混じる
2452	2区 A8	205	72	41	A2		2.5Y6/2灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(大) 30%混じる層主体
2453	2区 A8	145	70	38	A1		2.5Y6/2灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 30%混じる
2454	2区 A8	218	102	27	A1		2.5Y6/1黄灰色砂質シルトに第5層ブロック(大) 40%混じる
2455	2区 A8	155	100-	75	A2		2.5Y5/1黄灰色砂質シルトに第5層ブロック(大) 50%混じる、上層に砂質シルト層

番号	地区	長径	短径	深さ	埋土分類	出土土器	埋土の特徴
2456	2区 B8	90	78	31	A2		2.5Y6/2灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(小) 10%混じる層主体、下層第5層ブロック(大)
2457	2区 A8	112	80	38	A2		2.5Y6/2灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 20%混じる層主体、下層第5層ブロック(大) 40%
2458	2区 A7	134	112	40	A1		2.5Y6/2灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 20%混じる
2459	2区 A8	110	76	24	A1	図36 152	2.5Y6/2灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(大) 15%混じる
2460	2区 A7	122	60	21	A1		2.5Y6/2灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 20%混じる
2461	2区 A7-8	132	99	38	A2		2.5Y6/2灰黄色砂質シルトに第5層ブロック混じる
2462	2区 A7-8	110-	100	68	A2		2.5Y5/1灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(大) 80%混じる、上層に砂質シルト層
2463	2区 A7	167	159	64	A2		上層 2.5Y6/2灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 20%混じる、下層第5層ブロック(大) 50%
2464	2区 A7	140	(44)	A1			2.5Y5/1黄灰色砂質シルトに第5層ブロック(大) 50%混じる
2465	2区 A7	110	-	62	A1	図36 140	2.5Y5/1黄灰色砂質シルトに第5層ブロック(大) 60%混じる、上層やや砂質
2467	2区 A9-10	120	50-	42	B1		2.5Y6/2灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(小) 20%混じる層主体、上層の2.5Y5/1黄褐色砂質シルト
2470	2区 A6	89	40-	17	A1		2.5Y6/2灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 50%混じる
2471	2区 AB7	221	140	71	A2		2.5Y6/2灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(大) 30%混じる
2472	2区 A7	155	102	55	A2		2.5Y6/2灰黄色砂質シルトに第5層ブロック(大) 30%混じる
3001	3区 A1-2	-	90	22	B1	-	上層 2.5Y5/3黄褐色砂質シルトに第5層ブロック(大) 70%混じる層、下層 2.5Y6/1灰黄色砂質シルト
3002	3区 A1-2	-	104	32	B1	-	2.5Y5/3にぶい黄色砂質シルト主体
3003	3区 A1-2	70	46	(12)	A1	-	10YR6/2灰黃褐色砂質シルトに第5層ブロック(小) 50%混じる
3004	3区 A1-2	120-	100	34	A1	-	2.5Y6/4にぶい黄色砂質シルトに第5層ブロック(中) 30%混じる
3005	3区 A1-2	144	92	(9)	A2	-	2.5Y6/3にぶい黄色砂質シルトに第5層ブロック(小) 30%混じる層主体
3006	3区 A1-2	-	48-	(8)	A1	-	2.5Y6/2灰黄色砂質シルトに第5層ブロック 35%混じる
3007	3区 A1-2	30	25	(5)	A1	-	2.5Y6/2灰黄色砂質シルトに第5層ブロック 20%混じる
3008	3区 A1-2	72	58	(8)	A1	-	10YR6/1褐灰色～6/6灰黄褐色シルト質粘土
3009	3区 A1-2	50-	54-	(9)	A1	-	10YR6/1褐灰色～6/6灰黄褐色シルト質粘土
3010	3区 B1	120-	103	(7)	A2	-	2.5Y5/1黄灰色砂質シルトに第5層ブロック(小) 10%混じる

図 版



a. 調査地遠景（西から）



b. 調査地遠景（東から）

原色図版二
粘土採取土坑土層断面



a. 第2調査区南壁土坑 2393付近（北から）



b. 第2調査区南壁土坑 2414付近（北から）



a. 第1調査区全景（西から）



a. 第1調査区南壁土坑検出状況 1005付近(北東から)



b. 第1調査区南壁土層断面(土坑1104付近)(北西から)

図版三 第一調査区(三)



a. 第1調査区西土坑群
(南西から)



b. 第1調査区中央土坑群
(西から)



c. 第1調査区土坑 1103
(西から)

図版四
第一調査区（四）



a. 土坑 1104 (北から)



b. 第1調査区西土坑群
(西から)

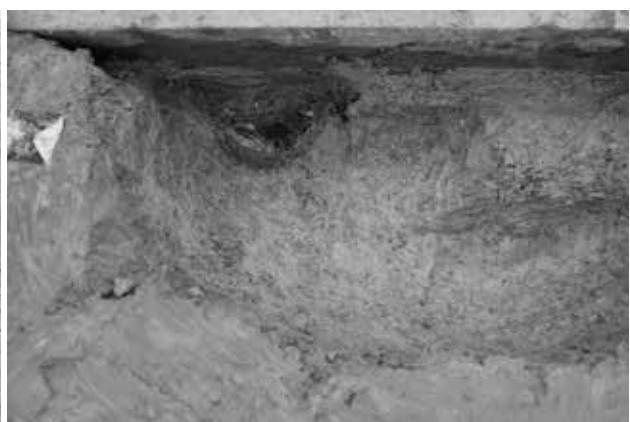


c. 溝 113, 114 (北から)

図版五 第一調査区（五）



a. 土坑 1090 (西から)



b. 土坑 1091 遺物出土状況 (西から)



c. 土坑 1100 (西から)



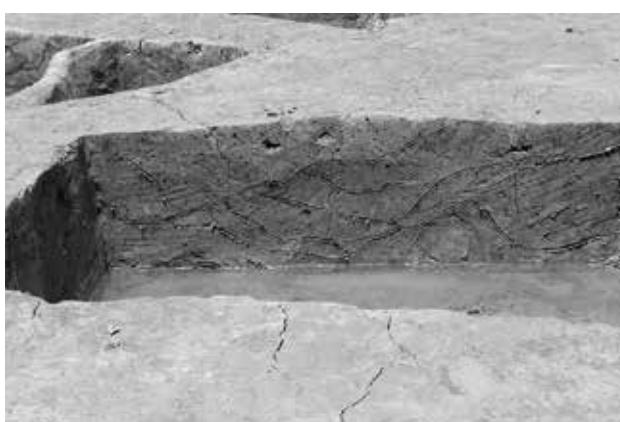
d. 土坑 1109 遺物出土状況 (北から)



e. 土坑 1028 遺物出土状況 (東から)



f. 土坑 1015 (西から)



g. 土坑 1052 (東から)



h. 土坑 1068 (東から)

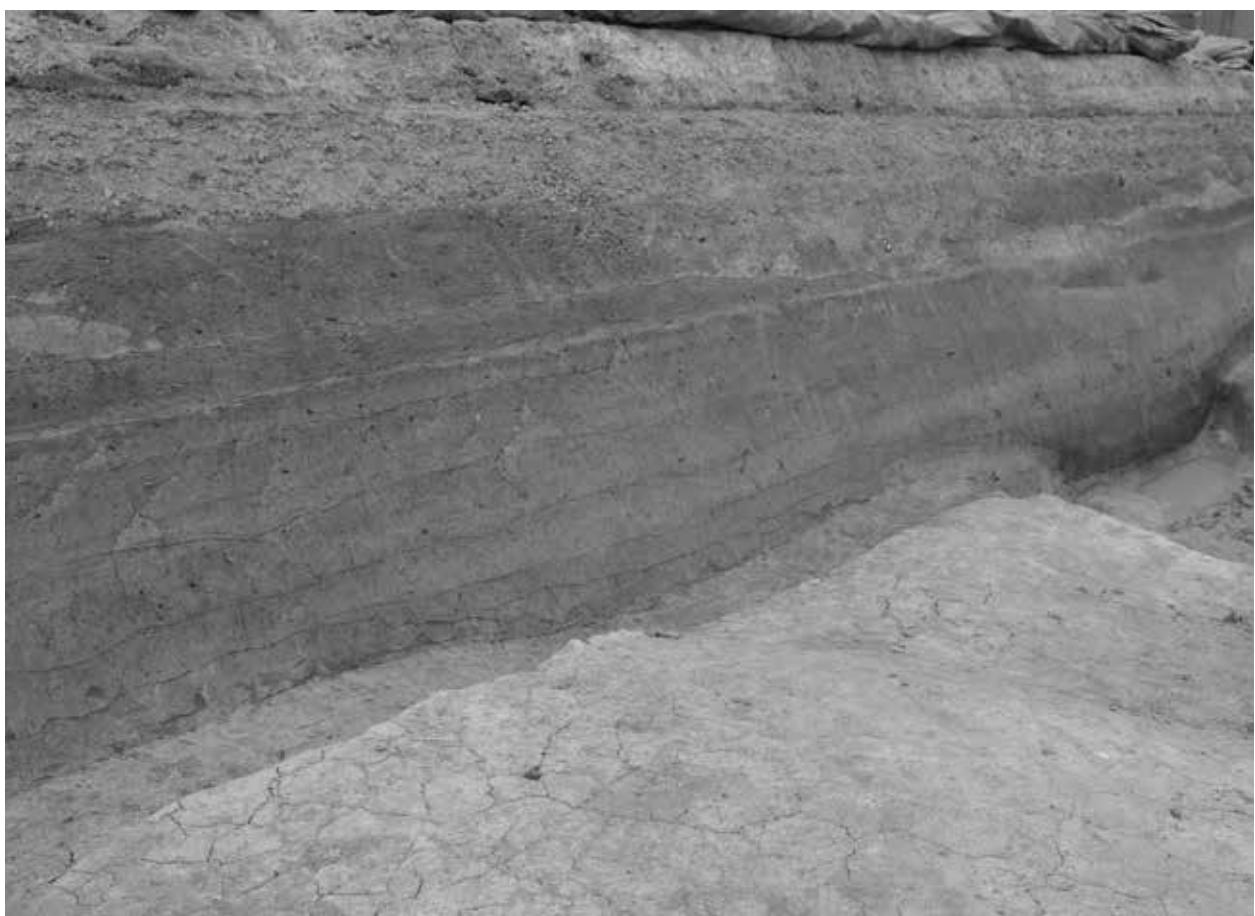
図版六 第二調査区(一)



a. 第2調査区西半全景（南西から）



b. 第2調査区東半全景（北東から）



a. 第2調査区自然流路2002付近南壁土層断面（北から）



b. 第2調査区東半南壁土層断面（北から）

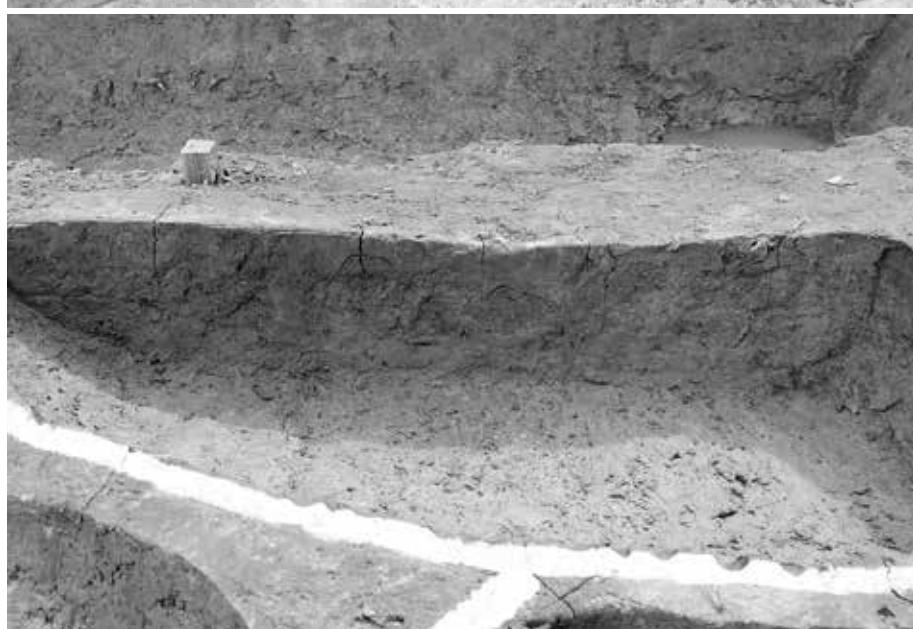
図版八
第二調査区（三）



a. 自然流路 2002 検出状況
(南から)



b. 自然流路土層断面
(北から)



c. 土坑 2007 土層断面
(北から)



a. 土坑 2174 遺物出土状況
(東から)



b. 土坑 2468 遺物出土
状況 (東から)



c. 土坑 2469 遺物出土
状況 (西から)

図版一〇 第二調査区(五)



a. 土坑 2003 周辺土坑群
(北西から)



b. 土坑 2187 周辺土坑群
(北西から)



c. 土坑 2088 周辺土坑群
(東から)



a. 土坑 2101・2102 遺物出土状況（南から）



b. 土坑 2155 遺物出土状況(東から)



c. 土坑 2156 遺物出土状況(東から)



d. 土坑 2187 遺物出土状況(北から)



e. 土坑 2361 遺物出土状況(北から)



f. 土坑 2362 遺物出土状況(北東から)



g. 土坑 2346 遺物出土状況(西から)



h. 土坑 2348 遺物出土状況(西から)

図版二
第二調査区（七）



a. 土坑 2004・2005 土層断面（北東から）



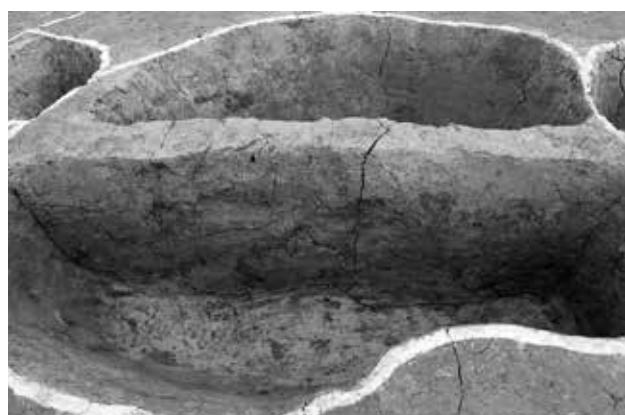
b. 土坑 2139 土層断面（南から）



c. 土坑 2186 土層断面（北西から）



d. 土坑 2322 土層断面（北から）



e. 土坑 2357 土層断面（西から）



f. 土坑 2328 土層断面（北から）



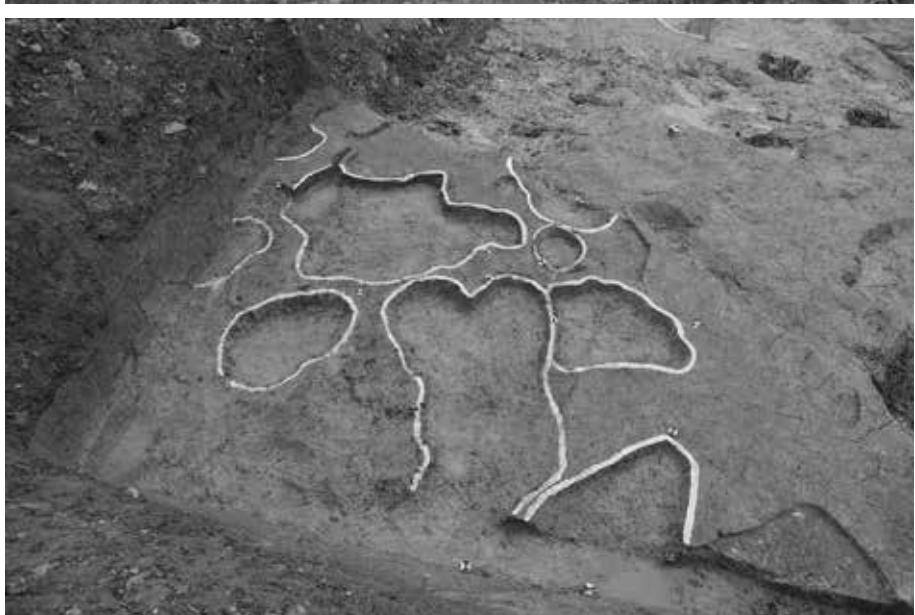
g. 土坑 2358 土層断面（西から）



h. 土坑 2465 土層断面（北から）



a. 第3調査区全景
(南から)



b. 第3調査区土坑群
(南から)



c. 土坑3001土層断面
(東から)

図版一四 第四・五調査区全景



a. 第5調査区（手前）・第4調査区西側（右奥）全景（北西から）

図版一五 第四調査区（一）



a. 第4調査区西側全景写真（北東から）



b. 第4調査区東側全景写真（南から）

図版一六 第四調査区(二)



a. 第4調査区東壁土層断面（西から）



b. 第4調査区南壁（西半）土層断面（北西から）

図版一七 第五調査区（一）



a. 第5調査区西側全景 近世耕作面（北から）



b. 第5調査区西壁土層断面（北東から）

図版一八 第五調査区(二)

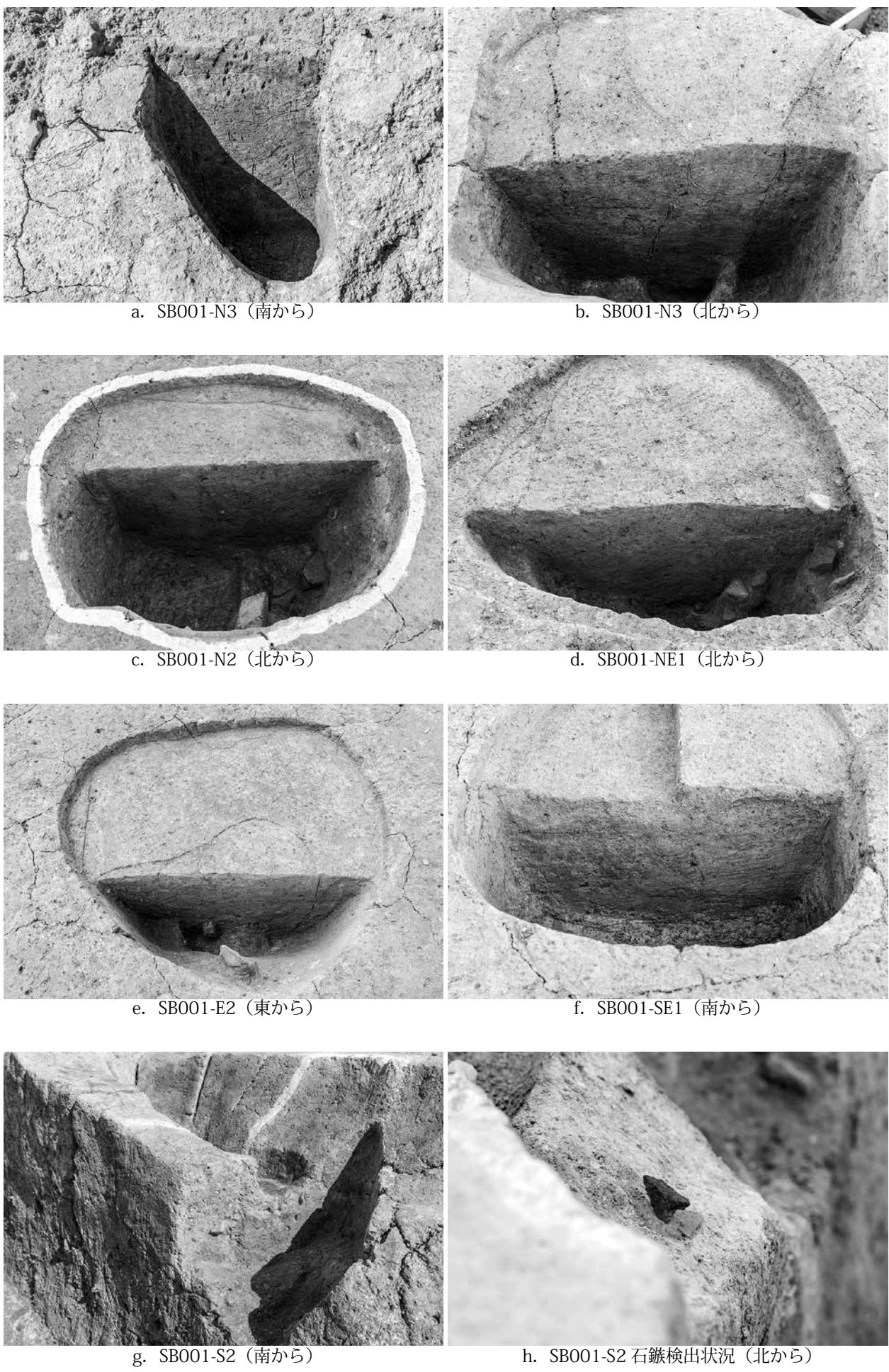


a. 第5調査区東側全景（西から）

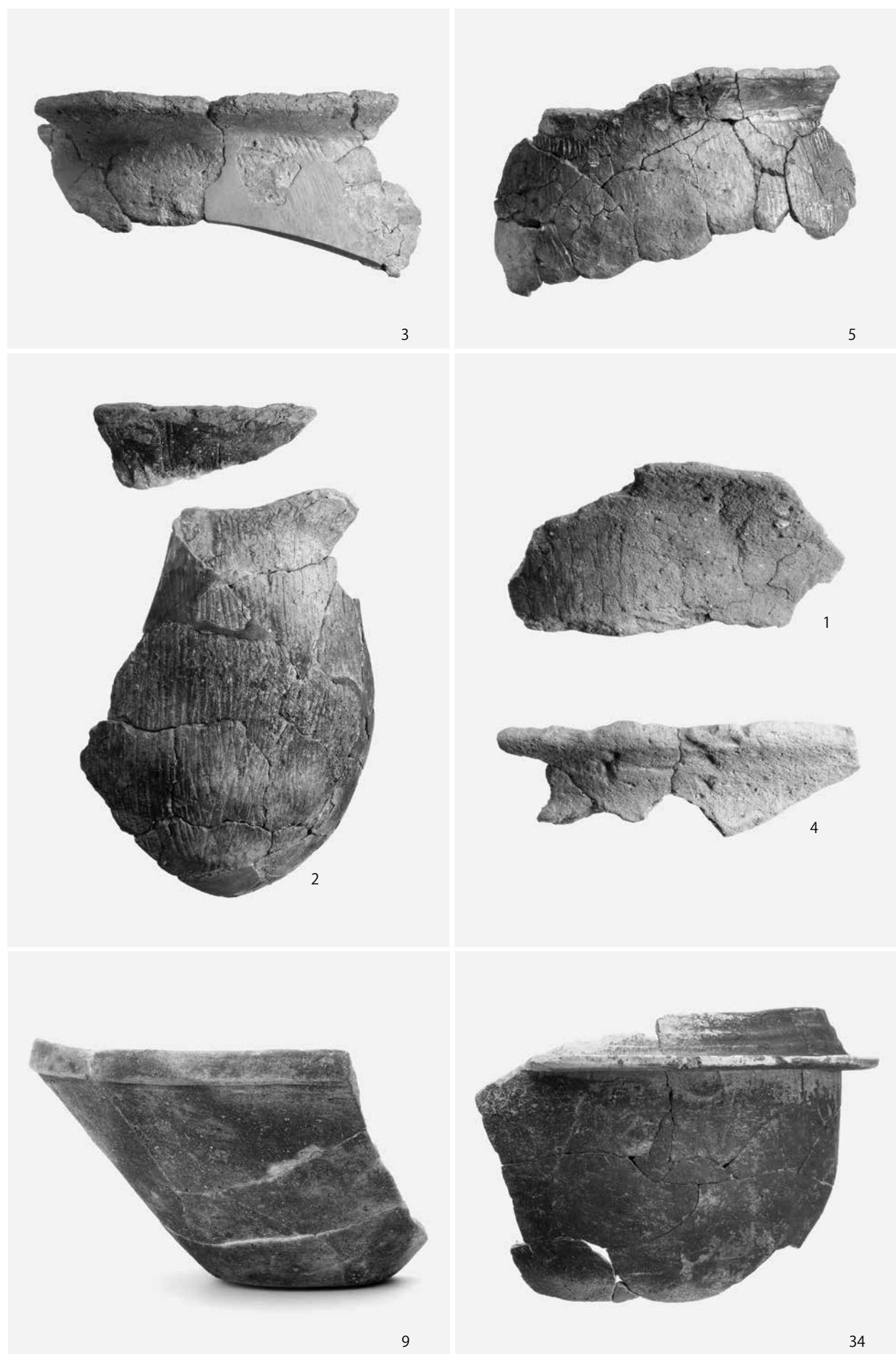


b. 第5調査区SB001 完掘状況（北から）

図版一九 第五調査区(三)

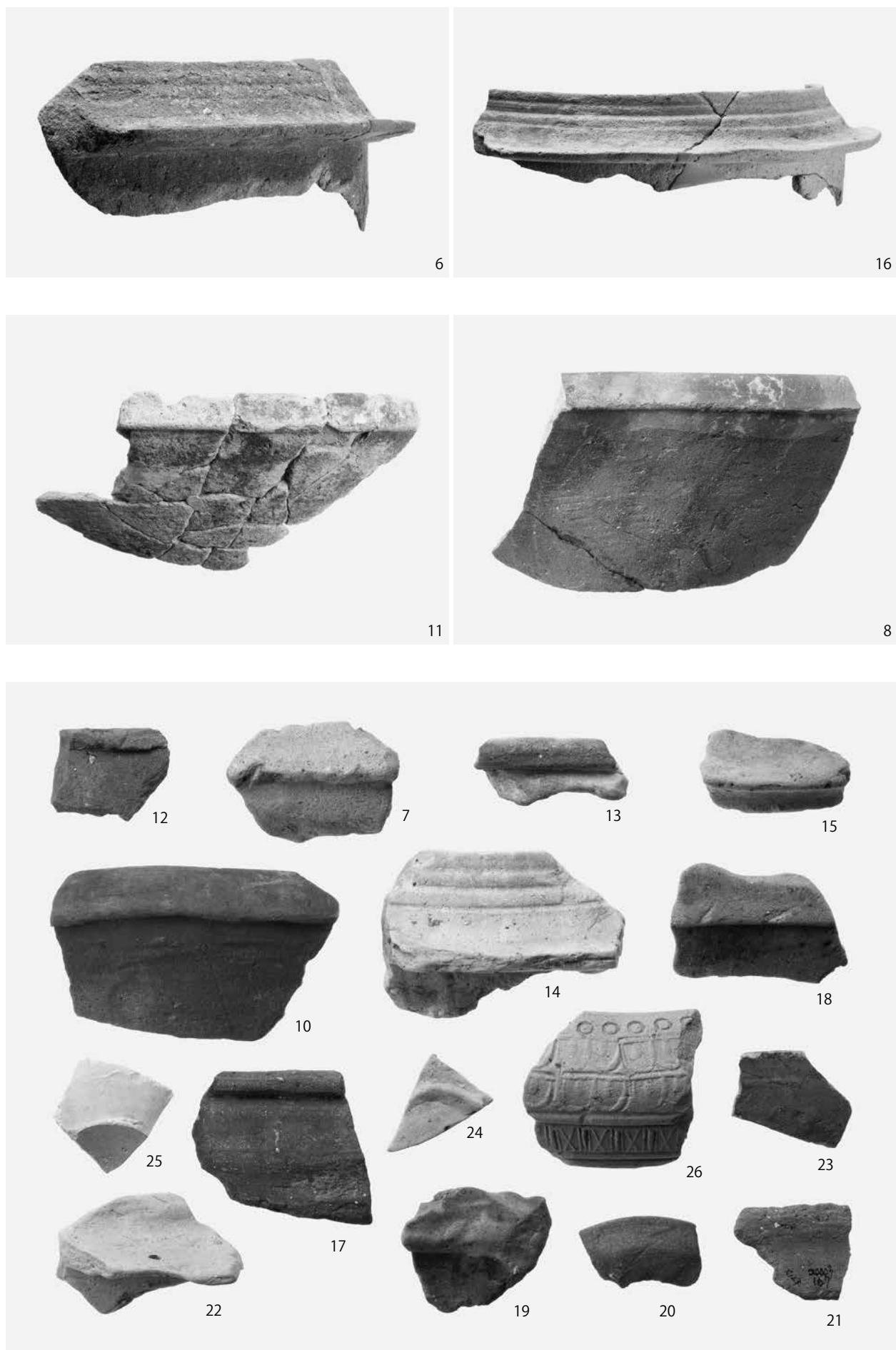


図版一〇 第一調査区出土遺物(一)



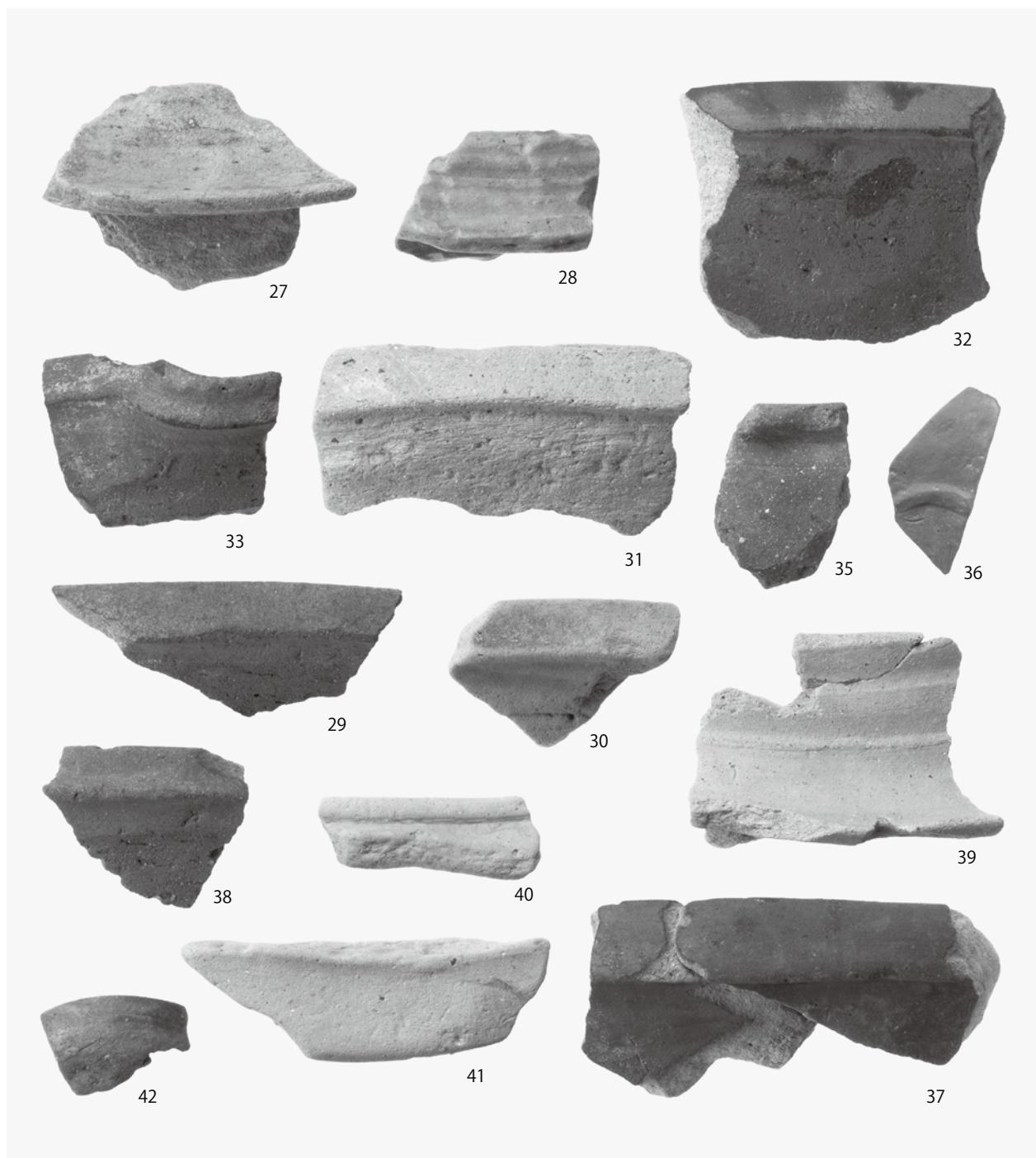
a. 第1調査区土坑出土遺物

図版二 第一調査区出土遺物(二)



a. 第1調査区粘土採取土坑出土遺物

図版三
第一調査区出土遺物（三）

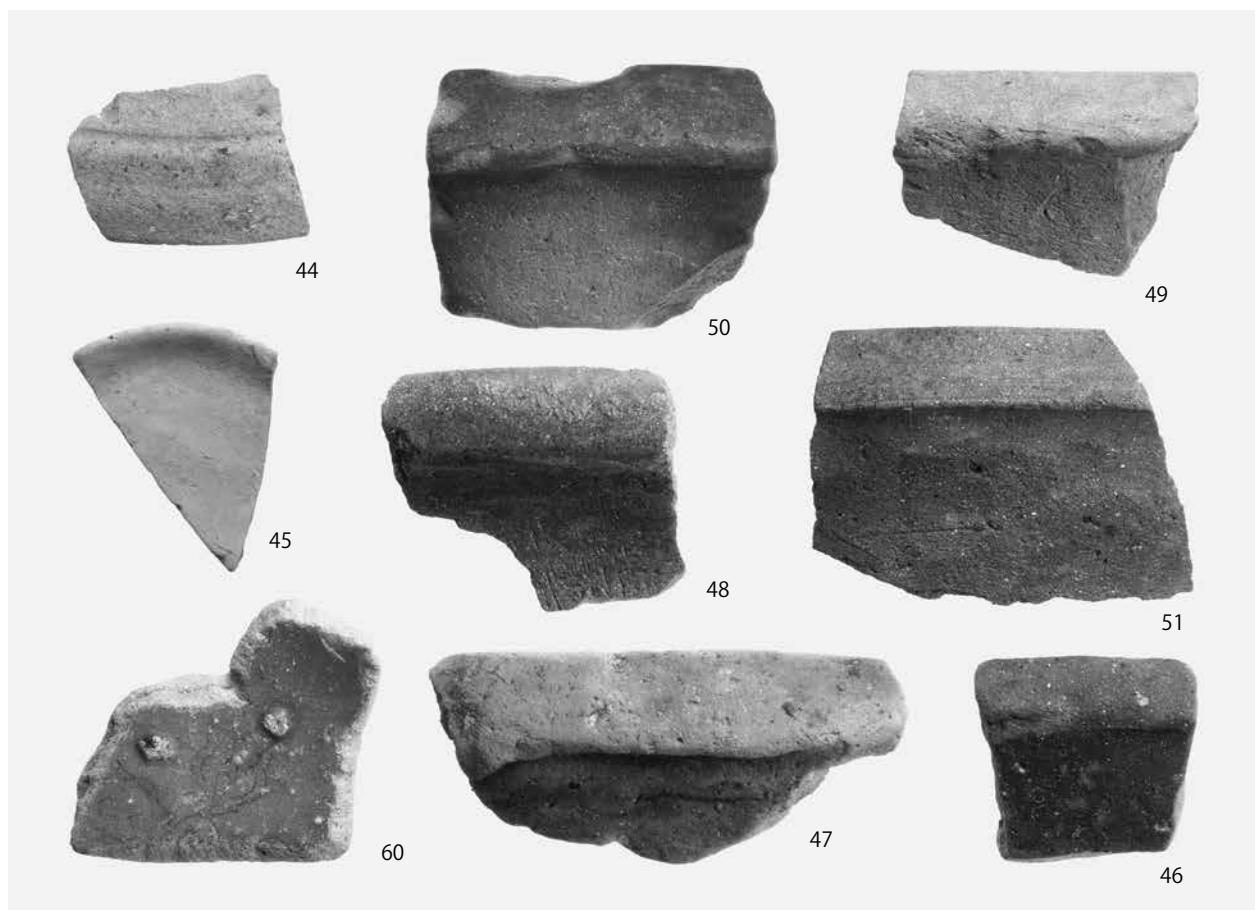


a. 第1調査区粘土採取土坑出土遺物

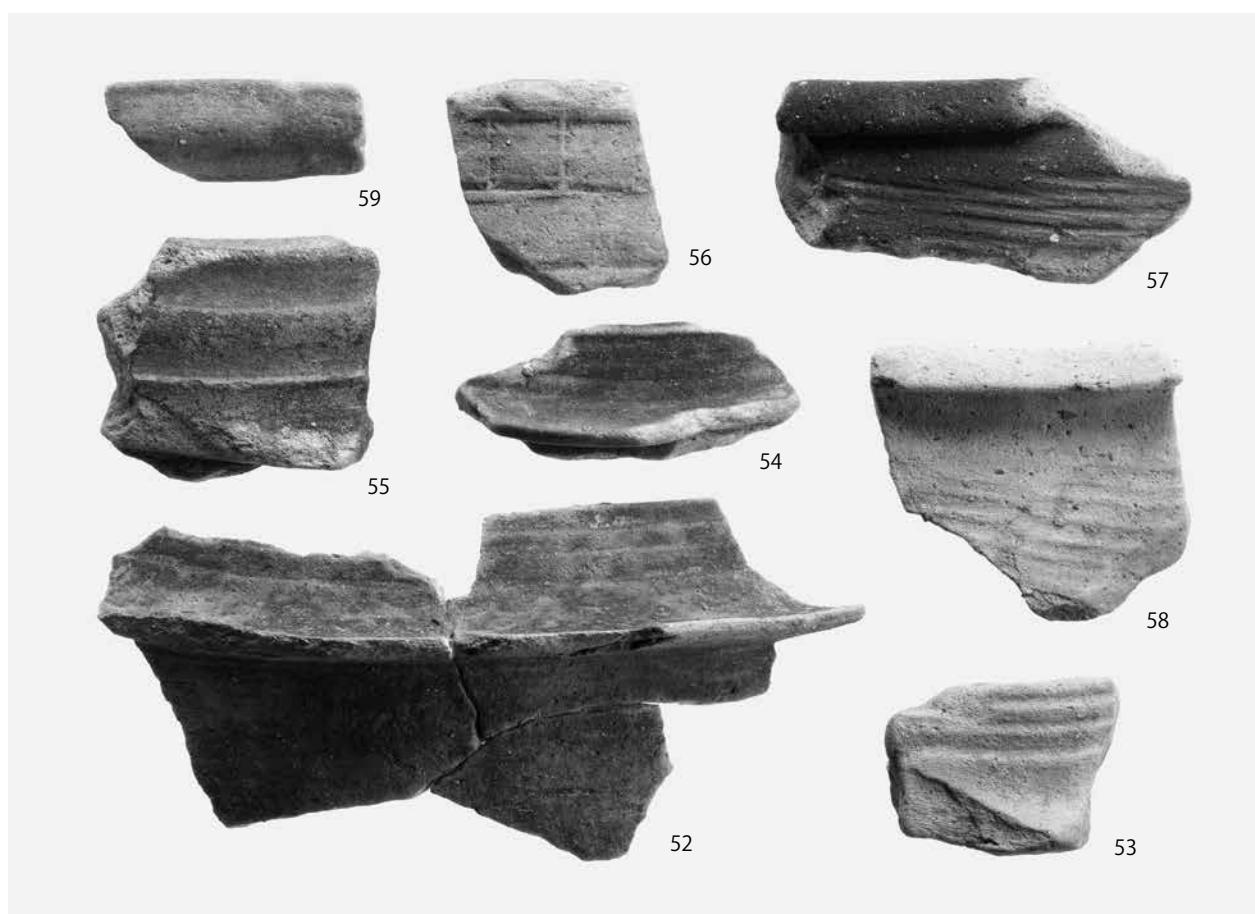


b. 第1調査区第2a層出土土馬

図版三 第一調査区出土遺物(四)

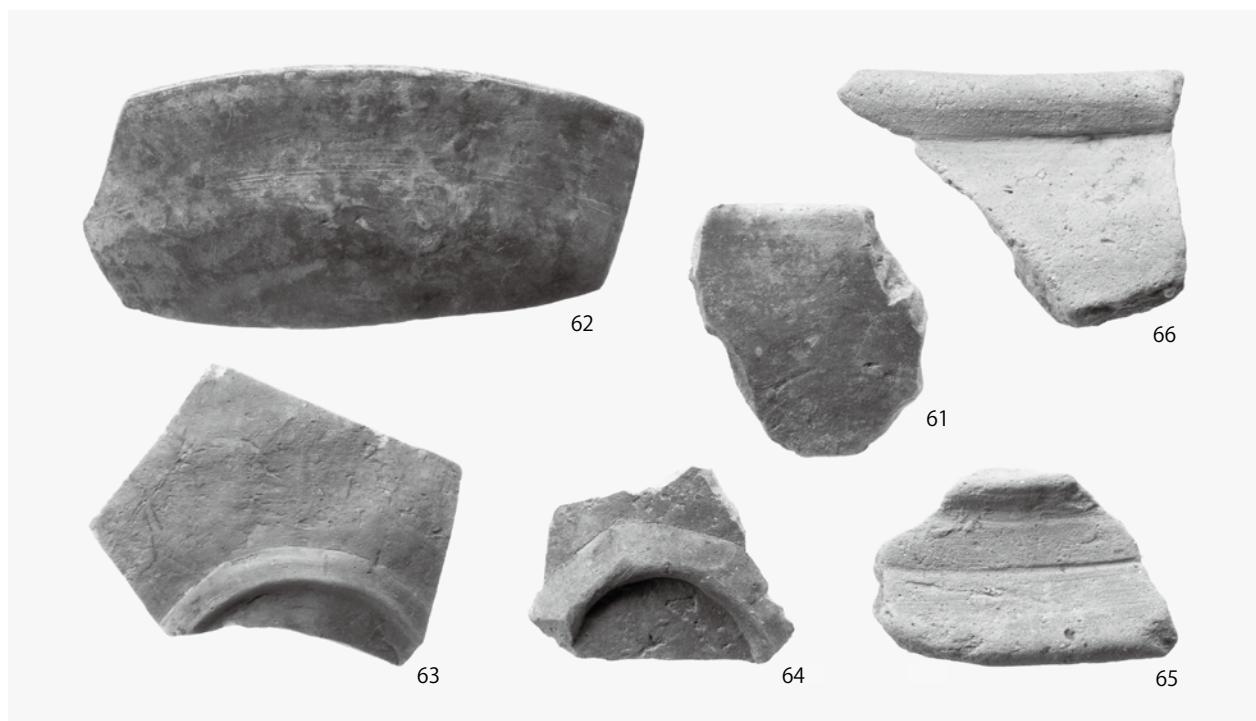


b. 第1調査区第2a層出土遺物



b. 第1調査区第2a層出土遺物

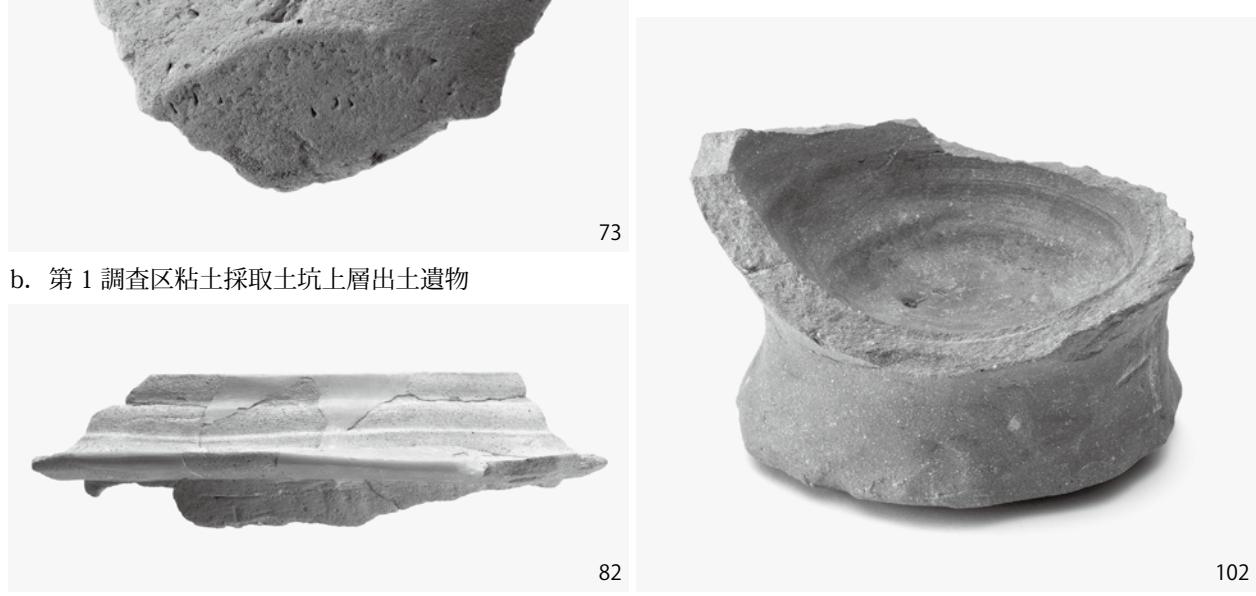
図版一四 第一調査区(五)出土遺物



a. 第1調査区第2b層出土遺物



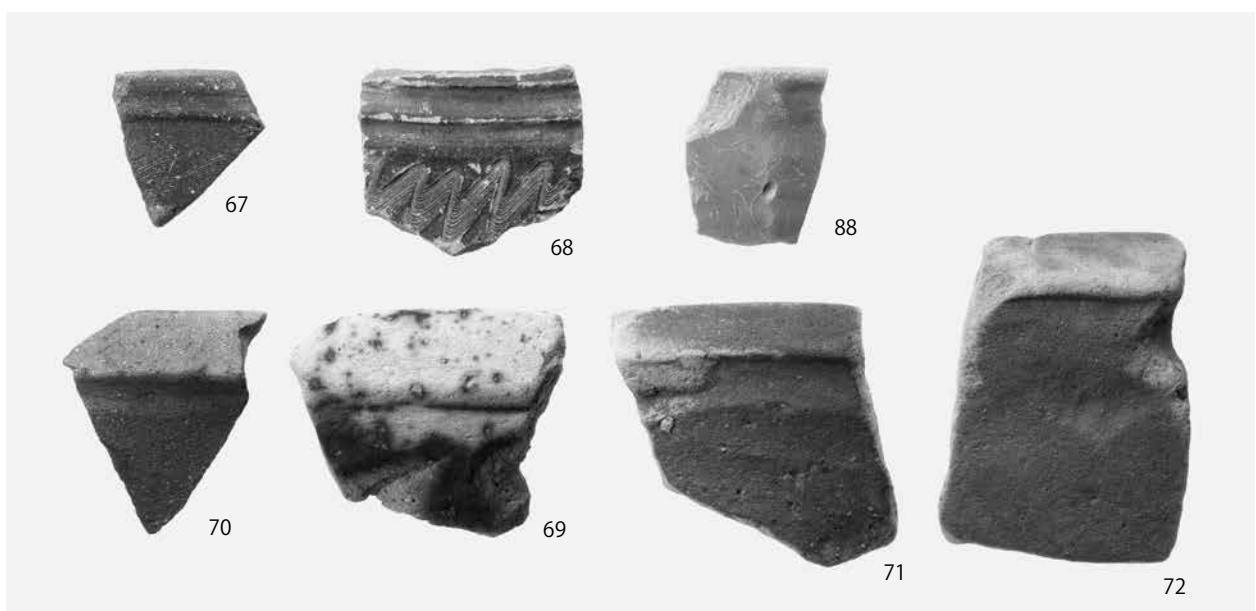
b. 第1調査区粘土採取土坑上層出土遺物



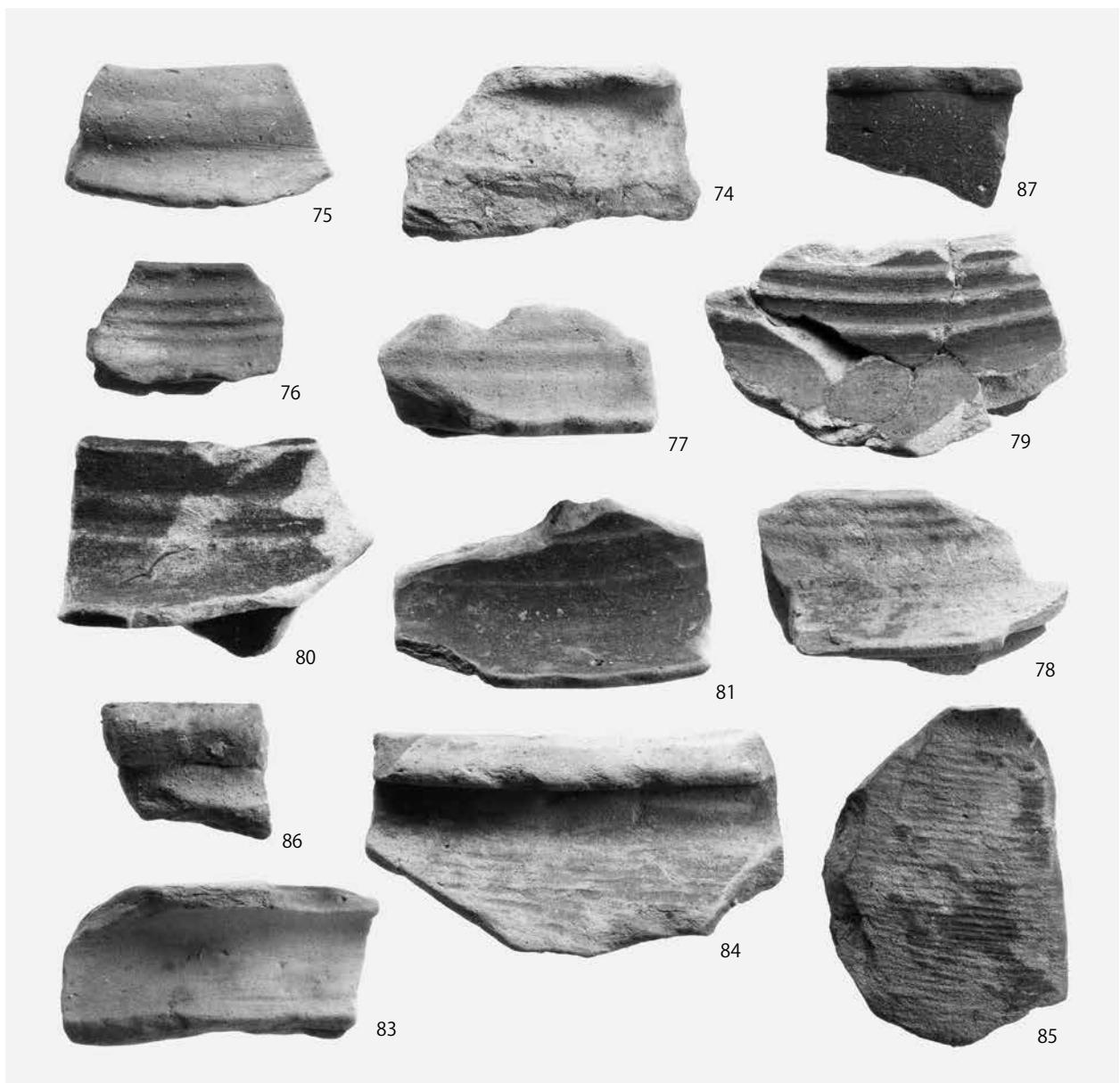
c. 第1調査区粘土採取土坑上層出土遺物

e. 第1調査区出土遺物

図版二五 第一調査区出土遺物（六）

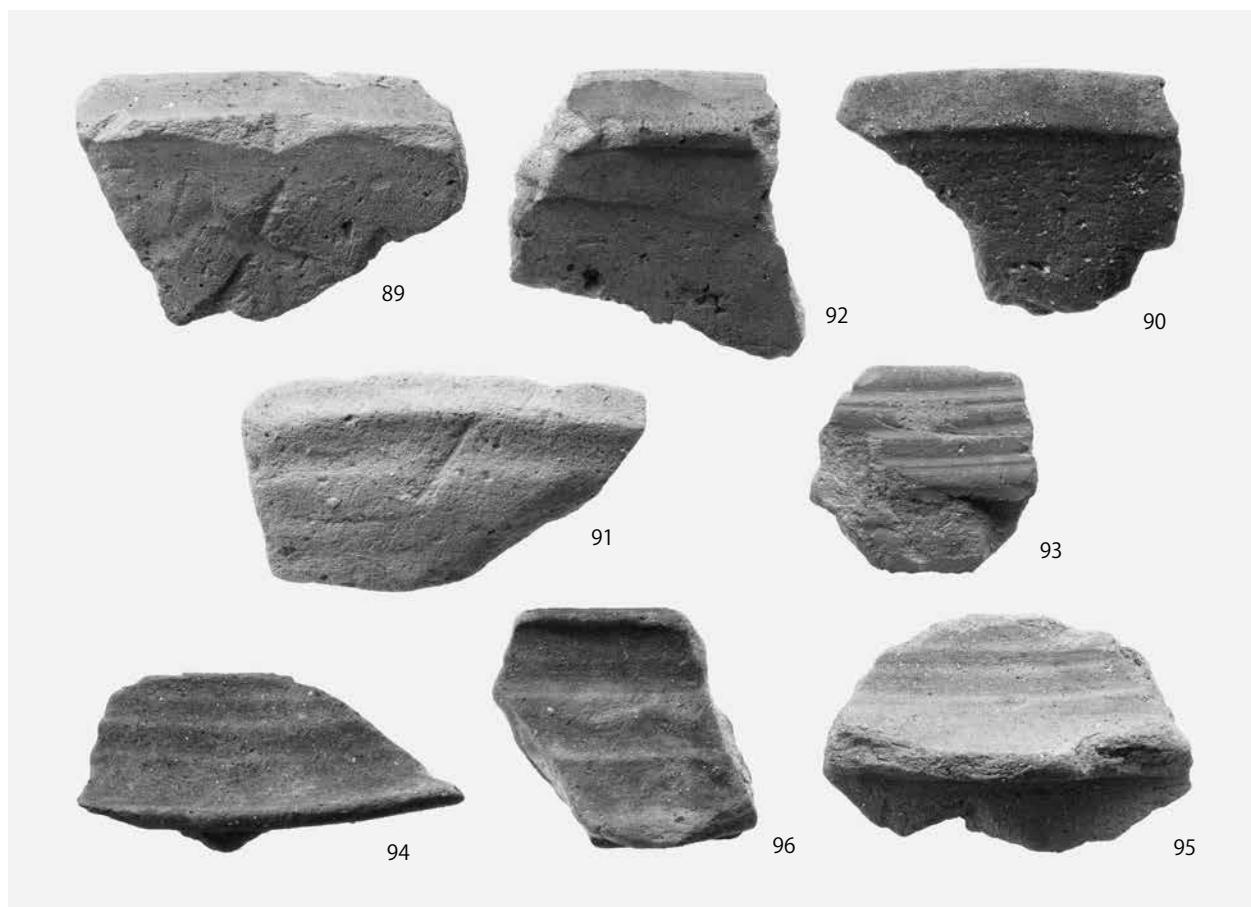


a. 第1調査区粘土採取土坑上層出土遺物

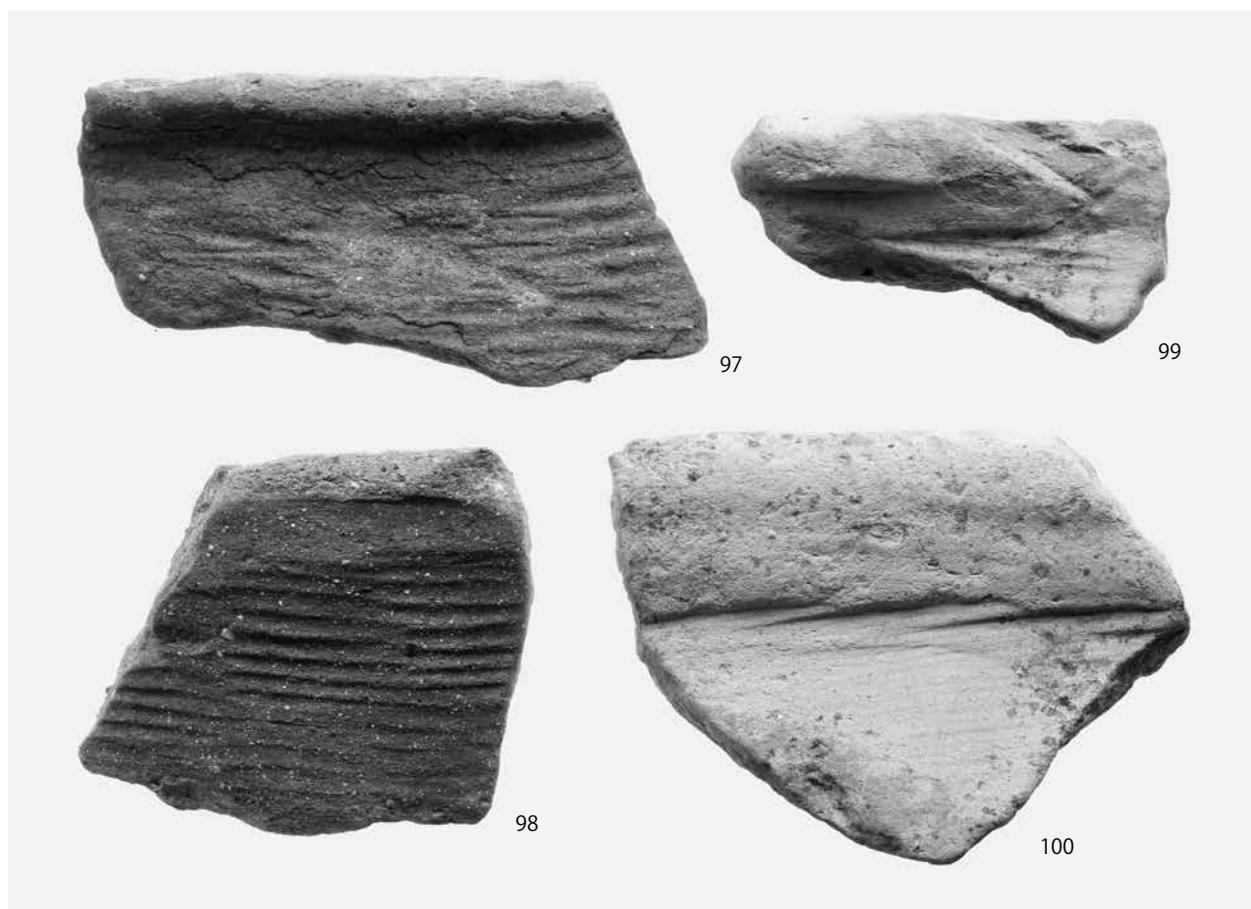


b. 第1調査区粘土採取土坑上層出土遺物

図版二六 第一調査区出土遺物(七)



a. 第1調査区近世以降溝出土遺物



b. 第1調査区近世以降溝出土遺物

図版二七 第二調査区出土遺物（一）



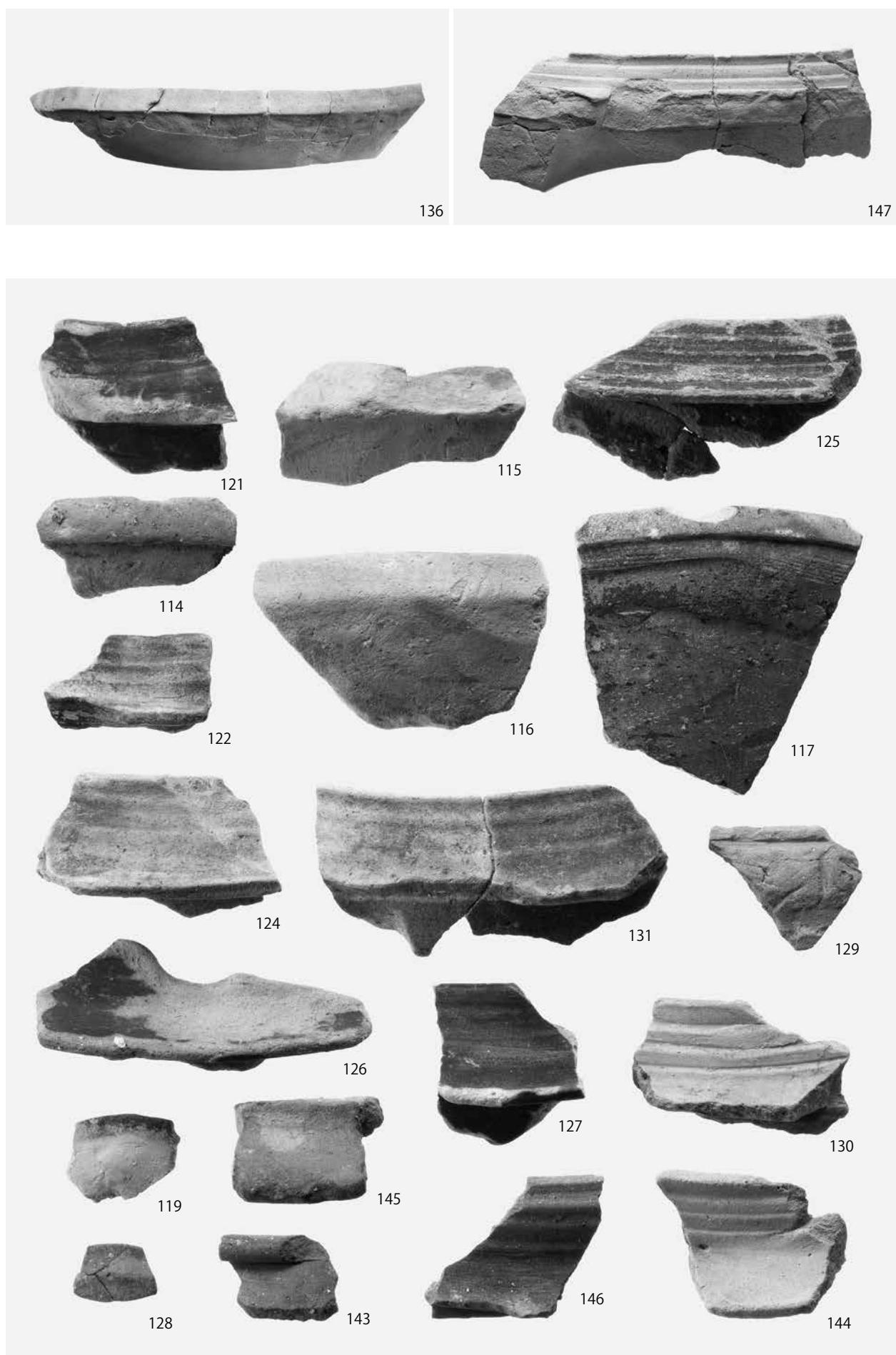
a. 第2調査区土坑出土遺物

図版二八 第二調査区出土遺物(二)



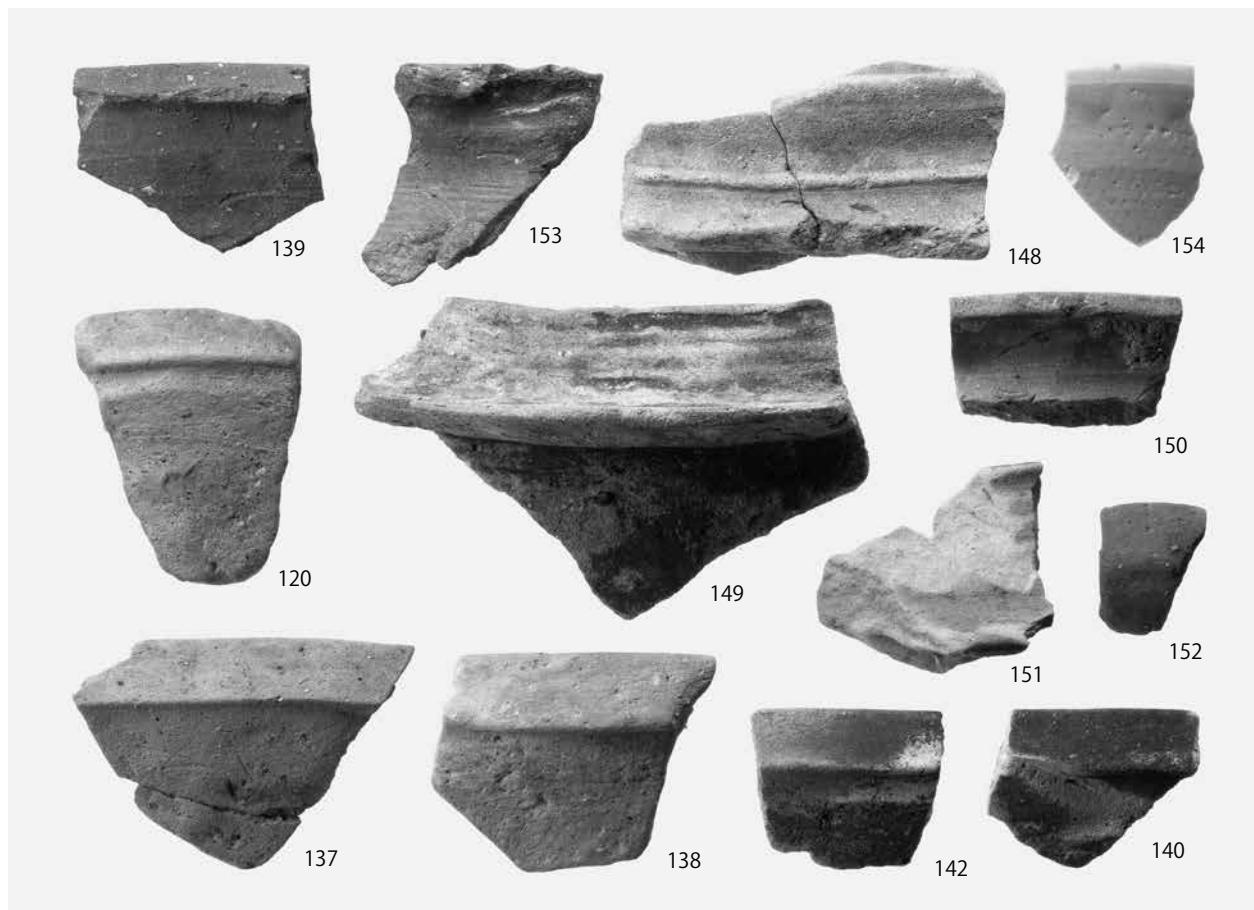
a. 第2調査区粘土採取土坑出土遺物

図版二九 第二調査区出土遺物（三）

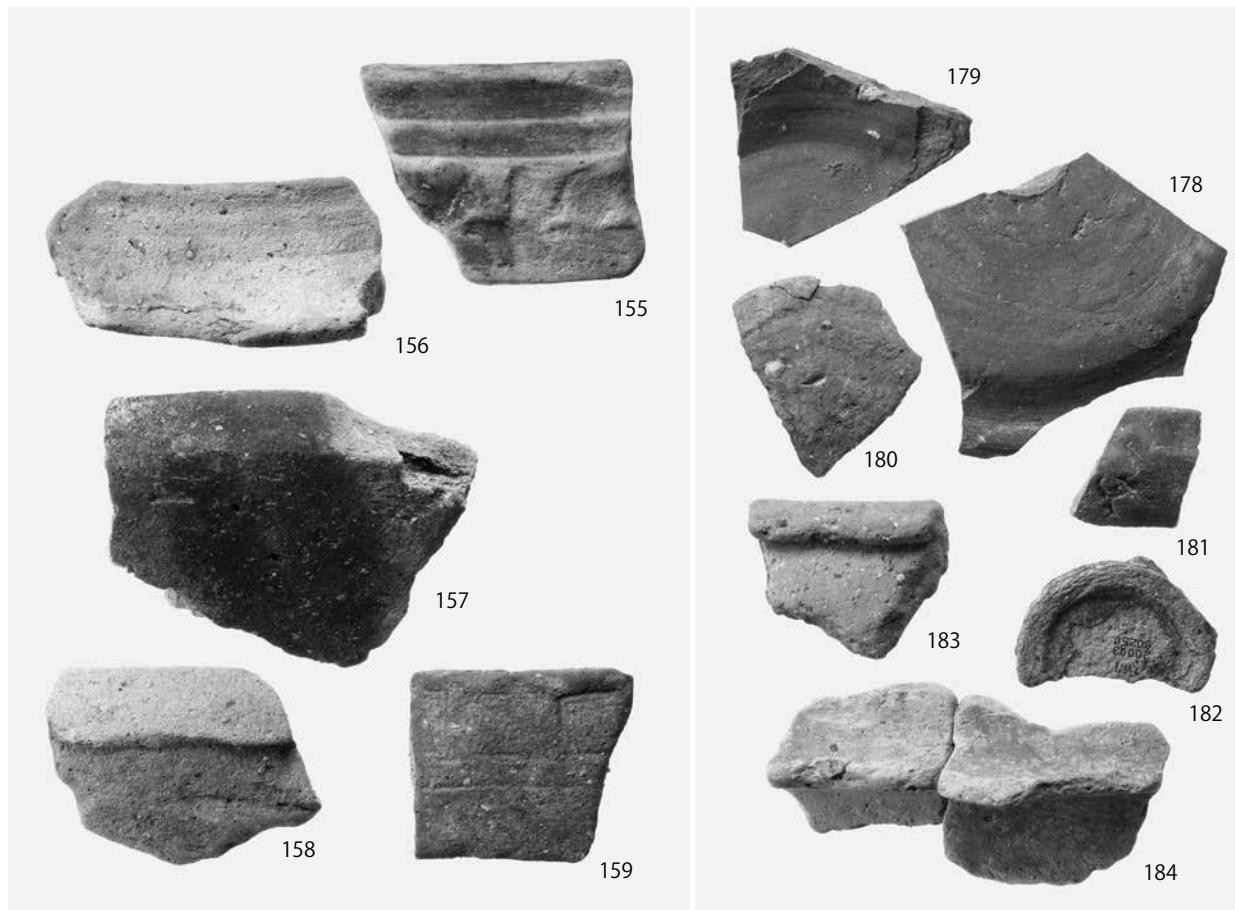


a. 第2調査区粘土採取土坑出土遺物

圖版二〇
第二調查區出土遺物（四）



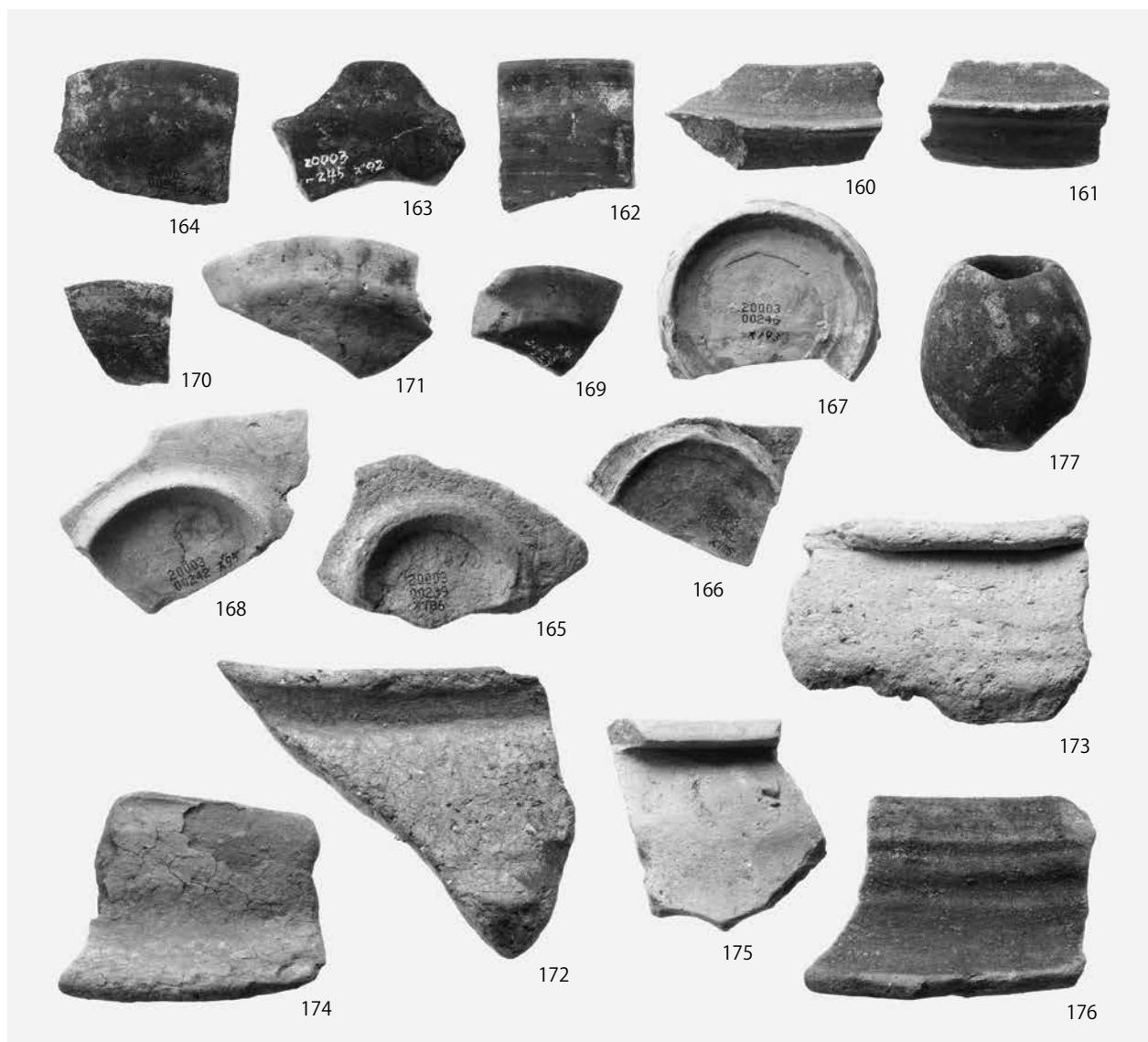
a. 第2調査区粘土採取土坑出土遺物



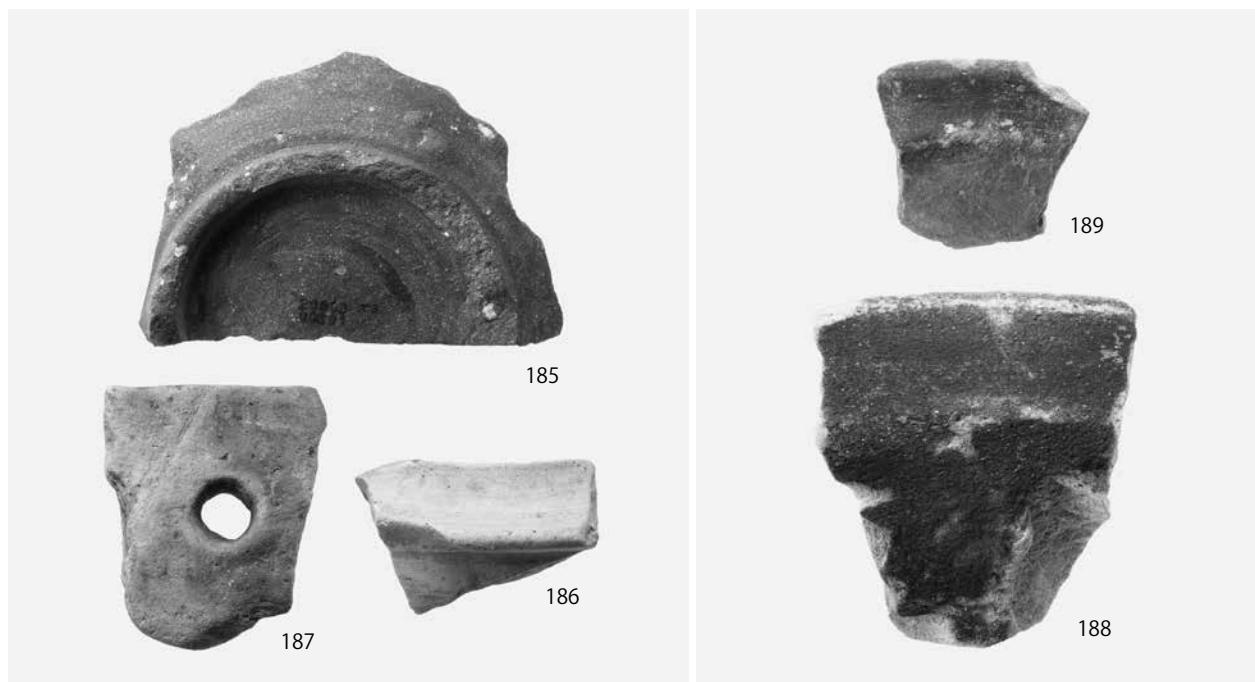
b. 第2調査区第2a層出土遺物

c. 第2調査区第2c層出土遺物

図版二 第一・三調査区出土遺物



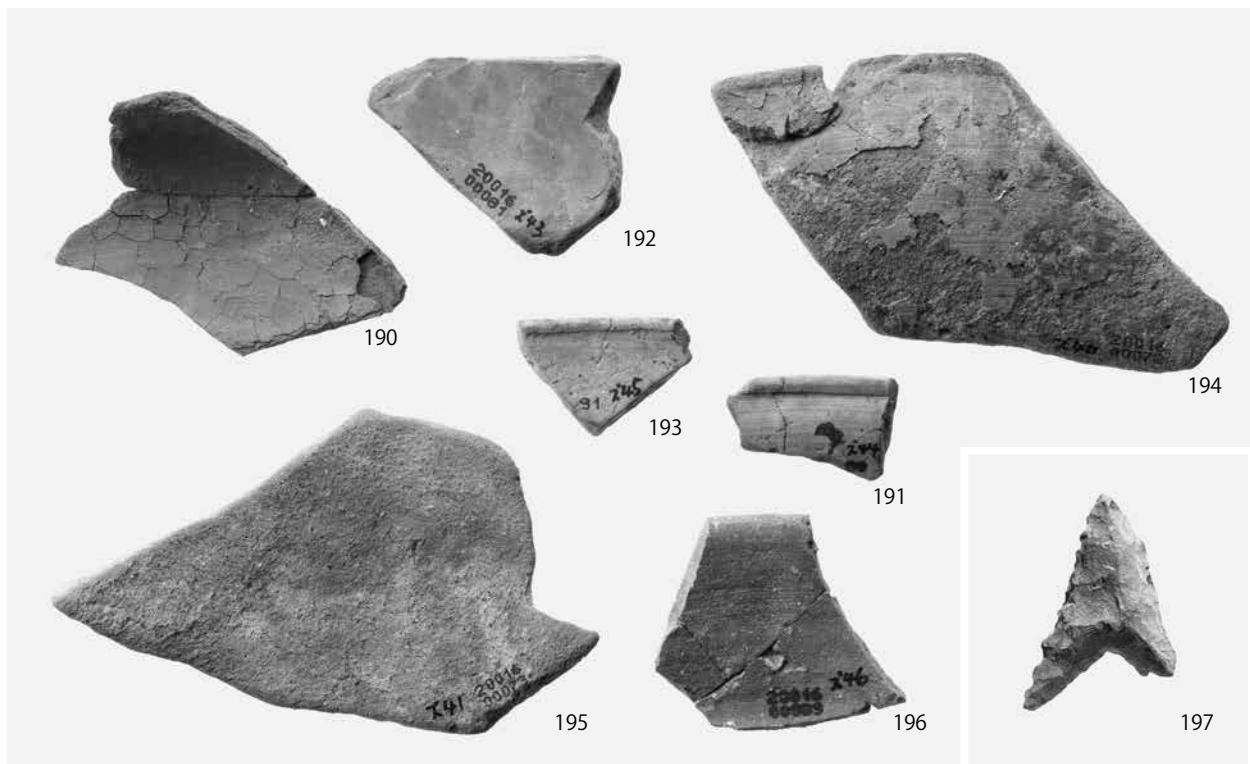
a. 第2調査区第2b層出土遺物



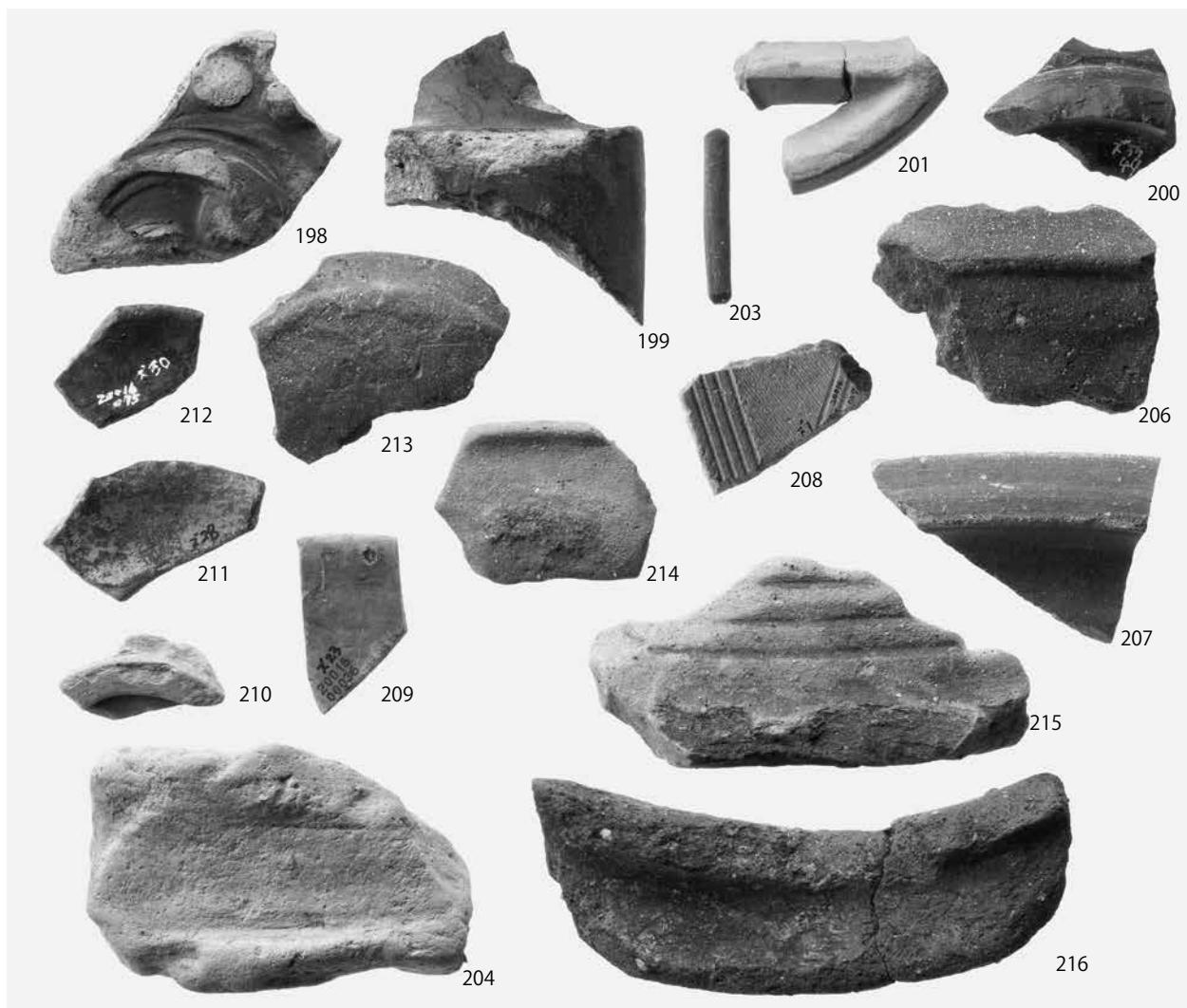
b. 第2調査区出土遺物

c. 第3調査区出土遺物

圖版三
第四・五調査区出土遺物（一）

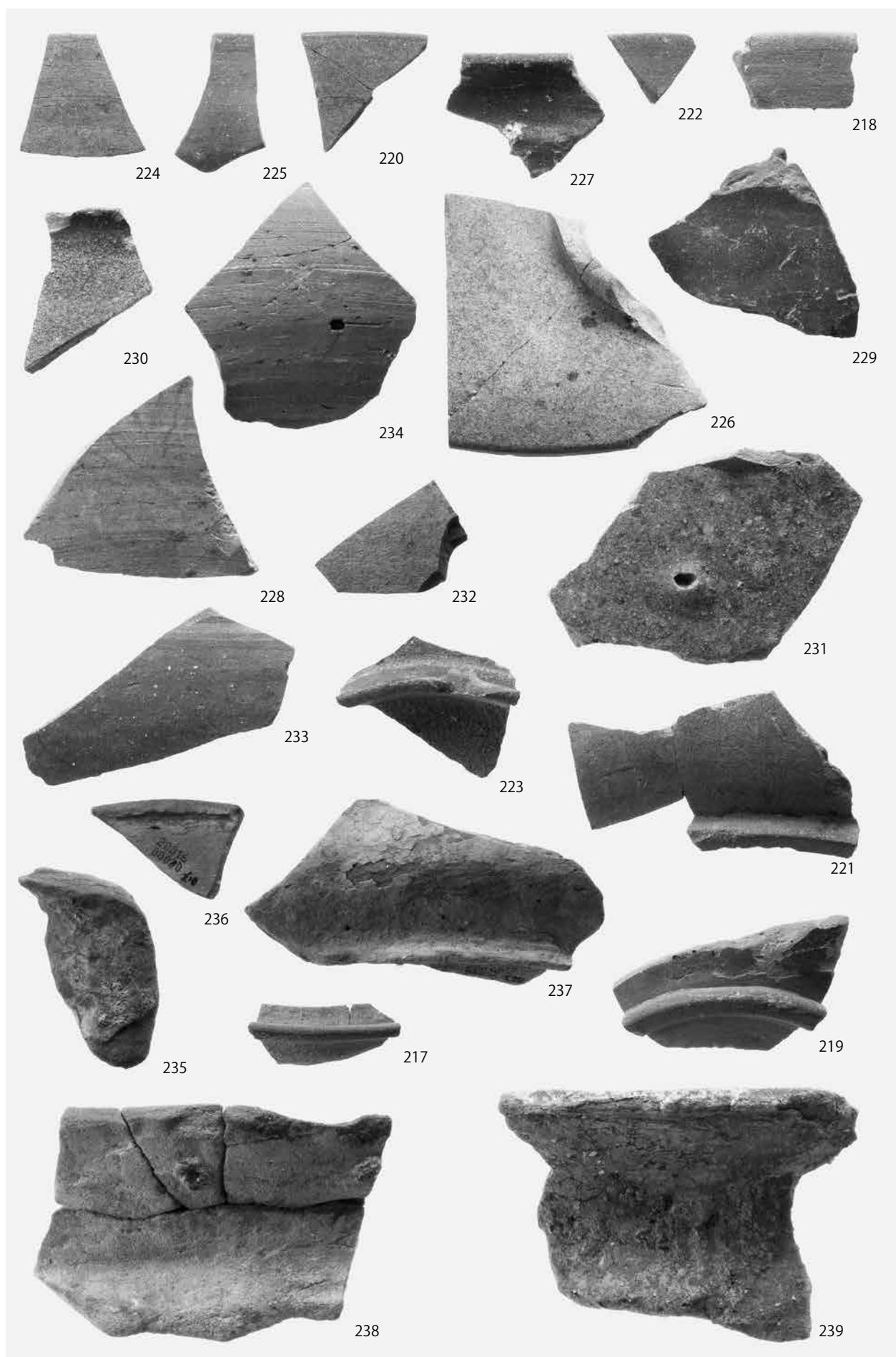


a. 第5調査区掘立柱建物 SB001 出土遺物



b. 第4・5調査区第1・2層出土遺物

図版二三 第四・五調査区出土遺物(二)



a. 第4・5調査区第2層出土遺物

報告書抄録

大阪府埋蔵文化財調査報告 2021-2

宮園遺跡Ⅲ

—大阪府営堺宮園第2期高層住宅(建て替え)新築工事に伴う発掘調査—

発行 大阪府教育委員会

〒540-8571 大阪市中央区大手前二丁目
TEL 06-6941-0351(代表)

発行日 令和4年3月31日

印刷 株式会社 近畿印刷センター

〒582-0001 柏原市本郷5丁目6番25号

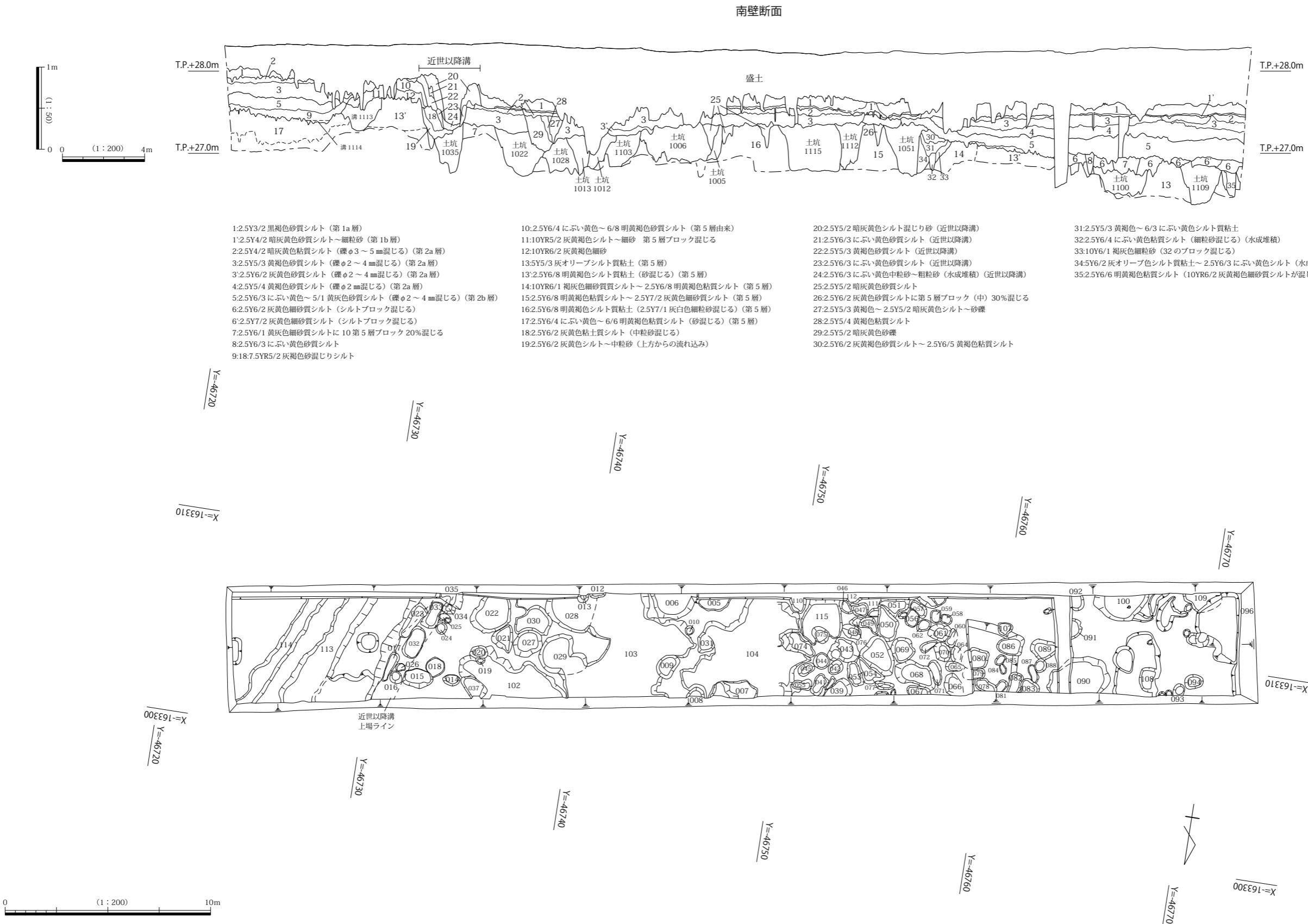


図7 第1調査区平面・土層断面図
 (平面図遺構番号の上一桁は調査区番号のため省略)

